

第Ⅵ章

サクシュコトニ川遺跡の遺物

Ⅵ-1

〔第1文化層の遺物〕

土師器甕類12個体分と須恵器大甕1個体分が出土した。

① 分布

つぎの3群にわけられる。

① 05-05, 05-09, 05-10, 05-11, 06-09, 06-10, 07-06, 07-08, 07-10, 07-11, 08-08, 08-11, 09-06, 09-07, 09-08, 09-09, 10-07, 10-08グリッドで、発掘区の東南部分にあたり、分布範囲はもっとも広く5個体分の土器が出土した(个体番号甕53, 54, 55, 101, 183)。

② 09-18グリッドで、1個体分の土器が出土した(个体番号甕56)。

③ 焼土72とその周辺から7個体分の土器(个体番号甕107, 157, 172, 173, 174, 184, 須恵器大甕)が出土した。

以上であり、①、②は遺物包含層、③は焼土遺構に関係する。

② 土器の特徴

- 个体番号甕53 出土位置：05-09, 05-10, 06-09, 06-10, 06-11, 07-08, 07-10, 09-09の8グリッドにまたがる。
 法量：高さ39.8cm, 口径30.4cm(推定), 底径10.0cmで器厚約1cmである。文様：口縁部から頸部に施文される。口縁部文様は隆帯を口縁部にそって張り付け、その上にヘラによる異方向の刻み目を付けている。頸部文様は縦・横・斜位の沈線文と鋸歯状文の組み合わせ文様、胴部との境に刻み目を付した隆帯を張りつけている。器面調整：胴部外面は縦位の細かいハケ目のあと縦位のヘラミガキ、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ、胴部は縦位のヘラミガキで、さらに黒色処理が施されている。
- 个体番号甕54 出土位置：09-07, 09-08, 10-07, 10-08の4グリッドにまたがる。法量：計測不可能。但し、底径7.8cmである。文様：頸部に施文される。複数の横走沈線文と鋸歯状文の組み合わせ文様。胴部との境に二本単位の鋸歯文がみられる。器面調整：胴部外面の上半は横・縦位の太いハケ目、下半は縦・斜位のハケ目、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ、胴部は縦位のヘラミガキである。
- 个体番号甕55 出土位置：05-11, 06-10, 06-11, 07-10, 07-11, 08-11の6グリッドにまたがる。法量：高さ38.0cm, 口径29.8cm, 底径8.2cmで器厚約1.2～2.2cmである。文様：口縁部に施文される。隆帯を口縁部にそって張

- り付け、その上にヘラによる刻み目を付けている。器面調整：胴部外面は縦・斜位のハケ目、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ、胴部は横位のハケ目のあと縦位のヘラミガキで、さらに黒色処理されている。
- 個体番号甕56 出土位置：09-18グリッドである。法量：高さ28.2cm，口径26.0cm，底径7.6cmで器厚約0.7cmである。文様：口縁部から頸部にわたる。口縁部は隆帯を口縁部にそって張り付け、その上にヘラによる異方向の刻み目を付けている。頸部文様は縦位のハケ目の後、上下に鋸歯状文、胴部との境に刻み目と鋸歯文を付した隆帯を張り付けている。器面調整：胴部外面は縦位のハケ目のあと縦位のヘラミガキ、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ、胴部は横位のハケ目のあと縦位のヘラミガキである。
- 個体番号甕101 出土位置：07-06，08-07，09-06，09-07の4グリッドにまたがる。法量：高さ19.0cm，口径16.6cm，底径6.2cmで器厚約0.2cmである。文様：みられない。器面調整：胴部外面は縦・斜位のハケ目のあとヘラミガキ、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ、胴部は縦位のヘラミガキである。
- 個体番号甕107 出土位置：焼土72。底部（径8.9cm，厚さ1.3cm）。文様：みられない。器面調整：胴部外面は斜位のヘラミガキ、内面は横位のハケ目のあと縦位のヘラミガキである。
- 個体番号甕157 出土位置：31-17グリッドで焼土72の西へりである。法量：高さ17.5cm，口径19.0cm，底径8.4cmで器厚約0.6～0.8cmである。文様：口縁部から頸部にわたる。口縁部は隆帯を口縁部にそって張り付け、その上にヘラによる刻み目を付けている。頸部文様は横走の多重沈線文のうゑに縦位の沈線文、鋸歯状文を組み合わせている。胴部との境に刻み目が付けられている。器面調整：外面の口縁部から頸部にかけてはヨコナデ、胴部は風化していて不明である。内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキである。
- 個体番号甕173 出土位置：焼土72。頸部から胴部上半にかけての破片である。文様：横走沈線の上に鋸歯状文が描かれ、胴部との境に刻み目が付されている。器面調整：胴部外面は不明、内面は横位のヘラミガキである。
- 個体番号甕174 出土位置：焼土72。頸部から胴部上半にかけての破片である。文様：斜・横位の隆起帯とそれにそった刺突文、複数の沈線文の組み合わせ文様である。器面調整：胴部外面は横位のハケ目とヘラミガキである。
- 個体番号甕183 出土位置：05-05グリッド。口縁部の破片である。文様：口縁部にそって隆起帯が巡り刻み目が付される。器面調整：外面はヨコナデ、内面は横位のヘラミガキである。
- 須恵器大甕 出土位置：30-17グリッド。胴部の破片である。器厚は0.5～0.8cm。器面：器外面の側面叩き目は縦位平行線叩き目で、下部で異方向の叩き目と重複する。この部分が底面に近い部分である。内面は重複する半弧状の当て具痕がみられる。
- なお、個体番号甕172，同184の説明は省略する。

小括

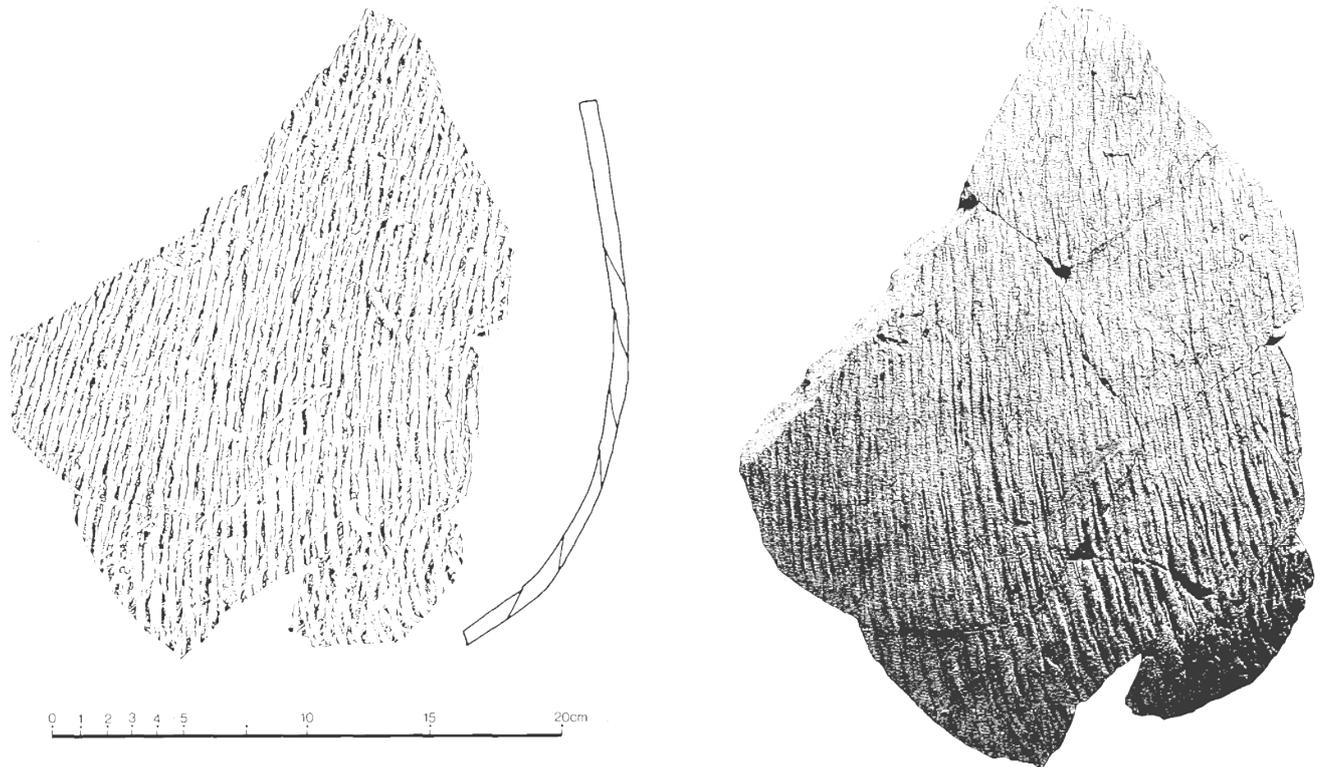
- a 遺構は焼土跡が1箇所検出されただけで、住居跡などは見出されなかった。

b 遺物は12個体分の土師質甕と1個体分の須恵器大甕が出土した。これらの土器類は焼土跡を中心に分布するほか、合わせて3箇所に見られた。

c 土師質甕は器高が20cm以上のもの（個体番号甕53, 54, 55, 56）4個体、器高20cm以下のもの（個体番号甕101, 157）2個体が見られた以外は破片である。

d 土師質甕は個体番号甕101以外口縁部から頸部にかけて文様がみられる。また、器面は内外ともヘラミガキによって調整され、個体番号甕53, 55のように内面に黒色処理を施すものもみられる。
（横山英介）

PL. Ⅱ-11 須恵器大甕



VI-2

〔第2文化層の出土遺物〕

出土遺物は、土器類、土製品類、石器・石製品類、金属器・鉄滓類、木製品類、骨角器類および動物・植物遺存体などである。

以下にこれらの遺物類について述べる。

VI-3

〔土器類〕

① 種類と数量

土器類には土師器、須恵器、「赤焼」土器などがある。量的には土師器が主体を占め、須恵器、「赤焼」土器が少量みられる。

帰属不明の破片も同様の傾向を示す。

Tab. ①-5 第2文化層の土器類出土数

	土師器		須恵器		「赤焼」土器		計	
	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数
坏類	113	1,139	7	66	4	—	124	1,205
甕類	183	5,562	—	—	—	—	183	5,562
瓶類	—	—	5	—	—	—	5	—
その他	1	—	—	—	—	—	1	—
計	297	6,701	12	66	4	—	313	6,767

② 出土状況

土器の種類別にみた個体別出土状況を以下に述べる。

① 土師器坏類

個体番号坏1	炭化物52と遺構外から出土した。
個体番号坏2	1号土壌の周辺の焼土炭化物から出土した。
個体番号坏3	2号竪穴住居の周辺(18-16グリッド)から出土した。
個体番号坏4	2号竪穴住居内から出土した。
個体番号坏5	2号竪穴住居内と炭化物52から出土した。
個体番号坏6	炭化物マウンドから出土した。
個体番号坏7	2号竪穴住居の周辺(17-16, 18-20グリッド)から出土した。
個体番号坏8	5号竪穴住居内から出土した。

- 個体番号坏9 2号竪穴住居内と炭化物52から出土した。
 個体番号坏10 2号竪穴住居の覆土中と炭化物マウンドから出土した。
 個体番号坏11 焼土24と炭化物52周辺から出土した。
 個体番号坏12 5号竪穴住居の煙道内から出土した。
 個体番号坏13 3号竪穴住居の覆土中から出土した。
 個体番号坏14 遺構外(06-08グリッド)から出土した。
 個体番号坏15 遺構外(10-08グリッド)から出土した。
 個体番号坏16 3号土壇内と焼土41と炭化物マウンドから出土した。
 個体番号坏17 焼土18, 焼土28, 炭化物30, 炭化物マウンドと遺構外(08-05グリッド)から出土した。
 個体番号坏18 2号竪穴住居のカマド内から出土した。
 個体番号坏19 1号土壇周辺の焼土・炭化物から出土した。
 個体番号坏20 炭化物52から出土した。
 個体番号坏21 焼土43と炭化物マウンドのへりから出土した。
 個体番号坏22 焼土27と炭化物マウンドから出土した。
 個体番号坏23 炭化物52から出土した。
 個体番号坏24 焼土44と炭化物52と炭化物マウンドから出土した。
 個体番号坏25 2号竪穴住居の覆土中, 焼土43, 炭化物52と遺構外(19-16グリッド)から出土した。
 個体番号坏26 4号土壇内から出土した。
 個体番号坏27 炭化物70から出土した。
 個体番号坏28 炭化物52のへりと炭化物マウンドから出土した。
 個体番号坏29 5号竪穴住居内から出土した。
 個体番号坏30 炭化物マウンドから出土した。
 個体番号坏31 4号土壇内, 炭化物42, 炭化物52, 炭化物マウンドと遺構外(15-08グリッド)から出土した。
 個体番号坏32 3号竪穴住居の覆土中から出土した。
 個体番号坏33 5号竪穴の床面, 1号土壇周辺の焼土・炭化物, 焼土27のへりから出土した。
 個体番号坏34 炭化物52から出土した。
 個体番号坏35 炭化物42およびその周辺, 炭化物マウンド(フローテーション資料)と遺構外(13-22グリッド)から出土した。
 個体番号坏36 炭化物52と炭化物マウンドから出土した。
 個体番号坏37 炭化物マウンドから出土した。
 個体番号坏38 炭化物19のほかは遺構外(06-07, 08-12, 08-14, 10-17, 11-16グリッド)から出土した。
 個体番号坏39 2号竪穴住居の覆土中のほかは遺構外(11-18, 13-15, 13-17, 14-15グリッド)から出土した。
 個体番号坏40 焼土35, 焼土37のへりのほかは遺構外(13-15, 13-16, 14-15, 15-15グリッド)から出土した。
 個体番号坏41 炭化物52, 焼土62と炭化物マウンドから出土した。
 個体番号坏42 炭化物マウンドから出土した。
 個体番号坏43 2号竪穴住居の床面と焼土43, 同44, 炭化物マウンドから出土した。
 個体番号坏44 焼土68から出土した。
 個体番号坏45 炭化物52のへりのほか遺構外(17-13グリッド)から出土した。

- 個体番号坏46 炭化物19, 焼土61と遺構外(07-07グリッド)から出土した.
- 個体番号坏47 6号土壙内とその周辺から出土した.
- 個体番号坏48 5号竪穴住居の床面, 5号土壙内と遺構外(04-06グリッド)から出土した.
- 個体番号坏49 2号竪穴住居の床面と焼土30, 炭化物52から出土した.
- 個体番号坏50 炭化物52から出土した.
- 個体番号坏51 焼土43と炭化物マウンドから出土した.
- 個体番号坏52 すべて遺構外から出土した.
- 個体番号坏53 炭化物マウンド. 破片2点だけが1号竪穴住居のへりから出土した.
- 個体番号坏54 焼土43と炭化物マウンドから出土した.
- 個体番号坏55 炭化物52, 炭化物マウンドと遺構外(12-08グリッド)から出土した.
- 個体番号坏56 2号竪穴住居の覆土中と炭化物52のほかは遺構外(15-14, 15-15, 15-16グリッド)から出土した.
- 個体番号坏57 すべて遺構外(21-14グリッド)から出土した.
- 個体番号坏58 焼土53と炭化物マウンドから出土した.
- 個体番号坏59 すべて遺構外(19-18, 21-13, 21-17グリッド)から出土した.
- 個体番号坏60 炭化物52と焼土62から出土した.
- 個体番号坏61 炭化物マウンドから出土した.
- 個体番号坏62 1号土壙周辺の焼土・炭化物, 焼土17と炭化物マウンドから出土した.
- 個体番号坏63 5号竪穴住居の覆土中, 5号土壙内と炭化物30から出土した.
- 個体番号坏64 すべて炭化物52のへりから出土した.
- 個体番号坏65 焼土47と遺構外(11-13, 19-12グリッド)から出土した.
- 個体番号坏66 3号竪穴住居の北東へりと1号土壙周辺の焼土・炭化物から出土した.
- 個体番号坏67 焼土43のへりと遺構外(11-09, 15-16グリッド)から出土した.
- 個体番号坏68 4号土壙内から出土した.
- 個体番号坏69 すべて遺構外(11-11, 14-17グリッド)から出土した.
- 個体番号坏70 炭化物52と遺構外(16-13グリッド)から出土した.
- 個体番号坏71 5号竪穴住居の床面, 5号土壙内と遺構外(08-05, 09-06, 09-08グリッド)から出土した.
- 個体番号坏72 遺構外(29-15グリッド)から出土した.
- 個体番号坏73 遺構外(10-10グリッド)から出土した.
- 個体番号坏74 焼土70から出土した.
- 個体番号坏75 遺構外(09-11グリッド)から出土した.
- 個体番号坏76 焼土7, 焼土11と遺構外(07-07, 09-06, 09-08, 09-10グリッド)から出土した.
- 個体番号坏77 遺構外(18-14グリッド)から出土した.
- 個体番号坏78 4号土壙内から出土した.
- 個体番号坏79 炭化物52と遺構外(10-09グリッド)から出土した.
- 個体番号坏80 遺構外(06-08グリッド)から出土した.
- 個体番号坏81 5号竪穴住居の床面から出土した.
- 個体番号坏82 4号土壙の周辺と遺構外(17-13グリッド)から出土した.
- 個体番号坏83 遺構外(08-09, 14-12, 15-05グリッド)から出土した.
- 個体番号坏84 焼土・炭化物20・21から出土した.
- 個体番号坏85 遺構外(16-09グリッド)から出土した.

個体番号坏86	底部であり、焼土24(07-12グリッド)から出土した。
個体番号坏87	遺構外(14-14グリッド)から出土した。
個体番号坏88	遺構外(22-21グリッド)から出土した。
個体番号坏89	焼土42から出土した。
個体番号坏90	焼土11から出土した。
個体番号坏91	遺構外(07-08グリッド)から出土した。
個体番号坏92	遺構外(05-08グリッド)から出土した。
個体番号坏93	4号土壙内から出土した。
個体番号坏94	遺構外(09-07, 09-09グリッド)から出土した。
個体番号坏95	5号土壙内から出土した。
個体番号坏96	遺構外(30-16グリッド)から出土した。
個体番号坏97	遺構外(04-09グリッド)から出土した。
個体番号坏98	焼土22と遺構外(10-10グリッド)から出土した。
個体番号坏99	炭化物14から出土した。
個体番号坏100	5号土壙内と炭化物16から出土した。
個体番号坏101	遺構外(09-08グリッド)から出土した。
個体番号坏102	遺構外(20-16グリッド)から出土した。
個体番号坏103	遺構外(10-06グリッド)から出土した。
個体番号坏104	炭化物4から出土した。
個体番号坏105	遺構外(10-05グリッド)から出土した。
個体番号坏106	2号竪穴住居のカマド内と炭化物52から出土した。
個体番号坏107	4号土壙、焼土22から出土した。
個体番号坏108	5号竪穴住居の覆土中から出土した。
個体番号坏109	5号竪穴の覆土中と遺構外(07-11グリッド)から出土した。
個体番号坏110	炭化物マウンドから出土した。
個体番号坏111	焼土11から出土した。
個体番号坏112	破片1点が5号竪穴住居の床面から出土、5号竪穴住居の東壁外(11-04-)からの破片2点と接合した。
個体番号坏113	炭化物52から出土した。

〔2〕土師器 甕類 (代表個体)

個体番号甕1	5号竪穴住居の床面と1号土壙内から出土した。
個体番号甕2	1号土壙内から出土した。
個体番号甕3	焼土27のほか遺構外から出土した。
個体番号甕4	2号竪穴住居の床面、炭化物マウンド、3号竪穴住居の北側(10-11グリッド)などから出土した。
個体番号甕5	遺構外(21-17グリッド)から出土した。
個体番号甕6	3号竪穴住居の覆土中から出土した。
個体番号甕7	1号竪穴住居のカマドで支脚として使用されていた。
個体番号甕8	5号竪穴住居の床面から出土した。
個体番号甕9	1号竪穴住居のカマド焚口に固定されて出土した。
個体番号甕10	1号竪穴住居の覆土中や付近(19-14グリッド)、炭化物マウンド、焼土43のへり、炭化物52のへり、焼土58などから出土した。
個体番号甕11	炭化物マウンドと炭化物52から出土した。
個体番号甕12	炭化物マウンド、焼土43、炭化物52などから出土した。

- 個体番号壘13 1号竪穴住居の南側(18-14グリッド)1個所に集中する。
- 個体番号壘14 4号土壙内、焼土32、4号竪穴住居の東および西側から出土した。
- 個体番号壘15 2号竪穴住居の床面、炭化物マウンド、焼土34、同51などから出土した。
- 個体番号壘16 5号竪穴住居の床面およびカマドの煙道内から出土した。
- 個体番号壘17 5号竪穴住居の床面と2号竪穴住居の西側(20-21グリッド)から出土した。
- 個体番号壘18 遺構外(09-09～10-09グリッド)から出土した。
- 個体番号壘19 焼土64から出土した。
- 個体番号壘20 炭化物マウンド、炭化物52、同53から出土した。
- 個体番号壘21 2号竪穴住居の覆土中、3号土壙内、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号壘22 4号竪穴住居の覆土中から出土した。
- 個体番号壘23 2号竪穴住居のカマド周辺、炭化物マウンド、焼土41、焼土43、炭化物52から出土した。
- 個体番号壘24 5号竪穴住居の床面、1号土壙周辺の焼土・炭化物、6号土壙内およびその周辺部、炭化物マウンド内から出土した。
- 個体番号壘25 焼土36、同39、4号竪穴住居の北東側から出土した。
- 個体番号壘26 炭化物52の中に破片が1点みられ、多くの破片はその周辺から出土した。
- 個体番号壘27 破片2点が1号竪穴住居でカマドの袖に使用され、他の破片は同竪穴の床面やその周辺、3号土壙内、焼土47、同48のへり、焼土51などかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘28 2号竪穴住居の床面と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号壘29 炭化物マウンド、焼土43、炭化物52から出土した。
- 個体番号壘30 2号竪穴住居の床面、焼土37、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号壘31 2号竪穴住居の床面、3号土壙内、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドなどかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘32 2号竪穴住居の床面、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドなどかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘33 2号竪穴住居の覆土中、焼土43およびその周辺に分布している。
- 個体番号壘34 2号竪穴住居の床面や住居外の南東部分、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドおよび4号竪穴住居周辺、焼土34、同47などかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘35 2号竪穴住居の覆土中、4号竪穴住居周辺、焼土43から出土した。
- 個体番号壘36 焼土35、同37、同43、炭化物52、炭化物マウンドなどかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘37 2号竪穴住居の床面とカマド、焼土43、炭化物52、炭化物70などかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘38 2号竪穴住居の床面やカマド、焼土41、同43、炭化物52、炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号壘39 5号竪穴住居の床面に破片が2点出土、大部分の破片は10-10グリッドに集中する。
- 個体番号壘40 5号竪穴住居の床面とカマドの煙道内、1号土壙内および周辺の焼土

- ・炭化物，3号・4号竪穴住居周辺部から出土した。
- 個体番号壘41 2号竪穴住居の床面と覆土中，焼土43およびその周辺に分布している。
- 個体番号壘42 2号竪穴住居の床面と覆土中，焼土13およびその周辺に分布している。
- 個体番号壘43 焼土43，炭化物52，炭化物マウンドなどかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘44 5号竪穴住居の床面，カマド煙道部から出土した。
- 個体番号壘45 2号竪穴住居の床面やカマド，炭化物52，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号壘46 遺構外(05-08，06-08，09-06，19-13，20-09グリッド)から出土した。
- 個体番号壘47 遺構外(13-11，14-06，14-09，14-11，15-10，19-13グリッド)から出土した。
- 個体番号壘48 炭化物52，同53，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号壘49 2号竪穴住居の床面，炭化物52，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号壘50 遺構外(20-09，20-10，21-10グリッド)から出土した。
- 個体番号壘51 焼土27とその周辺部に分布している。
- 個体番号壘52 2号竪穴住居の床面やカマドおよび覆土中，焼土41，同43，同44，炭化物52，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号壘57 焼土41，同43，同48，炭化物52，同50，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号壘58 遺構外(20-17，20-18，21-17，22-14グリッド)から出土した。
- 個体番号壘59 2号竪穴住居の床面や炭化物52，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号壘60 焼土35，同39に分布している。
- 個体番号壘61 焼土43，炭化物52に分布している。
- 個体番号壘62 2号竪穴住居の床面やカマドおよび覆土中，焼土43，炭化物52に分布している。
- 個体番号壘63 焼土43，炭化物52，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号壘64 焼土41，同43，炭化物19，炭化物マウンド，1号竪穴住居と炭化物58の間之主として分布している。その他3号竪穴住居の西側(09-18グリッド)約20mにも破片がみられる。もっとも離れていた破片間の距離は約80mである。
- 個体番号壘65 2号竪穴住居のカマド内，焼土43，炭化物52，炭化物マウンドに破片が分布している。
- 個体番号壘66 2号竪穴住居のカマド周辺に7点の破片が出土，5号竪穴住居のカマド煙道内の1点の破片，炭化物52からの破片と接合した。もっとも離れたもので約60mの距離がある。
- 個体番号壘67 2号竪穴住居の床面・カマド周辺，焼土43，炭化物52，炭化物マウンドに破片が分布している。
- 個体番号壘68 2号竪穴住居の床面・カマド周辺・煙道内，およびその周辺部，3号竪穴住居の覆土中，焼土43，炭化物30，炭化物52，炭化物マウンドからの破片と接合した。
- 個体番号壘69 2号竪穴住居の床面および覆土中，焼土41，同43，炭化物52，炭化物マウンドからの破片と接合した。
- 個体番号壘70 2号竪穴住居の床面およびその覆土中，焼土41，同43，炭化物52からの破片と接合した。
- 個体番号壘71 3号竪穴住居の床面およびその周辺部，5号竪穴住居の床面，4号土壙内，焼土22，焼土32，炭化物16，炭化物52および炭化物マウンドのへりからの破片と接合した。

- 個体番号甕72 炭化物52から出土した。
 個体番号甕73 4号土壙内と焼土24からの破片が接合した。
 個体番号甕74 5号竪穴住居の床面および覆土中と焼土28などからの破片が接合した。
 個体番号甕75 2号竪穴住居のカマド周辺、炭化物52、炭化物マウンドからの破片が接合した。
 個体番号甕76 4号土壙内、焼土12、同18、炭化物14、同19、焼土27からの破片が接合した。
 個体番号甕77 5号土壙内、焼土27、同29、炭化物28からの破片が接合した。
 個体番号甕78 3号竪穴住居のカマド焚口から出土した。
 個体番号甕79 5号土壙の東がわから南がわぞいと2号竪穴住居の南西がわ(16-22, グリッド)に分布した。
 個体番号甕80 5号竪穴住居の覆土中および5号土壙の周辺部、1号土壙周辺の焼土・炭化物からの破片と接合した。
 個体番号甕81 3号竪穴住居の覆土中から出土した。
 個体番号甕82 3号竪穴住居の覆土中から出土した。
 個体番号甕83 焼土24から出土した。
 個体番号甕84 遺構外(31-16グリッド)から出土した。
 個体番号甕85 2号竪穴住居の床面・カマド周辺・煙道内、焼土43、同49、同62、炭化物52、炭化物マウンドからの破片が接合した。
 個体番号甕86 遺構外(20-13, 20-15, 21-16, 22-18グリッド)から出土した。
 個体番号甕87 2号竪穴住居の覆土中、3号土壙内、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドからの破片が接合した。
 個体番号甕88 炭化物52の周辺部から出土した。
 個体番号甕89 焼土13や同18の周辺部からの破片が接合した。
 個体番号甕90 炭化物マウンドと遺構外(21-22グリッド)からの破片が接合した。
 個体番号甕91 遺構外(21-15, 21-16, 21-17グリッド)から出土した。
 個体番号甕92 2号竪穴住居の床面と炭化物52からの破片が接合した。
 個体番号甕93 2号竪穴住居のカマド周辺、焼土41、同43、炭化物4、同52からの破片が接合した。
 個体番号甕94 炭化物52から出土した。
 個体番号甕95 焼土43から出土した。
 個体番号甕96 遺構外(21-18, 21-19, 22-18グリッド)から出土した。
 個体番号甕97 遺構外(22-18, 22-21グリッド)から出土した。
 個体番号甕98 4号土壙内と焼土22からの破片が接合した。
 個体番号甕99 炭化物マウンドから出土した。
 個体番号甕100 遺構外(10-08グリッド)から出土した。
 個体番号甕102 4号竪穴住居外の南西がわ、焼土49、同50、炭化物マウンドのへりからの破片が接合した。
 個体番号甕103 5号竪穴住居の床面から出土した。
 個体番号甕104 焼土24から出土した。
 個体番号甕105 2号竪穴住居のカマド煙道内、3号土壙内、焼土43、炭化物マウンドなどからの破片が接合した。
 個体番号甕106 炭化物52から出土した。
 個体番号甕108 3号竪穴住居のカマド周辺や煙道内からの破片が接合した。

- 個体番号壘109 炭化物70から出土した。
 個体番号壘110 炭化物70から出土した。
 個体番号壘111 炭化物19と遺構外(10-17グリッド)から出土した。
 個体番号壘112 炭化物52と遺構外(18-20グリッド)から出土した。
 個体番号壘113 炭化物マウンドから出土した。
 個体番号壘114 1号竪穴住居の南側(18-14グリッド)から出土した。
 個体番号壘115 炭化物52と遺構外(12-07, 15-13, 15-16, 17-13, 18-15, 19-15グリッド)から出土した。
 個体番号壘116 2号竪穴住居の覆土中, 焼土43, 炭化物52からの破片が接合した。
 個体番号壘117 焼土・炭化物20・21周辺から出土した。
 個体番号壘118 2号竪穴住居の床面・カマド周辺, 焼土41, 同43, 同47, 同60, 炭化物50, 同52, 炭化物マウンドからの破片が接合, 一方1号竪穴住居の南側(18-14グリッド)や4号竪穴住居の付近(10-09, 13-14グリッド), 3号竪穴住居と4号竪穴住居の間などにも破片が分布し, もっとも離れた距離は約60mである。
 個体番号壘119 炭化物52と炭化物マウンドからの破片が接合した。
 個体番号壘120 炭化物マウンドから出土した。
 個体番号壘121 2号竪穴住居の北西側(19-18グリッド)から出土した。
 個体番号壘122 遺構外(08-09グリッド)から出土した。
 個体番号壘123 遺構外(21-17グリッド)から出土した。
 個体番号壘124 遺構外(14-13グリッド)から出土した。
 個体番号壘125 遺構外(16-13グリッド)から出土した。
 個体番号壘126 遺構外(20-19, 22-18グリッド)から出土した。
 個体番号壘127 2号竪穴住居の西側(17-20, 17-21グリッド)から出土した。
 個体番号壘128 焼土43から出土した。
 個体番号壘129 5号竪穴住居の床面から出土した。
 個体番号壘130 炭化物マウンドから出土した。
 個体番号壘131 炭化物52と遺構外(20-19グリッド)から出土した。
 個体番号壘132 炭化物マウンドから出土した。
 個体番号壘133 遺構外(22-15グリッド)から出土した。
 個体番号壘134 遺構外(07-14グリッド)から出土した。
 個体番号壘135 遺構外(07-09グリッド)から出土した。
 個体番号壘137 炭化物19と遺構外(06-08, 07-05, 07-09グリッド)から出土した。
 個体番号壘138 遺構外(10-11, 10-12グリッド)から出土した。
 個体番号壘139 遺構外(05-10グリッド)から出土した。
 個体番号壘140 遺構外(26-16グリッド)から出土した。
 個体番号壘141 5号竪穴住居の床面と焼土27からの破片が接合した。
 個体番号壘142 遺構外(11-07グリッド)から出土した。
 個体番号壘143 遺構外(09-06グリッド)から出土した。
 個体番号壘144 遺構外(12-21グリッド)から出土した。
 個体番号壘145 炭化物70から出土した。
 個体番号壘146 焼土43から出土した。
 個体番号壘147 炭化物52から出土した。
 個体番号壘148 焼土68から出土した。
 個体番号壘149 1号土壇周辺の焼土・炭化物と遺構外(05-06, 09-07グリッド)から出

个体番号甕150	土した。
个体番号甕151	2号竪穴住居の覆土中から出土した。
个体番号甕152	炭化物70から出土した。
个体番号甕153	4号土壇内、炭化物14、同19と焼土24から出土した。
个体番号甕154	炭化物16と遺構外(4号竪穴住居の周辺部)から出土した。
个体番号甕155	遺構外(19-20, 20-20, 22-21グリッド)から出土した。
个体番号甕156	焼土64と遺構外(19-16, 21-16グリッド)から出土した。
个体番号甕158	2号竪穴住居の床面と炭化物52, 焼土59からの破片が接合した。
个体番号甕159	遺構外(09-07~09-08グリッド)から出土した。
个体番号甕160	炭化物19と焼土・炭化物20・21から出土した。
个体番号甕161	遺構外(05-09, 05-10, 05-11グリッド)から出土した。
个体番号甕162	焼土64, 同67から出土した。
个体番号甕163	炭化物70から出土した。
个体番号甕164	5号竪穴住居覆土中, 焼土22から出土した。
个体番号甕165	焼土37と遺構外(4号竪穴住居の周辺部)から出土した。
个体番号甕166	3号竪穴住居のカマド煙道内や覆土中, 焼土24からの破片が接合した。
个体番号甕167	3号竪穴住居のカマド煙道内や覆土中, 焼土24からの破片が接合した。
个体番号甕168	焼土・炭化物20・21から出土した。
个体番号甕169	遺構外(19-13グリッド)から出土した。
个体番号甕170	遺構外(21-16, 21-17グリッド)から出土した。
个体番号甕171	遺構外(15-12グリッド)から出土した。
个体番号甕172	1号土壇周辺の焼土・炭化物からの破片が接合した。
个体番号甕173	焼土71から出土した。
个体番号甕174	遺構外(08-09, 09-09グリッド)から出土した。
个体番号甕175	2号竪穴住居の覆土中, 4号土壇内, 焼土27, 炭化物マウンドからの破片が接合した。
个体番号甕176	
个体番号甕177	5号土壇内, 焼土22, 炭化物16からの破片が接合した。
个体番号甕178	
个体番号甕179	
个体番号甕180	

[3] 土師質土器その他

3号竪穴住居のカマド煙道内から破片が出土した。

[4] 須恵器・「赤焼」土器 (16個体のうち11個体について説明する)

个体番号須恵器1	炭化物4と遺構外(05-07, 05-09, 06-07グリッド)から出土した。
个体番号須恵器2	炭化物50と炭化物マウンドから出土した。
个体番号須恵器3	焼土18と炭化物19から出土した。
个体番号須恵器4	炭化物16と遺構外(05-10グリッド)から出土した。
个体番号須恵器5	焼土・炭化物59と遺構外(21-17, 22-18グリッド)から出土した。
个体番号須恵器6	焼土62と炭化物52の周辺から出土した。
个体番号須恵器7	炭化物マウンド, 焼土43から出土した。
个体番号須恵器9	炭化物70から出土した。
个体番号須恵器10	6号土壇内と焼土11から出土した。
个体番号須恵器11	5号竪穴住居の床面と遺構外(09-05グリッド)から出土した。
个体番号須恵器12	遺構外(09-06, 11-10, 11-11, 11-12グリッド)から出土した。

なお、須恵器類の个体識別が可能なものは、16個体である。その他破片などで帰属不明

なものは、28番まで番号を付して分布図に示してある。

③ 種類別に見た土器の特徴

① 土師器(土師質土器)

坏類、甕類およびその他の土器にわけて説明する。

① 坏類

ここで坏類とした土器は、底部から口縁部にかけて大きな屈曲をもたずに単純に外傾しながら立ち上がる器形のものゝさす。このなかには、坏、鉢、椀、皿などが含まれる。

坏類として個体識別された土器は113個体、帰属不明の破片は1,139点ある。

▶ 坏類の形態と製作手法による分類

坏類の製作にロクロによる調整があるかどうかによって二類にわけられる。

1類：ロクロによる調整のみられない坏類

A 一体部に単数の横走沈線を施すもの

B 一体部に横走沈線や段などを施さないもの

C 口縁部にそって横走沈線や段を施すもの

2類：ロクロによる調整がみられる坏類

A 一回転糸切り後、体部や底部に再調整を施すもの

B 一回転糸切り後、体部外面や底部に再調整を施さないもの

以下に、各類別にその特徴を述べる。

▶ 1 A類

個体番号坏19、個体番号坏27の2個体が見られる。

法量は口径が14.4cm～14.8cm、底径が5.6cm～6.2cm、器高が6.4cm～7.4cmで、口高比が1.9～2.4となり、外傾度はいずれも29度である。

体部の形状は、内湾しながら外傾するもの(個体番号坏19)と直線的に外傾するもの(個体番号坏27)である。器面調整は、いずれも外面がハケ目調整の後へラミガキ、内面がへラミガキ・黒色処理されている。

底部はいずれも平底である。

▶ 1 B類

個体番号坏6、個体番号坏12、個体番号坏13、個体番号坏14、個体番号坏28、個体番号坏42、個体番号坏57、個体番号坏58、個体番号坏59、個体番号坏64、個体番号坏65、個体番号坏113の12個体が見られる。そのうち、計測が可能なものは個体番号坏6～同57までの7個体である。

法量は口径が10.9cm～14.8cm、底径が4.7cm～5.8cm、器高が5.2cm～8.0cmで、口高比が1.9～2.4となり、外傾度はいずれも29度～36度である。

そのうち、a = 口径が10.9cm～12cmまでの比較的小型のもの(個体番号坏6、同12、同113)が3個体みられるほかは、b = 口径が14cm～16cmまでの大型品である。

体部の形状は、I = 内湾しながら外傾するもの(個体番号坏14、同42、同57、同59、同64、同65、同113)が7個体、II = 直線的に外傾するもの(個体番号坏6、同12、同13、同28)が4個体みられ、Iが量的にうまわる。

器面調整は、いずれも内外面ともにへラミガキによって仕上げられ、内面は黒色処理が施される。しかし、へラミガキに先だててハケ目調整を施すもの(個体番号坏12、同13、同14、同59)4個体や外面の口縁部にヨコナデ調整を施すもの(個体番号坏13、同57)などもみられる。

底部はいずれも平底であるが、外側へ張り出すもの（個体番号環6）もみられる。

▶ 1 C類

個体番号環4，個体番号環8，個体番号環11，個体番号環15，個体番号環16，個体番号環21，個体番号環35，個体番号環39，個体番号環41，個体番号環45，個体番号環47，個体番号環50，個体番号環62，個体番号環71，個体番号環73，個体番号環75，個体番号環76，個体番号環107，個体番号環109，個体番号環110の20個体がみられる。そのうち、計測が可能なものは個体番号環4～同50までの12個体である。

法量は口径が13.8cm～17.0cm，底径が5.3cm～7.4cm，器高が6.1cm～7.7cmで，口高比が1.9～2.5となり，外傾度はいずれも29度～39度である。

そのうち，a = 口径が13.8cm～14cmまでの比較的小型のもの（個体番号環4，同16）の2個体みられるほかは，b = 口径が14.8cm（個体番号環47）～17cmまでの大型品である。

体部の形状は，Ⅱ = 直線的に外傾するもの（個体番号環21）が1個体みられるほかはすべてⅠ = 内湾しながら外傾するものである。

器面調整は，いずれも内外面ともにヘラミガキによって仕上げられるが，特に外面がヘラミガキに先だててハケ目調整を施すもの（個体番号環11，同15，同21，同47，同50，同71，同73，同76）8個体や内外面にハケ目が見られるもの（個体番号環8）1個体，外面の口縁部にヨコナデ調整を施すもの（個体番号環35）などもみられる。内面は1個体（個体番号環41）以外黒色処理が施される。

底部は垂直あるいは，外側へ張り出すもの（個体番号環4，同16，同39，同41）4個体のほか体部からスムーズに移行するもので占められている。

以上のほかに，破片や底部であるため形態が不明なものが11個体分（個体番号環52，同80，同87，同91，同92，同97，同98，同100，同103，同105，同106）みられる。

▶ 2 A類

個体番号環1，個体番号環3，個体番号環20，個体番号環25，個体番号環30，個体番号環31，個体番号環33，個体番号環40，個体番号環60，個体番号環63，個体番号環65，個体番号環70，個体番号環90の13個体みられる。そのうち，計測が可能なものは個体番号環1～同40までの9個体である。

法量は口径が13.5cm～16.6cm，底径が5.8cm～7.4cm，器高が6.2cm～7.9cmで，口高比が2.0～2.4となり，外傾度は23度～36度である。

そのうち，a = 口径が13.5cm～14.5cmまでの比較的小型のもの（個体番号環1，同33，同65）が3個体みられるほかは，b = 口径が14.8cm～16.6cmまでの大型品である。

体部の形状は，Ⅱ = 直線的に外傾するもの（個体番号環20）が1個体とⅢ = 内湾しながら外傾し口縁部で若干外反するもの（個体番号環1）が1個体みられるほかは，すべてⅠ = 内湾しながら外傾するものである。

器面調整は，多くのものについて底部外面以外ロクロ調整後ヘラミガキによって仕上げられ，内面を黒色処理している。しかし，特に体部外面が部分的にヨコナデ（個体番号環1）あるいは底部の外面がケズリ調整されるもの（個体番号環20，同60），体部の外面以外についてヘラミガキ調整されるもの（個体番号環40）がみられる。

底部は，揚底（個体番号環1，同3，同20，同30，同33，同40）が6個体，平底（個体番号環25，同31）が2個体で，回転糸切りの痕跡をとどめているが，ヘラミガキ調整によってそれが消失しているもの（個体番号環40）が1個体みられる。

▶ 2 B類

個体番号環2，個体番号環5，個体番号環7，個体番号環9，個体番号環10，個体番号環17，個体番号環18，個体番号環22，個体番号環23，個体番号環24，個体番号環26，個体番号環29，個体番号環32，個体番号環34，個体番号環36，個体番号環37，個体番号環38，

個体番号坏43, 個体番号坏44, 個体番号坏46, 個体番号坏48, 個体番号坏49, 個体番号坏51, 個体番号坏53, 個体番号坏54, 個体番号坏55, 個体番号坏56の27個体がみられる。そのうち、計測が可能なものは個体番号坏48以外の26個体である。

法量は口径が14.2cm (個体番号坏5) ~ 17.5 (個体番号坏17) cm, 底径が5.8cm (個体番号坏17, 同23) ~ 7.2cm (個体番号坏29), 器高が6.2cm (個体番号坏49) ~ 7.9cm (個体番号坏29) で, 口高比が2.0~2.6となり, 外傾度は, ①21度~30度に16個体, ②31度~41度に8個体みられ, ①が②の2倍である。ちなみに, 「夫」文字坏 (個体番号坏17) は①に含まれる。

体部の形状は, I = 内湾しながら外傾するもの (個体番号坏9, 同10, 同18, 同24, 同26, 同34, 同36, 同43, 同44, 同46, 同49, 同51, 同53, 同54, 同55) が15個体, III = 内湾しながら外傾し口縁部で若干外反するもの (個体番号坏2, 同5, 同7, 同17, 同22, 同23, 同29, 同32, 同37, 同38, 同56) が11個体みられる。

器面調整は内面にかぎられ, 13個体 (個体番号坏5, 同9, 同22, 同23, 同24, 同32, 同34, 同36, 同37, 同43, 同44, 同48, 同55) がヨコ・ナナメのヘラミガキによって調整されており, 全個体について黒色処理されている。

底部は体部からスムーズに移行するもの (個体番号坏18, 同32, 同37) が3個体と少なく, 大部分のものは低い台状を呈する。

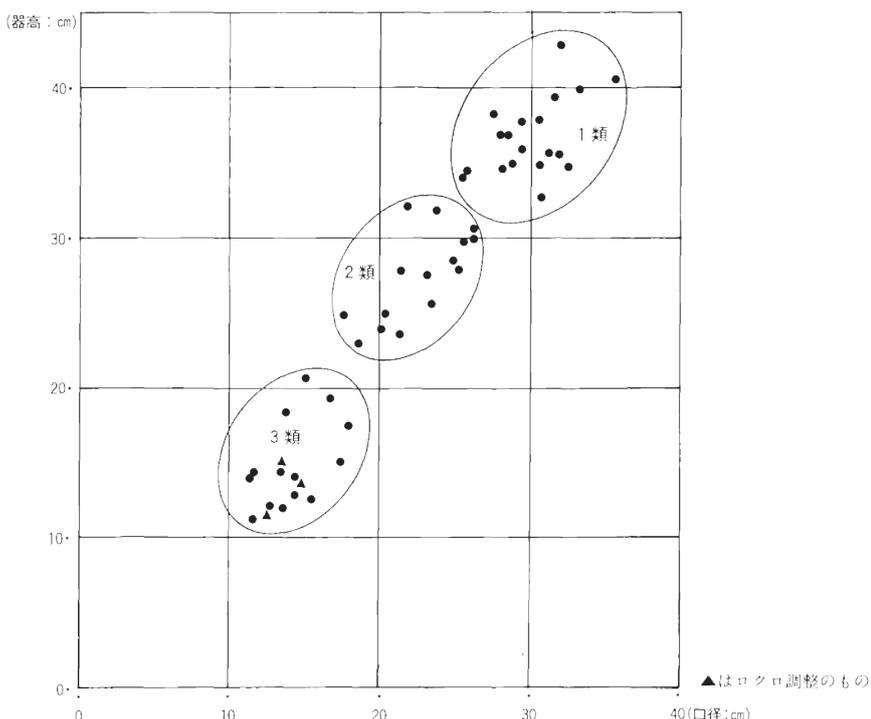
以上のほかに, 2類に含まれるが形態の不明なものが21個体分 (個体番号坏61, 同66, 同67, 同68, 同69, 同77, 同78, 同81, 同82, 同83, 同84, 同85, 同86, 同88, 同89, 同93, 同94, 同95, 同96, 同99, 同100) みられる。

② 甕類

ここで甕類とした土器は, 最大径が口縁部にあり胴部が長胴形ないし胴張形をなし, 頸でしまり口縁部がひろく器形で, 頸部の径が最大径の約2分の1以上のものをさす。

甕類として個体識別された土器は183個体, 帰属不明の破片は5,562点ある。

PL. ①-12 甕の形態別分布



甕類の製作過程でロクロ調整をうけたものはわずかに4個体（個体番号甕8，同14，同88，同90）で全体の2.2%にすぎず，他は粘土紐の積み上げによるもので占められる。

▶甕類の形態分類

甕類の口径と器高との相関関係にもとづくなら，三類にわけられる。

計測が可能なものは51個体で，全体の27.9%である。さらにこれらのデータをもとに底部以外の個体で類型化ができたものが131個体，それができなかったものが52個体で，全体の約7割が類型化できたことになる。

- 1類：口径が25.5cm～36.0cm，器高が33.0cm～44.0cmにおさまる甕
 - 2類：口径が17.5cm～26.0cm，器高が23.0cm～32.0cm代におさまる甕
 - 3類：口径が10.0cm弱～18.0cm弱，器高が8.0cm代～21.0cm弱におさまる甕
- 以下に，各類別にその特徴を述べる。

▶1類

計測が可能なものはつぎの19個体である。

個体番号甕1，個体番号甕2，個体番号甕24，個体番号甕27，個体番号甕28，個体番号甕29，個体番号甕30，個体番号甕31，個体番号甕32，個体番号甕33，個体番号甕36，個体番号甕39，個体番号甕40，個体番号甕41，個体番号甕64，個体番号甕69，個体番号甕70，個体番号甕76，個体番号甕77。

これらの甕類は，口径が27.0cm～33.0cm，器高が35.0cm～39.0cmの範囲内に12個体（個体番号甕27，同28，同29，同30，同31，同32，同33，同40，同64，同69，同70，同77）ともっとも多くみられ，それより小さいものが3個体（個体番号甕24，同36，同76），大きいものが4個体（個体番号甕1，同2，同39，同41）みられる。

さらに，破損品について識別が可能なものが44個体分（個体番号甕34，同35，同37，同38，同42，同43，同44，同45，同46，同60，同62，同63，同65，同66，同67，同68，同71，同72，同73，同74，同75，同78，同79，同81，同85，同86，同102，同104，同112，同113，同116，同134，同149，同163，同166，同167，同176，同179，同186，同190，同191，同192，同193，同194）あり，1類の甕の総数は63個体である。

甕1類の製作過程でロクロ調整をうけたものはみられず，すべて幅1cm～1.5cmの粘土紐の積み上げによる。粘土紐の接合状況は器内面へと傾斜している。

▶器形の特徴

頸部と器高との関係をとらえることができる個体数は，31個体である。

- 1 頸部が短く（器高の約10分の1強），外反しながら口縁部へ移行するもの
個体番号甕1，同27，同32，同33，同34，同35，同37，同38，同40，同41，同66，同70，同77，同81の14個体である。
- 2 頸部が直立あるいは内傾（器高の約5分の1弱）し，大きく外反しながら口縁部へ移行するもの
個体番号甕2，同24，同28，同29，同30，同31，同36，同39，同62，同64，同68，同69，同71，同76，同79，同85，同179の17個体である。

▶器面調整

観察が可能なものは，54個体である。

器面調整は部位によって異なるが，口縁部はヨコナデ（個体番号甕1，同2など），頸部，胴部はハケ目，ヘラミガキ，あるいはその組み合わせである。

器内外面ともにハケ目調整が施されるものは，24個体（個体番号甕1，同28，同32，同40，同43，同44，同45，同46，同62，同65，同66，同67，同70，同73，同75，同76，同81，同86，同102，同104，同112，同179，同192，同193）ともっとも多い。

器内外面ともにヘラミガキ調整が施されるものは，3個体（個体番号甕27，同30，同31）

と少ない。

器外面がハケ目調整で、内面にヘラミガキ調整が施されるものは、4 個体（個体番号甕 2，同72，同149，同163）みられる。

器外面がハケ目調整で、内面にヘラミモキ調整に先だつてハケ目調整が施されるものは、6 個体（個体番号甕29，同33，同35，同42，同64，同167）みられる。

器外面がヘラミガキ調整に先だつてハケ目調整が施され、内面にハケ目調整が施されるものは、4 個体（個体番号甕69，同74，同77，同85）みられる。

器外面がヘラミガキ調整に先だつてハケ目調整が施され、内面にヘラミガキ調整が施されるものは、2 個体（個体番号甕24，同39）みられる。

器内外面ともにヘラミガキ調整に先だつてハケ目調整が施されるものは、8 個体（個体番号甕24，同36，同37，同38，同60，同68，同79，同194）みられる。

器外面がヘラミガキ調整で、内面にハケ目調整が施されるものは、1 個体（個体番号甕63）みられる。

器外面がヘラミガキ調整で、内面にヘラミガキ調整に先だつてハケ目調整が施されるものは、1 個体（個体番号甕41）みられる。

▶器面調整のハケ目やヘラミガキの方向

器外面では頸部、胸部は縦位もしくは斜位、頸部下半から胸部上半は横位もしくは斜位に、器内面では口縁部から頸部は横位もしくは斜位、胸部は縦位に施されるという傾向がみられる。

▶文様

文様が施文される部位は、口縁部から頸部にかけてである。

観察が可能な個体は47個体分であり、そのうち文様がみられたものは25個体である。したがって、甕1類では53.2%に文様がみられたことになる。

▶文様の種類

- 1 横走沈線文——22個体
 - a 1～2本の横走沈線文——5個体（個体番号甕27，同62，同76，同77，同163）
 - b 多重横走沈線文——17個体（例えば個体番号坏2）
- 2 多重横走沈線文，縦位沈線文，鋸歯文，刻み目文の組み合わせ文——2個体（個体番号甕102，同186）
- 3 斜行沈線文の組み合わせ——1個体（個体番号甕36）

▶文様のある器形

甕1類で文様のある器形は、「頸部器形2」が大部分である。「頸部器形1」では2個体にしかみることができず、文様の種類も1-a（個体番号甕27）であり、文様の部位も頸部と胸部との境目に付される（個体番号甕77）。

▶2類

計測が可能なものはつぎの15個体である。

個体番号甕9，個体番号甕16，個体番号甕17，個体番号甕18，個体番号甕19，個体番号甕20，個体番号甕21，個体番号甕22，個体番号甕23，個体番号甕25，個体番号甕26，個体番号甕57，個体番号甕118，個体番号甕152，個体番号甕154。

これらの甕類は、口径が17.0cm～21.0cm，器高が23.0cm～25.0cmの範囲内に5個体（個体番号甕16，同18，同57，同152，同154），口径が21.0cm～25.0cm，器高が26.0cm～29.0cmの範囲内に5個体（個体番号甕9，同17，同19，同20，同21），口径が21.0cm～26.0cm，器高が30.0cm～32.0cmの範囲内に5個体（個体番号甕22，同23，同25，同26，同118）みられる。

さらに、破損品について識別が可能なものが22個体分（個体番号甕47，同48，同49，同

50, 同52, 同57, 同58, 同59, 同80, 同82, 同89, 同93, 同95, 同96, 同97, 同108, 同137, 同150, 同164, 同181, 同182, 同189) であり, 2類の甕の総数は37個体である。

甕2類の製作過程でロクロ調整をうけたものはみられず, すべて幅1cm~1.5cmの粘土紐の積み上げによる。粘土紐の接合状況は器内へと傾斜している。

▶器形の特徴

頸部と器高との関係をとらえることができる個体数は, 24個体である。

- 1 頸部が短く(器高の約6分の1強), 外反しながら口縁部へ移行するものは, 3個体(個体番号甕26, 同47, 同182)である。
- 2 頸部が直立あるいは内傾(器高の約3分の1~4分の1)し, 大きく外反しながら口縁部へ移行するものは, 17個体(個体番号甕9, 同16, 同17, 同18, 同19, 同20, 同21, 同22, 同23, 同25, 同48, 同49, 同50, 同52, 同57, 同58, 同59, 同82, 同118, 同152, 同154)である。

▶器面調整

観察が可能なものは, 30個体である。

器面調整は部位によって異なるが, 口唇部はヨコナデ, 頸部・胴部はハケ目, ヘラミガキ, あるいはその組み合わせである。

器内外面ともにハケ目調整が施されるものは, 8個体(個体番号甕9, 同17, 同19, 同21, 同49, 同80, 同82, 同152)である。

器内外面ともヘラミガキ調整が施されるものは, 14個体(個体番号甕18, 同20, 同22, 同23, 同25, 同26, 同50, 同58, 同59, 同89, 同93, 同96, 同154, 同164)ととっても多い。

そのほか器外面がハケ目調整で, 内面にヘラミガキ調整(個体番号甕52, 同57, 同181)やヨコナデ(個体番号甕16)が施されるものなどもみられる。

▶器面調整のハケ目やヘラミガキの方向

器外面では頸部, 胴部は縦位もしくは斜位, 頸部下半から胴部上半は横位もしくは斜位に, 器内面では口縁部から頸部は横位もしくは斜位, 胴部は縦位に施されるという傾向がみられる。

▶文様

文様が施される部位は, 口縁部から頸部にかけてがもっとも多い。観察が可能な個体は30個体分であり, そのうち文様がみられたものは25個体である。したがって, 甕2類では約70%に文様がみられたことになる。

▶文様の種類

- 1 横走沈線文—12個体
 - a 1~2本の横走沈線文—2個体(個体番号甕22, 同182)
 - b 多種横走沈線文—10個体(個体番号甕9, 同19, 同21, 同26, 同57, 同89, 同96, 同97, 同154, 同164)
 - 2 多種横走沈線文, 縦・斜位沈線文, 鋸歯文, 刺突文, 刻み文の組み合わせ文—13個体
 - a 頸部に1本の横走沈線文を施し, 口唇部に刻み目をつけるもの(個体番号甕47)
 - b 頸部に多重走沈線文を施し, 口縁部と頸部・胴部の境(個体番号甕20)あるいは頸部に複数列の刺突文をつけるもの(個体番号甕48)
 - c 頸部に多重横走沈線文, 縦・斜位沈線文, 刺突文の組み合わせ文(個体番号甕17, 同50, 同52)を, あるいはさらに胴部上半に鋸歯文(個体番号甕18, 同25)をつけるもの
 - d 頸部に多重横走沈線文, 斜位沈線文の組み合わせ文(個体番号甕59, 同118, 同1

81)を、あるいは縦・斜位沈線文の組み合わせ文(個体番号甕49)をつけるもの

e 頸部に多重横走沈線文と鋸歯文を組み合わせたもの(個体番号甕189)

以上のように、甕2類には約7割に文様が施文されていた。文様は口唇部から胴部上半に限られ、特に頸部を横走沈線文で充填するという特色がみられた。

文様の種類には多重横走沈線文を基調とし、縦・斜沈線文、刺突文、刻み目文、鋸歯文などの組み合わせ文がみられた。

▶ 3類

計測が可能なものはつぎの17個体である。

個体番号甕3, 個体番号甕4, 個体番号甕5, 個体番号甕6, 個体番号甕7, 個体番号甕8, 個体番号甕10, 個体番号甕11, 個体番号甕12, 個体番号甕13, 個体番号甕14, 個体番号甕15, 個体番号甕88, 個体番号甕153, 個体番号甕155, 個体番号甕156, 個体番号甕169.

これらの甕類は、口径が11.0cm~16.0cm, 器高が11.0cm~15.0cmの範囲内に11個体(個体番号甕3, 同4, 同6, 同7, 同8, 同11, 同12, 同13, 同14, 同88, 同156)ともっとも多くみられ、それより小さいものが1個体(個体番号甕5), 大きいものが5個体(個体番号甕10, 同15, 同153, 同155, 同169)みられる。

さらに、破損品について識別が可能なものが14個体分(個体番号甕51, 同83, 同84, 同87, 同90, 同91, 同92, 同94, 同98, 同99, 同100, 同117, 同133, 同180)あり、3類の甕の総数は31個体である。

3類の製作過程でロクロ調整をうけたものは4個体(個体番号甕8, 同14, 同88, 同90)で12.9%である。その他は幅1cm~1.5cmの粘土紐の積み上げによる。粘土紐の接合状況は器内面へと傾斜している。

▶ 器形の特徴

まず、ロクロ調整の4個体にはつぎの2種類がみられる。

- 1 頸部と胴部の境が不明瞭で、頸部が直立ないし外傾し、外反する口縁部へ移行するもの(個体番号甕14, 同90)。
- 2 頸部と胴部の境が不明瞭で、頸部が強くしまる。口縁部は短く外反する。最大径は胴部にあり、大きく膨らむ(個体番号甕8, 同88)。

つぎに、ロクロ調整のみられないものにはつぎの2種類がみられる。

- 1 口縁部から頸部までの長さが、器高の約3分の1を占めるもので8個体(個体番号甕3, 同4, 同5, 同10, 同11, 同12, 同153, 同156)ある。
- 2 口縁部から頸部までの長さが、器高の約4分の1を占めるもので5個体(個体番号甕6, 同13, 同15, 同155, 同169)ある。

1, 2いずれも頸部は直立, 内傾, 外傾し口縁部へ大きく外反する。また、個体番号甕7は「ロクロ1」と形態が似ており、個体番号甕10は二重口縁部をもつ器形である。

▶ 器面調整

観察が可能なものは、29個体である。

まず、ロクロ調整の4個体について、風化の著しい個体番号甕8以外はつぎのようになる。

個体番号甕14は内面をヘラミガキ、個体番号甕88は内面をヘラケズリによって再調整している。しかし、個体番号甕90は再調整がみられない。

つぎに、ロクロ調整のみられないものについて、観察が可能なものは25個体である。

器面調整は部位によって異なるが、口縁部はヨコナデ、頸部・胴部はハケ目、ヘラミガキ、あるいはその組み合わせである。

器内外面ともにハケ目調整が施されるものは、7個体(個体番号甕12, 同13, 同83, 同

91, 同92, 同94, 同98), 器内外面ともにヘラミガキ調整が施されるものは, 6 個体 (個体番号壺11, 同51, 同84, 同87, 同100, 同180) とほぼ半々である。器外面がハケ目・ヘラミガキ調整で, 内面にヘラミガキ調整が施されるものは, 3 個体 (個体番号壺4, 同5, 同155) みられる。器外面がハケ目調整で, 内面にヘラミガキ調整に先だってハケ目調整が施されるもの (個体番号壺6, 同10, 同153, 同156) と内外面がヘラミガキ調整に先だってハケ目調整が施されるもの (個体番号壺7, 同15, 同99, 同169) はともに4 個体みられる。また, 器外面にハケ目調整が施され, 内面にヨコナデ調整が施されるものは, 1 個体 (個体番号壺3) みられる。

以上のように, 壺3類の器面調整の約7割が, 器内外のいずれかにヘラミガキ調整を施す, という特徴を示している。

▶器面調整のハケ目やヘラミガキの方向

器外面では頸部, 胴部は縦位もしくは斜位, 頸部下半から胴部上半は横位もしくは斜位に, 器内面では口縁部から頸部は横位もしくは斜位, 胴部は縦位に施されるという傾向がみられる。

▶文様

文様が施される部位は, 口縁部から頸部にかけてであるが, 胴部に施文されるもの (個体番号壺13) が1 個体だけみられる。

観察が可能な個体は23個体分であり, そのうち文様がみられたものは16個体である。したがって, 壺3類では約65%に文様がみられたことになる。

▶文様の種類

- 1 多重横走沈線文——5 個体 (個体番号壺4, 同11, 同98, 同117, 同155)
- 2 多重横走沈線文, 縦・斜位沈線文, 鋸歯文, 刺突文, 刻み目文の組み合わせ文——7 個体
 - a 多重横走沈線文と口唇部刻み目文の組み合わせ文——2 個体 (個体番号壺3, 同10)
 - b 多重横走沈線文と口唇部および頸部刻み目文の組み合わせ文——2 個体 (個体番号壺15, 同153)
 - c 多重横走沈線文, 縦・斜位沈線文, 刻み目文の組み合わせ文——2 個体 (個体番号壺84, 同99)
 - d 多重横走沈線文と口唇部刻み目文, 鋸歯文の組み合わせ文——1 個体 (個体番号壺100)
- 3 斜行沈線文の組み合わせ文——2 個体 (個体番号壺12, 同51)
- 4 斜行沈線文と縦位沈線文の組み合わせ文——1 個体 (個体番号壺156)
- 5 多重横走沈線文のほか胴部に斜行沈線文が施文されるもの——1 個体 (個体番号壺13)

③ その他の土器

大形の鉢型の土器が1 個体, 3 号竪穴住居のカマド煙道底面から出土した。

法量は口径が36.8cm, 底径が8.5cm, 器高が14.3cmで, 器厚は1.4cmである。口高比が2.6, 外傾度は57度である。

体部の形状は, 直線的に外傾し口縁部に移行する。土器の成形は, 幅約1.5cmの粘土紐の積み上げによる。器面調整は, 器内外面ともにヘラミガキ調整で, 内面は黒色処理が施されている。

底部は厚く(1.5cm~2.3cm), 高台様の平底で, ヘラミガキ調整が施されている。

以上のような特徴をもつ土器は, 大形の鉢とみられる一方で, 蓋としての形態をもそなえている。

〔2〕 須恵器・「赤焼」土器

坏類と瓶類にわけて説明する。

① 坏類

須恵器の坏類は、7個体（個体番号須恵器1, 同3, 同6, 同7, 同10, 同11, 同12）出土した。

法量は口径が12.7cm（個体番号須恵器3）～14.9cm（個体番号須恵器3）～14.9cm（個体番号須恵器11）、底径が4.6cm（個体番号須恵器1）～6.4cm（個体番号須恵器7）、器高が4.6cm（個体番号須恵器1, 同10）～6.0cm前後で、口高比が2.1～2.8となり外傾度は22度～39度である。

体部の形状は、①内湾しながら外傾するもの（個体番号須恵器7, 同10, 同11）が3個体②内湾しながら外傾し、口縁部が若干外反するもの（個体番号須恵器1, 同6, 同12）が3個体③直線的に外傾するもの（個体番号須恵器3）が1個体みられる。

器面調整はロクロによる調整以外に再調整は施されない。

底部は回転糸切り底で、体部からスムーズに移行するもの（個体番号須恵器1, 同3, 同10）が3個体、低い台状を呈するもの（個体番号須恵器6, 同7）が2個体とほぼ半々みられる。

「赤焼」土器としたものは、個体番号須恵器2, 同4, 同5, 同9の4個体分である。

法量は口径が11.4cm（個体番号須恵器4）～14.8cm（個体番号須恵器5）、底径が5.4cm（個体番号須恵器4）～6.2cm（個体番号須恵器5, 同9）、器高が3.7cm（個体番号須恵器9）～6.7cm（個体番号須恵器4）で、口高比が1.7～3.6となり外傾度は18度～29度である。

体部の形状は、①内湾しながら外傾するもの（個体番号須恵器4, 同9）が2個体、②内湾しながら外傾し、口縁部が若干外反するもの（個体番号須恵器2, 同15）が2個体みられる。

器面調整はロクロによる調整以外に再調整は施されない。

底部は回転糸切り底で、体部からスムーズに移行するもの（個体番号須恵器5, 同9）が2個体、低い台状を呈するもの（個体番号須恵器4）が1個体みられる。

② 瓶

合計5個体分みられたが、個体番号須恵器8について述べる。

▶ 出土状況

2号竪穴住居の覆土中、炭化物マウンド、炭化物50, 同52, 焼土57, 同62, 同64, 同65とかなり広範囲に破片が分布している。

▶ 土器の特徴

頸部が胴部との接合部分で破損している。

土器の肩部は比較的張りが強く、なだらかに底部へ下降する。底部幅は広く、頸部幅とほぼ同じで端が尖る低い高台が付されている。器厚は一定せず、肩部から胴部上半にかけて厚く（約1cm）、胴部下半から薄くなる（約3～4mm）。底部も中央部分が周辺部分より厚い。

この土器は、ロクロによる調整をうけているが、その後器外面は肩部から胴部下半にかけて縦・斜位右下りのハケ目調整が施されている。また、器内面では頸部と肩部の接合部分に縦位の、底部付近に斜位のハケ目調整を施している。

なお、現存の法量は器高が20.7cm、頸部径が10.2cm、肩部径(最大径)20.8cm、底部径が10.8cmである。

④ 土器の小括

① 土器の出土および分布状況

① 出土状況

第2文化層の土器類は、つぎのような出土状況を示した。

① 土器の使用時あるいは意図的な配置を示しているもの

使用時にかなり近い状態を示している例に、1号竪穴住居のカマド焚口部に据え付けられた中形甕と支脚用小形甕がある。使用後の状態を示している例に、1号土壇内から倒立で出土した2個体の大形甕がある。

② 土器の再利用の状態を示しているもの

A 土器自体を再利用したもの

1号竪穴住居のカマド焚口部に支脚として埋め込まれていた小形甕がある。

B 土器の破片が使用された例

a 煮沸用土器の固定材としての使用

1号竪穴住居のカマドの袖に埋め込まれ、煮沸用土器の固定材として使用されていた大形甕の破片

b カマドの補強材としての使用

3基の大形住居のカマドにみられた。なかでも2号竪穴住居で破損した甕の破片のうち1点だけが、他の複数の土器の破片とともに5号竪穴住居のカマド煙道底面に敷かれていた。

c 土器片の敷設

1号土壇内で、土器片の敷設された面がみられた。

③ 土器の廃棄の状態を示しているもの

第2文化層の土器は、ある個体の破片が竪穴住居内から、残りの破片が他の遺構あるいは遺構外から出土する場合は圧倒的に多い。この大半は竪穴住居内での破損品を、竪穴住居外に持ち出し廃棄したことを示すもので、竪穴住居内の破片は廃棄もれ、と考えられる。ここでは3基の大形住居を中心に、土器片の分布をもとに廃棄の状況を見る。

② 分布状況

① 2号竪穴住居からは38個体分の土器（土師器環7個分、土師器甕30個体分、須恵器瓶1個体分）の破片が出土した。分布はつぎの3地域にみられる。

a 3号土壇、焼土41、同43、同44、炭化物52、焼土59、同62など住居に近接した地域

b 炭化物マウンドを中心に焼土47、同49、炭化物50、焼土51、同60など住居の北東側で、かけ離れた地域

c 3号竪穴住居の窪地、炭化物4、焼土13、炭化物30、焼土34、同37など住居の東南側で、かけ離れた地域と炭化物70など北側で、かけ離れた地域

この3地域のうち、分布の主体はa、bにある。これは、2号竪穴住居の人々はおそらく住居の周りや、炭化物マウンドを中心とする地域を廃棄の場として活用し、住居から大きくかけ離れた地域へはほとんど廃棄しなかった、ということをお話している。

② 3号竪穴住居からは7個体分の土器（土師器環1個体分、土師器甕5個体分、すり鉢形土器1個体分）の破片が出土した。分布はつぎの3地域にみられる。

- a 焼土22, 同24など住居に近接した地域
- b 1号土壇周辺の焼土・炭化物, 4号土壇内など住居の東側で, かけ離れた地域
- c 炭化物52, 炭化物マウンドなど住居の北東側で, かけ離れた地域

この3地域のうち, 分布の主体はa, bにある。これは, 3号竪穴住居の人々はもっぱら住居の周りや東側のかけ離れた地域を廃棄の場として活用し, 炭化物マウンドなど住居から大きくかけ離れた地域へはほとんど廃棄しなかった, ということを物語っている。

- ③ 5号竪穴住居からは27個体分の土器(土師器坏10個体分, 土師器甕17個体分, 須恵器坏1個体分)の破片が出土した。分布はつぎの3地域にみられる。

- a 1号土壇内およびその周辺の焼土・炭化物, 炭化物28など住居に接近した地域
- b 5号土壇, 6号土壇内など住居の南西側で, かけ離れた地域
- c 炭化物52, 炭化物マウンドなど住居の西側で, かけ離れた地域

この3地域のうち, 分布の主体はa, bにある。これは, 5号竪穴住居の人々はもっぱら住居の周りや南西側のかけ離れた地域を廃棄の場として活用し, 炭化物マウンドなど住居から大きくかけ離れた地域へはほとんど廃棄しなかった, ということを物語っている。

② 種類別出土量

識別された個体総数は, 313個体である。

土師器(土師質土器)が297個体, 須恵器が12個体, 「赤焼」土器が4個体である。個体総数に占める割合では, 土師器(土師質土器)が94.9%と圧倒的に多く, 須恵器が3.8%, 「赤焼」土器が1.3%と少ない。

③ 器種構成

土師器(土師質土器)には坏類, 甕類, その他の土器の3種類がみられる。量的には坏類が113個体(38.0%), 甕類が183個体(61.6%), その他が1個体(0.3%)となり, 甕類が坏類を大きく上回っている。

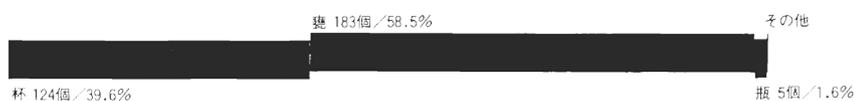
須恵器には坏類と瓶類の2種類がみられる。出土量は少ないが, 坏類が7個体, 瓶類が5個体で坏類がやや多い。また, 「赤焼」土器には坏類が4個体みられるだけである。

土器の形態別では, 坏類が124個体(39.6%), 甕類が183個体(58.5%), 瓶類が5個体(1.6%), その他が1個体(0.3%)となり, 煮沸形態の土器(土師器あるいは土師質土器の甕類)が供膳形態の土器(土師器, 須恵器, 「赤焼」土器の坏類および須恵器の瓶)を上回っている。

PL. ①-13 土器種類別出土量(313個体)



PL. ①-14 土器形態別出土量(313個体)



④ 土師器 坏類の特徴

個体総数113個体のうち、形態不明の7個体を除く106個体について、製作手法をもとに2種類にわけられた。

それによると、1類(ロクロによる調整のみられないもの)が45個体(42.5%)、2類(ロクロによる調整のみられるもの)が61個体(57.5%)で、2類が1類を上回る。

① 坏1類の特徴

幅1cm～1.5cmの粘土紐を積み重ねて成形し、器内外面ともヘラミガキによって調整している。しかし、器面にはハケ目痕を残しているものもみられるから、ヘラミガキの前かあるいは並行してハケ目調整も行なわれたことをうかがわせる。内面は、ほとんどのものが黒色処理されている。

坏1類は体部に単数の横走沈線文や段などがみられるもの(A類)が2個体(4.4%)、体部に横走沈線文や段などがみられないもの(B類)が12個体(26.7%)、口縁部に横走沈線文や段を施すもの(C類)が20個体(44.4%)、不明11個体(24.4%)となり、C類がもっとも多くみられ、以下B類、A類の順となる。

このように坏1類は、C類を主体にしてB類が組み合わせとなり、非常に少ないがA類もみられるところに特徴がある。

② 坏2類の特徴

ロクロによる調整の後、体部や底部に再調整を施すもの(A類)が13個体(21.3%)と再調整を施さないもの(B類)が27個体(44.3%)で、21個体(34.4%)が不明である。観察が可能な個体では、B類がA類の2倍強にのぼる。

A、B類ともほとんどの土器は、ロクロによる調整以前に、幅1cm～1.5cmの粘土紐を積み重ねて成形されている。

また観察が可能な資料にもとづけば、ロクロからの底部切り離しは、回転糸切り法による。

A類の器面再調整は、ヘラミガキが基調となっている。内面の黒色処理はA、B類ともほとんどの個体に施されている。

⑤ 土師器(土師質)甕の特徴

個体総数183個体のうち、形態不明の52個体を除く131個体について、口径と器高との相関関係をもとに3種類にわけられた。

ここで仮りに1類を大形甕、2類を中形甕、3類を小形甕とするなら、大形甕が63個体(48.1%)、中形甕が37個体(28.2%)、小形甕が31個体(23.7%)となり、大形甕が全体のおよそ半分近くを占めている。

甕の製作過程でロクロ調整をうけたものは、小形甕の中に4個体(2.2%)みられただけで、それ以外のものは粘土紐の積み重ねによって形成されていた。粘土紐の幅は1cm～1.5cmで、その接合縦断面は器内面へ傾斜するのが一般的である。

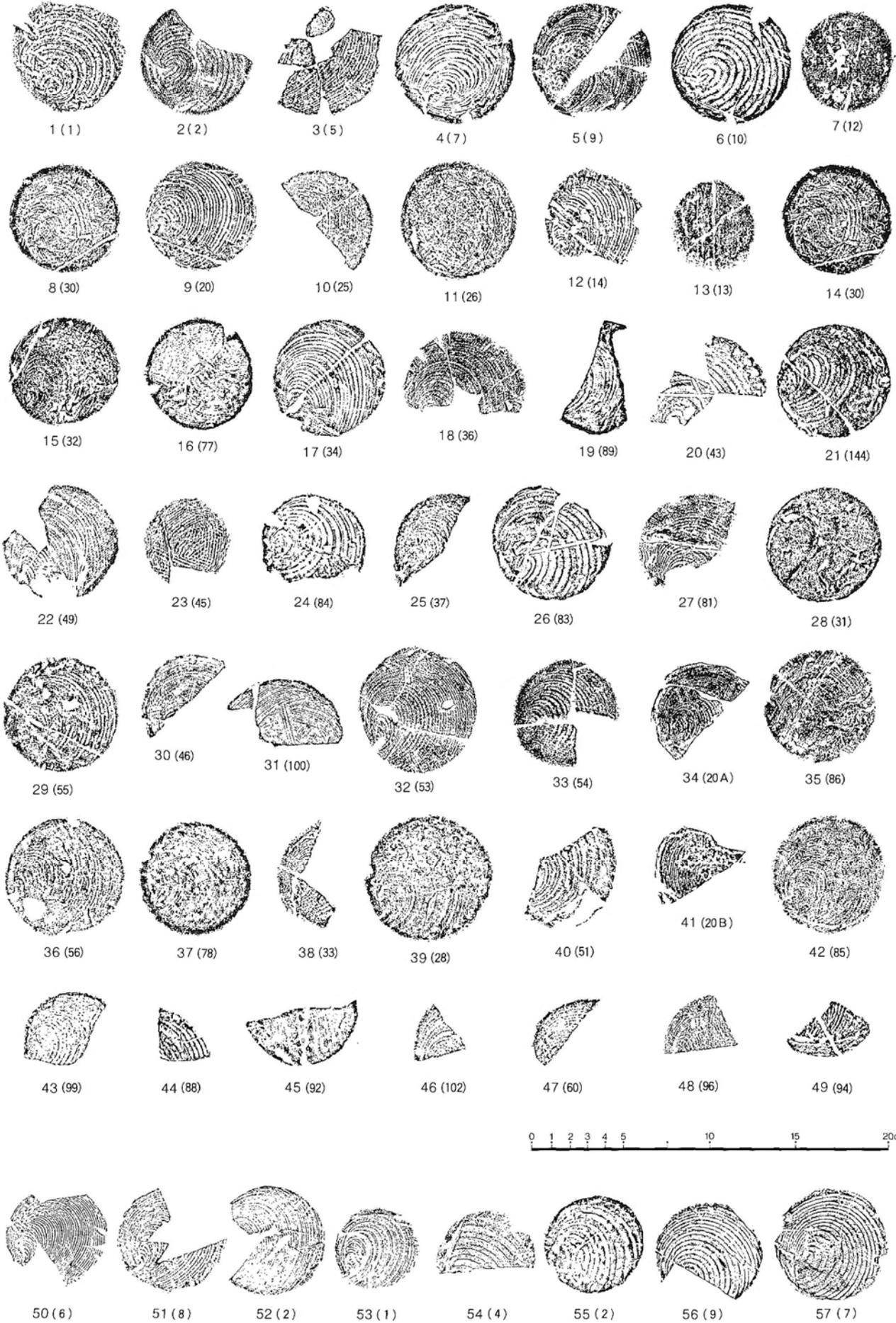
器形の特徴は、器高に対して頸部の占める割合と、頸部から口縁部までの形状によくあらわれている。

まず、頸部は各類とも長いものが多くみられるが、とくに大形甕よりも中形甕や小形甕にその傾向が大きい。

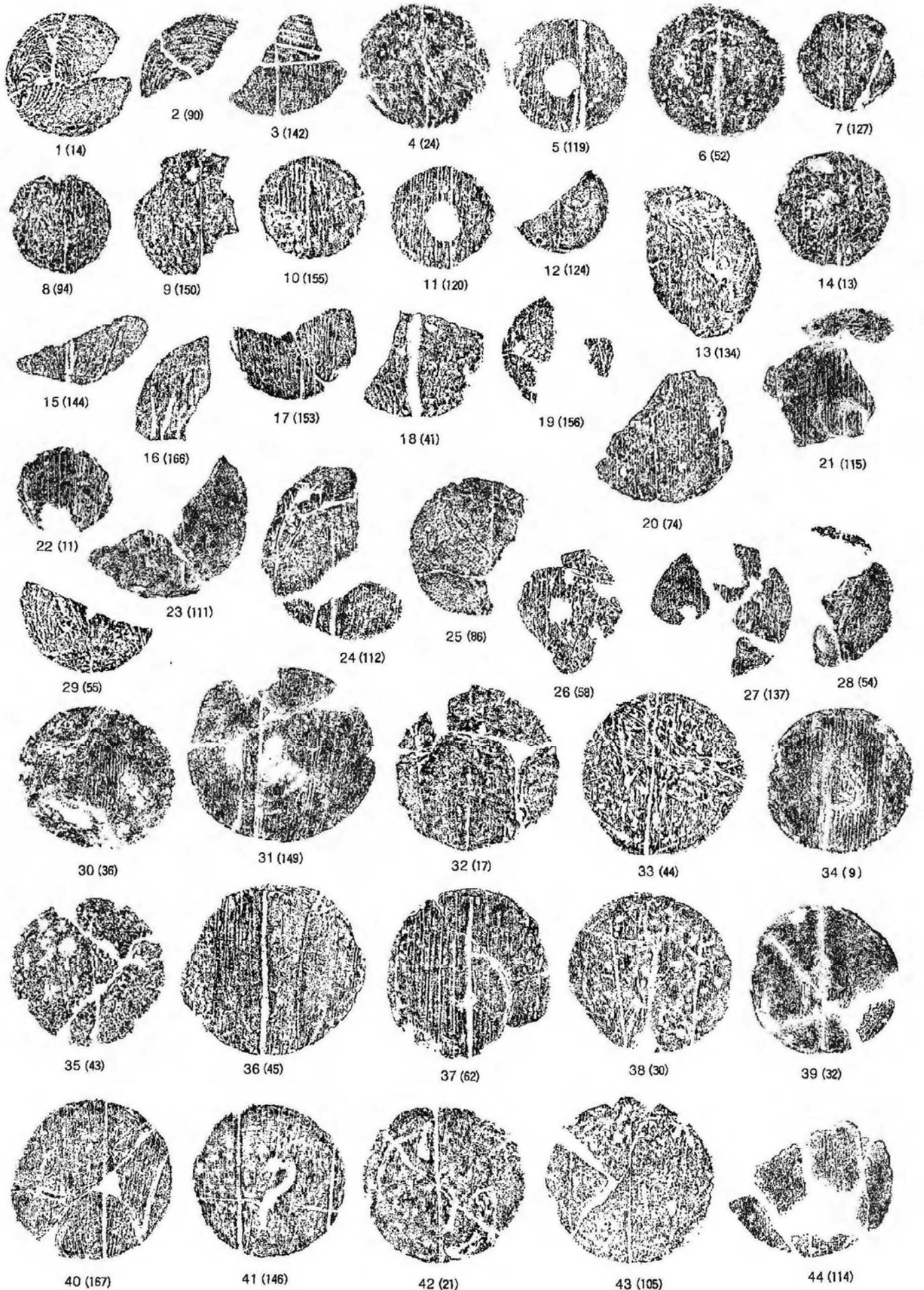
頸部から口縁部までの形状は、頸部が短い甕では外反し、頸部が長い甕では直立あるいは内傾し大きく外反しながら口縁部へ移行するものが多い、という傾向がうかがえる。

底部は平で、半数以上のものにササや木の葉の圧痕がみられる。

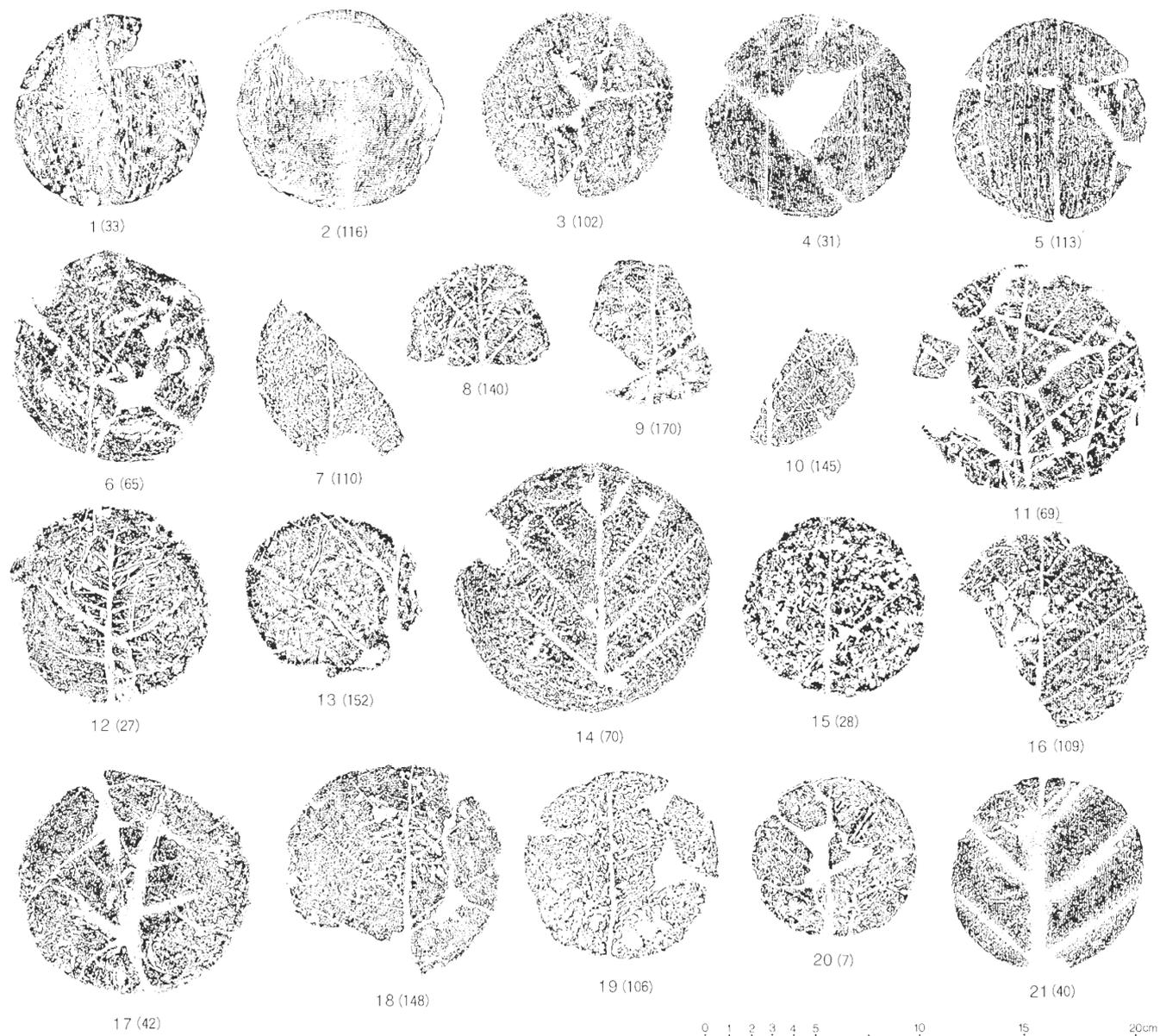
PL. Ⅱ-15 土師器坏(1)~(49),須恵器(50)~(57)の底部拓影[()内は個体番号を示す]



PL. Ⅲ-16 甕の底部拓影 ① [()内番号は個体番号を示す]



PL. Ⅱ-17 甕の底部拓影 ② [()内番号は個体番号を示す]



器面調整は、口縁部がヨコナデ、頸部や胴部がハケ目かヘラミガキ、あるいはそれらの併用という手法が一般的である。とくに胴部についてみると、大形甕では器内外面ともにハケ目調整というものが24個体みられ、ヘラミガキ調整3個体を大きく上回っている。中形甕ではヘラミガキ調整が14個体で、ハケ目調整8個体をやや上回っている。小形甕ではヘラミガキ調整が6個体、ハケ目調整7個体と両手法の使いわけは接近しているが、残りの個体は両手法を併用している。

以上のように、大形甕ではハケ目調整が主体を占めるのに対し、中形甕や小形甕ではヘラミガキ調整を軸にハケ目調整と併用するところに特徴がある。

文様が施された甕は、観察が可能な100個体のうち66個体(66%)にみられた。そのうち、大形甕が25個体(37.9%)、中形甕が25個体(37.9%)、小形甕が16個体(24.2%)となり、文様が施されるのは大形甕と中形甕に多くみられる。

施文の部位は口縁部から頸部にかけてであるが、胴部施文の例が小形甕に1個体だけがみられた。

文様は沈線文、とりわけ多重横走沈線文が主体を占める。沈線文にはほかに1～2条の

横走沈線文、縦位沈線文、斜位沈線文、鋸歯文などがある。

文様はほかに刻み目文、刺突文などもみられる。

これらの文様は単独か、あるいは複数が組み合わせとなって施文されている。大形甕では沈線文、とりわけ多重横走沈線文が17個体にみられ他の文様と組み合わせとなるものは2個体にしかみられないのに対し、中形甕、小形甕では多重横走沈線文を基調に種類が増加する傾向にある。

〔6〕 土師器、「赤焼」土器

土師器坏類7個体、瓶類5個体、「赤焼」土器坏類4個体については、第Ⅵ章3-3-(2)に示した。

そのうち、坏類のロクロからの底部切り離しには、回転糸切り法によることが製作上もっとも大きな特徴のひとつであること、を指摘するとどめる。

〔7〕 土器類の編年的位置

他の遺物同様土器についても、遺跡での出土状況や共存遺物等から、直接実年代を知り得るような手掛りは発見されていない。

また、この種の土器を出土する北海道内の他の遺跡においても、直接年代を知り得るような手掛りが発見されたという情報もない。

北海道では土師器が東北地方からもたらされ、展開する時代を擦文時代という。その開始期の土師器は、坏類、甕類、壺類、甔などが組成をなしており、坏類の製作にロクロ調整がみられないことなどが大きな特徴となっている。このような土器の組成、製作技法などから判断して、擦文時代は西暦8世紀代に開始されたと考えられている。

それでは、サクシュコトニ川遺跡第2文化層のように、土師器の坏類の製作にロクロ調整が施される土器群は擦文時代の中でどのあたりに位置づけられるだろうか。

まず、擦文時代の遺跡で層位的上下関係あるいは遺構の切り合い等によって、開始期の土師器と新旧関係が把握された例を示そう。

千歳市末広遺跡では竪穴住居跡88基、土坑墓1基、製鉄遺構1基を含む擦文時代の集落が発掘調査された。そのうち、竪穴住居が直接切り合っていたり、新たに竪穴住居を構築する際に、隣接する古い竪穴内に排土を投棄したりして、その新旧がわかった例が20数組あった(大谷・田村 1981, 1982 P. 28)。

そのなかで例えば、「IH14」(旧)→「IH15」(新)という遺構間の新旧関係は、竪穴住居の床面やカマドから出土したロクロ調整のみられない土師器坏の土器群がロクロ調整による土師器坏の土器群より時間的に先行するものである、という事実を示すものである。

末広遺跡でのこのような土器群の新旧関係が、擦文時代の土器編年の大筋をも示しているとすれば、それは東北地方での土師器の変遷とつぎのような理由で符合し、矛盾がない。

東北地方の土師器の変遷は、宮城県多賀城跡出土の土器類を中心とした最近の研究によればつぎのような傾向を示す。

土器は土師器、須恵器、須恵系土器(「赤焼」土器)の3種類が主体を占め、土師器では製作過程でロクロを使用しない土器群からすべての坏類がロクロによって製作される土器群へ、須恵器では坏類のロクロから切り離しがへら切りを主体とするものから糸切りを主体とするものへ、須恵系土器土器では坏類が比較的大型の坏類だけで構成されていたものからこれに小型の坏類が加わる組成のものへ、と変遷したことが確かめられている。

さらに、土師器の坏類がすべてロクロによって製作される土器群(C群土器)は、西暦9世紀の初頭からであるという年代観が示されている(進藤ほか 1982 pp.388~393)。

一方、擦文時代のロクロ調整のみられない土師器坏の土器群は3型式あるいはⅢ期に分

類されており、そのうちもっとも新しい土器群は西暦9世紀に入ってからのものである、とみられている(齋藤 1967, 横山 1984)。したがって、北海道でロクロ調整の土師器環が使用されるのは、東北地方より1型式あるいは1期分遅れてからということになる。

それでは、サクシュコトニ川遺跡第2文化層の土器群とロクロ調整のみられない土師器環の土器群のうち、もっとも新しい土器群との関係がどうであるか、を北大構内のサークル会館遺跡(吉崎・岡田編 1981 P.P. 11~35)との比較を通してみよう。

サクシュコトニ川、サークル会館両遺跡から出土した土器の種類および形態別比較グラフを示す。

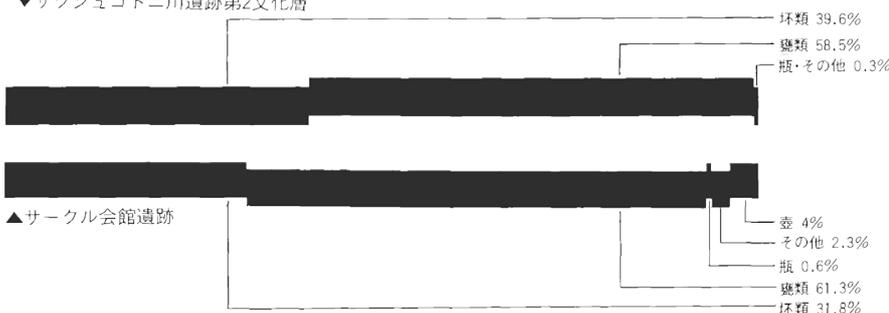
PL. ①-18 土器の種類別組成比

▼サクシュコトニ川遺跡第2文化層



PL. ①-19 土器の形態別組成比

▼サクシュコトニ川遺跡第2文化層



▲サークル会館遺跡



それによると、種類別ではいずれの遺跡でも土師器(土師質土器)が94~95%以上を占め、須恵器などより圧倒的に多いことが確かめられた。一方、サクシュコトニ川遺跡の土器組成に「赤焼」土器がみられることが特徴的である。

また、形態別ではいずれの遺跡でも甕がおおよそ60%を占め、煮沸形態の土器が供膳形態の土器を上回る、という共通した特徴を示している。

主な器種別では、つぎのような特徴を示している。

▶土師器環類

環類の製作で、サクシュコトニ川遺跡の土器はロクロ調整のみられるものとみられないものが相伴していたが、サークル会館遺跡の土器には全くロクロ調整がみられなかった。

ロクロ調整がみられない土器のうち、サークル会館遺跡で主体を占めるのは体部に横走沈線文や段を施す器形のものであるのに対し、この種の器形の土器はサクシュコトニ川遺跡ではわずかに2個体(4.4%)しかみられなかった。また、体部に横走沈線文や段などを施さない器形のはサークル会館遺跡ではわずかに2個体(18.2%)しかみられないのに対し、サクシュコトニ川遺跡では12個体(26.7%)とやや多くを占めていた。

さらに、両遺跡の環類のもっとも大きな違いに、サクシュコトニ川遺跡の環類の中にロクロ調整技術がみられることに加えて、ロクロ調整がみられないもので口縁部直下に横走沈線文や段を施す器形が出現することをあげることができる。

* 課外活動共用施設遺跡の俗称である

器面調整はいずれもヘラミガキを基調とし、内面には黒色処理を施す、という共通性がみられる。

▶須恵器坏類

サークル会館遺跡の坏類(2.9%)、サクシュコトニ川遺跡の坏類(3.9%)とも土器組成に占める割合が著しく低い、という共通した特徴を示している。

しかし、ロクロから底部を切り離す製作技法が、サークル会館遺跡の坏類では回転ヘラ切り法であるのに対し、サクシュコトニ川遺跡の坏類では回転糸切り法である、という大きな違いをみることができる。

▶土師器(土師質土器)甕類

サクシュコトニ川遺跡の甕類は、大形甕が甕類全体のおよそ半数を占めていたのに対し、サークル会館遺跡の甕類は大形甕に相当するものがみられず、すべて中・小形甕類によって占められていたという違いがある。

製作はいずれも幅およそ1cm～1.5cmの粘土紐の積み重ね法による、という共通性がみられる。しかし、サクシュコトニ川遺跡の甕類にわずか4個体(2.2%)だけだが、ロクロ調整のものが伴出していることは注目される。

器面調整では顕著な違いはみられない。ただサークル会館遺跡の中・小形甕類にハケ目調整が多用される、という傾向がうかがえる。また、底外面の二次調整はサークル会館遺跡の甕の方がいきとどいているようである。というのは、底外面にササや木の葉圧痕がみられるものが、サクシュコトニ川遺跡の甕類ではおおよそ半数にのぼるのに対し、サークル会館遺跡の甕類ではわずか4例しかない、という違いがあるからである。

文様がみられる甕は、サークル会館遺跡ではわずか5%強と少ないのに対し、サクシュコトニ川遺跡ではおおよそ12倍の66%にそれがみられる、という大きな違いがある。その結果、種類も沈線文と口縁部刻み目文しかみられないサークル会館遺跡の甕類に比べ、サクシュコトニ川遺跡の甕類では多重沈線文を基調に変化に富んだ文様構成がみられるようになるわけである。

以上のような比較にもとづけば、サクシュコトニ川遺跡第2文化層の土器群をサークル会館遺跡の土器群、つまりロクロ調整のみられない土師器坏の土器群のうち、もっとも新しい土器群の直後に位置付けることに何ら矛盾はない。そして、ロクロ調整のみられない土師器坏の土器群の段階を「擦文時代前期」とするなら、サクシュコトニ川遺跡第2文化層の土器群から「擦文時代中期」とし、その開始を西暦9世紀中葉に求めることができよう。

また第Ⅳ章で述べたように、サクシュコトニ川遺跡での層位は、第2文化層が第1文化層より古い時期の所産である、という事実を示している。ただ、第2文化層のような土器群が直接第1文化層のような土器群へ至るのか、あるいはその間にいくつかの異なった土器群が介在するのかなど問題は、現状では判断することができず、今後の課題として残る。

(横山英介)

《引用文献(アルファベット順)》

- ▶大谷敏三・田村俊之 1981, 1982「末広遺跡における考古学的調査(上),(下)」『千歳市文化財調査報告書Ⅵ, Ⅶ』千歳市教育委員会
- ▶斎藤傑 1967「擦文文化初頭の問題」『古代文化』第19巻第5号 pp. 77~97
- ▶進藤秋輝ほか 1982『多賀城跡一政庁跡本文編一』宮城県教育委員会 宮城県多賀城跡調査研究所
- ▶横山英介 1984「北海道におけるロクロ使用以前の土師器—擦文時代前期の設定—」『考古学雑誌』第70巻第1号 pp. 52~75
- ▶吉崎昌一・岡田淳子編『1981北大構内の遺跡1』北海道大学

VI-4

[土製品類]

土製品類には、支脚、フイゴの羽口、紡錘車、玉などがみられた。

① 支脚

総数は7個体で、完形品は1個体（個体番号支脚1）である。

▶分布

- 個体番号支脚1 5号竪穴住居の床面(10-05[21]グリッド)と3号竪穴住居の覆土中(10-13グリッド)から出土した。
- 個体番号支脚2 5号竪穴住居の床面、1号土壙内、6号土壙内に破片が分布する。これは、5号竪穴住居で使用、破損したものの破片の一部を、個体番号甕40などの破片とともに1号土壙の中に敷設さらに他の破片を6号土壙の③層に廃棄したものである。
- 個体番号支脚3 焼土43に分布する。これは焼土43のピット内に固定して使用、破損したものである。
- 個体番号支脚4 5号竪穴住居の床面と1号土壙周辺の焼土・炭化物に破片が分布する。これは5号竪穴住居内で破損したものを1号土壙周辺の焼土・炭化物に廃棄したことを意味している。
- 個体番号支脚5 焼土22(08-11グリッド)から破片が出土した。
- 個体番号支脚6 2号竪穴住居のカマド焚口と炭化物52に破片がみられた。これは2号竪穴住居のカマド焚口に固定されて使用、破損後破片が炭化物52へ廃棄されたものである。
- 個体番号支脚7 焼土65(26-15グリッド)から破片が出土した。

▶用途

例として、焼土43でピット（個体番号支脚3）に、あるいは2号竪穴住居のカマド焚口（個体番号支脚6）に支脚が埋め込まれていたことをあげることができる。

▶形態・製作

円筒状で1対の透しが設けられ、天井が粘土板で封じられるもの（個体番号支脚1、同2、同4、同5、同6）が5点、天井が封じられないもの（個体番号支脚3、同7）が2点みられる。大きさは、最も大きいもの（個体番号支脚2）で器高が16.7cm、天井径8.2cm、脚間が11.6cmである。透しの高さは、器高の2/3弱のもの（個体番号支脚1、同4、同5、同6）と、1/3弱と小さいもの（個体番号支脚2、同3）との2種がある。製作は、いずれも幅1.5cm～2cm弱の粘土紐の積み上げによる。粘土紐の重なりは、器外側へ傾斜する。器面の整形は内面に明瞭に残されており、横位のハケ目調整である。

小括

a 形は円筒形で天井板のあるものとないものの2種類があり、いずれも対になる透しが切りこまれる。

b 製作は、幅1.5～2 cmの粘土紐を7～8段を積み上げたものである。器面はハケ目調整で、特に内面に顕著に残っている。

c 出土状況で支脚の用途を示すものは2個所でみられた（個体番号支脚3，同6）。それらはいずれも地面を掘り込んで固定（その場合支脚6によると、透しは焚口―煙道を結ぶ線とおよそ90度の向きを示している）し、煮沸用の器台として用いられていたことを示している。そのため二次的に過熱され、破損したものが多く、他の遺物とともに廃棄の場から出土した。

② 羽口

土師質で円筒状をなすもので、2点出土した。いずれも破損品である。

個体番号羽口1 先端部の小破片。直径6.0cm、孔の径は約4 cmである。先端は強い火熱をうけて脆く、黄赤色に変色している。製作法や器面調整不明である。

出土位置は、5号竪穴住居の覆土中(10-05〔12〕グリッド)で、小破片が接合した。

個体番号羽口2 先端部の破片。直径は約8 cm、孔の径約5 cmで大型品である。この部分の破片には二次的に火熱されたようすがみられない。器面は外面が縦、斜めのナデ調整が施されている。口唇は器内外面にヨコナデ調整がみられる。孔内面は縦の条痕がみられ、芯に粘土を巻きつけ、ナデ調整で成形し、芯を引き抜いて焼成したことを示している。

出土位置は、5号竪穴住居の覆土中(10-05〔02, 03〕グリッド)である。

③ 紡錘車

出土総数は、14点で完成品は3点（個体番号紡錘車2，同3，同4）である。

▶出土状況

- ① 住居に伴うもの―2点（個体番号紡錘車3，4）
- ② 土壇に伴うもの―1点（個体番号紡錘車2）
- ③ 炭化物マウンドと焼土43に破片がまたがるもの―1点（個体番号紡錘車9）
- ④ 炭化物52―2点（個体番号紡錘車6，同10），炭化物マウンド―3点（個体番号紡錘車8，同9，同13）
- ⑤ 遺構外出土―6点（個体番号紡錘車1，同5，同7，同11，同12，同14）

▶形態

一面が平坦で、他面は周縁部以外へこむ、いわゆる紡錘形である。中央には芯棒を通す小孔（焼成前）がみられる。

▶大きさ・重さ

完成品3点にもとづけば、大きさは6.6～5 cm（最大径）、厚さ2.4～1.5 cmで2 cm前後のものが多い。重さは、44 g～100 gである。

▶整形・文様

器面は表裏、側面ともにヘラミガキによって整形されている。文様は2点（個体番号紡

鍾車6は放射状文、個体番号紡鍾車8は側縁に鋸歯状文)にみられる。

④ 土製玉

ここでいう土製玉とは、土師質で円柱状をなし、短軸方向に貫通孔を有するものである。17点出土しており、14点が完形品である。

▶出土状況

- ① 炭化物マウンドから出土したものは15点(個体番号玉1,同2,同3,同4,同5,同6,同7,同8,同9,同10,同11,同14,同15,同16,同17)
- ② 炭化物50から出土したもの1点(個体番号玉12)
- ③ 炭化物52から出土したもの1点(個体番号玉13)

以上のように、炭化物マウンドでの在り方は、小マウンドA、B双方から土器片などと共に出土した。

▶形態・大きさなど

完形品の形態は、A：縦断面が側辺に膨らみをもち、方形に近いもの(個体番号玉1,同7,同8,同9,同10,同12,同13,同15,同16,同17)が10点、B：円形に近いもの(個体番号玉2,同3,同4,同5,同6)が5点、C：長方形に近いもの(個体番号玉11)が1点で、Aが多い。

Tab. Ⅱ 6 土製玉計測表

No.	形	最大径(cm)	高さ(cm)	貫通孔直径(cm)
1	A	1.4	1.0	0.4
2	B	1.6	1.5	0.4
3	B	1.0	0.9	0.2
4	B	0.9	0.7	0.2
5	B	1.1	0.9	0.2
6	B	1.1	1.0	0.2
7	A	1.0	1.0	0.2
8	A	1.0	0.8	0.2
9	A	0.9	0.7	0.2
10	A	1.0	0.8	0.2
11	C	1.1	1.1	0.3
12	A	0.9	0.8	0.2
13	A	1.5	1.1	0.4
14	A	0.9	0.7	0.2
15	A	1.3	1.0	0.4
16	A	1.0	0.9	0.2
17	A	1.0	0.8	0.3

大きさは、最大径が0.9~1.6cm、高さが0.7~1.5cmである。

形態との関係を見ると、Aでは、0.9~1.0cm、Bでは0.9~1.1cmにまとまる。

貫通孔の直径は、0.2cmが多く、他に0.3cmと0.4cmがそれぞれ2点と4点みられる。

(横山英介)

VI-5

〔石器・石製品および礫〕

① 石器・石製品

▶種類と出土点数

石器・石製品の総数は77点である。石器は、石錐、スクレイパー、ピエス・エスキーユ、剥片・破片と石核が72点(94.7%)、磨製石斧、たたき石、石製品が5点(5.3%)で、いわゆる剥片石器の類が石核石器を大きくうまわっている。

▶出土状況

13個所の遺構から出土した。堅穴住居では2号、5号堅穴住居の2個所から、土壌では4号土壌内から出土、残りは炭化物マウンドをはじめとする炭化物、焼土遺構からである。遺構外では、2号堅穴住居や炭化物52などの周辺部に多い。

▶種類別の特徴

- ① 石錐：07-13〔11〕グリッドから出土。頁岩製である。1.9cm×1.4cm×0.5cm。
- ② スクレイパー：2号、5号堅穴住居、炭化物マウンド、炭化物16、焼土43からそれぞれ1点、炭化物52から5点出土、残りの7点は遺構外から出土した。すべて黒曜石製で、剥片のエッジに細かな二次加工を施している。

Tab. Ⅲ-7 石器、石製品種類別出土点数

出土地点	石錐	スクレイパー	ピエス・エスキーユ	剥片・破片	石核	磨製石斧	たたき石	石製品	合計
2号堅穴住居	--	1	--	2	1	--	--	--	4
5号堅穴住居	--	1	--	--	--	--	1	--	2
4号土壌	--	--	--	2	--	--	--	--	2
炭化物マウンド	--	1	--	2※	--	--	--	--	3
炭化物16	--	1	--	--	--	--	--	--	1
炭化物20	--	--	--	1	--	--	--	--	1
炭化物27	--	--	--	--	1	--	--	--	1
炭化物28	--	--	--	2	--	--	--	--	2
焼土43	--	1	--	3	--	--	--	--	4
炭化物52	--	5	--	10	--	--	--	1	16
焼土55	--	--	--	1	--	--	--	--	1
炭化物58	--	--	--	3	--	--	--	--	3
炭化物70	--	--	--	--	1	--	--	--	1
小計	--	10	--	26	3	--	1	1	41
遺構外部	1	7	2	22	0	2	0	1	35
合計	1	17	2	48	3	2	1	2	76

注※ フローテーションにより1個検出

- ③ ピエス・エスキーユ：2点出土しており、いずれも遺構外である。もっとも大きなもの（図示のもの）で2.9cm×1.9cm×1.1cmである。黒曜石製。
- ④ 剥片・破片：48点出土した。すべて黒曜石製である。剥片の大きさは最大で3cm前後、最小で2mm前後である。剥片の形状は縦長、幅広、梯形などいわゆる不定形のものである。また、剥片の約6割には使用による細かな刃こぼれがみられる。
- ⑤ 石核：2号堅穴住居、炭化物27（破損品が接合して1個体になる）、炭化物70から

それぞれ1点出土した。

石核の技術的な特徴のひとつに打面の転位がほとんど行なわれないことがあげられる。黒曜石製。

⑥ 磨製石斧：2点出土した。

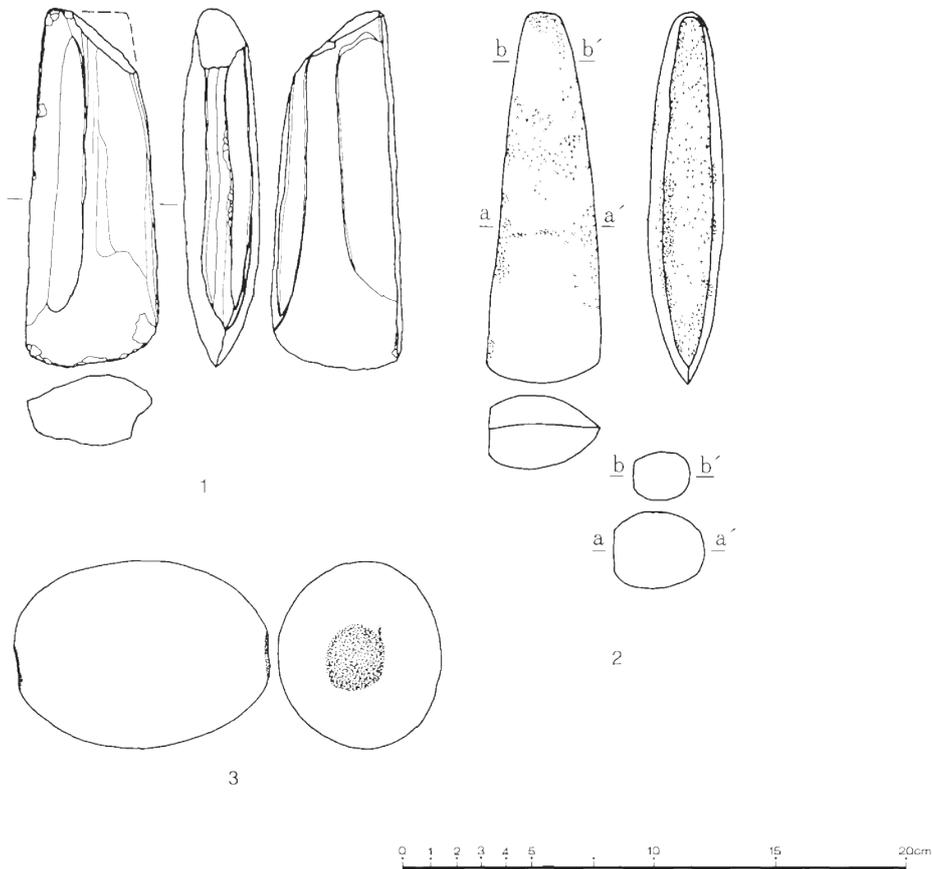
1：緑泥片岩製擦り切り磨製石斧。出土位置は16-17〔01〕グリッドで焼土43のスキに混じって出土，3号土壌にも近接している。基部の一部が破損している。両刃で，一方の刃部に使用による刃こぼれがみられる。14.3×5.3×3.0cm。

2：閃緑玢岩(?)。両面，両側を研磨している。部分的に敲打痕も残っている。出土位置は，19-18〔03〕グリッドで，2号竪穴住居の西壁に近接している。14.9×4.5×3.8cm。

⑦ たたき石

頁岩。卵形の自然礫の両側に敲打痕がみられる。出土位置は，5号竪穴住居跡内出土(10-05〔00〕グリッド)である。10cm×7.5cm。

PL. Ⅱ-20 磨製石斧(1,2)とたたき石(3)



⑧ 石製品：2点出土した。

1：安山岩製。14-18〔30〕グリッドから出土した。棒状礫の一端寄りに敲打痕が一周する。陽物様石製品。11.1cm×4.8cm。

2：頁岩製。炭化物52(19-15〔23〕グリッド)から出土した。小礫の短軸にそってえぐり込みがみられる。性格不明。5cm×2.7cm。

② 礫群

遺構内や遺構外から安山岩の礫がまとまって出土した。

① 遺構に伴う礫群

遺構に伴う礫群は2号竪穴住居と3号土壇から出土した。

① 2号竪穴住居の礫群

出土位置——床面で住居の北西壁寄りに10個の礫が集中して出土した。

状況——40cm～25cmの範囲内で、不規則にならんでいる。土製紡錘車（個体番号紡錘車3）を伴う。

重量——10個とも100g以上で、160g～180gのものが多い。

② 3号土壇④層の礫群

出土位置——土壇の中央部から西側へかけて33個の礫が集中して出土した。

状況——積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。土製紡錘車（個体番号2）を伴う。

重量——320gのものが1個みられるが、100g～200gにまとまり、その中でも140g～200gのものが多い。

② 遺構外の礫群

遺構外の遺物包含層で、礫群が5箇所から発見された。

① 13-10グリッドの礫群

出土状況——65cm×35cmの範囲内に39個の礫が集中して出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

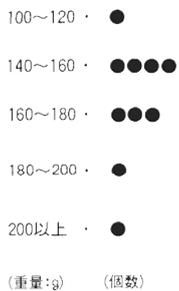
重量——80g～100gに5個、200g以上に3個みられるが、100g～200gにまとまり、その中でも100g～140gのものが多い。

② 20-08～21-08グリッドの礫群

出土状況——70cm×35cmの範囲内に45個の礫が集中して出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

重量——150g以下に集中し、その中でも50g～110gのものが多い。

PL. Ⅱ-21 礫石器の重量分布図



③ 20-15グリッドの礫群

出土状況——30cm×50cmの範囲内に64個の礫が集中して出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

重量——100g以上のものは2個で、それ以下にまとまりをみせる。その中でも20g～40gのものが多い。

④ 21-15グリッドの礫群

出土状況——2 m四方の範囲内に33個の礫が出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

重量——100 g以下に18個，140 g以上に4個で120 g以下のものが多い。

⑤ 31-16グリッドの礫群

出土状況——35cm×20cmの小範囲内に7個の礫が集中して出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

重量——120 g～180 gにまとまる。

小括

- a 礫群は遺構に伴うものが2個所と遺構外のもの5個所の合計7個所で出土した。遺構に伴うものは2号竪穴住居と3号土壇とである。
- b 礫群に伴う遺物は土製紡錘車であり、いずれも遺構に伴う礫群に関係する。
- c 礫群はもっとも少ない個数で7個(31-16グリッド)、もっとも多い個数で64個(20-15グリッド)である。それらは積み上げた様子はみられず、不規則に分布し出土した。
- d 礫個々の重量分布から礫群はおおよそつぎの3群にわけられる。
 - ① 80 g～200 g以内で、200 g以上のものがわずかに含まれる。特に、140 g～200 gのものが多い礫群(2号竪穴住居や3号土壇、31-16グリッド)と100 g～140 gのものが多い礫群(13-10グリッド)がみられる。
 - ② 100 g以下で20 g～60 gに集中する礫群(20-15, 21-15グリッド)
 - ③ 30 g～150 gで50 g～100 gに集中する礫群(20-08～21-08グリッド)

(横山英介)

VI-6 [金属器および鉄滓^{スラグ}]

① 金属器

▶種類と出土点数

金属器は3点出土した。環状金属器が2点と刀子(?)の破片が1点である。

▶種類別の特徴

- ① 環状鉄製品：長径4.8cm，短径4.2cmで，厚さ0.4cmである。炭化物マウンド(17・11 [13]グリッド)から出土した(个体番号金属器1)。
- ② 環状錫製品：長径3.4cm，短径3.3cmで，厚さ0.7cmである。5号竪穴住居の東側(11-04[20]グリッド)から出土した(个体番号金属器2)。
- ③ 刀子(?)：鉄製品。大部分が破損しているが，断面が三角形をなしており，刀子と思われる。遺構外(09-05[22]グリッド)から出土した(个体番号金属器3)。

② 鉄滓

鉄滓は，固形のもの[、]と粉末状のものが合計10点，遺構内外から出土した。

- ① 1号竪穴住居出土：固形の鉄滓1個(个体番号鉄滓4)。
- ② 4号土壌内出土：固形の鉄滓1個(个体番号鉄滓10)。
- ③ 6号土壌内出土：鱗片状の鉄片1個(个体番号鉄滓11)。
- ④ 炭化物マウンド出土：固形の鉄滓1個(个体番号鉄滓12)。
- ⑤ 焼土24出土：固形のもの^と鱗片状のものが採取された(个体番号鉄滓5，同6，同7，同8，同13)。
- ⑥ 10-08グリッド出土：固形の鉄滓1個(个体番号鉄滓9)。

(横山 英介)

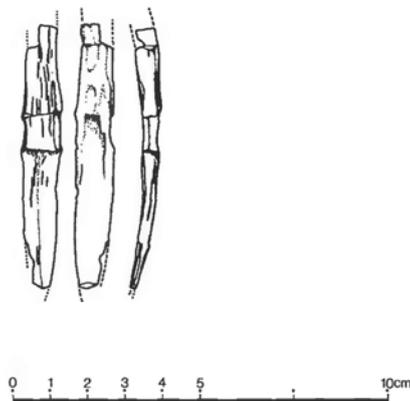
VI-7 [骨角器]

高橋 理*

2号竪穴住居の床面(18-18)より1点出土している。いわゆる抉入離頭銛(大塚 1966)であるが、先端部と尾部のそれぞれ1部が欠損している。現存最大長は69.2mm, 最大幅9.7mm, 最大厚5.4mmである。また茎槽部はやや不明瞭であるが幅4.5mm長さ15mmほどで、コ形に造り出されている。この離頭銛の先端部の表面(索溝のある面)および索溝から尾部へかけての一部に海綿状組織が残っていることから、索溝のある表面が素材としての骨角の内側となっていることがわかる。素材という点については確定的ではないが、先端部の裏面(茎槽のある面)に2~3の凹凸があることからシカの角を加工して作成されたと推定される。この離頭銛はPL.Ⅱ-22に示したように、裏面(茎槽のある面)の側に湾曲している。この形状は中柄に着装し、銛として機能させるには不都合であると推定されるが、全体が火を受けていることから、本来は直線のあるいは表面(茎槽のある面)の側に湾曲していたのが加熱によって変化したという可能性も考えられる。

擦文時代の遺跡における離頭銛の出土例は多くはなく、サクシュコトニ川遺跡の離頭銛に形態上類似する例としては、虻田郡豊浦町礼文華の小幌洞穴出土の離頭銛(北大解剖学教室調査団 1963)、岩内郡共和村発足の発足洞穴出土の離頭銛(竹田 1964)、古宇郡神恵内村観音洞穴(石川 1982, 石附 1983)出土の銛頭が挙げられるであろう。

PL. Ⅱ-22 2号竪穴住居跡出土の離頭銛



〈引用文献〉

- ▶北大解剖学教室調査団 1963 「小幌洞窟遺跡」『北方文化研究報告』第18輯 pp.179~287
- ▶竹田輝雄 1964 『発足岩陰遺跡』小樽博物館 pp.9~17, fig.6
- ▶大塚和義 1966 「抉入離頭銛」『物質文化7』 pp.33~46
- ▶石川直章 1982 「回転式銛先—キテの源流」『考古学と古代史』同志社大学考古学シリーズI pp.19~28
- ▶石附喜三男 1983 「〈エゾ地の鉄〉稲と鉄—さまざまな王権の基盤—」『日本民俗学大系3.』 pp.301~321

VI-8 [動物遺存体]

高橋 理

サクシュコトニ川遺跡においては、擦文時代の竪穴住居跡内部・土壇・周辺に分布する多量の焼土や炭化物及び炭化物マウンドの中にサケ科魚類を主体としたかなりの量の骨片が含まれていた。このことは、採取した土壌をフローテーションによって処理した後の残渣を双眼実体顕微鏡を用いて精査した結果判明した。これらの動物遺存体は、すべて熱をうけており白色化している。乾燥させた後、同定・測定・集計を行なった。

① 出土動物遺存体

同定された動物遺存体は以下である。

▶軟体動物門

腹足綱 Gastropoda
陸産貝類

▶脊椎動物門

硬骨魚綱 Osteichthes
サケ科 Salmonidae *gen. et sp. indet.*
イトウ *Hucho perryi.*
コイ科 Cyprinidae *gen. et sp. indet.*
ウグイ *Tribolodon hakonensis*
ニシン科 Clupeidae.
マイワシ *Clupea pallasii*
カサゴ科 Scorpaenidae *gen. et sp. indet.*
鳥綱 Aves
破片 1 点のみ
哺乳綱 Mammalia
ウサギ科 Leporidae *gen. et sp. indet.*
ネズミ科 Muridae *gen. et sp. indet.*

② 動物遺存体の遺構別・地点別出土数

出土した動物遺存体の遺構別・地点別出土数は次頁の表のとおりである。

③ 出土動物遺存体の分析

▶サケ科魚類を中心として

出土した動物遺存体の中で、量的に最も多いのはサケ科魚類である。サケ科魚類と同定できたのは遊離歯及びその破片・椎骨片で、その他顎骨と推定される骨片も出土しているが、部位が一定でなく、従って測定部分が決定できないことから今回は分析の対象から除

Tab. [I]-8 サケ科魚類椎骨片・遊離歯

遺構	椎骨片	遊離歯
焼土、炭化物集積	4	5
	14	70
	18	184
	19	31
	20	14
	21	6
	22	47
	27	587
	43	273
	50	1
	52	1,828
	54	20
	56	3
	57	96
	59	13
	64	0
	65	4
	68	1
	69	2
	70	16
	72	89
	75	263
計	3,553	2,072

遺構	椎骨片	遊離歯
2号竪穴住居	カマド	880
	カマドまわり	7
	煙道	3
	b ² (17-16)	2
	b ² (17-18)	113
	b ² (19-17)	494
	小計	(1,499)
3号竪穴住居		705
計		2,204

遺構	椎骨片	遊離歯
1号土壌	105	30
2号土壌	3	2
3号土壌	736	212
4号土壌	941	12
5号土壌	63	66
計	1,848	322

遺構	椎骨片	遊離歯
炭化物マウンド	17-09	0
	17-10	108
	17-11	488
	17-12	1,108
	18-10	68
	18-11	16
	展示用	1,207
計		2,995

Tab. [I]-9 出土動物遺存体

遺構	出土動物遺存体	個数
焼土・炭化物集積跡	19 ウサギ中節骨(基節骨?) (近位端)	2
	20 ウグイ咽頭骨	1
	コイ科魚類椎骨	3
	21 コイ科魚類椎骨	1
	鳥類尺骨(?)	1
	22 コイ科魚類椎骨	10
	ネズミ左上顎骨(基部)	1
	27 コイ科魚類椎骨	7
	43 コイ科魚類椎骨	1
	50 コイ科魚類椎骨	1
	52 コイ科魚類椎骨	5
	イトウ椎骨	1
	57 コイ科魚類椎骨	16
	ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	1
	70 コイ科魚類椎骨	1
	72 コイ科魚類椎骨	3

遺構	出土動物遺存体	個数
2号竪穴住居	カマド	陸産貝類(臍穴部)
		1
		コイ科魚類椎骨
		5
		ニシン科魚類(マイワシ)椎骨
		1
	19-17	コイ科魚類椎骨
		1
3号竪穴住居		コイ科魚類椎骨
		2
		陸産貝類(臍穴部)
		1

遺構	出土動物遺存体	個数
1号土壌	コイ科魚類椎骨	11
3号土壌	コイ科魚類椎骨	4
	ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	1
4号土壌	コイ科魚類椎骨	1
	ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	1
5号土壌	ウグイ椎骨	1
	ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	2

遺構	出土動物遺存体	個数
炭化物マウンド	17-10	コイ科魚類椎骨
		1
		ニシン科魚類(マイワシ)椎骨
		1
		カサゴ科魚類椎骨
		2
	17-11	コイ科魚類椎骨
		7
		カサゴ科魚類椎骨
		1
		カサゴ科魚類背鰭棘
		1
		イトウ椎骨
		1
		ニシン科魚類椎骨
		1
		ネズミ類尾椎
		3
		ネズミ類中節骨(基節骨?)
		1
		ネズミ類中手骨(中足骨)
		1
	17-12	コイ科魚類椎骨
		12
		ニシン科魚類(マイワシ)椎骨
		3
		イトウ椎骨
		1
		ネズミ類尾椎
		1
		ネズミ類基節骨
		1
		ネズミ類中節骨(基節骨?)
		1
	18-10	コイ科魚類椎骨
		4
展示用		ウグイ椎骨
		1
		コイ科魚類椎骨
		9
		ニシン科魚類(マイワシ)椎骨
		2

出土位置不明	シカ中節骨	1
	シカ末節骨	1

Tab. Ⅱ-10 遊離歯エナメル質高

遺構	遊離歯エナメル質																		(単位:mm)		
炭土・炭化物集積	14	4.4	5.0																		
	18①*	4.7	4.5	3.0	2.7	3.1	3.3	1.4													
	18②	6.6	5.2	3.7	6.2	3.1	3.0	2.0	4.3	5.0	3.0	4.0	6.4								
	19	5.0	2.5	3.2	3.7	5.0	3.4	3.7	4.6	6.1	3.7	3.0	4.0	4.4	3.0	4.1	2.6	2.6	4.2	2.8	
		1.9	4.2	2.7	3.1	3.4	1.1	2.7													
	21	2.1																			
	22②	1.7	2.4																		
	27①	1.8	1.8	2.4	1.8	1.5															
	27②	3.2	6.2	5.3	4.2	4.7	3.2														
	43②	4.2	3.2	5.6	4.2	4.8	4.2	3.4	2.7	3.3	2.8	2.8	3.0	3.6	2.0						
	52②	3.9	2.4	2.9	1.7	3.6	4.0	3.0	3.0	1.9	2.0	3.2	3.2	2.0	2.2	2.1	3.4	3.2	2.7	2.6	
		2.5	2.1	1.4	1.6	2.0	1.6	3.1	3.0	2.0											
	52③	4.0	4.9	3.9	4.4	4.5	3.2	3.9	3.8	1.8	2.1	2.2	2.1	1.4	1.1	2.5	3.3	1.6	2.3	1.6	
		2.6	2.5	2.8																	
	54①	1.9	1.9																		
	54②	5.9	5.0	5.4	5.2	4.3	3.2	1.6	4.4												
	56	2.3	1.4																		
	57①	3.0	2.7	2.5	2.8	1.8	2.5														
	69	2.1																			
	72	5.3	1.7																		
	75	5.3	4.7																		
	計	148個																			
2号竪穴住居	b ¹ 19 17	5.6	4.2	4.8	2.9	3.9	2.3	2.0	2.0	2.2											
	17 18	5.2	5.8	3.5	2.9	1.9															
	カマド	2.5	3.0	3.3	1.7																
	計	18個																			
3号竪穴住居	①	2.8	3.9	3.9	3.0	2.4	3.3	3.4	1.6	3.1	1.7	1.6	1.7	1.9							
	②	4.3	6.0	5.1	4.3	3.4	3.5	3.6	2.9	2.5	3.3	3.2	4.1	2.5	1.5	3.0	1.9	2.8	1.8	2.2	
	③	6.5	5.6	5.5	6.2	5.3	6.4	4.6	5.4	4.0	4.2	3.8	2.8	5.3	2.7	2.6	4.2	5.2	4.0	4.2	
		4.0	2.9	2.3	2.7	4.4	2.5	3.0	3.0	3.7	2.6	3.0	1.7	5.1	3.7	2.7	5.1	2.1	2.1	3.4	
		3.0	3.4	3.5	2.7	3.2	3.7	3.1	2.8	2.5	3.0	2.7	3.2	2.2	2.2	3.0	2.4	2.4	3.0	2.2	
		1.6	1.9	3.3	2.3	1.7	2.4	1.9	1.8	1.7	1.9	1.5	2.1	1.3							
	④	4.5	4.9	3.5	6.0	4.6	4.2	3.2	4.5	4.6	4.6	4.0	4.0	2.7	5.3	3.9	2.9	2.5	3.0	4.3	
		2.9	3.4	3.0	1.9	2.9	2.5	2.0	2.5	2.2	1.8	3.0	2.5	2.3	2.5	3.2	3.3	2.9	1.9	3.2	
		2.7	3.2	2.1	1.8	2.8	2.5	1.4	1.7	1.6	2.4	2.3	2.0	1.9	2.7	2.8	2.0	2.5	2.0	2.3	
		2.8	1.2	2.3																	
	計	162個																			
1号土壌		4.7	2.3																		
	計	2個																			
3号土壌	①	1.7	1.8	2.2	1.8	1.3	0.7														
	②	4.0	5.0	4.6	4.0	5.0	2.7	2.1	2.4	5.5	2.9	2.8	3.4	3.7	1.8	3.4	4.0	2.2	2.6	1.8	
		2.4	3.1	2.0	3.0	1.8	2.3	3.8	2.0	2.2	2.4	1.4	1.3	1.5	2.0	1.5	2.4	1.8	1.7		
	計	43個																			
4号土壌	③	3.5	2.5	2.6																	
	計	3個																			
5号土壌	①	3.0																			
	③	4.2	2.4	2.1	3.1	2.5	2.3	1.4	1.9												
	計	9個																			
炭化物マウンド	17-11②**	3.6	1.9																		
	17-11③	3.3																			
	17-11④	3.9	2.0																		
	17-11⑤	3.7	7.2	3.0	4.6	3.8	2.5	4.6	2.4	3.1	2.3										
	17-11⑥	2.3																			
	17-11⑦	4.5	6.1	4.3	3.6	5.3	3.9														
	17-11⑧	4.0	3.9	4.5																	
	17-11⑨	4.1	3.2																		
	17-11⑩	4.1	3.6	2.8	2.1																
	17-11⑪	2.2																			
	17-11⑬	4.4	5.3	1.8	2.4	2.4	1.2	1.6	2.0	1.4											
	17-12①	3.4	4.7	4.2	4.0	3.2	3.6	4.3	2.8	4.4	3.4	2.8	1.7	2.1	3.9	2.0					
	17-12②	4.2	3.2	2.4	2.8	1.5															
	17-12①	7.7	3.4	4.0	4.2	3.2	3.0	4.0	3.0	4.0	3.7	2.2	2.4	2.0	2.3						
	17-12⑧	3.7	2.4	2.0																	
	18-10①	4.4	4.9	4.0																	
	18-10②	3.7	2.4																		
	Na2621	2.1																			
	展示用	3.5	3.0	3.3	4.4	2.1	2.9	4.7	3.0	2.7	1.7	1.7	3.6	3.4	2.0	3.1	1.3	2.3	2.5	1.7	
		3.7	2.6	2.9	1.9																
	計	108個																			
総計		493個																			

*○囲みの数字はサンプル番号, **ーで接続する数字はグリッドを示す。

Tab. Ⅰ-11 標本サケエナメル質高測定値

S L .630mm (単位:mm)					
歯骨		主上顎骨		前上顎骨	
ℓ	r	ℓ	r	ℓ	r
8.0	8.0	4.1	2.2	3.9	2.8
4.8	4.5	3.4	2.9	6.0	5.9
6.8	6.4	3.2	3.2	4.6	4.7
4.5	4.0	2.8	2.7	4.5	5.0
4.3	3.2	3.2	3.2	3.3	4.7
4.0	3.1	2.0	1.6	4.1	3.0
4.0	1.7	2.1	3.0	4.3	4.3
3.6	3.0	2.6	3.2		3.9
3.2	3.0	2.0	2.4		
3.4	2.7	1.2	2.4		
3.3	2.7	2.1	1.4		
2.4	2.5	1.9	2.0		
2.8	2.6	1.4	2.6		
2.8	2.1	1.8	2.2		
2.6	2.7	1.8	1.2		
2.9	2.9	2.0	1.3		
2.7	1.8	2.0	1.6		
2.3	3.0	1.9	1.9		
1.7	1.0	1.5	1.2		
3.0	2.6	1.5	1.3		
2.5	1.5	1.7	1.2		
2.8	1.7	0.8	1.4		
3.0	2.5	1.4	0.9		
1.2	2.2	1.7	1.1		
2.0	2.2	1.7	0.6		
2.3	1.6	1.2	1.0		
1.0	1.5	1.2	0.8		
	1.9	1.5	0.6		
	1.2	1.5			
	1.3	0.7			
	0.9	0.8			
	4.0	0.9			
		1.4			
測定部数					135

S L .960mm (単位:mm)					
歯骨		主上顎骨		前上顎骨	
ℓ	r	ℓ	r	ℓ	r
5.7	9.3	3.8	2.3	7.9	6.7
8.6	9.4	5.2	3.9	6.7	6.0
6.1	6.3	3.6	4.8	6.0	6.7
5.4	5.2	3.8	4.1	5.9	7.9
4.2	3.8	3.6	5.0	6.7	5.9
3.1	2.7	4.8	4.1		
1.9	4.2	4.2	4.3		
3.3	3.0	3.8	3.1		
3.3	2.7	3.2	4.2		
3.4	3.3	3.3	4.0		
3.3	3.5	1.5	2.7		
2.4	2.7	2.5	2.6		
3.6	3.0	2.5	2.4		
3.1	1.8	3.0	2.0		
1.9	3.5	1.9	2.0		
2.7	3.6	2.0	1.5		
2.7	2.9	2.7	2.0		
3.1		2.5	1.2		
2.9		2.0	2.0		
2.4		2.5	2.4		
3.3		2.0	1.6		
1.5		2.0	1.5		
3.0		2.0	1.6		
4.0		1.4	1.2		
測定部数					99

Tab. Ⅰ-12 椎骨前位・後位端の横径測定値

S L .630mm		S L .960mm	
前位	後位	前位	後位
—	8.7	—	9.9
8.2	8.2	10.7	10.4
8.0	8.2	10.5	10.2
7.9	8.1	9.5	9.5
7.3	7.3	10.9	10.7
7.7	7.8	9.9	10.5
7.6	7.7	9.8	9.8
7.9	8.1	9.5	9.6
8.1	8.2	10.0	9.1
8.0	8.3	9.6	10.0
8.2	8.1	10.3	9.7
8.2	8.1	9.8	10.2
7.8	7.9	9.6	9.8
8.1	8.6	10.9	9.6
8.4	8.7	9.2	11.0
8.2	8.4	10.8	9.6
8.1	8.1	9.7	10.7
8.2	8.5	10.1	9.9
8.5	8.8	9.5	10.2
8.8	—	11.0	9.6
8.6	8.7	9.4	11.0
8.8	8.6	10.1	9.2
8.8	9.0	10.0	9.9
9.0	9.0	10.0	9.7
9.2	9.4	9.3	9.6
9.2	9.3	10.9	9.6
9.2	9.4	10.7	11.0
9.3	9.3	10.8	10.4
9.2	9.3	11.2	10.6
9.3	9.4	11.1	11.1
9.2	9.3	10.7	11.1
9.5	9.3	10.9	11.0
9.4	9.3	9.8	10.9
9.2	9.3	10.6	9.8
9.3	9.1	11.1	10.2
9.1	9.3	11.2	11.1
9.2	9.2	10.8	10.9
9.2	9.2	10.5	10.9
9.5	9.4	10.8	10.6
9.1	9.3	10.5	10.6
9.2	9.1	9.6	10.5
9.1	9.1	10.9	10.0
9.1	9.1	10.9	10.8
9.1	9.1	11.4	10.6
9.2	9.0	11.3	11.4
9.0	9.0	10.9	11.3
9.0	9.3	11.2	10.5
9.1	9.0	10.8	10.8
9.0	9.0	11.0	10.8
8.7	9.0	10.8	10.6
9.2	9.1	11.4	11.0
9.1	8.9	9.7	11.4
9.1	9.2	10.6	10.0
9.0	9.1	11.0	11.1
9.1	8.7	11.6	10.4
9.2	9.0	10.2	11.1
8.9	8.6	10.0	9.9
8.7	—	10.3	9.7
9.0	8.5	10.2	10.2
8.8	8.3	10.0	10.3
8.6	8.3	9.8	10.1
8.6	8.5	8.2	9.9
8.2	8.0	9.7	7.0
8.0	7.8	9.6	8.2
8.0	8.0		9.5
7.0	7.0	測定部数 129	
5.9	5.3		
測定部数		131	

Tab. Ⅱ-13 推定椎骨横径

遺構	推定椎骨横径					(単位:mm)
	27①	11.0~11.5				
	27②	11.0~11.5	10.5~11.0	8.0~8.5		
	43②	7.0~7.5	7.5~8.0			
	52②	9.5~10.0	9.0~9.5	7.0~7.5	7.5	9.0~9.5 8.0~8.5
	52③	2.7(イトウ)	11.0~11.5	10.0~10.5		
	57②	10.0~10.5	10.5~11.0	9.0~9.5		
	72	10.0~10.5	7.0~7.5	7.5~8.0	7.0~7.5	
	75	10.5~11.0				
2号竪穴住居	b ² 19-17	9.0~9.5	9.0~9.5	10.0~10.5	7.0~7.5	
	b ² 17-18	10.5~11.0	7.0~7.5			
	かまど	8.5~9.0	11.0~11.5	7.0~7.5	8.5~9.0	
3号竪穴住居	②	8.5~9.0				
3号土壌	②	11.0~11.5	8.0~8.5	8.0~8.5	9.0~9.5	
炭化物マウンド	17-11⑤	11.0~11.5	3.9(イトウ)	5.0~5.5		
	17-11⑩	11.0~11.5				
	17-12①	3.5				
	17-12④	5.5(イトウ)				
	17-12⑥	10.0~10.5	10.0~10.5	10.5~11.0		
	17-12⑧	11.0~11.5	9.0~9.5	9.0~9.5		
	18-10①	6.5~7.0				
	展示用	10.5~11.0	8.5~9.0	10.0~10.5		
総計		54				

外した。検出した遊離歯の総数は6,036点、椎骨片10,092点である。椎骨は完形は皆無ですべて 1/2以下の大きさに割れていた。(上記の数値は残存の程度、大きさに関わりない破片数である。)各地点ごとの出土数はTab.Ⅱ-8に示してある。

① 出土したサケ科魚類の体長推定

遊離歯・椎骨片から標準体長(吻端より終尾椎までの長さ、以下SLとする。)の推定を試みた。まず遊離歯の中でエナメル質の部分が完全に保存されているものを選別し、高さを測定した(Tab.Ⅱ-10)。

次に、現在手許にある2体のシロザケの現生標本について左右歯骨・前上顎骨・主上顎骨の骨のエナメル質高を推定した。2体のシロザケはいずれもオスで、11~12月に宮城県沿岸の定置網で捕獲されたものである。SLはそれぞれ630mm・960mmで、産卵期にあたり、吻端・歯が著しく内湾している。それぞれの推定値はTab.Ⅱ-11に示した。

サケ科魚類は硬骨魚綱に属するが、真骨魚類の中でも原始的な部類で化骨の程度は低い。このことは脆い頭骨や網目状の椎骨などからもわかる。また歯数も固体によってばらつきがあり、しかも左右同数ではない。SL630mmは135本、SL960mmは99本である。測定の結果、630mmでは平均2.6mm、SL960mmでは平均3.62mmとなり両者を合せると測定数234、平均3.03mmで1.0~3.0mmに最も多い。

一方、遺存体の測定結果についてみると、3号竪穴住居跡出土の資料は測定数162で、平均3.08mm、1.5~3.0mmに最も集中する。2号竪穴住居跡・3号竪穴住居跡の資料合計については、測定数180、平均約3.10mmで、やはり1.5~3.0mmに最も集中する。

さらに、他の土壌出土の遊離歯を加えると測定数237、平均2.99mmとなり1.5~3.0mmに集中する。

また、焼土・炭化物分布域全体では測定数148、平均3.24mmで、1.5~3.0mmと4.0mmに多い。

また、1号住居跡の東側にある炭化物マウンドでは、測定数108、平均3.25mmであり、2.0mmに最も集中し、3.0~4.0mmがそれに次ぐようである。焼土・炭化物分布域と炭化物マウンドの合計では測定数256、平均3.24mmとなり1.5~4.0mmに多い。

最後に、遺跡出土の遊離歯総計についてみると、測定数493、平均3.12mmとなり、1.5~3.2mmによく集中し、4.0mmがそれに次ぐ。

以上、標本と遺存体のエナメル質高分布を調べてきたが、これから次のことが言えるだろう。

各遺構ごとの出土した遊離歯のエナメル質高分布は互によく似ている。平均3.0~3.3mmであり、共通して1.5~3.0mmに多く集中する。また、これら遺構出土の遊離歯のエナメル質高分布と2標本のエナメル質高分布もまた非常に似たものになっている。このことは特に2標本を合計した場合において一層明確といえるだろう。最小値についても、ともに0.5~1.0mm（未満）におさまる（S L 630mmの0.6mm、3号土壌出土の0.7mm）。最大値の場合、S L 960mmの個体には、8.5~9.5mmに及ぶ歯があるが、遺存体の遊離歯では、7.5mm台の1点（炭化物マウンド出土の7.7mm）が最大で、7.0mm台にも一点あるにすぎない。今回は、エナメル質が完全に残されているものについて測定しているもので、その対象外となった破損した遊離歯の中に、本来はより大型のものが含まれていた可能性があるが、筆者の実見した限りでは、8.5mm以上に及んだと考えられる遊離歯の破片はないようである。これにより、S L 960mmを大きく越える個体は遺存体の中には含まれていないと推定される。

以上より、サクシュコトニ川遺跡より出土したサケ科魚類の標準体長は、エナメル質高の分布から60~95cm程と推定される。

同様に、出土した椎骨片と、S L 630mm・S L 960mmの2標本の椎骨との比較によって、標本体長の推定を試みた。前述したように、サケ科魚類の椎骨は、完全な形を留めているものはほとんどなく、1/4以下に割れており、しかも加熱、土圧の影響もあり変形している例が多い。従ってある程度の大きさを保ち、かつ変形のない（あるいは小さい）椎骨片は非常に少なく、全部で54点にすぎない。サケ科魚類の椎骨は、前・後位端面の形状は円ではなく、左右方向（横方向）に大きな楕円であり、また一つの椎骨でも、前位端面と後位端面の大きさが異なる。そこで、2つの標本の椎骨の大きさを左右の長さ、即ち横径で代表させることとし、前位端と後位端について測定した。標準体長の違いは椎骨の横径によく反映され、S L 630mmとS L 960mmの分布はほとんど重複はないようである。次にこれらの標本の椎骨から0.5mmごとの大きさのものを選びだし、前位端と後位端のトレースによって輪郭線を作り、さらにそれを用いて型紙を作成した。54点の出土椎骨片を1点ずつ輪郭線と型紙にあてて横径の分布を推定した結果がTab.[I]-13である。数が少なく、また測定の精度にも多少の問題があるので、細かい部分までは言及できないが、横径が7.0~11.5mmに多いことは明らかである。また、横径2.5・3.5・5.0・5.5mmの各1点ずつはサケ科の中のイトウの椎骨と同定されたので、これらを除けば椎骨の大きさの推定値からも、標準体長60~95cm程の個体が出土していることが裏付けられたと言えるだろう。

② 他の動物遺存体について

Tab.[I]-9に示したように、サケ科魚類以外の動物遺存体の出土数は、同定困難で不明とした例を加えても非常に少ない。

貝類が2点出土しているが、いずれも陸産貝類であり、しかもマイマイのような大型の陸産貝類ではなく、ヒラマキガイ科の貝類のような直径10mmにも満たない微細な個体である。これらの微細な貝類が捕獲の対象となったものではないことは言うまでもなく、この遺存体に限って熱を受けていないことをみても、廃棄物の中に後から混入したものであろう。

魚類では、コイ科魚類とニシン科魚類が多い。コイ科魚類は椎骨が多いが、種の判定は困難である。ただし大きさを考慮するとウグイ・フナ・コイなどが考えられる。また明らかにウグイと同定される咽頭骨・椎骨が出土していることから、ウグイの占める割合がかなり高いことも想定される。ニシン科魚類は椎骨のみ出土しているが、マイワシと同定される。非常に小型でかつ大きさが揃っており、体長10cm以下の個体である。

鳥類は第21地点(08-10グリット)より骨片が1点出土している。小破片であり、稜線の形状は尺骨に類似するが断定はできない。

哺乳類については、中～大型の哺乳類の遺存体は、ほとんど検出されなかった。ウサギ類は第19地点(07-08)から出土しているだけであるが、ネズミ類は顎骨・中節骨・基節骨・尾椎など比較的多い。大きさはイエネズミほどである。

④ 小括

以上、動物遺存体の分析を行ってきたが、出土数は圧倒的に魚類が多い。特にサケ科魚類が主体を占めており、サクシュコトニ川遺跡を残した擦文時代の人々の漁撈活動は、サケ科魚類を中心としたものであったことが判明した。またサケ科魚類は、その遊離歯がほとんど屈曲しており、標準体長は60～95cmと推定される個体に集中されることから、イトウ・カワマスなどの陸封魚ではなく、降海して海で成熟し、産卵のため遡河したサケ科魚類であろう。日本に生息するサケ科魚類の中で体長が60～96cmに達する降海型の種類は以下のサケ属に限られる。

- サケ属 Genus *Oncorhynchus*
- ペニマス *Oncorhynchus nerka*
- サケ(シロザケ) *Oncorhynchus keta*
- ギンマス *Oncorhynchus kisutch*
- マスノスケ *Oncorhynchus tshawytscha*
- サクラマス *Oncorhynchus masou*

この中で、日本、特に北海道西部地域において、一定量の捕獲が可能なサケ属はシロザケが圧倒的に多い。シロザケは、その捕獲される時期、場所によってトキシラズ・アキアジと呼ばれているが、産卵のために沿岸に来遊し、9～12月に河川を溯るのはアキアジである。サクラマスは、日本において主として捕獲される。日本海を中心に分布し、サケ科の中では最も温暖性である。幼魚はヤマメと呼ばれ、ふ化一年程後の春にギンケヤマメとして降海する。その年の冬、沿岸もどり、急速に成長し、北海道では5月下旬～6月下旬に産卵のため溯河する。豊平川の本流である石狩川に溯河するサケ科魚類は、やはりシロザケが主であり、明治元年から16年までの間の8年間は、年百万尾以上の水揚げが記録され、9月下旬の漁期には、川口の石狩町は非常にぎわいをみせたという(市川1977)。

シロザケとサクラマスを骨の形態から判別することは困難であるが、石狩川及びその支流において捕獲されるサケ科魚類のうち大型のものはシロザケが主体である。したがってサクシュコトニ川遺跡の臨むサクシュコトニ・セロンベツ両川で捕獲されたサケ科魚類は、かなり高い確率でシロザケと限定できるのではないだろうか。

捕獲の方法としては、セロンベツ川より出土した堰状遺構(テシ・柵状遺構)、及びその中から出土したヤス、マレックなどが大きく関わってくるだろう。

以上のサクシュコトニ川遺跡出土の動物遺存体の分析の結果をまとめると次のようになる。

- a 竪穴住居跡・土壌・周辺の焼土、炭化物中に多量の動物遺存体がふくまれていた。
- b 動物遺存体の主体はサケ科魚類であり、他にコイ科・ニシン科・カサゴ科魚類が少量出土した。
- c 魚類以外では、陸産貝類・鳥類・小型哺乳類がごく少数出土した。
- d サケ科魚類の遊離歯・椎骨片の大きさより、遺構・地点の別に関わりなく標準体長60～95cm程の個体が大部分であった。
- e これらのサケ科魚類は9～12月に産卵のために石狩川を溯河したシロザケを捕獲したものと推定される。

《参考文献》

- ▶東 正雄 『原色日本陸産貝類図鑑』 保育社1982
- ▶中村守純 『原色淡水魚検索図鑑』 古隆館1982
- ▶阿部宗明 『原色魚類検索図鑑』 北隆館1980
- ▶市川健夫 『日本のサケ―その文化誌と漁―』 日本放送出版協会 1977

VI-9

〔植物種子遺存体〕

Gary W. Crawford

サクシュコトニ川遺跡出土の植物遺存体

はじめに

本論は、サクシュコトニ川遺跡出土の植物遺存体のうち、主にフローテーション・サンプルの分析と若干の考察からなっている。分析研究は現在も続行中であり、本論は最終報告ではない。この遺跡でフローテーション法を採用した目的は、a) 擦文期における植物利用のパターンを復元すること、b) 同期における農耕の存在を検証すること、の2点である。ことに農耕の存在については、おおよそ同時期と考えられる道内の3遺跡から炭化栽培植物が検出されていること、また農耕具も他の遺跡から検出されたことなどを考えあわせると非常に重要な問題であるといえよう(石附 1975; 岡田・山田 1982)。今回の調査で得られたフローテーション・サンプルの分析により、農耕の存在は確証を得たといえよう。

サンプル

本論では種子と果実についてのみ触れる。同定できた種とその量はTab.Ⅱ-15にまとめられている。炭化物のうち調査済みのものは約197g、未調査のものは約200~210gである。調査済みの遺物の中には116,422個の種子が含まれていた。これより推察すると、この遺跡よりえられたすべてのサンプル中には約234,000個の種子が含まれ、そのほとんどが栽培植物のものであろう。なおこれらのサンプルは2号、3号住居の焼土、および住居外の「炭化物マウンド」から得られた。

同定

ここで報告する32種類の植物のうち10種類は栽培植物である。それに加え、同定はできなかったが、分類しえなかったもの、同定もできなかったものなどがいくつかある。

非栽培植物は、1年生の雑草(非栽培植物のうち46%)、多肉果実(47%)、他に4種類の植物群からなる、タデ属(*Polygonum*)の中ではレンズ状の種子をもつ *P. densiflorum* が最も優勢である。オオイタドリ(*P. sachalinense*)に類似したものもみられた。イネ科雑草のうち穀果のものは、ヒエ属(*Echinochloa*)を除き、「未同定」の数の中に含まれている。「未同定」のイネ科雑草は、キビ属に含まれるものと、Crawford(1983:37)であげた「Type 2」のイネ科雑草の2つに大きく分けられる。ヒエ属の種子は平均1.5mm×1.1mmであるが、縄文前期末から中期末にかけて種子の大きさが15%増大することが、亀田半島の遺跡で確認されている。イネ科植物の表現型が多様であることはよく知られており、例えばタイヌビエ(*E. crusgalli* Beauv. var. *olyzicola*)は水田雑草としてよくみられるものである(Barret 1983)。しかし、サクシュコトニ川遺跡でイネが検出されたとはいえ、ここでみられるヒエ属が水田雑草であることや、イネが栽培されていたという明確な証拠はない。この他にギンギン属(*Rumex*, 種はスイバ<*R. acetosa*>, ギンギン<*R. japonicus*>, もしくはエゾノギンギン<*R. obtusifolius*>)とアカザ属(*Chenopodium*, おそらくシロザ<*C. album*> もしくは、コアカザ<*C. ficifolium*>と思われる)が検出された(Craw-

ford1983 : discussion参照).これらの植物は主に種子と葉を食用としていたと考えられる.

非栽培植物の中で多肉果実の占める割合が47%であることはすでに述べた.しかし,多肉果実は一般に種子まで食され炭化種子となる蓋然性は低く,これらは数字以上に重要な食糧資源であったと考えられる.

現在までに道内の遺跡から5種類の多肉果実が検出されている.そのうち,イヌホオズキ(*Solanum nigrum*),ホオズキ属(*Physalis*),ガンコウラン属(*Empetrum*)の3種類は,今回の検出例が最初である.これらはいずれも食用となる(Heiser1969; Ohwi1965 : 788).また,最初の2種は荒地や農耕で攪乱された土地でよくみかけるものである.

多肉果実の遺存体については,すでに Crawford(1983)の中で触れているが,この種類の植物は食用以外にも利用されていて,この遺跡においても「テシ」の多くがエワトコ(*Sambucus*)の木で作られている.また,ミズキ属(*Cornus*),ブドウ属(*Vitis*)も食用の他,イノウなど宗教的器具の材料となる.

「その他」の中には4種類のもが含まれている.そのうちネギ属(*Allium*)は,住居外の「炭化物マウンド」からかなり多量の検出があった.ただし炭化種子ではなく,炭化した球芽としてである.この種のうちノビル(*Allium grayi*)は,低地の草原でみられるものである(Ohwi1965).付表にあがっていない他の3種類はキハダ(*Phelodendron*)?,オニグルミ(*Juglans ailanthifolia*)そしてエンドウマメ様のマメ科植物である.最後のものはレンリソウ属(*Lathyrus* sp.)として道内4個所の遺跡からの出土が知られている.

数字の上では,キビ(*Panicum miliaceum*)アワ(*Setaria italica*)は優勢な栽培植物である.この他にキビもしくはアワである可能性を持つグループがあるが,これは「未同定」としている.これらの中にヒエが含まれている可能性があるが,ヒエとキビとの区別は微妙なものであるため確定はできない.道内の先史遺跡からのヒエの出土例は報告されていないが,西南日本の歴史時代の遺跡からは3例が知られている.

PL.Ⅱ-23, 24にキビとアワの種子の大きさの変異を示しておいた.2つの測定値ともヨーロッパ種(Van Zeist 1968)として報告されたものの値の範囲におさまる.

この遺跡において,数の上では,最も優勢な栽培植物であった穀物はオオムギである.これは六条オオムギ(*hexastichous*)である. PL.Ⅱ-25に示した測定値は,北部ヨーロッパ種(Van Zeist 1968)の範囲におさまる.国内の他の先史遺跡出土のオオムギは比較的小型で,九州上ノ原の例(3.8×2.0mm,小谷 1972)を除くと,サクシュコトニ遺跡出土例のもつ変異の範囲におさまる.

この遺跡出土のコムギはあまり例のないもので,その測定値はコンパクトコムギ(*Triticum aestivum* ssp. *compactum*)の変異の範囲の外側に位置する.この種は,小型種のインディアンワーフコムギ(*T.aestivum* ssp. *sphaerococcum*)となんらかの関係があることも考えられる.測定値は小型種のコムギとパンコムギの値の間に位置している(PL.Ⅱ-26参照 - Janushevich 1984 : 275, 276; Van Zeist 1968 : 126, 128).またこれらはエンマコムギ(*T.dicoccum*)ともいくつかの類似点がみられる.

イネは6個体検出され,いずれも短粒型の *japonicum* である.測定可能であった1個体の値は4.1×2.6mm(L/W=1.6)であった.なお佐藤(1971)では,100以上の弥生遺跡出土のイネを分析し, L/W=1.3~2.0,短粒型であるとしている.

マメ科植物ではアズキ(*Vigna angularis* var. *angularis*),ケツルアズキ(*V.radiatus* var. *radiatus*)を検出した.

ウリ(*Cucumis melo*)は破損したもの1個体を検出した.藤下(1984 : 64)に日本各地出土の5,076個体のウリが集成されているが,本例に適合するものは含まれていない.この他にシソ(*Perilla frutescens* var. *crispa*),アサ(*Cannabis sativum*)を検出した.ともに食用の他に油採集などに利用されたであろう.

考察

まだ分析していない試料の中に、かなりの量のムギの小穂の柄の一部が含まれている。このことは農耕の存在と矛盾しない。さらに、筆者はこれら栽培植物が食生活の中で重要な位置を占めていたと考えている。

これら栽培植物の多くは日本列島の先史遺跡からの出土としては最北の例である。また、アワ、イネ、ウリ、コムギは道内最初の例である。イネ、ウリはごく少量のため、ここで栽培されたものである確証はない。しかし、筆者は、小規模であるが、ここでの栽培を想定している。

最後にサクシュコトニ川遺跡の植物遺存体の構成は、カナダ・オンタリオの Woodland(Iroquoian)における構成に類似している点を指摘しておきたい。両者とも、各々の地域で最北の食糧生産地帯であること、狩猟採集を主な生業としていること、同様の技術体系をもっていることなど共通点を多くもっている。その中で植物の構成が類似していること(Crawford 1985, Monckton 1985)を考察することは、エゾ社会における初期農耕をめぐる議論の一助となる。

SAKUSHU-KOTONI-GAWA PLANT REMAINS

Gary W. Crawford *

Introduction

This report details the analysis and initial interpretations of the flotation samples from Sakushu-Kotoni-Gawa. The data reported herein were identified and quantified in December of 1984 with some analysis continuing until the time of this writing. The purposes for collecting the plant remains were a) to describe plant use patterns in the Ezo-Haji phase (Yoshizaki & Okada 1984) and b) to test for the existence of plant husbandry. The latter test was important because of previous discoveries of a few carbonized cultigen remains from three sites on Hokkaido dating to roughly the same time period as Sakushu-Kotoni, as well as agricultural tools from several other sites (Ishizuki 1975; Okada and Yamada 1982). In this first analysis of flotation samples from the ninth century in Hokkaido, the plant husbandry hypothesis has been confirmed. The quantities, taxonomy, and metric data regarding the cultigens, along with a discussion of wild and weedy taxa and their implications to understanding Ezo-Haji subsistence are outlined.

The Samples

Some 150 soil samples were floated by the excavation staff utilizing a form of the bucket method outlined in Crawford (1983). The light fractions were decanted into fine gauze rather than geological sieves. The gauze succeeded in collecting a large quantity of millet ranging from about 0.8 mm in minimum width, as well as smaller weed seeds. The carbonized seeds* were separated from their light fraction matrix over a two year period. This analysis pertains to the resulting seed and fruit portion only. Contents of small samples were examined in their entirety. Larger samples were not because of extreme time constraints; 30–50% of these samples were carefully examined and the contents of the remaining portion estimated on the basis of the examined components. Identifications and quantifications are summarized in (Tab. [1]-15)

Nearly 197g. of carbonized material have been analyzed to date. Approximately 200 to 210g. of sorted remains have not yet been examined. The unexamined samples number 65, averaging 3.0 to 3.2g. per sample. In the material examined so far are 116,422 seeds. Assuming that the unexamined light fractions have a similar composition, the total sample from Sakushu-Kotoni is expected to contain approximately 234,000 items, mostly cultigen seeds. The samples are from Houses 2 and 3, external house pits, areas of burned soil (e.g. unit 22-16) and refuse dumps outside houses (e.g. units 17-10 through 18-10).

Identifications

Thirty-two plant taxa comprise the collection reported here. Ten of these are cultigens. An additional 16 taxa are identifiable (64 seeds) but not yet classified (unknown). Some unidentifiable specimens are present. Tab. [1]-14 summarizes the taxa that occur in the samples. Items are listed in the same order that they appear in Tab. [1]-15.

The non-cultigens (1679 items) consist of weedy annuals (46% of non-cultigens), fleshy fruits (47%), and four other taxa (7%) (Plate 1). Several species of *Polygonum* (11) are present, but the lenticular *P. densiflorum* is the most common. Nineteen achenes are likely *P. sachalinense* while eight specimens are unidentified, trigonous achenes. Caryopses of wild grasses in the sample belong

* Department of Anthropology, Erindale Campus, University of Toronto, Ontario, Canada

to a number of yet unidentified taxa except for the 109 specimens of *Echinochloa* (12). The unidentified grass seeds are mainly two types. One appears to be in the Paniceae tribe, with flat, rugulate caryopses measuring 1.2 by 0.9 mm. The second type is similar to the Type 2 grass illustrated in Crawford (1983:37). The *Echinochloa* seeds measure, on average, 1.5 by 1.1 mm. *Echinochloa* has been identified in Jomon samples from the Kameda Peninsula where the seeds increase in size by about 15% over a period spanning the end of the Early Jomon to the end of the Middle Jomon (1000 to 1500 year span) (Crawford 1983). The grass is genetically flexible and phenotypically variable. For example, *E. crus-galli* var. *oryzicola* Ohwi is a rice mimic in paddy fields. It is a large seeded form (Barrett 1983). Although rice is present at Sakushu-Kotoni, there is no evidence that the *Echinochloa* here is a large seeded rice mimic, nor does it appear to be a cultigen.

Two other herbaceous weeds, *Rumex* (14) and *Chenopodium* (15) are present. Both are present in archaeological collections from the Kameda Peninsula (Crawford 1983). The latter taxa cannot be identified to species at the moment, but the first is likely either *R. acetosa*, *R. japonicus* or *R. obtusifolius* and the latter is probably *C. album* or *C. ficifolium*. The possible identifications are based on the size range of the specimens (see Crawford 1983 for discussion). Plants in this herbaceous weedy annual group can be used for their seeds and greens except for the grasses which could be used as a grain source.

Fleshy fruit seeds are an important component of the Sakushu-Kotoni assemblage. Although they represent 47% of the non-cultigen seeds, their importance here is probably underestimated by the percentage figure. The weedy annuals are prolific seed producers in comparison with fleshy fruit producing plants. Fleshy fruits are usually ingested seeds and all, so again, the probability of fleshy fruit seeds being carbonized is lowered. The weedy annuals probably represent fortuitous weed seed inclusions in the cultigen harvest and to some extent represent a source of leafy vegetable food. The fleshy fruit group is more likely a food source.

Five of the fleshy fruit taxa have been previously reported from archaeological sites in Hokkaido. Three, *Solanum nigrum* (16), *Physalis* (17), and *Empetrum* (18), are reported here for the first time from archaeological contexts in Hokkaido. The first two are herbaceous weeds, common in waste ground and areas disturbed by cultivation. *Solanum nigrum* berries (16) are toxic when green, but present no problem once ripe. The young leaves of this plant are edible as well (Heiser 1969). *Physalis alkekengi* (17) is a weedy, perennial herb producing an edible berry within a bladdery calyx (Ohwi 1965:788). This is the only Asian species in northern Japan today. It is also found throughout Korea and northeastern China (ibid). It is often cultivated today, and it is a possible cultigen at Sakushu-Kotoni. *Empetrum nigrum* is an evergreen shrub that is common in Hokkaido and grows in dense mats (Ohwi 1965). It grows along the Japan sea coast today, and not in the immediate Sapporo area. Whether or not its distribution was different in the ninth century is unknown.

The remaining fleshy fruit taxa are all discussed in Crawford (1983). Of all the taxa in this group, *Sambucus* is the most common in the site vicinity today. As reported by Hirakawa elsewhere in this volume, much of the fish wier was constructed of elderberry wood. *Cornus* and *Vitis*, besides providing edible berries, are reportedly important sources of raw materials for making items such as *inau* and other sacred symbols (Sarashina and Sarashina 1976).

Within the "Other" category are four taxa, one of which, *Allium* (17), is in significant abundance in five samples from the large midden east of House 2. The remains of *Allium* are not seeds; they are carbonized sessile bulbils which form in place of flowers on some members of this genus. Ohwi (1965) lists only one species, *Allium grayi* (nobiru), in Japan with this charac-

Tab. Ⅱ-14 Plant Taxa Identified in the Sakushu-Kotoni-Gawa Flotation Samples

Cultigens

1. <i>Hordeum vulgare</i>	barley	<i>o-mugi</i>
2. <i>Triticum</i> c.f. <i>T. aestivum</i>	wheat	<i>ko-mugi</i>
3. <i>Panicum miliaceum</i>	proso or broomcorn millet	<i>kibi, inakibi</i>
4. <i>Setaria italica</i>	foxtail millet	<i>awa</i>
5. <i>Oryza sativa</i> var <i>japonicum</i>	rice	<i>kome</i>
6. <i>Vigna angularis</i> var <i>angularis</i>	adzuki	<i>azuki</i>
7. <i>V. radiatus</i> var <i>radiatus</i>	mung bean	<i>ketsuru-azuki</i>
8. <i>Cucumis melo</i>	melon	<i>uri, makuwa-uri</i>
9. <i>Perilla frutescens</i> var <i>crispa</i>	beefsteak plant	<i>shiso</i>
10. <i>Cannabis sativum</i>	hemp	<i>asa</i>

Weedy Grains/Greens

11. <i>Polygonum</i> sp.	knotweed	<i>tade zoku</i>
<i>P. densiflorum</i>		<i>inu-tade</i>
<i>P. sachalinense</i>		<i>o-itadori</i>
12. <i>Echinochloa crusgalli</i>	barnyard grass	<i>inubie, ta-inubie</i>
13. Gramineae	grass family	<i>ine ka</i>
14. <i>Rumex</i> sp.	dock	<i>gishi-gishi zoku</i>
15. <i>Chenopodium</i> sp.	chenopod, goosefoot	<i>akaza zoku</i>

Fleshy Fruits

16. <i>Solanum nigrum</i>	black nightshade	<i>inu-hozuki</i>
17. <i>Physalis</i> sp. c.f. <i>P. alkekengi</i>	Chinese lantern plant	<i>hozuki</i>
18. <i>Empetrum nigrum</i>	crowberry	<i>gankouran</i>
19. <i>Rubus</i> sp.	bramble	<i>ki-ichigo zoku</i>
20. <i>Vitis</i> sp.	grape	<i>budo zoku</i>
21. <i>Actinidia</i> sp.	silvervine	<i>matatabi, kokuwa</i>
22. <i>Sambucus</i> sp. c.f. <i>S. sieboldiana</i>	elderberry	<i>ezo-niwatoko</i>
23. <i>Cornus</i> sp.	dogwood	<i>mizu-ki zoku</i>

Others

24. <i>Rhus</i> sp.	sumac	<i>urushi zoku</i>
25. <i>Ostrya japonica</i>	ironwood	<i>asada</i>
26. <i>Potomegaton</i>	pondweed	<i>hiru-mushiro zoku</i>
27. <i>Allium</i> c.f. <i>A. grayi</i>	onion	<i>negi zoku; c.f. nobiru</i>

teristic. *Nobiru* is found in lowland meadows, and would have probably been available close to the hamlet. Collection of *nobiru* may not always have taken the Ainu outside the hamlet. Sarashina and Sarashina (1976:160) mention that *nobiru* could be harvested from the back yards of Ainu houses. No mention is made of whether or not the plant was encouraged to grow there or in gardens. Nevertheless, both Sarashina and Sarashina (Ibid.) and Ohnuki-Tierney (1974) report that *nobiru* (presumably *nobiru* in the case of Ohnuki-Tierney who refers to “leeks”) was minced and added to a variety of foods. Large quantities of *Allium* were stored and dried; harvesting took place in July to mid-August (Ohnuki-Tierney 1974:29).

Three other taxa are in the samples, but they are not listed in the Tables. The first is a single possible *Phelodendron amurense* (*kihada*, Amur corktree) in a sample from 18-11[00]. Fragments of *Juglans ailanthifolia* (*onigurumi*, walnut) are in the same sample as well as from 18-10[03] for a total of 0.69g. Finally, three pea-like legume seeds are present in the same midden. Their seed coats are missing, and their diameters are 2.4, 2.7 and 3.0 mm. The genus appears to be *Lathyrus* sp. (*renri-so zoku*, wild pea), with four possible species in Hokkaido (Plate 1c). The specimens bear close resemblance to *Lathyrus maritimus* (L.) Bigel (*L. japonicus* Willd.) (beach pea, *hama-endo*), a species common along beaches in Hokkaido today.

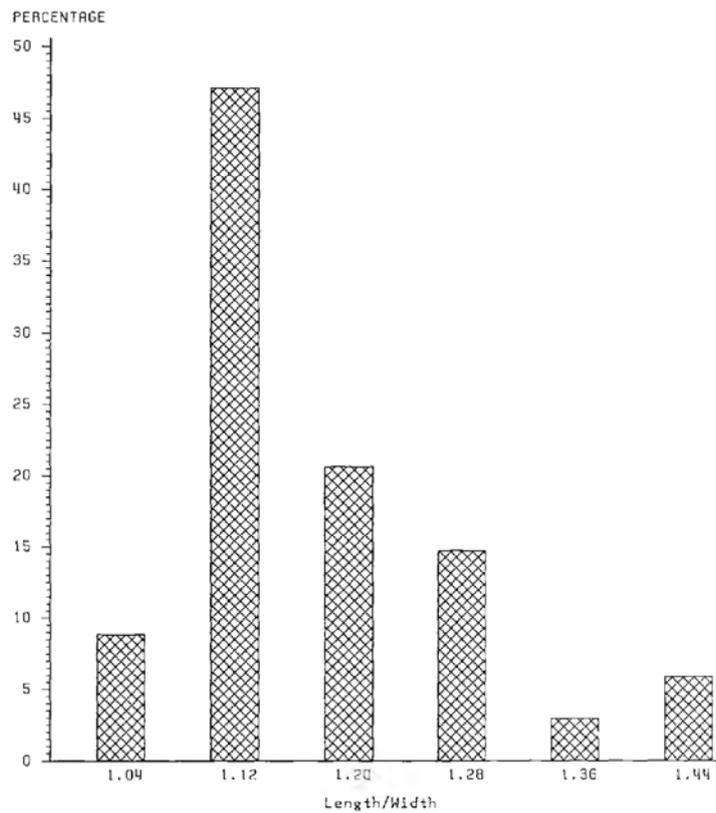
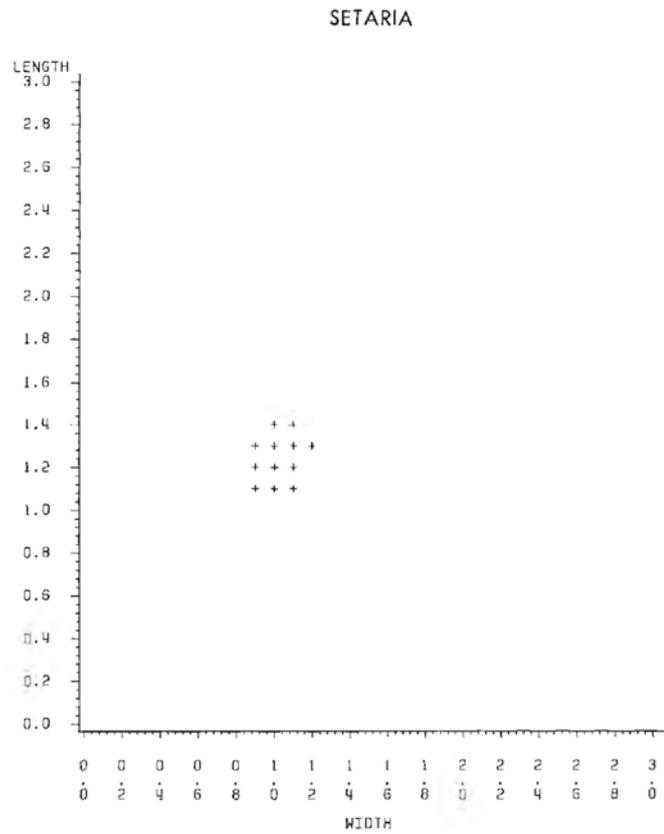
Broomcorn millet (3) and foxtail millet (4), are numerically the dominant cultigens in the samples (Plate 2). Few specimens are not hulled. They are found in nearly all contexts. A third group of large, panicoid grass seeds are difficult to further classify but seem to be either broomcorn or foxtail millet; these seeds are the “unidentifiable” millet in (Tab. 1-15). Another type, barnyard millet (*Echinochloa utilis* or *hie*) may be present in the samples, but its presence has not been confirmed. The distinction between barnyard and broomcorn millet is subtle, but for the present, none is clearly identifiable as barnyard millet. This millet has not yet been found from any prehistoric Hokkaido site, although it is known from three historic sites in southwestern Japan (Matsutani 1984).

PL. 1-23, 24 illustrate the size distribution of the two millet taxa. The sample of measured broomcorn millet numbers 108 while a sample of 105 foxtail millet seeds was measured. The length vs. width plot of foxtail millet shows few points due to considerable overlap of measurements. Both sets of measurements fall within the range of variation reported for European specimens (Van Zeist 1968).

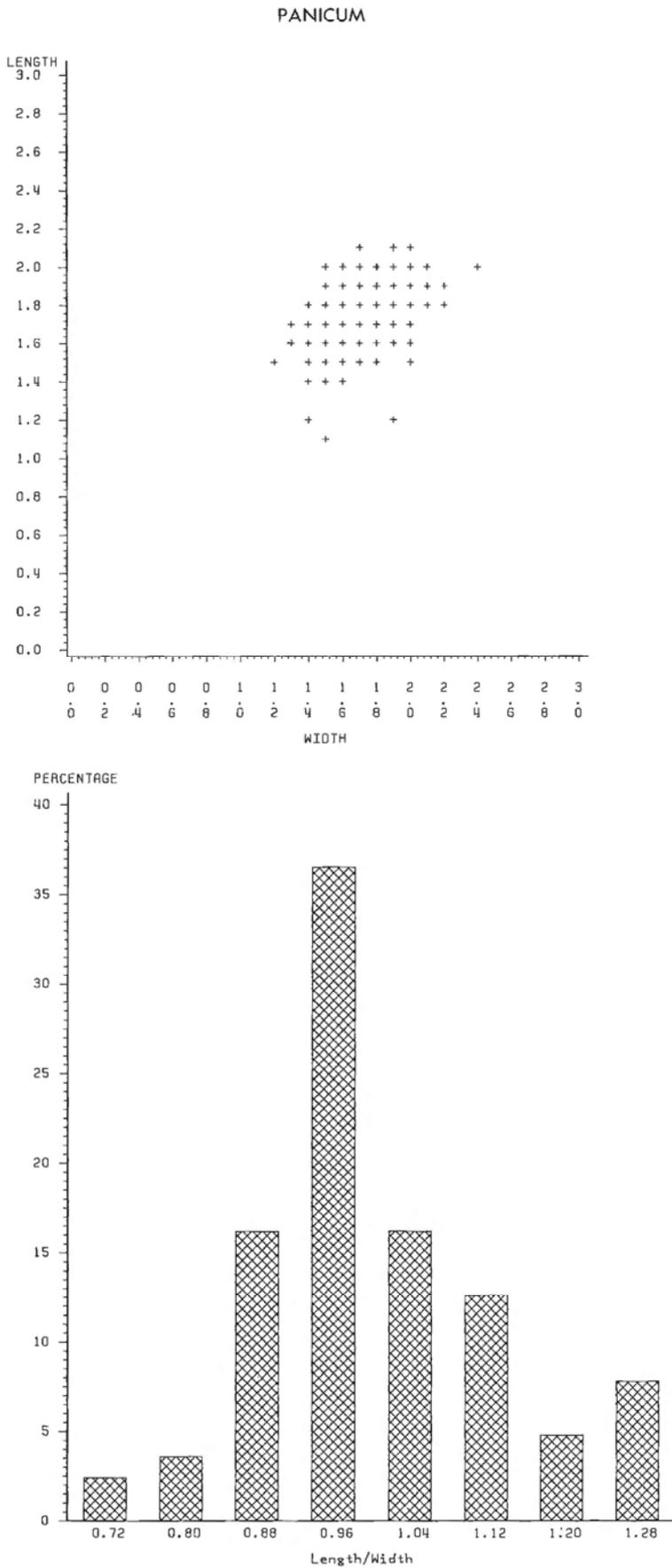
Next to the millets, the numerically most common cultigen at Sakushu-Kotoni is *barley*. The barley is hexastichous, with both hulled and naked grains apparent. Length-width measurements are summarized in PL. 1-25. The measurements fall within the range reported by Van Zeist (1968) for northern European specimens. Although Asian barleys are relatively unique, in particular by being small seeded (Takahashi 1964), the barley in this sample is not small (PL. 1-25). Other prehistoric barley grains from Japan are relatively small, but except for the single measured grain from Uenoharu, Kyushu (3.8 by 2.0 mm) (Kotani 1972), they are within the Sakushu-Kotoni range.

The Sakushu-Kotoni *wheat* is unique (see PL. 1-26, PL. 2-346 and PL. 2-347). The sample of 106 measured caryopses has mean length and width measurements outside the range of the small club wheat, *Triticum aestivum* ssp. *compactum*, which differs from bread wheat by one gene (Van Zeist 1978:53). The maximum width of the caryopses is toward the embryo end of the caryopses, making them somewhat drop shaped in contrast to the club and bread wheats. Indian dwarf wheat (*T. aestivum* ssp. *sphaerococcum*) is another compact form that may have some historical and taxonomic relationship to the Ezo wheat, but this has not been closely examined

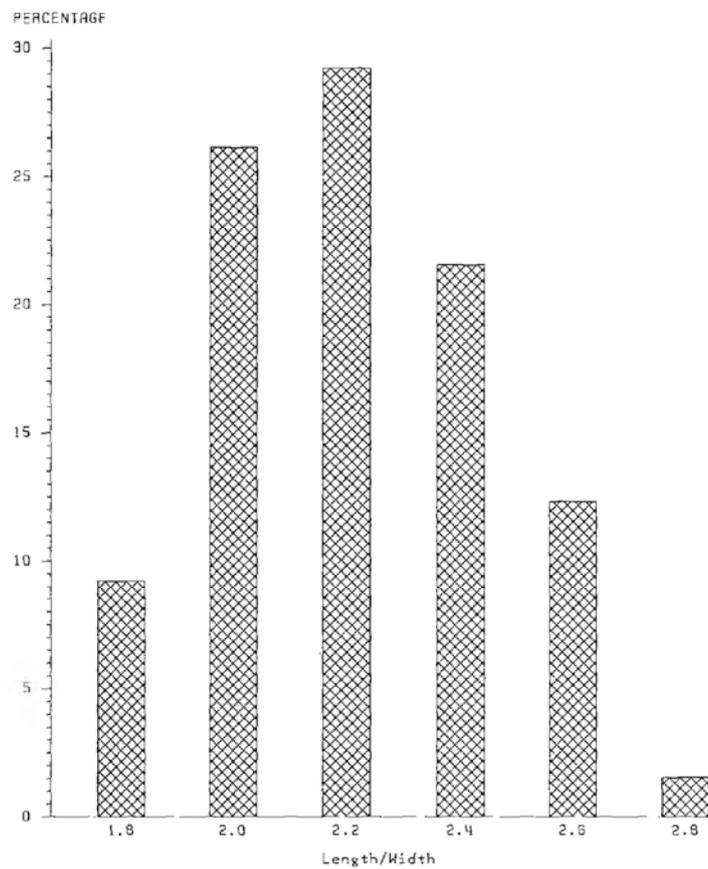
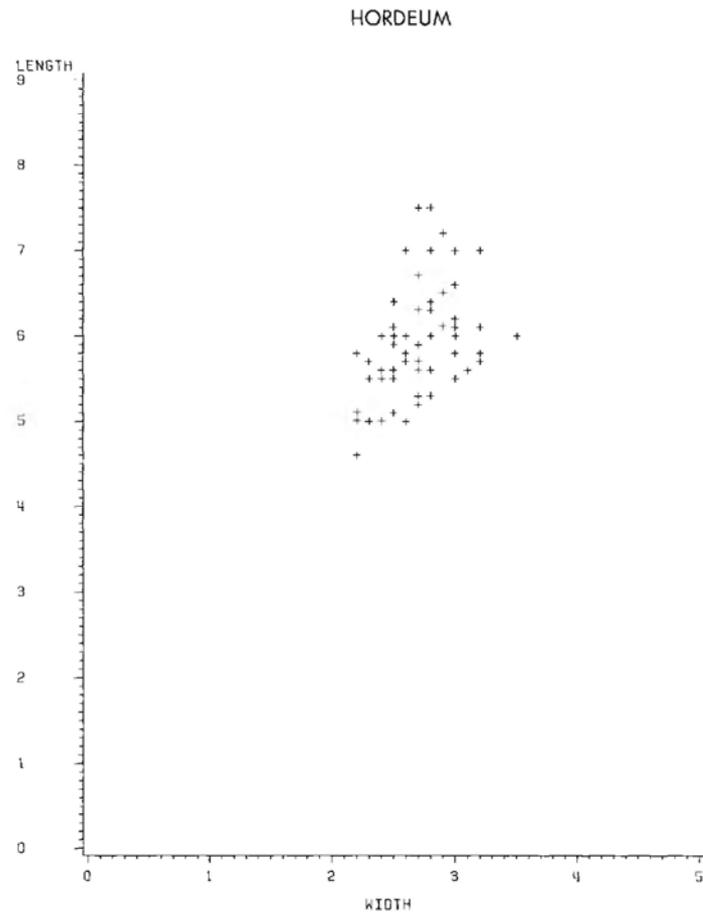
PL. Ⅱ-23 Carbonized Foxtail Millet (*Awa*): Plot of Length vs. Width (mm) and Length/Width.
 n = 105, Mean L/W = 1.2, Mean L × W = 1.2 × 1.0 mm.



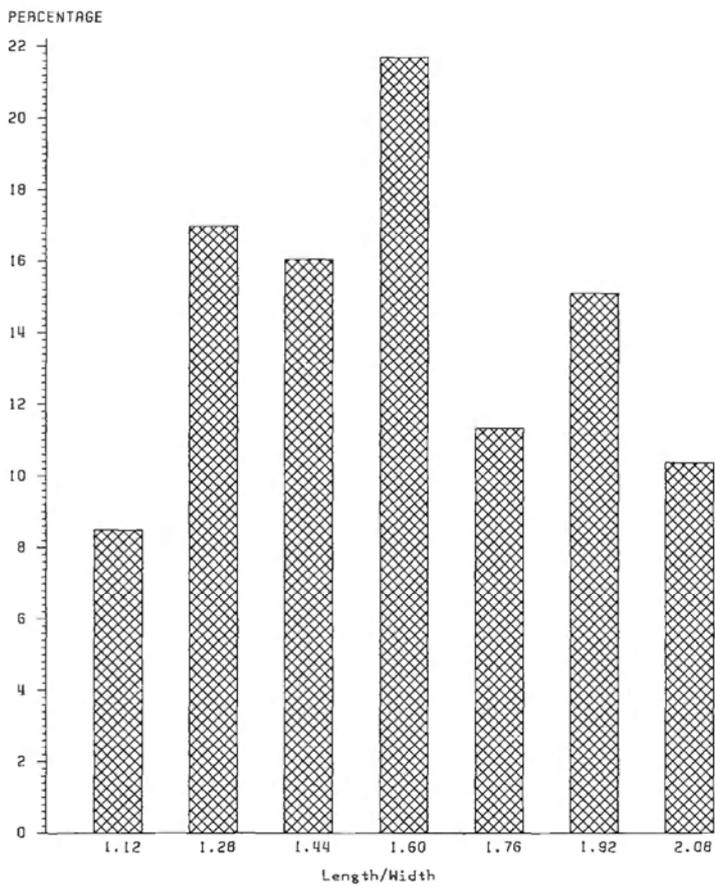
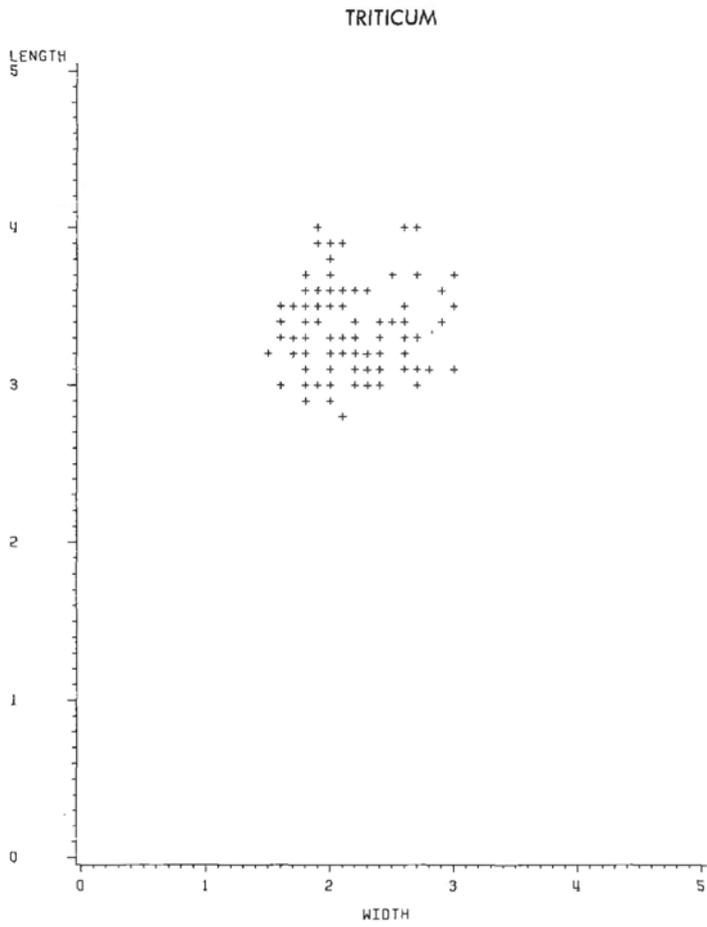
PL. Ⅱ-24 Carbonized Broomcorn Millet (*Kibi*): Plot of Length vs. Width (mm) and Length/Width.
 n = 105, Mean L/W = 1.0, Mean L × W = 1.8 × 1.8 mm.



PL. Ⅱ-25 Carbonized Barley: Plot of Length vs. Width (mm) and Chart of Length/Width.
 n = 63, Mean L/W = 2.2, Mean L × W = 5.9 × 2.7 mm.



PL. □-26 Carbonized Wheat: Plot of Length vs. Width (mm) and Chart of Length/Width.
 n = 106, Mean L/W = 1.5, Mean L × W = 3.4 × 2.2mm.



at the time of writing. The mean length/width ratio (PL. []-26) is between that reported for some compact forms and regular bread wheat (e.g. Janushevich 1984:275, 276; Van Zeist 1968:126, 128). In a way, the Sakushu-Kotoni wheat is similar to emmer (*T. dicoccum*), which occasionally has carbonized seeds which are drop shaped. These caryopses are wider at the end opposite the embryo. Emmer caryopses are larger than the Sakushu-Kotoni specimens as well, and are not nearly so plump (L/W ratios of emmer are larger than 1.6 for the most part).

The half-dozen rice caryopses from Sakushu-Kotoni are all the short-grained variety, *japonicum*. One measurable seed is 4.1 by 2.6 mm. (length/width = 1.6). Sato (1971) classifies rice caryopses from over 100 Yayoi sites with length/width ratios between 1.3 and 2.0 as short-grained as well. All prehistoric rice so far recovered in Japan is *Oryza sativa* ssp. *japonicum*.

Within the 61 specimens of the legume, *Vigna*, two types are present. These are adzuki (6) and mung (7). No attempt has been made to separate the whole sample of beans into the two taxa; however, examples of each have been examined. Mung appears to be rare in the assemblage. A sample of 13 beans were measured and have mean (range) dimensions in millimeters of 6 (4.8 - 8.0), 4.1 (3.0 - 5.7) and 3.8 (2.3 - 5.0) mm.

One broken melon (8) seed has been identified. It is not measurable, but compares well with reference specimens of cultigen melon seeds. Not including this specimen, 5076 archaeological melon seeds from 102 sites have been reported in Japan (Fujishita 1984:64). 69% are from sites later than the Yayoi period (later than A.D. 300).

A few specimens of beefsteak plant (9) are in the Sakushu-Kotoni collection. The plant was likely used as an herb and for its oil producing seeds. This is a red-leaved form of the plant. A green leaved form (*P. frutescens* var *japonica:egoma*) has seeds which are generally distinguishable from *shiso* seeds.

Another relatively abundant cultigen seed is that of hemp (10), a plant indigenous to central Asia (Bailey 1976:218; Simmonds 1976:203). This plant has several uses: as an oil, food, fibre and drug source. Hemp grown in the north is usually used for oil, food, and fibre. The Ainu used hemp in weaving clothing and making baskets.

Discussion

This report has dealt with an initial presentation of the Sakushu-Kotoni-Gawa plant remains. A number of technical and interpretive aspects of the remains have not been attempted at this stage. For example, Dennell (1972) and Hillman (1984) have documented techniques for determining crop processing methods using among other factors, grain size variation as a clue to sieving procedures. Metric data have been presented here to describe intra-specific variation; a full documentation of such variation by sample will be required eventually.

One important aspect of this ongoing research is that at Sakushu-Kotoni we have incontrovertible evidence for an ancestral Ainu food production phase. This phase was suspected from a few sporadic discoveries of plant remains throughout Hokkaido, but confirmation did not exist until the research on this collection. References to the early evidence can be found in English in Aikens and Higuchi (1982:307) and Crawford (1983:25). Two discussions in Japanese are by Ishizuki (1975) and Okada and Yamada (1982). To briefly summarize the interpretive status of the few cultigen reports until 1982, either the cultigens were considered sporadic imports because the few reports until then were coastal, or there was, indeed, an early agricultural phase in Hokkaido. The nearly quarter of a million carbonized seeds from Sakushu-Kotoni from excellent context, demonstrate that the latter was the case. Rice paddies and dry fields are common in the area

(Ishikari Plain) today. The Plain receives an average annual precipitation of 1200 mm. Between May and September are 2600 cumulative mean temperature degrees (Hokkaido Development Bureau 1983). Rice, for example, today requires more than 2500. The local environment is quite suitable for agriculture today.

This interpretation raises several questions. When did this plant husbandry begin and how did it develop? What became of it? What role does plant husbandry play in understanding Ainu history? Regarding the last question, the Ainu were considered to be foragers until 1884. In that year, the Japanese government instituted a programme to encourage the Ainu to take up agriculture (Watanabe 1967:72). Agriculture seems not to have been entirely new to the Ainu. Apparently, some Ainu in the Tokapchi and Azuma Valleys had done some small scale farming (Watanabe 1972:41). According to Watanabe, households grew foxtail millet (*awa*) and barnyard millet (*hie*) in plots of 1000–2000 m² on river banks. Hayashi (1975), too, has examined ethnohistoric data and has interviewed Ainu elders concerning this problem. The Ainu, according to Hayashi's data grew *awa*, *hie*, barley, wheat, *azuki*, pea, *daizu* (soy bean), *daikon* (radish), hemp, *negi* (leek or onion, *nobiru*?), cucumber, tobacco, a potato and two types of American squashes. Rice was known to the Ainu but was apparently imported. Naked barley was the most important of the *mugi* group which is also comprised of wheat (*komugi*) and hulled barley. Wheat was grown, but was not an important crop. All of these plants but *hie* (barnyard millet), according to Ainu myth, were introductions (Ibid.). Two legumes, *Vicia* and *Crotolaria* were reportedly harvested from gardens as well. This plant husbandry likely has a longer history in Hokkaido than previously suspected, a history needing considerable research.

Ten taxa of cultigen seeds appear in varying quantities in the samples. Another cultigen remain which has not been analyzed yet is the considerable quantity of barley and/or wheat rachis fragments. Including these fragments, the assemblage of carbonized plant remains are consistent with an interpretation that the Sakushu-Kotoni residents were involved in plant husbandry. Cultigen plants must have been an important part of their diet. No sickles, hoes or plough shares have been identified at the site yet, but the former are reported from three Ezo sites while the latter have been found at two Ezo sites (Okada and Yamada 1982).

Most of the cultigens at Sakushu-Kotoni are at their northernmost occurrences in prehistoric Japan. Foxtail millet, rice, melon and wheat are reported for the first time in prehistoric Hokkaido. Of these plants, rice and melon are so rare as to suggest they were not grown locally. I suspect, however, that they were grown at Sakushu-Kotoni but were not an important part of the plant husbandry system.

There are two cultigens conspicuous in their absence from the sample: buckwheat (*Fagopyrum esculentum* or *soba*) and safflower (*Carthamus tinctorius* or *benibana*). A single carbonized buckwheat seed was recovered from the late Early Jomon Hamanasuno site in southwestern Hokkaido in 1974 (Crawford, Hurley and Yoshizaki 1976; Crawford 1983). Since then, pollen analysis from archaeological contexts suggests the presence of buckwheat in northern Japan by the Final Jomon (Yamada 1980) and buckwheat pollen is known from several Zoku Jomon and Ezo period sites on Hokkaido (Yamada 1975, 1978, 1979; Okada and Yamada 1982:28). The presence or absence of buckwheat husbandry in prehistoric Japan remains a problem. To compound the issue, preservation characteristics may influence buckwheat seed recovery. In the Netherlands, the earliest carbonized buckwheat (a single seed) comes from Dommelin (Van Vilsteren 1984:230). In later periods, the prehistoric buckwheat seeds are never carbonized and come from cesspits. Carbonized seeds do not occur at the same sites (Ibid.). Carbonized buckwheat reported from the Ezo site of

Tab. 15 Sakushu-Kotoni-Gawa Flotation Samples: Seed Taxa as Percentage Total Number of Seeds per Sample

Grid	Pit	Cultigens										Weedy Grains/Greens				
		Hordeum	Triticum	Unidentifiable Millet	Panicum (Kibi)	Setaria (awa)	Oryza	Vigna	Cucumis	Perilla	Cannabis	Polygonum	Echinochloa	Gramineae	Rumex	Chenopodium
4-7	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4-8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-
5-7	-	-	-	-	-	6.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.3
5-9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6-10	-	-	-	-	15.0	10.0	-	-	-	-	5.0	-	65.0	-	-	5.0
7-8	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-
7-8/9	-	-	-	-	-	15.0	-	-	-	-	-	35.0	-	-	-	-
7-9[33]	4	-	-	-	-	90.5	-	-	-	-	-	2.0	4.7	-	-	-
8-7	-	-	-	2.9	5.9	11.8	-	-	-	-	2.9	5.9	-	-	-	-
8-7	6	9.1	27.3	-	9.1	36.4	-	-	-	-	-	9.1	-	-	-	-
8-8	-	-	-	-	25.0	12.5	-	-	-	-	-	-	-	12.5	-	-
8-9[02]	4	12.1	2.4	-	37.1	43.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8-9[03]	-	21.2	8.7	-	26.2	42.7	-	-	-	-	-	0.1	0.1	-	-	-
8-8	6	-	-	-	-	91.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8-10	-	-	-	-	25.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9-10	-	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9-13	-	-	-	-	59.1	36.4	-	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-
15-16	-	-	-	-	21.7	78.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16-11	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16-19	-	-	-	-	17.9	25.0	-	-	-	-	-	14.3	-	-	-	-
16-22	-	-	9.1	-	-	27.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17-10[23]	-	63.5	11.8	-	19.1	1.9	-	-	-	-	0.3	-	-	-	-	-
17-11[02]	-	*	*	*	23.6	75.8	-	*	-	*	*	0.4	-	-	*	-
17-11[12]	-	0.1	-	*	17.7	81.3	*	*	-	*	*	0.4	-	0.1	*	-
17-11[21]	-	3.8	2.1	-	43.1	49.2	-	0.5	-	-	-	0.1	0.1	-	-	-
17-11[22]	-	2.5	0.3	-	38.8	51.4	-	*	-	-	-	2.4	0.5	0.2	2.3	-
17-11[23]	-	7.9	2.6	-	-	-	-	-	-	-	10.5	-	78.9	-	-	-
17-11[30]	-	22.5	10.7	14.0	44.2	7.8	*	*	*	-	0.5	*	*	-	-	-
17-11[31]	-	29.7	11.2	0.1	21.6	35.1	-	-	-	*	-	0.1	0.1	0.5	-	*
17-11[32]	-	4.3	1.1	-	59.8	33.7	-	-	-	-	-	0.1	0.2	*	-	-
17-12[11]	-	7.1	21.4	-	21.4	-	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17-12[20]	-	0.5	1.3	-	66.8	26.6	-	0.3	-	-	-	1.8	-	-	-	-
17-16	-	-	-	-	42.9	14.3	-	-	-	-	-	28.6	-	-	-	-
18-9	-	-	-	-	23.1	42.3	-	-	-	-	-	31.6	-	-	-	-
18-10	-	0.9	1.7	7.8	36.2	27.6	-	-	-	-	-	-	-	-	0.9	1.7
18-10[03]	-	11.6	1.2	-	18.4	65.1	-	-	-	-	*	-	-	0.3	-	-
18-11[00]	-	26.4	7.1	-	11.5	53.4	*	*	-	-	-	0.1	-	0.2	-	-
18-12	-	-	-	-	50.0	37.5	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19-11	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19-13	-	-	-	-	12.5	12.5	-	-	-	-	-	4.2	-	-	-	-
19-15	-	8.0	56.0	-	8.0	20.0	-	-	-	-	-	-	4.0	-	-	-
19-16	-	-	-	-	20.0	40.0	-	-	-	-	-	20.0	-	-	-	-
19-18	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-12	-	-	-	-	30.0	70.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-14	-	-	-	18.2	18.2	-	-	-	-	-	-	18.2	-	-	-	-
20-18	-	-	-	-	5.6	83.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21-12	-	-	-	-	10.0	50.0	-	-	-	-	-	30.0	-	-	-	-
21-14	-	-	-	-	5.3	57.9	-	-	-	-	-	5.3	-	-	-	-
21-15	-	-	-	-	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22-15	-	-	-	-	-	80.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22-16	-	-	-	-	2.0	92.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26-15	-	-	-	-	-	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26-21	-	-	-	-	20.0	80.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28-16	-	-	-	-	29.5	65.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27-15	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28-17	-	12.5	-	-	31.3	56.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30-16	4	-	-	4.8	64.3	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Total Number		11443	4108	3158	34037	61600	6	61	1	10	136	429	106	90	140	5

a: less than 0.01g * less than 0.1%

Fleshy Fruits								Others						Weight(g)	Total Number
Solanum	Physalis	Empetrum	Rubus	Vitis	Actinidia	Sambucus	Cornus	Rhus	Ostrya	Potomegaton	Allium	Unidentifiable	Unknown		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	2
-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	2
-	-	-	-	-	-	43.8	-	-	-	-	-	18.8	25.0	10.04	16
11.1	-	-	-	-	-	66.7	-	11.1	-	-	-	11.1	-	0.01	9
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	20
-	-	-	-	62.5	-	-	-	-	-	-	-	12.5	-	a	8
-	25.0	-	-	-	10.0	-	-	-	-	-	-	-	15.0	0.02	20
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0	0.7	0.06	148
8.8	-	-	-	-	-	55.9	-	-	-	-	-	-	5.9	0.04	34
-	-	-	-	-	-	19.1	-	-	-	-	-	-	-	0.02	11
-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	8
-	-	1.6	-	-	-	3.2	-	-	-	-	-	-	-	0.2	124
-	-	0.4	-	-	-	0.2	-	-	-	0.2	-	-	-	2.65	1341
-	-	-	-	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	12
-	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	12.5	-	a	8
-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	a	3
-	-	-	-	-	-	-	2.3	-	-	-	-	-	-	0.14	44
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.05	23
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	2
-	-	-	-	-	-	28.6	-	-	-	-	-	14.3	-	0.06	28
-	-	-	-	-	-	45.5	-	-	-	-	-	18.2	-	0.02	11
-	-	0.8	-	1.0	-	0.3	-	-	-	-	-	1.3	-	3.17	619
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	*	*	35.23	41210
0.1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	0.1	*	4.74	6391
-	-	-	-	0.4	-	-	-	-	*	-	-	-	0.4	12.05	7447
0.1	0.4	-	-	0.3	0.1	*	-	*	-	-	-	0.4	0.1	6.16	5796
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.14	38
-	-	-	-	*	-	-	-	-	-	*	0.2	-	-	59.22	22416
-	0.1	0.3	*	0.1	0.1	0.1	-	-	-	-	0.5	0.3	-	9.18	3088
0.1	*	0.1	-	0.1	-	-	-	0.1	-	-	-	0.2	0.3	5.50	3955
-	-	-	-	42.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	14
0.2	0.7	-	-	1.3	-	0.1	-	-	-	-	-	0.4	-	0.75	1204
-	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	7
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	26
-	-	-	-	-	-	19.8	-	-	-	-	-	1.7	1.7	0.03	116
-	2.9	-	*	-	0.2	-	-	-	-	-	*	0.1	-	14.09	10836
-	*	0.7	-	0.1	*	-	-	-	-	-	0.2	0.2	*	37.42	10980
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	8
-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	0.01	18
-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	a	4
-	-	-	-	-	-	66.7	-	-	-	-	-	-	-	0.01	24
-	-	-	-	4.0	-	-	-	-	-	-	-	4.2	-	0.10	25
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-	a	5
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	1
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	10
-	-	-	-	-	-	45.5	-	-	-	-	-	-	-	0.01	11
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.1	-	0.01	18
-	-	-	-	-	-	10.0	-	-	-	-	-	-	-	0.01	10
-	-	-	26.3	-	-	5.3	-	-	-	-	-	-	-	0.01	19
-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	a	3
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-	a	5
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.0	-	0.02	50
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	0.01	6
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	5
-	-	-	-	-	-	4.1	-	-	-	-	-	0.8	-	0.10	122
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	3
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.03	16
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.4	-	0.05	42
19	368	110	10	104	36	136	1	5	1	7	102	129	64	19688	116422

Toyotomi (Kohno 1959) have now been identified as safflower (Crawford 1985; Crawford and Yoshizaki, in preparation). These are the seeds I reported as an unknown composite (Crawford 1983:25). Safflower is native to the Middle East (Knowles 1976:31) and is known to have been in western Japan by the eighth century (Yamazaki 1961).

The wild and weedy component of the plant assemblage likely represents fortuitous inclusions in the case of rare items and weed seeds and utilized plants in other cases. The knotweeds, grasses, dock and chenopod are useful as both grain and green, leafy vegetable food sources. Such seeds can also appear as a result of contamination during harvesting. All of the fleshy fruits but crowberry, which is not found in Sapporo or around Sakushu-Kotoni today, are likely part of the anthropogenic flora established around and in the Sakushu-Kotoni hamlet by the numerous ecologically disruptive activities of the inhabitants. Chinese lanternplant is an unconfirmed garden plant and may have become established in Hokkaido with the prehistoric introduction of cultigens.

This plant remains assemblage is somewhat similar to Late Woodland (Iroquoian) assemblages I am familiar with in Ontario, Canada. The comparison is appropriate because both Ontario and Hokkaido are northernmost occurrences of food production in their respective areas, and both Late Woodland and Ezo societies were unranked, maintained foraging as an important activity, and had similar technologies. All of the genera of fleshy fruits except for *Actinidia* and *Empetrum* are known from such Ontario sites (Crawford 1985; Monckton 1985). In addition, *Polygonum*, Gramineae, *Chenopodium*, *Rhus* and *Ostrya* are part of such assemblages. The habitats around plant husbandry oriented communities in Ontario are analogous to those from which the plant remains at Sakushu-Kotoni were derived. This further supports the contention of a local plant husbandry adaptation in Ezo period Hokkaido.

Acknowledgements

I would like to acknowledge the support of Yoshizaki Masakazu who facilitated my contribution to the over all Sakushu-Kotoni project. The Office of Research Administration of the University of Toronto provided a grant to support the plant remains analysis. I would also like to thank the staff of the Salvage Archaeology Center of Hokkaido University, and Hayashi Kensaku, Kikuchi Toshihiko, Okada Atsuko, Okada Hiroaki and Yokoyama Eisuke in particular, for their part in making this research come to fruition. Matsutani Akiko of Tokyo University made the original identification of rice from Sakushu-Kotoni. Hirakawa Yasuhiko and Tsubakisaka Yasuyo did the preliminary sorting of the flotation samples. The scanning electron microscope photographs were taken in the agriculture department of Hokkaido University with the assistance of Hirakawa Yasuhiko. Hiroto Takamiya and Jane Macaulay assisted me in the Toronto lab. A final note of thanks must go to Clara Stewart, who typed this chapter with her usual patience and skill.

REFERENCES CITED

- Aikens, C. Melvin, and Takayasu Higuchi
1982 *Prehistory of Japan*. New York: Academic Press.
- Bailey, Liberty Hyde
1976 *Hortus Third*. MacMillan Publishing Co., Inc., New York.
- Barrett, Spencer C.H.
1983 Crop mimicry in weeds. *Economic Botany* 37(3):255-282.
- Crawford, Gary W.
1985 Subsistence Ecology of the Seed Site. A Report on Ontario Heritage Foundation Grant ARG-156
- Crawford, Gary W.
1983 *Palaeoethnobotany of the Kameda Peninsula Jomon*. Ann Arbor, Michigan: Anthropological Papers, Museum of Anthropology, University of Michigan No. 73.
- Crawford, Gary W., William M. Hurley and Masakazu Yoshizaki
1976 Implications of plant remains from the Early Jomon, Hamanasuno site. *Asian Perspectives* XIX(1):145-148.
- Crawford, Gary W. and Masakazu Yoshizaki (in preparation)
Ainu Ancestors and Prehistoric Asian Agriculture.
- Dennell, R.W.
1972 The Interpretation of Plant Remains: Bulgaria. In *Papers in Economic Prehistory*, edited by E.S.Higgs, pp. 149-60. London: Cambridge University Press.
- Fujishita, Noriyuki
1984 *Shutsudo itai yori mita uri-ka shokubutsu no shurui to henkan to sono riyoho* (Archaeological cucurbits: types, temporal change and their use). In *Kobunkazai no Shizen-kagakuteki Kenkyu*, edited by Kobunkazai Henshu linkai, pp. 638-654. Tokyo: Dohosha.
- Hayashi, Yoshishige
1965 *Ainu no noko bunka* [Ainu Agriculturalists]. Tokyo : Keiyusha
- Hillman, Gordon
1984 Interpretation of archaeological plant remains: the application of ethnographic models from Turkey. In *Plants and Ancient Man* edited by W. Van Zeist and W.A. Casparie, pp. 1-42. A.A. Balkema: Rotterdam.
- Hokkaido Development Bureau
1983 *Agricultural Development in Hokkaido*. Agriculture and Fisheries Department, Sapporo, Hokkaido, Japan.
- Ishizuki, Kisao
1975 *Satsumon shiki bunka ni okeru noko sakumotsu* [Agriculture Crops in the Satsumon Phase]. *Kodaigaku Kenkyu* 74:36-38.
- Janushevich, Z.V.
1984 The specific composition of wheat finds from agricultural centres in the USSR. In *Plants and Ancient Man* edited by W. Van Zeist and W.A. Casparie, pp. 267-276. A.A. Balkema: Rotterdam.
- Kohno, Hiromichi
1959 *Hokkaido shutsudo no ogata U jikei tekki ni tsuite*. A u-shaped iron tool excavated in Hokkaido). *Hokkaido Gakgei Daigaku Kokogaku Kenkyukai Renrakushi*.
- Kotani, Yoshinobu
1972 *Economic Bases During the Latter Jomon Period in Kyushu, Japan: A Reconsideration*. Ph.D. Dissertation, University of Wisconsin. Ann Arbor: University Microfilms.
- Monckton, Stephen
1985 Investigations into Huron paleoethnobotany: an interim report. On file at the Ontario Heritage Foundation.

Ohnuki-Tierney, Emiko

- 1974 *The Ainu of the Northwest Coast of Southern Sakhalin*. New York: Holt, Rinehart and Winston, Inc.

Ohwi, Jisaburo

- 1965 *The Flora of Japan*. Washington, D.C.: Smithsonian Institution.

Okada, Atsuko and Goro Yamada

- 1982 *Hokkaido ni okeru noko no kigen ni kansuru yosatsu* (A short note on the origin of agriculture in Hokkaido). In *Hokkaido ni okeru Noko no Kigen* (The origin of agriculture in Hokkaido) edited by T. Umehara, pp. 26-34. Sapporo.

Sarashina, Genzo, and Koh Sarashina

- 1976 *Kotan seibutsuki I* (Kotan Ethnobiology I). Tokyo: Hosei Daigaku Shuppan Kyoku.

Simmons, N.W.

- 1976 Hemp. In *Evolution of Crop Plants* edited by N.W. Simmonds, pp. 203-204. Longman: New York.

Takahashi, R.

- 1964 Further studies in the phylogenetic differentiation of cultivated barley. *Barley Genetics I*: 19-26.

Van Vilsteren, V.T.

- 1984 The medieval village of Dommelin: a case study for the interpretation of charred seeds from postholes. In *Plants and Ancient Man* edited by W. Van Zeist and W.A. Casparie, pp. 227-235. Rotterdam: A.A. Balkema.

Van Zeist, W.

- 1968 Prehistoric and early historic food plants in the Netherlands. *Palaeohistoria* 14:41-173.

Watanabe, Hitoshi

- 1967 Subsistence and ecology of northern food gatherers with special reference to the Ainu. In *Man the Hunter* edited by Richard Lee and Irven Devore, pp. 69-77. Chicago: Aldine.
- 1972 *The Ainu Ecosystem*. Seattle: University of Washington Press.

Yamada, Goro

- 1975 *Teshio-kawaguchi iseki no kafun bunseki* (Pollen analysis from the Teshio-kawaguchi Site). In *Teshio-kawaguchi Iseki*, pp. 50-53. Teshio: Teshio-Cho Board of Education.
- 1978 *Dojo shiryō no kafun bunseki ni tsuite* (Pollen analysis from soil). In *Archaeological Research in the Naihetsu Basin*, pp. 131-133. Hokkaido: Chitose Board of Education.
- 1979 *Nayoro-shi Chitoh iseki no kafun bunseki* (Pollen Analysis of the Chitoh Site, Nayoro). Nayoro: Nayoro Board of Education.
- 1980 *Iwate-ken Kitakami-shi Kunenbashi iseki no kafun bunseki ni tsuite* (Analysis of Pollen from the Kunenbashi Site, Kitakami, Iwate Prefecture). In *Kunenbashi Site, Report Number 6*, edited by the Kitakami board of Education, pp. 63-75. Kitakami: Kitakami Bunkazai Chosa Hokoku, No. 29.

Yamazaki, Akira

- 1961 *Kusaki-zome* (Dyeing with Natural Materials). Kanagawa: Getsumei-kai.

Yoshizaki, Masakazu and Okada, Atsuko

- 1984 *Kokogaku ni okeru Ezo-chi*.
In *Sozo no Sekai*, 49: pp. 80-105 Shogakukan, Tokyo.

VI-10

〔炭化材〕

① 炭化材の樹種鑑定結果

竪穴、土壙、焼土・炭化物集積遺構より出土した炭化材は、原形に近い形状を維持しているものと、土壌中に混じり合っている木片とがあるため、両者で取上げ法を変え、前者についてはバインダー#17を含浸させ1点ずつ、後者については浮遊選別法により各遺構ごと一括して取り上げを行なった。それらの炭化材の出土地点や数の内訳は以下の通りであるが、浮遊選別材については出上量把握の日安としておおよその重量を示す。しかし、この値には木粉等も大量に含まれているためあくまでも日安であることに注意されたい。

① バインダー含浸材 (62点)

- a, 2号竪穴住居跡 7点
- b, 3号竪穴住居跡 45点
- c, 2号土壙 10点

② 浮遊選別材

- | | | |
|----------------------|--------|--------|
| a, 2号竪穴住居跡 | 覆土 | 約23kg |
| | かまど | 約50g |
| | かまどまわり | 約1kg |
| | 煙道 | 約70g |
| b, 3号竪穴住居跡 | 覆土 | 約340g |
| c, 土壙 | 1号 | 約900g |
| | 3号 | 約50g |
| | 4号 | 約460g |
| | 5号 | 約340g |
| | 6号 | 約260g |
| d, 炭化物集積遺構 (炭化物マウンド) | | 約5.5kg |
| e, 焼土・炭化物 (33箇所) | | 約3.5kg |
- (16, 18, 19, 21, 22, 25, 27, 30, 32, 37, 38, 40, 41, 43, 44, 47, 48, 49, 51, 52, 54, 58, 59, 60, 61, 62, 64, 65, 68, 69, 70, 71, 72)

これらのうち、バインダー含浸材については全点を、浮遊選別材については各地点ごとに適量を選び出し、樹種鑑定を行った。浮遊選別材は、木粉等も含めてではあるが検体全量が約35kgにも達するため、大体の樹種構成が把握された時点で鑑定を打ち切った。そのため少数個体樹種については見落しの可能性も否定できない。しかし、検索個体の全重量は約2.2kgに達し、検体(木片)1個の重量は0.5kg以下であることから、検体個数は4,400点以上にも上るため、樹種構成等の概要はほぼ把握できたものとする。

樹種鑑定の方法は以下のとおりである。

バインダー含浸材からは1cm程度の木片を割り取り、浮遊選別材については木片をそのまま実体顕微鏡で観察、同定し、同定困難なものについては走査型電子顕微鏡(SEM)で

観察した。浮遊選別材については、無作為に選び出した木片の鑑定により樹種構成の一般傾向を把握してから、少数個体樹種の見落としがないよう肉眼的に質観の異なるものを選べるだけ多く選び出し、鑑定を進めた。

SEM観察試料の調整方法は、気乾状態の木片を、まず軸方向と直角方向に折り、一方を木口面観察試料とする。次に、残りの木片に片刃カミソリでわずかに切れ込みを入れ、割裂し、板目又は柾目面を露出させ、縦断面の観察試料とした。炭化材のSEM観察表面の露出には、刃物で切るのではなく、試料を割るか折る方法が効果的である。その後、試料を導電性ペーストでSEM試料台に貼付け、イオンスパッタリング法により金を7 mA、1 KV、DC、でコーティングした。時間は7～15分間であるが、チャージアップの発生が著しい場合にはさらにコーティングを加えた。炭化材では、一般的に知られているイオンスパッタリングによる試料損傷は少く、コーティング時間の延長に特に問題はない。SEM観察には、JSM-35CF IIを用い、加速電圧15KV～25KVで観察した。写真撮影用フィルムはネオパンSS（6×7 cm）である。

バインダー含浸材62点と浮遊選別材を鑑定した結果、20科、25属を同定し、そのうち5属については種のレベルまで同定することができた。それらを既述の項目別に炭化材の表1に示す。樹種構成は、針葉樹3属、広葉樹22属、ツル性植物1属（2属以上の可能性もある）であり、他に同定できなかったものが草本類も含め数種ある。各樹種の同定の根拠、組織・構造等については、第Ⅵ章の10-2を参照されたい。

以下には、炭化材の表1の各項目別に樹種鑑定結果の概略を記す。重量の単位はgである。

① 2号竪穴住居跡

a バインダー含浸材

バインダー含浸材全7点中の内訳は、トネリコ、ヤナギ、クルミの各属が順に、5：1：1点であり、トネリコ属個体が多い。

b 覆土

15属が認められ、多いものから順に、トネリコ、クルミ、カエデ、ニレの各属で、重量比は635、65、10、5であり、他はキハダ、ニガキ、ヤナギ、ハコヤナギ、カバノキ、ハンノキ、モクレン、アジサイ、サクラ、ニシキギ、ミズキの各属が少量認められた。量的には、トネリコ属が圧倒的に多いのが特徴である。樹皮も7とかなり多い。

c かまど

12属が認められ、トネリコ属が3とやや多く、ニレ、ニシキギ、モミ、クルミ各属が2程度であり、コナラ、クワ、ハコヤナギ、ヤナギ、カバノキ、ハンノキ、モクレンの各属が少量認められた。しかし、量的には、各樹種間で特に大きな差はない。樹皮もわずかに認められた。

d かまどまわり

13属認められた中で、特に多いのはトネリコ属の260であり、やや多いのはニレ、ヤナギ、クルミの各属にツル性植物で、重量比は8、5、5、5であった。その他のものは少なく、コナラ、クワ、イヌエンジュ、カバノキ、カツラ、モクレン、ニシキギ、ミズキ、ニワトコの各属が認められた。

e 煙道

2属認められたがツル性植物がやや多く、クワ、ヤナギ属がわずかに認められたにすぎず、炭化材は極めて少なかった。

② 3号竪穴住居跡

a バインダー含浸材

全45点の内訳は、トネリコ属が29点と多く、以下、ヤナギ：4、キハダ：3、カバノキ：3、ニレ：2、クルミ：2、カエデ：1、クワ：1の順であった。

b 覆土

12属認められた中で量的に多いものは、ニレ：13、キハダ：5、トネリコ：3、ヤナギ：3の順であり、他の各属、クワ、イヌエンジュ、クルミ、アサダ、カバノキ、ハンノキ、サクラ、カエデ、ツル性植物は1～2と少量であった。

③ 土壌

a 1号土壌

12属中、トネリコ属が10と多く、ヤナギ、ニワトコの各属が3とやや多い。その他は少量であり、モミ、ニレ、エノキ、クワ、キハダ、クルミ、ハンノキ、ニシキギ、カエデの各属とツル性植物であった。

b 2号土壌

全10点中でヤナギ属が7点を占め、他にはニレ、キハダ、アジサイの各属が1点ずつであった。

c 3号土壌

7属中でやや多いのがハンノキ属であるが、他と大きな差はない。他にはニレ、キハダ、トネリコ、ヤナギ、クルミ、カエデが認められた。

d 4号土壌

15属中、ヤナギ属が5と多く、ニレ、トネリコ、クルミの各属が2～3とやや多い。その他は少量で、イチイ、コナラ、エノキ、クワ、ニガキ、トネリコ、ハコヤナギ、カバノキ、ハンノキ、カツラ、サクラ、ニワトコの各属とツル性植物が認められた。樹皮も8とかなり多いが、樹種の特定はできない。

e 5号土壌

15属中、多いものはニワトコ、ヤナギの各属が各々5であり、ニレ、トネリコの各属も各々3とやや多い。その他は少量で、モミ、トウヒ、コナラ、イヌエンジュ、キハダ、クルミ、カバノキ、カツラ、サクラ、ニシキギ、カエデの各属とツル性植物が認められた。樹皮も5と多く、他に、草本類も少数認められた。

f 6号土壌

10属中多いものはトネリコ、ニレ、クルミ、ヤナギの各属が順に、8、5、5、5であり、その他のクワ、イヌエンジュ、カバノキ、ハンノキ、カエデ、ニワトコの各属は少量であった。樹皮も3とやや多く、草本類も少量認められた。

各土壌間では、トネリコ属の多いもの（1号、6号）、ヤナギ属の多いもの（1号、2号、4号、5号、6号）等、変化に富み、竪穴のバインダー含浸材や覆土材でトネリコ属が多いのとは様相を異にする。また、草本と考えられる炭化物が認められる。

④ 炭化物マウンド

本遺構内では、炭化物層も複雑に入り組み、ある樹種では遺構内で偏在する等の傾向が認められるため、1×1mの小グリッドごとにかけて鑑定を行なった。

遺跡内でも最高の20属が認められ、ニレ、ヤナギ、トネリコ、クルミ各属の順に多く、量は、85、78、67、36であった。その他としては、モミ、コナラ、エノキ、クワ、イヌエンジュ、キハダ、ハコヤナギ、アサダ、カバノキ、ハンノキ、カツラ、モクレン、アジサイ、サクラ、カエデ、ニワトコの各属とツル性植物が認められた。遺構内では、北側に偏

在する樹種（モミ、クルミの各属）、南側に偏在する樹種（エノキ、キハダ、アサダ、ハンノキ、モクレン、アジサイ、カエデの各属）、やや西側に偏在する樹種（コナラ、カツラ、サクラの各属）がある。他に、わずかではあるが草本も認められた。

⑤ 焼土・炭化物

№.16：全8属。ヤナギ属がやや多い。その他はニレ、エノキ、クワ、トネリコ、クルミ、ハンノキ、ニワトコの各属とツル性植物。

№.18：ヤナギ属が少量。

№.19：全6属。ニレ属やや多い。その他はヤナギ、クワ、キハダ、トネリコ、ニワトコの各属が少量。

№.21：全10属。ニレ属やや多い。その他は、イチイ、エノキ、クワ、トネリコ、ヤナギ、カツラ、サクラ、カエデ、ニワトコ、の各属とツル性植物。樹皮も多い。

№.22：ヤナギ属とツル性植物が少量。

№.25：全7属。量的差異はなく、ニレ、クワ、ヤナギ、クルミ、カバノキ、サクラ、ニワトコの各属。

№.27：コナラ、ヤナギ、サクラ、ニワトコの4属。量的差異はない。

№.30：全6属。量的差異はない。ニレ、クワ、イヌエンジュ、トネリコ、ヤナギ、カエデの各属。

№.32：ニレ、トネリコ、ヤナギの各属にツル性植物。量的差異はない。

№.37：イヌエンジュ、ヤナギ、ニワトコの3属が少量。

№.38：ヤナギ属が少量。

№.40：ハンノキ属のみ。

№.41：全6属。ニレ、クワ、キハダ、トネリコ、ヤナギ、カバノキの各属とツル性植物。量的差異はない。

№.43：全11属。トネリコ属が15と多く、ニレ属も3とやや多い。他は少量で、クワ、キハダ、ニガキ、ヤナギ、クルミ、アサダ、ハンノキ、サクラ、カエデの各属とツル性植物。

№.44：ツル性植物のみであるが、ブドウ属とは、若干異なる。

№.47：全6属中、ツル性植物が5と多く、他は少量。ニレ、トネリコ、ヤナギ、アサダ、ハンノキ、ニワトコの各属。樹皮も5と多く、草本類も少量。

№.48：ニレ、ヤナギ、クルミ、ニワトコの4属で量的差異はない。

№.49：全5属中、ニワトコ属が5、ツル性植物も6と多く、コナラ、ヤナギの各属も各々3とやや多い。他にはカエデとアジサイの各属が少量。

№.51：ヤナギ属とツル性植物。

№.52：全12属中、トネリコ属が15と多く、ニレ、クルミの各属も各々3と多い。他には、ヤナギ属が3、コナラ、カエデ、ニワトコの各属が2とやや多く、トウヒ、クワ、イヌエンジュ、ハンノキ、ニシキギの各属とツル性植物は少量。

№.54：全6属。ヤナギ属がやや多い。ニレ、クワ、トネリコ、カエデ、ニワトコの各属は少量。

№.58：全7属。量的差異はない。ニレ、クワ、キハダ、トネリコ、ヤナギ、クルミ、ハンノキの各属とツル性植物。

№.59：全6属。量的差異はない。ニレ、クワ、トネリコ、クルミ、カバノキ、カエデの各属。

№.60：サクラ属のみ。

№.61：ヤナギ、ニワトコの各属。

№62：3属のみであるが、トネリコ属が15と多い。他にはニレ、クルミ各属が少量。

№64：全4属。量的差異はない。ニレ、クワ、イヌエンジュ、ヤナギの各属とツル性植物。

№65：ニレ、クワ、トネリコ、ヤナギの4属で、量的差異はない。

№68：全8属中で、ヤナギ属が3とやや多い。その他は少量で、コナラ、ニレ、クワ、イヌエンジュ、トネリコ、ハンノキ、カエデの各属とツル性植物。

№69：ヤナギ、カエデの各属。

№70：全10属中、トネリコ属が20と多く、ヤナギ、カエデの両属も5と多い。他は少量で、コナラ、ニレ、エノキ、クワ、イヌエンジュ、カツラ、コワトコの各属とツル性植物。

№71：ヤナギ属とツル性植物。

№72：全9属中、トネリコ属が15と多く、クルミ属もやや多い。他は量的差異がなく、クワ、ハコヤナギ、ヤナギ、ハンノキ、カツラ、モクレン、ニワトコの各属とツル性植物。

焼土では、炭化材のない遺構や12属あるものまで、また樹種間で量的差異のないものからかなり大きいものまで、樹種数や個体数が各遺構ごとに多様である。しかし、トネリコ属に関しては若干の傾向が認められる。トネリコ属が他樹種より多い遺構は、№.43, 52, 62, 70, 72の5地点であるが、それらは全て遺跡の西側に偏在している。また、これら5地点では、№.62を除き、全て1地点内で10種以上と樹種数も多い地点である。また、1地点内で1～2属のみと少ないのは、№.18, 22, 38, 40, 44, 51, 60, 61, 69, 71の10地点であるが、樹種は、ヤナギ、ハンノキ、サクラ、カエデ、ニワトコの各属とツル性植物のうちのいずれかであり、焼土全体としては量的に多く認められたトネリコ、ニレ、クルミの各属を含まないのが特徴である。

Tab.Ⅱ-16においては、各樹種の出土遺構数および各遺構ごとの樹種数も示したが、各樹種の遺跡内での分布の様相をPL.Ⅱ-27～30に示す。

出土遺構数は、検索全47箇所（バインダー含浸材3、浮遊選別材44）中で最も多く認められたのが、ヤナギ属の42箇所であり、以下ニレ属：31、トネリコ属：28等の順であり、最も少ないものは、イチイ属：2、トウヒ属：2、ミズキ属の2箇所等であった。

また、各遺構内での樹種数は、ツル性植物を含めて炭化物集積遺構内（炭化物マウンド）での21を最高に、5号土壇：16、2号堅穴住居跡覆土：15、4号土壇：15等で多く、焼土内では全般的に樹種数は少なく、1種のみ遺構が5箇所ある。

以上に樹種鑑定結果の概要を記したが、遺跡全体の炭化材量の樹種別の比較の目安として、検索済炭化材量を多いものから順にTab.Ⅱ-17に示す。

浮遊選別材の重量は、各遺構ごとに無作為抽出し、鑑定を行っていることから、各樹種ごとの炭化材量比較の目安となりうるが、原形での個体数把握の根拠とはならない。例えば、大径材一本と小枝材二本では、前者が大量に認められるものの、個体数はあくまで一点である。また、同条件で炭化した場合には、大径材の残存率が明らかに高いものと推定され、また、樹種的にも差があるものと考えられる。従って、個体数が重要な意味を持つ場合には、この種の炭化材量の値は参考とされない。

しかし、本遺跡中の炭化材については、堅穴等の構造材と推定される材についてはバインダー含浸させ個体数が把握されており、その他については、燃料用材が大部分であるものと思われ、利用樹種やその中の主要樹種の概略が分れば十分であるように思われる。

先の例であれば、個体数が仮に少ないにしても、大径材であれば、主要利用樹種と考えて問題ないであろう。

遺跡全体の炭化材量は、多いものから順に、トネリコ、ヤナギ、ニレ、クルミ、カエデの各属でありTab.Ⅱ-17、中でもトネリコ属は堅穴で特に多く、その他の遺構においても全体的にみれば主要な材である。また、ヤナギ、ニレ、クルミの各属も各遺構で多く、やはり主要樹種といえるであろう。しかし、既述したように、各遺構ごとに利用樹種や主要樹種に違いがみられ、各遺構ごとに検討の要のあることはいうまでもない。また、出土炭化材全量からみれば、堅穴内覆土については全量の約5%、同様に土壌では8%、炭化物集積遺構（炭化物マウンド）では9%、焼土では15%を検索したにすぎず、あくまでも一般傾向を把握したにすぎない。

以上の結果を基に、既述の項目別に炭化材について検討を進める。

▶ バインダー含浸材と覆土材

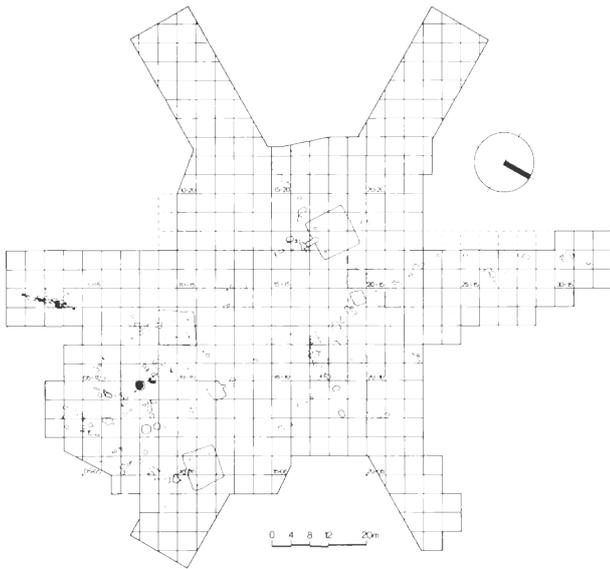
家屋等の構造材の一部と考えられるバインダー含浸材は、堅穴中では、2号で7点中5点、3号で45点中29点がトネリコ属であり、トネリコ属が両堅穴に共通の構造材の主要樹種であるものと考えられる。また、2号堅穴の他2属、ヤナギとクルミは、3号堅穴でも認められており、両堅穴に共通の構造材としては、トネリコ、ヤナギ、クルミの3属が挙げられる。これらの事実からも、両堅穴の家屋建築様式は樹種的な意味で類似しているも

Tab. Ⅱ-16 炭化材の樹種

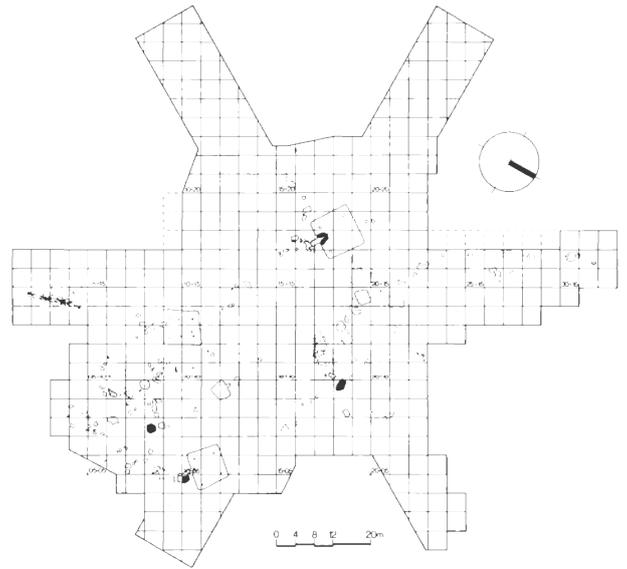
No.	属名	代表的樹種	出土遺構数	2号堅穴住居					3号堅穴住居		土壌					
				バインダー含浸材	覆土	かまど	かまどまわり	煙道	バインダー含浸材	覆土	1号	2号	3号	4号	5号	6号
1	イチイ (<i>Taxus</i>)	イチイ*	2											○		
2	モミ (<i>Abies</i>)	トドマツ	4			○				○					○	
3	トウヒ (<i>Picea</i>)	アカエゾマツ	2												○	
4	コナラ (<i>Quercus</i>)	ミズナラ	10		○	○							○	○		
5	ニレ (<i>Ulmus</i>)	ハルニレ	31		○	○	○		○(2)	○	○	○(1)	○	○	○	○
6	エノキ (<i>Celtis</i>)	エゾエノキ	6										○		○	
7	クワ (<i>Morus</i>)	ヤマグワ	25			○	○	?	?(1)	○	?			○		○
8	イヌエンジュ (<i>Maackia</i>)	イヌエンジュ	11				○			○					○	○
9	キハダ (<i>Phellodendron</i>)	キハダ	12		○				○(3)	○	○	○(1)	?		○	
10	ニガキ (<i>Picrasam</i>)	ニガキ	3		○									?		
11	トネリコ (<i>Fraxinus</i>)	ヤチダモ	29	○(5)	○	○	○		○(29)	○	○		○	○	○	○
12	ハコヤナギ (<i>Populus</i>)	ドロノキ	5		○	○								○		
13	ヤナギ (<i>Salix</i>)	エゾノカワヤナギ	42	○(1)	○	○	○	○	○(4)	○	○	○(7)	○	○	○	○
14	クルミ (<i>Juglans</i>)	オニグルミ*	21	○(1)	○	○	○		○(2)	○	○		○	○	○	○
15	アサダ (<i>Ostrya</i>)	アサダ	4							○						
16	カバノキ (<i>Betula</i>)	シラカンバ	12		○	○	○		○(3)	?				?	?	○
17	ハンノキ (<i>Alnus</i>)	ハンノキ	16		○	?				○	○		○	○		○
18	カツラ (<i>Cercidiphyllum</i>)	カツラ*	7				○						?	?		
19	モクレン (<i>Magnolia</i>)	ホオノキ	5		○	○	○									
20	アジサイ (<i>Hydrangea</i>)	ノリウツギ	4		○							○(1)				
21	サクラ (<i>Prunus</i>)	エゾヤマザクラ	10		○					○				○	?	
22	ニシキギ (<i>Euonymus</i>)	マユミ	6		○	○	○				○				○	
23	カエデ (<i>Acer</i>)	イタヤカエデ	18		○				○(1)	○	○		○		○	○
24	ミズキ (<i>Cornus</i>)	ミズキ	2		○		○									
25	ニワトコ (<i>Sambucus</i>)	ニワトコ	20				○				○			○	○	○
26	ツル性植物 (<i>Vitis</i> 等)	ヤマブドウ等	24				○	○		○	○			○	○	
樹種数				3	15	12	14	3	8	13	13	4	7	16	16	10

注1. バインダー含浸材には（*）内に点数表示をした。
 2. ? はやや不確実なもの
 3. 種名が同定されたものには*印

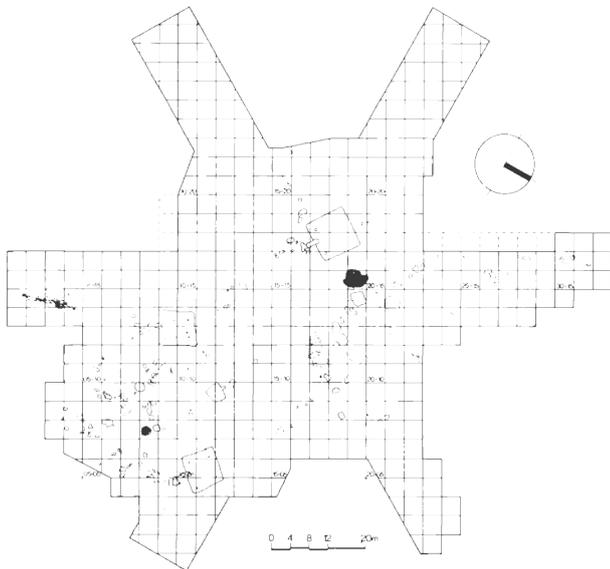
PL. Ⅰ-27 炭化材の樹種別分布①



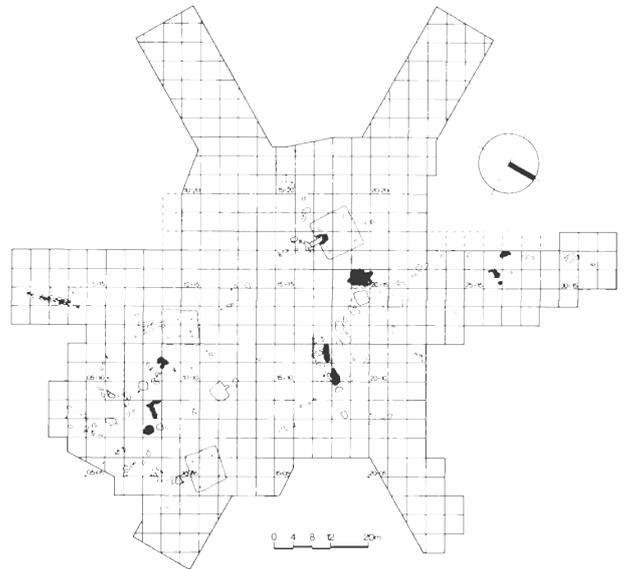
1 イチイ



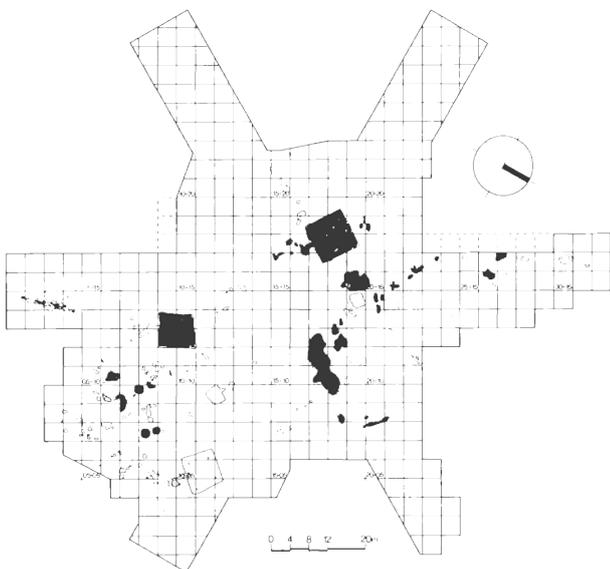
2 モミ属 (トドマツ等)



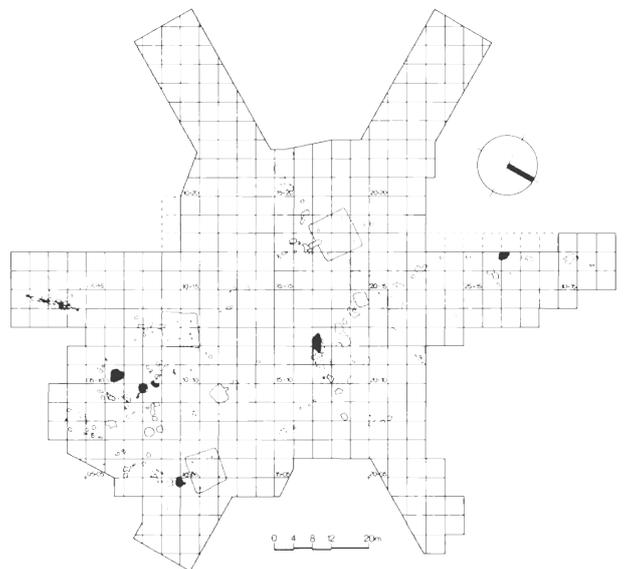
3 トウヒ属 (アカエゾマツ等)



4 コナラ属 (ミズナラ等)



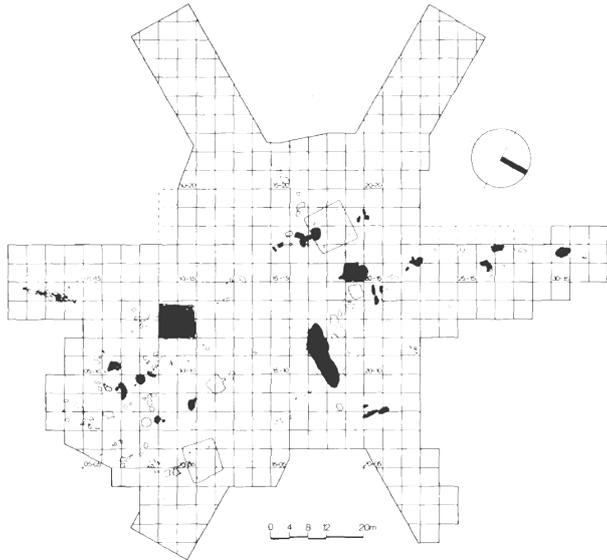
5 ニレ属 (ハルニレ等)



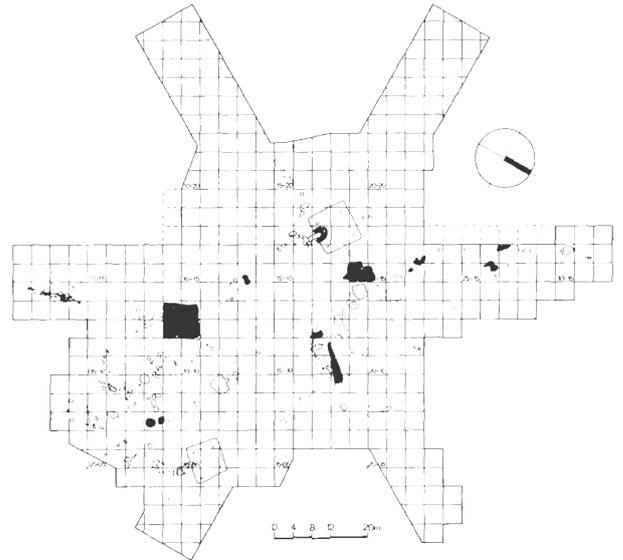
6 エノキ属 (エゾノキ等)

(注：ミズキは、HP₂覆土中およびカマドまわりに認められたが図からは制愛した)

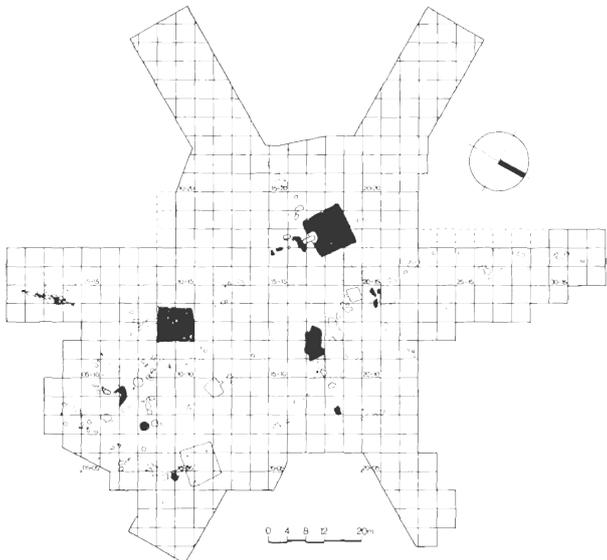
PL. Ⅱ-28 炭化材の樹種別分布②



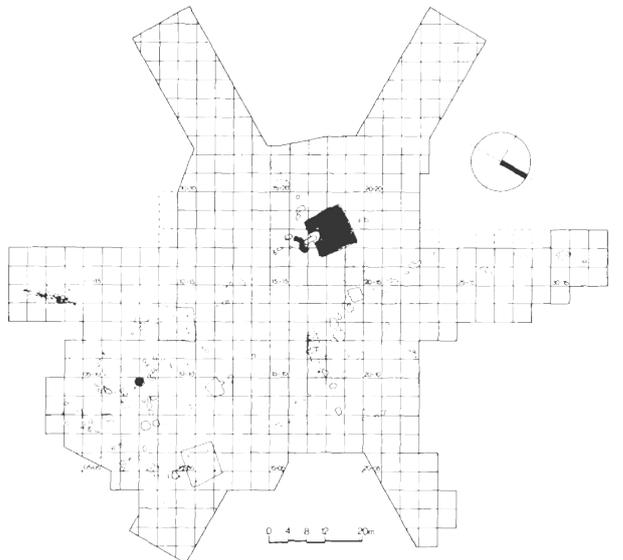
7 クワ属 (ヤマグワ等)



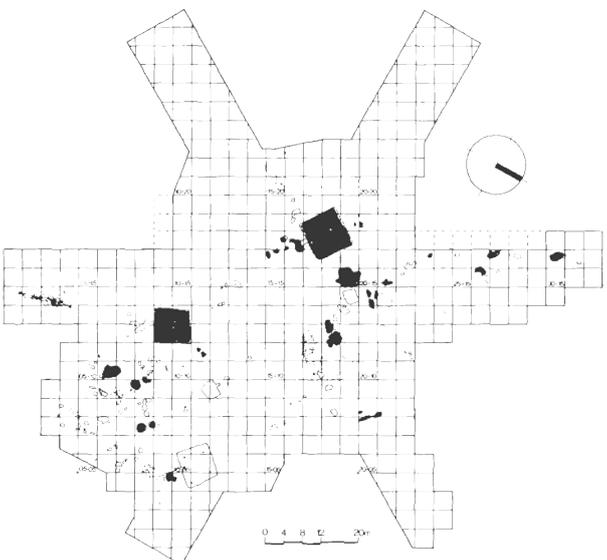
8 イヌエンジュ



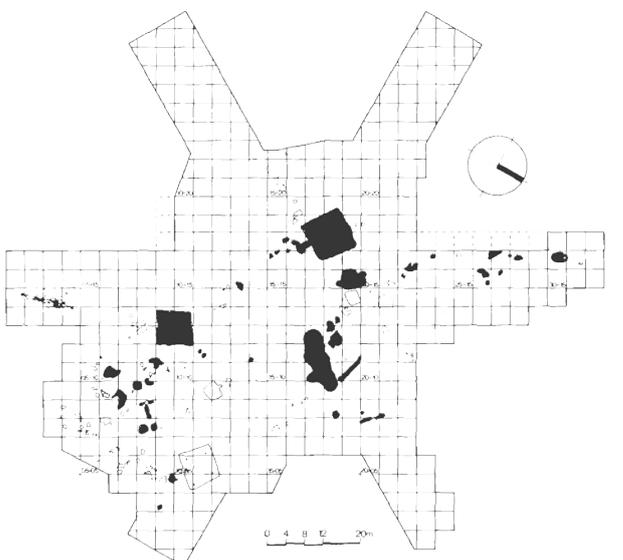
9 キハダ属 (キハダ等)



10 ニガキ

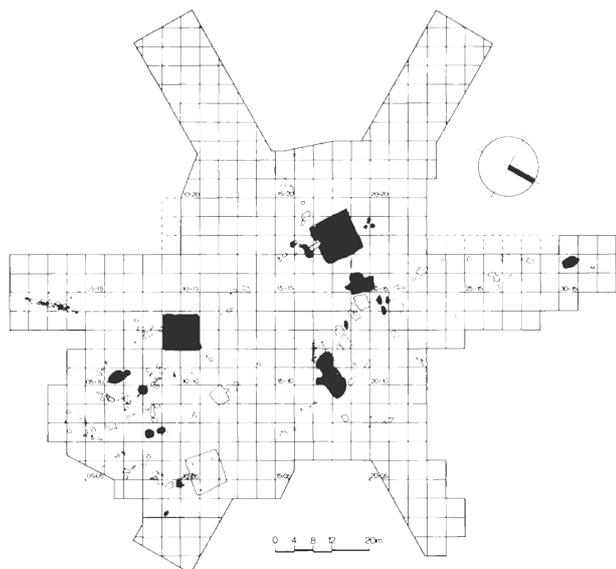


11 トネリコ属 (ヤチダモ等)

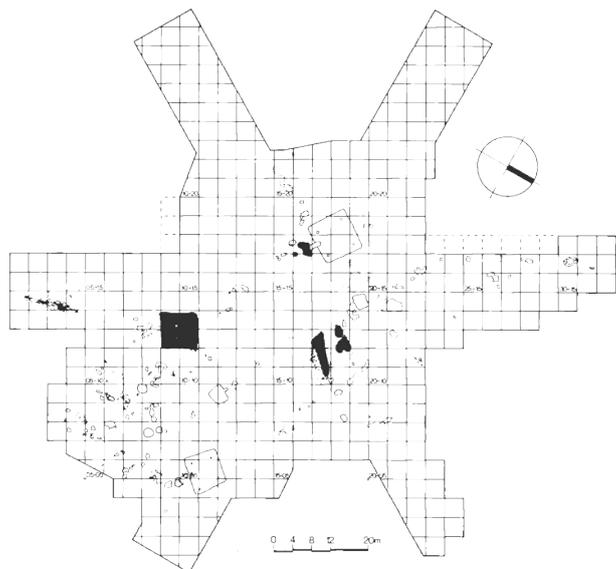


12 ヤナギ科 (ドロノキ, エゾノカワヤナギ等)

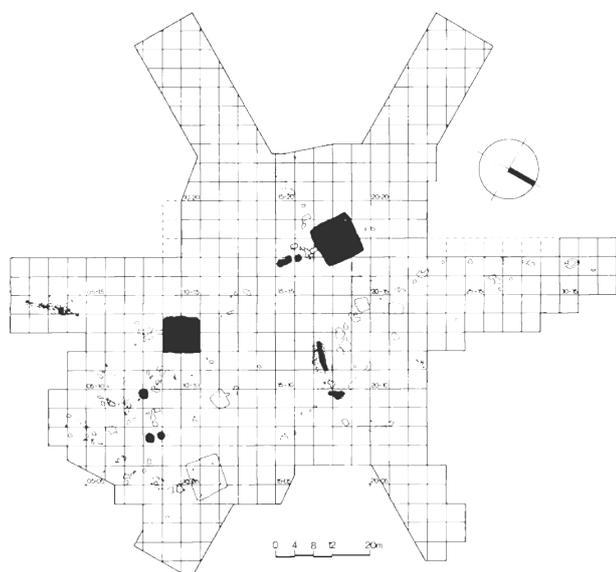
PL. ①-29 炭化材の樹種別分布③



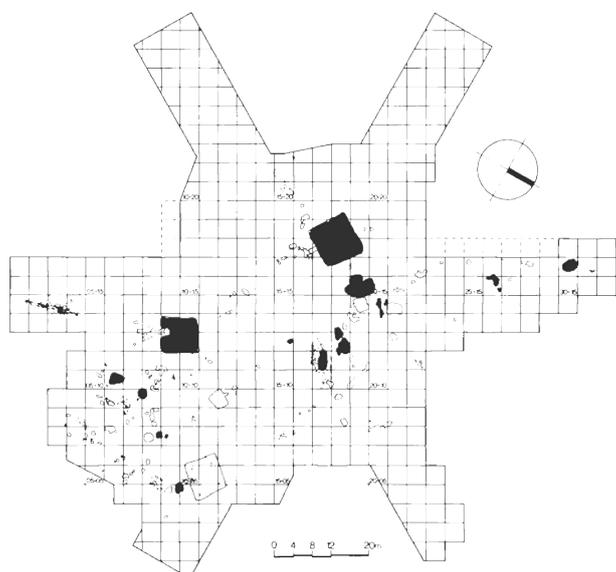
13 オニグルミ



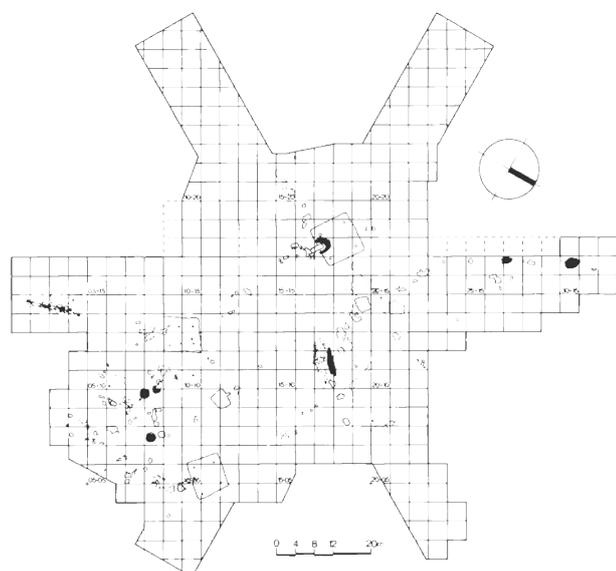
14 アサダ



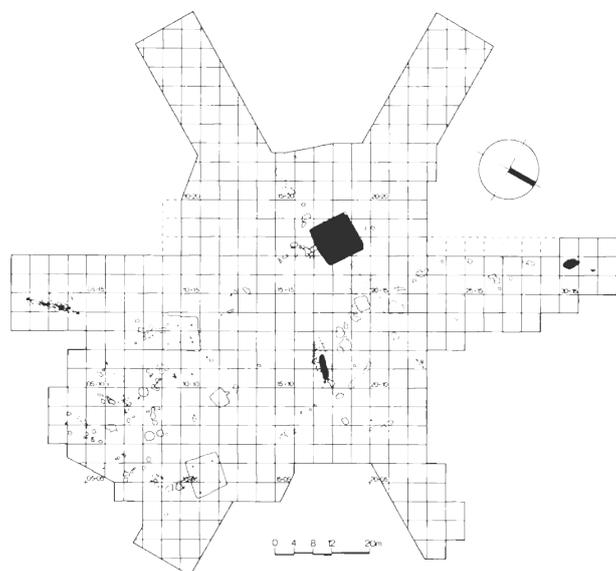
15 カバノキ属 (シラカンバ等)



16 ハンノキ属 (ハンノキ等)

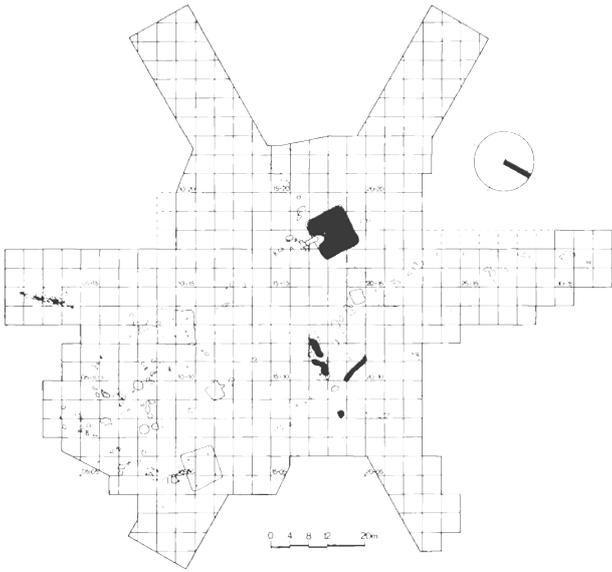


17 カツラ

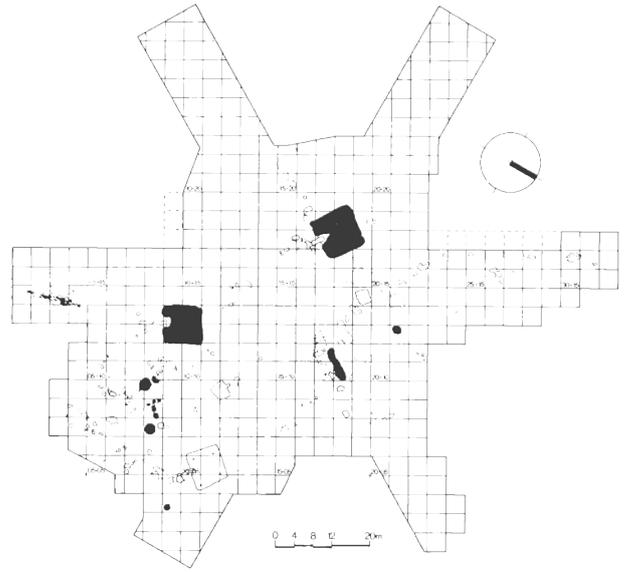


18 モクレン属 (ホオノキ等)

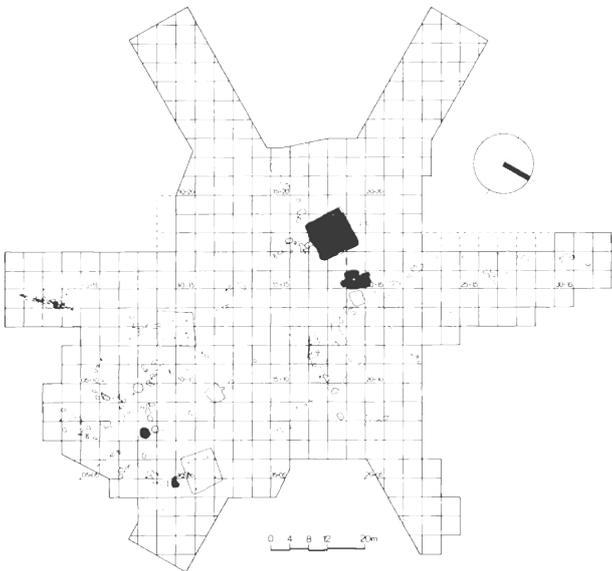
PL. Ⅱ-30 炭化材の樹種別分布④



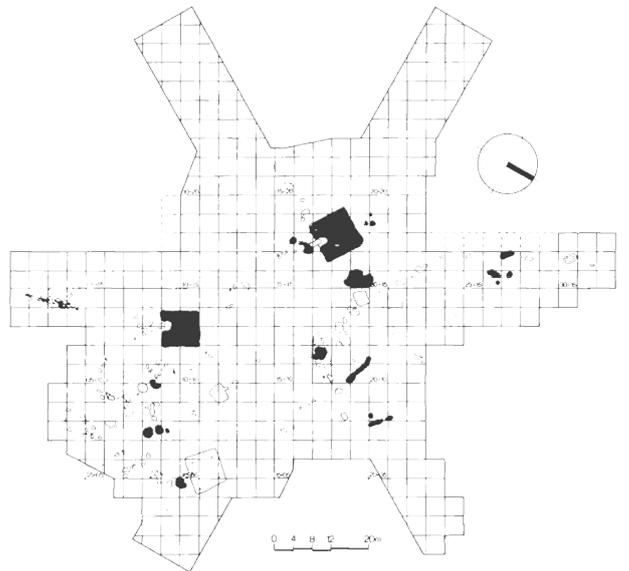
19 アジサイ属 (ノリウツギ等)



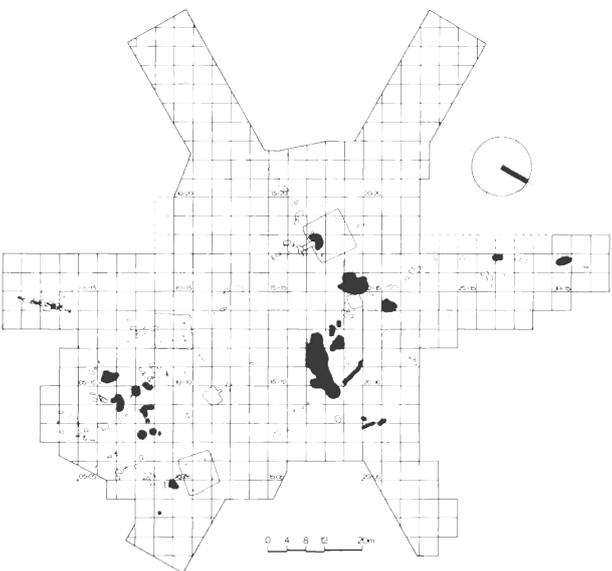
20 サクラ属 (エゾヤマザクラ等)



21 ニシキ属 (マユミ等)



22 カエデ属 (イタヤカエデ等)



23 ニワトコ属 (エゾニワトコ等)



24 ツル性植物 (ヤマブドウ等)

エデも多いことから、2号堅穴においてもそれらが構造材として使用されていた可能性が強いように思われる。これからの事実からみれば両堅穴の家屋建築様式は、樹種的には類似し、構造材としてはトネリコ属が大部分を占め、補助的にニレ、クワ、キハダ、クルミ、カバノキ、カエデの各属が使用されていたものと推定される。覆土中のその他の樹種も構造材として利用されていた可能性があるが、量的にも少なく、道具や薪材である可能性の方がより高いように思われる。

堅穴ではトネリコ属材が主要樹種であるのに対して、2号土壙ではバインダー含浸材10点中7点がヤナギ属と、堅穴とはやや異なる樹種選択であり、やや異なる性質の構造物であったかもしれない。しかし、2号土壙中のニレ、キハダ、ヤナギの各属は3号堅穴の構造材としても認められており、主要樹種は異なっているが、全く異なる樹種が利用されているわけではない。2号土壙中で認められたアジサイ属はノリウツギと推定されるが、小個体であり、道具類の一部と考えられる。これはテシ中で認められたヤス・中柄と同一樹種であり興味深い。

バインダー含浸材が構造材であるものとの前提で考察してきたが、テシとその周辺から出土した材と比較するならば、さらに興味深い事実が認められる。テシ中の割材の廃材はトネリコ属であり、その上流部から出土した割材はキハダ属であった。これら2属の個体は当時の家屋構造材の一部と考えて問題ないものと思われ、これらが3号堅穴の構造材と一致することは、テシと周辺部堅穴との関係を知る上で大きな手がかりとなるように思われる。

▶カマド材、カマドまわり材、煙道材

カマド材は燃料用材と考えられるが、12属中でトネリコ属がやや多い程度で、樹種ごとの量的差は少なく、針葉樹、広葉樹等幅広く利用していたものと考えられる。多くの場合、年輪の曲率からみて枝材が多く、比較的出土地点数の少ない樹種（モミ、コナラ、モクレン、ニシキギの各属）をも含むのが特徴である。また、焼土中で頻繁に認められるニワトコ属、ツル性植物を含まないのも特徴的である。

カマド材は、ある程度炭化し燃え残りが蓄積された時点で堅穴外へ捨てられたであろうが、場所としては、全12属中11属を共有する炭化物集積遺構（炭化物マウンド）の可能性が高いかもしれない。

カマドまわり材は、13属と多いが、トネリコ属材が極端に多いのは、覆土材の一部が混入したのかもしれない。ツル性植物が多いのは、カマド材の一部とも考えられず、用途は不明である。

煙道では殆ど炭化材は認められない。

▶土壙材

土壙材は各遺構ごとで構成樹種も異なり、また主要樹種も異なるなど変化に富み、各遺構の性格付けを木材からの情報だけで行なうのは困難である。しかし、4号と6号では、量的にトネリコ、ニレ、クルミ、ヤナギの各属が多く、炭化物集積遺構（炭化物マウンド）と類似している。また、1号と5号では、トネリコ、ヤナギ、ニワトコが量的に多い点、さらに出土地点数の少ないモミ、ニシキギの各属を含む等の点においては、類似している。2号と3号は、樹種数も少なく、他とはやや性格の異なる遺構のようである。

▶炭化物集積遺構（炭化物マウンド）

炭化物集積遺構（炭化物マウンド）では、小グリッドごとの検索により、遺構内で分布

傾向の異なる樹種が認められたが、それらは特に他の遺構との関係を示すものではない。炭化材全体で全25属のうち他遺構にあって本遺構にないものは、イチイ、トウヒ、ニガキ、ニシキギ、ミズキの5属であり、全て出土遺構数の少ない樹種である。炭化材量や樹種数が多い点において本遺構は遺跡中でもかなり重要な意味を持つ遺構であろうが、樹種的には他の全ての遺構のそれをカバーしてしまうため逆に他遺構との関連性について言及するのが困難である。既述したように、主要樹種は堅穴の構造材とはやや異なっており、燃料用材を代表する遺構であるといえるかもしれない。

▶ 焼土・炭化物

焼土は既述したように、各遺構ごとで樹種構成等が多様であるが、No.16, 43, 52, 58の4地点では、トネリコ、ヤナギ、ニレ、クルミの4属を全て含む点において焼土以外の他の遺構と類似している。中でもNo.52は、これら4樹種が量的に多く、堅穴内覆土や炭化物集積遺構（炭化物マウンド）と類似しているが、コナラ、ニワトコの各属やツル性植物を含む等の点においてはむしろ後者と類似している。

先のバインダー含浸材樹種をとりあげると、焼土中においては、ヤナギ、ニレ、トネリコ、クワの各属が29～16地点と広く認められかつ量的にもやや多い地点がかなりあるが、カエデ、クルミ、キハダ、カバノキの各属は10～3地点と少ない。また、後4者のうち焼土中で量的に多いものは、No.52でのクルミのみである。No.52が炭化物集積遺構（炭化物マウンド）と類似し、単なる焼土とは性格を異にする可能性が強いことをからみれば、前4者（ヤナギ、ニレ、トネリコ、クワ）は、構造材、かまど用燃料材、たき火用材として幅広く利用されていたのに対して、後4者（カエデ、クルミ、キハダ、カバノキ）は構造材やかまど用燃料材として一部利用はされているものの、単なるたき火用材としてはさほど用いられていなかったのかもしれない。それらに対して、ニワトコ属やツル性植物は出土地点数も多く、量的にも多い地点がある等たき火用材としては、かなり手軽に用いられていたのかもしれない。

炭化材についての分析結果をのべてきたが、炭化材は樹種数も多いことから遺構間で完全に樹種が一致する場合は少なく、遺構間の関連性等について樹種鑑定結果のみから言及するのは困難である。したがって、Tab.Ⅱ-16や同17等から気の付く点について羅列してきたが、これらについては他の遺物と照らし合わせてさらに検討していく必要がある。しかしいくつかの点においては、明らかに樹種的な特徴を示すものと思われ、それらは以下のように要約されるであろう。

- ① 堅穴構造材は、トネリコ属が主要利用樹種であり、補助的に他樹種が用いられ、それらはニレ、クワ、キハダ、ヤナギ、クルミ、カバノキ、カエデの各属である。
- ② 堅穴以外の遺構における構造材の使用例としては1例認められ、ヤナギ属が主要利用樹種であり、他にニレ、キハダの各属も使用されている。
- ③ 各遺構ごとに主要樹種は異っていても、構造材としては上記のいずれかが使用されている。
- ④ 構造材として使用されている樹種の中で、他にも燃料用材やたき火用材として大量に使用されているものには、ニレ、トネリコ、ヤナギの各属がある。
- ⑤ 構造材として補助的に使用されていた樹種の中でもキハダ、カバノキの各属は、焼土中には少なく、たき火用材としての使用は少ない。
- ⑥ カマド用燃料材の中で7属（モミ、コナラ、ハコヤナギ、カバノキ、ハンノキ、モクレン、ニシキギ）は焼土中には極めて少なく、同じ燃料材でも樹種構成はかなり異なる。しかし、ニレ、トネリコ、ヤナギの各属は、両方で共通に使用されている。

- ⑦ 炭化材として幅広く使用されている3属（ニレ、トネリコ、ヤナギ）は、テシ中での基本骨格構造材の構成樹種であり、また、堅穴構造材の主要樹種であるトネリコ属は、テシ中においても骨格構造材の主要樹種である。

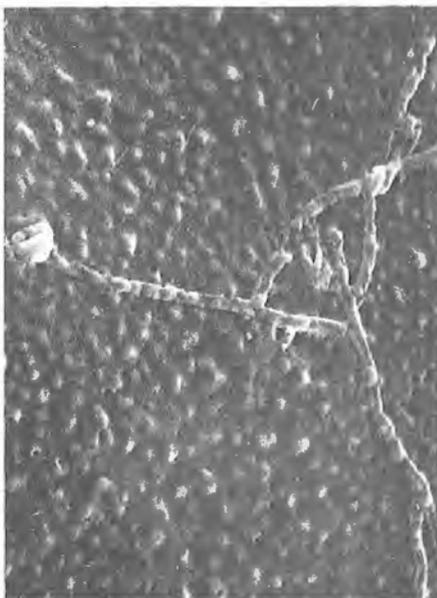
以上結果に加えて、炭化材の組織構造観察から得られた若干の知見についてのべる。炭化材をSEMにより観察した所、組織中には腐朽菌の菌糸や腐朽劣化跡、また泥状物質の沈着がしばしば認められた。これらは、一部の木材が、風倒や伐倒等の後に、かなりの時間放置されていたことや、河川流木であったことを示すものと考えられる。泥状物質の沈着は、炭化後の埋没中にも起こりうるであろうが、菌糸が炭化以前に繁殖していたことは確実である。PL.Ⅱ-31の1と2には、モミ属とサクラ属の炭化材中における菌糸を、同の3にはコナラ属の小道管の腐朽がかなり進んだ例を示す。

樹種的には、針葉樹や広葉樹等にかかわらず菌糸が認められるが、バインダー含浸材や堅穴覆土中のトネリコ属材では菌糸侵入や腐朽の例は少なく、かなり良質の木材を使用していたものと推定される。それに対して焼土中の木材では、菌糸侵入の例は多い。しかし、同3に示したような顕著な腐朽の例は少なく、少なくとも河川流木のような木材の使用は少なかったものと思われる。また、構造材については、家屋建立後に長年を経たものならば環境条件によっては木材は腐朽劣化するものと考えられるが、それも少ないようであり、建立後さほど老朽化しない状態のまま火災にあったものと考えられる。

枯枝等に時間的にどの程度菌糸が侵入するかについての報告は少なく、明確な判断はできないが、木材腐朽菌は一般的にさほど高温、多湿でなくとも繁殖することが知られている。1や2に示した程度の菌侵入は、外観的に異常が認められない木材においてもみられる例であり、これらはかなり腐朽が激しい例といえ、流木等かもしれない。

従って、本遺跡中の燃料用材は、外見上では少なくとも腐朽がわからない程度の材を利用していたものと考えられ、流木等は少なかったものと推定される。それは、テシの自然流木中で、ハンノキ属個体が多数みられるのにもかかわらず、炭化材はさほどの量ではないこととも一致している。構造材としては伐倒後の良材を、燃料用材としてはそれらの枝材に加えて枯枝や枯れた低木等を利用していたのではなかろうか。

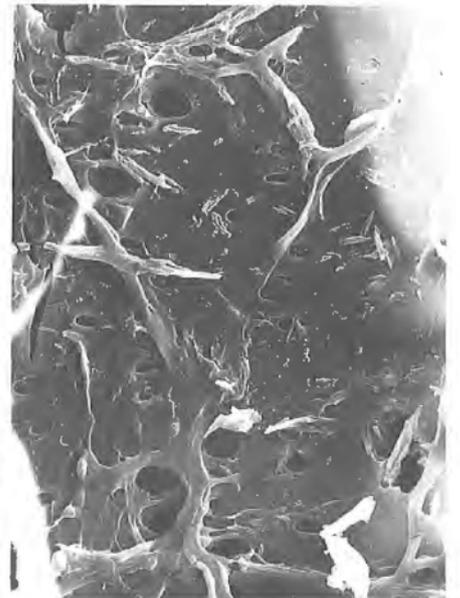
PL. Ⅱ-31 炭化材中の木材腐朽菌



1 モミ属炭化材の仮道管中の菌糸(×11,450)



2 サクラ属炭化材の道管中の菌糸(×2,820)



3 コナラ属炭化材の小道管内表面の腐朽状態(×1,140)

また、カマドや焼土の燃料用材では、枝材が多いことについては、それらの採取が容易であったことに加えて、木材の乾燥にも関係していたものと考えられる。例えば、頻繁に使用されているニレ属やトネリコ属でハルニレやヤチダモを利用していたとすれば、それらが多湿心材をもち心材部では伐倒後にもかなりの水分を含んでいることからみて大径木の伐倒直後の使用は困難であり、心材部が少なく乾燥しやすい枝を利用していたものであろう。

② 樹種同定の根拠, 写真の説明

サクシュコトニ川遺跡においては、テンの木材と竪穴、土壇、焼土、炭化物集積遺構の炭化材について樹種鑑定を行ない、前者では19科24属、後者では20科25属、全22科28属を同定した。それらの一覧表をTab. [1]-18に示し、以下にはそれらの同定の根拠、および鑑定結果の写真を示す。なお、同定にあたっては、既往の報告 (Ohtani&Ishida 1976, 1978 a, 1978 b, 島地, 伊東 1982) および手持の材鑑と比較検討し、鑑定を行なった。

以下の樹種説明および写真の配列は、針葉樹、広葉樹の環孔材・散孔材、同定できなかったものの順とし、それらの中での配列順序や学名は、大井次三郎の日本植物誌 (大井 1978) に従った。テン木材の写真番号はアラビア数字で、炭化木材のそれは算用数字で表示してある。1組の写真 (例えば 1a, 1b, 1c) では大部分のものについては木口面、板目面、らせん肥厚等の特徴的な細胞壁変異の微細形態の順に配列してあり、それらは全て同一個体の試料から得たものである。中には各樹種の典型的な組織・構造特徴を示さない写真もあるが、それは、枝やこぶ等のやや一般組織と異なるものが含まれていたり、腐朽等の影響により多少細胞壁形態が変化している場合があることによる。サクシュコトニ川遺跡から出土した木材の樹種同定の根拠、組織・構造の特徴は以下のとおりである。

1 イチイ (*Taxus cuspidata* Sieb. et Zucc.) [PL. [2]-348, PL. [2]-360]

材は仮道管と放射柔細胞からなり (Ia, 1a), 分野壁孔はヒノキ型とトウヒ型の間である (Ib, 1b)。仮道管の内壁にはらせん肥厚が常に存在する (Ic, 1c)。1bの左側の仮道管内壁には菌糸が認められる。

2 モミ属 (*Abies*) [PL. [2]-348, PL. [2]-360]

材は仮道管と放射柔細胞からなり (IIa, 2a), 晩材部の幅は狭い。分野壁孔は典型的なスギ型であり (IIb, 2b), 仮道管内壁にはいぼ状層が存在する (IIc, 2c)。放射柔細胞の壁は厚く、じゅず状末端壁を有する。トドマツ (*Abies sachalinensis* <Fr. Schm.> Masters) と推定される。

3 トウヒ属 (*Picea*) [PL. [2]-348, PL. [2]-360]

材は仮道管、放射柔細胞、放射仮道管およびエピセリウム細胞からなり (IIIa, 3a), 分野壁孔はトウヒ型である (IIIb, 3b)。板目面では、水平樹脂道を含む紡錘形の放射組織がみられる (IIIc, 3c)。アカエゾマツ又はエゾマツと推定されるが、大量に出土した球果はアカエゾマツが大部分を占めており、アカエゾマツ (*Picea glehni* <Fr. Schm.> Masters) の可能性が強い。

4 コナラ属 (*Quercus*) [PL. [2]-349, PL. [2]-361]

環孔材であるが、孔圏外の道管は急に大きさに減じ、やや放射状に配列する (IVa, 4a)。孔

圏部の大道管にはチロースが認められる(IVa)。放射組織は、単列および広放射組織のみからなり(IVb,4b)、中間形ものは存在しない。ミズナラやヨナラ等が推定されるが、孔圏外小道管が接線方向にかなり大きな幅で配列するものも認められ、カンワも存在するものと推定される。なお、Ohtaniらによれば、ミズナラ小道管には特異的肥厚(Localized thickenings)が認められるとの報告(Ohtani&Ishida 1978b)があるが、その確認はできなかった。

5 ニレ属(*Ulmus*) [PL.2-349, PL.2-361]

環孔材であり、孔圏外では多数の小道管が接合して複合管孔を形成し、接線方向にかなり規則的に配列する(Va, 5a)。放射組織は1~6細胞幅で、同性である(Vb, 5b)。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する(Vc, 5c)。ハルニレ又はオヒョウと推定される。

6 エノキ属(*Celtis*) [PL.2-349, PL.2-361]

環孔材で、孔圏外の小道管は多数集まって円形等のやや不規則な集団管孔をなす(VIa, 6a)。放射組織は1~2細胞幅の小型のものと7~10細胞幅の大型のものがあり、中間のものはない(Vb, 6b)。板目面では放射組織が異性であることは確認しづらいが、6bの左上の放射組織の下側では方形細胞が認められる。本属では鞘細胞の存在が特徴的であることが知られているが、本検体ではその確認が困難であった。小道管には、常に顕著ならせん肥厚が存在している(Vc, 6c)。エゾエノキ(*Celtis jessoensis* Koidz.)と推定される。

7 クワ属(*Morus*) [PL.2-350, PL.2-362]

環孔材で、孔圏部では2~3個の道管が複合し、孔圏外では小道管が複合して円形状をなす(VIIa, 7a)。道管内にはチロースが認められ(VIIa, 7a, 7b)、放射組織は1~6細胞幅で異性である(VIIb, 7b)。小道管のらせん肥厚は一般的に走行方向が不規則なものが多いが、VIIcと7cではかなり規則的である。炭化材検体についてはヤマグワ(*Morus bombycis* Koidz.)と推定され、全く問題がないが、テシの検体についてはややらせん肥厚が規則的すぎ、他属樹種である可能性も否定できない。

8 イヌエンジュ属(*Maackia*) [PL.2-350, PL.2-362]

環孔材であるが、孔圏部から孔圏外への道管の大きさの移行はゆるやかであり、年輪界付近には小道管の集団管孔の不規則な配列がみられる(VIIIa, 8a)。放射組織は1~8細胞幅で同性であり(VIIIb)、板目面では小道管が層階状配列をなすことがわかる(8b)。小道管には顕著ならせん肥厚が認められ(8b, 8c)、マメ科等の特有のベスチャード壁孔が認められる(VIIIc, 8c)。イヌエンジュ(*Maackia amurensis* Rupr. et Maxim. var. *buergeri* <Maxim.> C.K.schm.)と推定される。

9 キハダ属(*Phellodendron*) [PL.2-350, PL.2-362]

環孔材であり、孔圏部では大道管が2~3個接して存在する(IXa, 9a)。放射組織は、1~4細胞幅で同性であり(IXb, 9b)、小道管には顕著ならせん肥厚が認められる(9c)。また、大道管にも不規則ではあるがらせん肥厚が存在する(IXc)。キハダやヒロハノキハダ等と推定される。写真IXaと9aとでは、同属であるにもかかわらず木口面での形状がかなり異って見える。

10 ニガキ(*Picrasma quassioides* <D. Don> Benn.) [PL.②-363]

環孔材であり、孔圏部道管は大きく、孔圏外では急激に大きさを減じる(10a)。放射組織は1~5細胞幅であるが、高さは4から時には20細胞高と不揃いであり異性である(10b)。道管にらせん肥厚は存在しない。

11 ハリギリ(*Kalopana pictus* <Thunb.> Nakai) [PL.②-351]

環孔材であり、孔圏部道管は一列であり、孔圏外では小道管が多数接合し複合管孔を形成し斜線状に配列する(Xa)。放射組織は4~6細胞幅で異性である(Xb)。道管にらせん肥厚は存在しない。

12 トネリコ属(*Fraxinus*) [PL.②-351, PL.②-363]

環孔材であり、孔圏部道管は大きく、孔圏外では急激に大きさを減じかつ2~3個が半径方向に複合する(XIa, 11a)。放射組織は1~4細胞幅で、高さも10細胞高程で比較的均一であり同性である(XIb, 11b)。道管壁にらせん肥厚は存在しない。ヤチダモやアオダモ等が推定される。

13 ハコヤナギ属(*Populus*) [PL.②-351, PL.②-363]

散孔材であり、道管の多くは2~4個の複合管孔を形成し(XIIa, 12a)、全て単せん孔をもち、らせん肥厚は存在しない。写真12aではピスフレックスが認められる。放射組織は単列でかつ同性である(XIIb, 12b)。ドロノキ(ドロヤナギ)やヤマナラシ等が推定される。

14 ヤナギ属(*Salix*) [PL.②-352, PL.②-364]

散孔材であり、道管は2~3個の複合道管を時々形成する(XIIIa, 13a)。また、全ての道管要素が単せん孔をもち、らせん肥厚は存在しない。放射組織は単列でかつ異性である(XIIIb, 13b)。エゾノカワヤナギ、オノエヤナギ、バッコヤナギ、エゾノバッコヤナギ等が推定される。

15 オニグルミ(*Juglans ailanthifolia* Carr.) [PL.②-352, PL.②-364]

散孔材であり、大型の道管が単独又は2~3個が複合して存在し(XIVa, 14a)、チロースを含むことが多い(14a, 14b)。また、道管要素は単せん孔をもちらせん肥厚は存在しない。放射組織は1~4細胞幅であり、一般的には同性である(XIVb, 14b)。本種やサワグルミ属の特徴である、木口面でみられる柔細胞の接線方向への配列(XIVa)は、炭化材のSEM観察では認めにくい。

16 アサダ(*Ostrya japonica* Sarg.) [PL.②-364]

散孔材で、比較的大型の道管が2~3個放射方向に複合し、年輪の外境付近では大きさを減じ、かつ3~8個放射方向に複合する(15a)。放射組織は1~3細胞幅であり、また20細胞高になる場合も多く同性である(15b)。道管要素は全て単せん孔をもつが、稀には特異な形状のものもあり、分布密度や走行方向が不規則ならせん肥厚をもつことが多い(15c)。

17 カバノキ属(*Betula*) [PL.②-352, PL.②-365]

散孔材で、道管は2~5個主として放射方向に複合し(XVa, 16a)、全ての道管要素は階段せん孔をもつ(XVb, c, 16b)。放射組織は1~4細胞幅で、同性である(XVb, 16b)。

また、写真16cでは、本属特有の道管相互間の壁孔が認められる。シラカンバやウダイカンバ等が推定される。

18 ハンノキ属(*Alnus*) [PL.②-353, PL.②-3]

散孔材で、道管は2～5個が主として放射方向に複合する(XVIa,17a)。放射組織は単列かつ同性であり(17b)、集合放射組織を形成する(XVIb)。全ての道管要素は階段せん孔をもち(XVIc,17c)、らせん肥厚は存在しない。ハンノキ、ケヤマハンノキ等が推定される。

19 カツラ(*Cercidiphyllum japonicum* Sieb.et Zucc.) [PL.②-353, PL.②-365]

散孔材であり、大部分の道管は複合せず単独で分布するが、道管の数は極めて多く年輪全体を通じて平等に分布する(XVIIa,18a)。放射組織は1～2細胞幅であり異性である(XVIIb,18b)。全ての道管要素は階段せん孔をもち、Barの数も1せん孔につき20本以上と多い(XVIIc,18c)。また、らせん肥厚は存在しない。

20 モクレン属(*Magnolia*) [PL.②-353, PL.②-366]

散孔材であり、単独あるいは2～数個主として放射方向に接合した道管が平等に分布する(XVIIIa,19a)。放射組織は1～2細胞幅であり異性であるが(XVIIIb,19b)、板目面では判別しにくい。多くの道管要素は単せん孔を持ち(XVIIIc)、階段壁孔(19c)およびらせん肥厚を持つ。ホオノキは隔壁木繊維を持つことが大きな特徴であるが、炭化材では確認しにくい。ホオノキ、コブシ等が推定される。

21 アジサイ属(*Hydrangea*) [PL.②-354, PL.②-366]

散孔材であり、道管が単独あるいは2～3個複合して年輪内に平等に分布し、木口面では柔細胞が放射方向へと連続して認められるのが特徴である(XIXa,20)。放射組織は多くの場合2～3細胞幅であり、板目面では上下方向で柔細胞と接している(XIXb,20b)が、高さは3～5細胞高と低い。全ての道管要素は階段せん孔を持つ(20c)。らせん肥厚は稀に道管要素の一部に認められることが報告されているが(Ohtani&Ishida 1978b)、本検体ではその存在は確認されなかった。材鑑標本および現生木から採取した標本と比較してノリウツギと一致することから、ノリウツギ(*Hydrangea paniculata* Siebold)と推定したが、アジサイ属の他樹種である可能性も否定できない。

22 サクラ属(*Prunus*) [PL.②-366]

散孔材であり、道管は単独あるいは2～3個複合して年輪内に平等に分布する(21a)。放射組織は1～4細胞幅であり、20細胞高以上に達する 경우가多く(21b)、異性であるが、板目面では判別しにくい。全ての道管要素は単せん孔を持ち、また幅の小さいらせん肥厚をもつ(21c)が枝分れするらせん肥厚は少ない。エゾヤマザクラ、ミヤマザクラ、シウリザクラ、ウワミズザクラ等が推定される。

23 ニシキギ属(*Euonymus*) [PL.②-367]

散孔材であり、極めて径の小さい道管が年輪内に平等に分布する(22a)。放射組織は単列かつ同性である(22b)。全ての道管要素は単せん孔を持ち、かつ、らせん肥厚を持つ(22c)。また、本属では木部繊維にもらせん肥厚を持つ(22b)ことが大きな特徴である。ニシキギ、マユミ、ツリバナ等が推定される。

24 カエデ属(*Acer*) [PL.②-354, PL.②-367]

散孔材であり、単独あるいは放射方向に数個複合した道管が均等に分布するが、道管数は比較的少ない(XXa,23a)。放射組織は1~5細胞幅であり同性である(XXb,23b)。道管要素は全て単せん孔を持ち、かつ比較的不規則ならせん肥厚を持つ(XXc,23c)。本検体のらせん肥厚は隆起線が長いことから、それが短いヤマモミジ等よりもイタヤカエデに近いものと推定される。しかし、カエデ属では、本道での自生種が多種に及ぶことが知られており、ハウチワカエデ、ヤマモミジ、イタヤカエデ、アカイタヤ等が推定されるものの、樹種の特定はできない。

25 シナノキ属(*Tilia*) [PL.②-354]

散孔材であり、多くの場合道管は2~5個接合して複合管孔を形成する。(XXIa)。また、柔細胞が短接線状に並ぶことが多い(XXIa)。放射組織は1~4細胞幅であり同性である(XXIb)。道管要素は単せん孔を持ち、顕著ならせん肥厚を持つ(XXIc)。シナノキまたはオオバボダイジュであるものと推定される。

26 ミズキ属(*Cornus*) [PL.②-355, PL.②-367]

散孔材であり、道管は単独あるいは放射方向に数個複合して均等に分布する(XXIIa, 24a)。放射組織は1~4細胞幅で上下両端部付近に直立細胞が多く、異性である。(XXIIb, 24b)。道管要素は全て階段せん孔を持ち(24c)、らせん肥厚は存在しない。本属は、エゴノキ属やリョウブ属と組織が類似しているが、前者は複合道管が極めて多い点、後者は道管内での特異的肥厚を持つ点で区別できる。ミズキ(*Cornus controversa* Hemsley)であるものと推定される。

27 ハシドイ属(*Syringa*) [PL.②-355]

散孔材であり、多くの道管は複合道管を形成する(XXIIIa)。放射組織は1~2細胞幅であり、同性である(XXIIIb)。全ての道管要素は単せん孔を持ち、2本の対をなすらせん肥厚を持つ(XXIIIc)ことが大きな特徴である。ハシドイ(*Syringa reticulata* <Blume> Hara)であるものと推定される。

28 ニワトコ属(*Sambucus*) [PL.②-355, PL.②-368]

散孔材であり、道管は複合道管を多く形成し(XXIVa,25a)、紋様状に配列することもある。放射組織は1~4細胞幅であり、異性である(XXIVb,25b)。道管要素は多くの場合単せん孔を持つが(25b)、稀に、多孔せん孔様の形状を示す場合がある(XXIVb,25b)。道管要素は多くの場合単せん孔を持つが(25b)、稀に、多孔せん孔様の形状を示す場合がある(XXIVc,25c)。ニワトコまたはエゾニワトコであるものと推定される。

29 ツル性植物(ブドウ属:*Vitis*, ノブドウ属:*Ampelopsis*, 等) [PL.②-356, PL.②-368]

木口面では、極めて径の大きい道管が不規則に分布しているのが認められ(XXVa, 26a)、放射組織も10細胞幅以上で100細胞高以上に達し(XXVb,26b)、樹木の一般木部組織とは大きく異なっている。また、道管には、階段壁孔状の構造がみられる。

ツル性植物には数多くの種類があり、その組織構造に関する報告がほとんどないため断定はできないが、現生ヤマブドウのツルを観察したところ、本検体とは組織が極めて類似していた。したがってヤマブドウ(*Vitis coignetiae* Pulliat)と推定したが、炭化種子では、マタタビまたはコクワ(*Actinidia* sp.)と推定されるものも出土しており、ノブドウ属も含めて多種の可能性も否定できない。そのため、ここでは、一括してツル性植物とし

て扱った。XXVIのa,bも写真XXVや26と組織が類似しているが、道管の配列状態や階段壁孔状の構造物のBarの数が少いや異なるため、写真を提示した。

以下には、不確実なものや同定できないものについて、テシ、炭化材の順に記す。

30 不明1(ブナ科?) [PL.2]-356]

材は放射孔材であり、道管は年輪に関係なく放射方向に配列する(XXVIIa)。放射組織は、同性で、大部分が単列であるが、稀に2~3細胞幅のものも存在する(XXVIIb)。本検体は、クリ属、シイノキ属や常緑カン類と組織が類似しているが、同定はできなかった。

31 不明2(ウルシ属?) [PL.2]-357, PL.2]-368]

材は環孔材であり(XXVIIIa)、道管にはチロースを含む。放射組織は1~3細胞幅であり、異性である(XXVIIIb)。本検体は、放射組織の多列部が平伏細胞からなり、単列部が直立細胞からなることから、ウルシ属(*Rhus*)と推定されたが、ウルシ属特有のらせん肥厚がSEM観察でも確認できなかったことから不明樹種とした。しかし、本検体は自然流木で、細胞壁の劣化が著しく、そのためにらせん肥厚を得なかった可能性が強く、ウルシ属である可能性がかなり強いように思われる。

32 不明3 [PL.2]-357]

広葉樹材で道管配列は半環孔状であり(XXXa)、放射組織は1~5細胞幅で異性である(XXXb)。また、道管には、比較的規則的ならせん肥厚が存在する(XXXc)。樹種の特定はできなかった。

33 不明4(コシアブラ?) [PL.2]-357]

散孔材であり(XXXa)、年輪界に接する部分で道管は環孔状に配列する。放射組織は1~3細胞幅であり、上下部には方形細胞を含む(XXXb)。道管要素は全て単せん孔を持ち、らせん肥厚は持たない。本検体は道管がやや半環孔状に並ぶことなど、ウコギ属(*Acanthopanax*)のコシアブラに類似しているが、断定はできない。

34 不明5(クマシデ属?) [PL.2]-358]

放射孔材であり(XXXIa)、放射組織は1~3細胞幅で異性である(XXXIb)。道管要素は階段せん孔を持ち、らせん肥厚は認められない。本検体は、道管配列や階段せん孔を持つことから、クマシデ属またはハンバミ属と推定はされるが、典型的な集合放射組織が確認できず、少なくともハンバミ属とは考えにくい。また、クマシデ属の可能性は高いものの、本検体ではらせん肥厚を確認できなかった。本検体も細胞壁劣化が著しく、そのためにらせん肥厚を認め得なかったものと思われ、クマシデ属(サワシバ等)と推定されるものの断定はできない。

35 不明6(クマシデ属?) [PL.2]-358]

放射孔材であり(XXXIIa)、放射組織は1~2細胞幅で異性である(XXXIIb)、道管要素は階段せん孔を持ち、らせん肥厚は認められない。写真XXXIの検体と組織は類似しているが、道管数が極めて少なく、やや放射組織幅が狭い。本検体もクマシデ属であるものと推定されるが断定はできない。

36 不明7(ニレ科?) [PL.2]-358]

散孔材であり、道管数は少なく、放射方向に複合する場合が多い(XXXIIIa)。また、道

管にはチロースを含む。放射組織は1～5細胞幅であり、異性である(XXXIII b)。道管要素は単せん孔を持ち、顕著ならせん肥厚を持つ(XXXIII c)。ニレ科のムクノキに組織は類似しているが、同定はできなかった。

37 不明8(ナナカマド属?, リンゴ属?) [PL.2-359]

散孔材であり、道管は、単独かまたは2～3個接合し(XXXIV a)、放射組織は1～2細胞幅で同性である(XXXIV b)。道管要素は、単せん孔を持ち、らせん肥厚は認められない。本検体は、ナナカマド属やリンゴ属と類似しているが、前者では特有のZ-helixのらせん肥厚の存在が知られており、後者でもらせん肥厚の存在が知られている。本検体は、自然流木であり、細胞壁の劣化が著しくらせん肥厚の確認が困難であったものと推定されいづれかの属であるものと考えられるが、特定はできない。

38 不明9(ナナカマド属?, リンゴ属?) [PL.2-359]

本検体も組織は写真XXXIVの検体と類似しているが、やや道管数も少なく(XXXV a)、放射組織も2列細胞幅のものが多(XXXV b)。その他の点では37の検体と同様であり、ナナカマド属またはリンゴ属と推定されるが特定はできない。

39 不明10 [PL.2-359]

散孔材であり、道管数は少なく、単独で散在している(XXXVI a)。放射組織は1～2細胞幅であり、異性である(XXXVI b)。道管要素は単せん孔を持ち、らせん肥厚は認められなかった。本検体は、細胞壁劣化が著しく、樹種特定ができなかった。

40 不明11 [PL.2-368]

広葉樹材であり、道管は半環孔状に配列し(27a)、大道管が時折複合して分布する。放射組織は1～7細胞幅で異性である(27b)。道管要素は単せん孔を持ち、比較的規則的に配向するらせん肥厚を持つ(27c)。一般的に環孔材ではあっても小枝や髄付近では、道管が典型的な環孔状配列をしないことは良く知られているが、仮に本検体が環孔材であるならば、ウルシ属(*Rhus*)の可能性が高いかもしれない。

41 不明12 [PL.2-369]

径1 cm程の小棒状炭化物で髄は空洞である(28a)。横断面では、維管束形成層と推定される構造が不規則に並んでおり(28b)、縦断面では、道管や柔細胞が認められる(28c)。単子葉植物であろうと推定されるが、同定はできなかった。

42 不明13 [PL.2-369]

横断面では、写真28の検体と類似した構造が認められる(29a)。拡大像が29bであるが、この種の維管束配列は、ササ属(*Sasa*)にも類似しているように思われるが、同定はできなかった。

43 不明14 [PL.2-369]

径5 mm程の小棒炭化物で、髄は空洞である。横断面では径の揃った細胞が認められる(30a)。縦断面でも、比較的大きさの揃った細胞が認められ(30b)、写真28や29の検体とは組織がかなり違っている。同定はできなかったが、参考資料として提示した。

以上の不明樹種の中で、ウルシ属(写真XXVIII)、ウコギ属・コシアブラ(写真XXX)、クマンデ属(写真XXXI)の3属については、細胞壁変異の観察が十分に行なえなかったことから不明樹種としたが、他に該当樹種もなく、おそらく同定には問題がないように思われる。また、ナナカマド属とリンゴ属(写真XXXIV, XXXV)については、前者では少数であるが存在が知られている多孔せん孔が認められないことから、ややリンゴ属の可能性が強いように思われる。これらの代表樹種は、ウルシ属：ヤマウルシ、ヌルデ等、クマンデ属：サワシバ、リンゴ属：エゾノコリンゴ、ズミ等であろう。

以上の樹種鑑定にあたっては、テン材、炭化材にかかわらず、SEM観察が極めて有効であった。出土木材は枝材等が多く、光学顕微鏡による一般組織の観察のみでは同定が難しい場合が多々あったが、細胞壁変異の観察によりかなり確実な同定を行なうことができる。例えば、針葉樹材では年輪幅の狭い個体やアテ材組織が多く、イチイ属とモミ属の判断が難しいが、らせん肥厚といぼ状層の確認により確実な識別を行うことができ、また、広葉樹材では、イヌエンジュ属のベスチャード壁孔や、多くの樹種に認められるらせん肥厚の形態がかなり確実な同定の根拠となった。

炭化材では、腐朽の少ないものが多く、特に微細形態の観察が容易であるが、テン材のかなり腐朽の進んだものでもほとんどの場合道管内壁が残存しており、微細形態の観察は十分に行なうことが可能である。木材細胞の最内壁で腐朽抵抗性が強いことは一般的に知られており、本検体中でもそれが裏付けられたといえよう。

SEM手法としては、テン材のような炭化していない材については、臨界点乾燥法を用いる必要がある程度で、他に特に難しい処理は必要なく、今後ともにこの種の研究にはSEMを用いていく必要があるだろう。

本遺跡では全28属にツル性植物が同定されたが、それらは北海道大学構内の現植生に照らしてみても特に大きく異なる樹種は含まれておらず(清水 1983)、当時の気候や地形等の環境条件は現代とさほど大きな差はなかったものと考えられる。テンと住居等の双方で大量に使用されているものはトネリコ、ニレ、ヤナギの各属であり、これらはヤチダモ、ハルニレ、エゾノカワヤナギ等と推定され、比較的湿潤な地を好むものであり、全体的にみれば、遺跡周辺はかなり湿地に近い環境であったように推察される。

しかし、ニワトコやニシキギ属等の低かん木類、また、炭化雑草種子ではギンギン属やイヌホオズキ属等の比較的日当たりの良い場所を好むものが認められている等の点からみれば、当時の遺跡周辺では、草原や疎林に近いような区域もあったように思われ、こまかくみれば周囲の環境はかなり変化に富んでいたように推察される。それらが人為的な、たとえば農耕等による環境変化によるものなのかどうかはさらに検討してから結論すべき問題であろう。

炭化種子との比較では、オニグルミ、エゾニワトコ、ミズキ属、ウルシ属、アサダ属の木本植物種子にブドウ属等のツル性植物種子が認められており、ウルシ属を除いては炭化材でも認められているものもある。しかし、炭化材中の他樹種、例えばイチイ、クワ、キハダ、モクレン、サクラ、ニシキギ等の各属の種子はかなり残りやすいものと思われるにもかかわらず見いだされていない。その理由としては種々あるだろうが、食用として遺跡内に持込まれず、かつ遺跡から離れた場所で材のみが採取されたためか、季節的な結実時期の違いが主なものであろう。ここで、注目したいのは、食用としても適し実の数も多いクワ属の材がかなり多く認められているにもかかわらず種子が見いだされていないことであり、本属が夏の時点で結実し、既述のエゾニワトコ等が秋に結実するのと異なる点である。これは、単に遺跡のごく近くの植生のためかもしれないが、仮に本遺跡が秋の生活跡のみを残しているとすれば、本遺跡が秋に限定されるような季節性をもった生活場所であった可能性も否定できないように思われる。

Tab. 田-18 サクシュコトニ川遺跡における木材の樹種

属名	代表的樹種	テシ木材		炭化材
		加工材	自然流木	
1 イチイ(<i>Taxus</i>)	イチイ*	○	○	○
2 モミ(<i>Abies</i>)	トドマツ	○	○	○
3 トウヒ(<i>Picea</i>)	アカエゾマツ	○	○	○
4 コナラ(<i>Quercus</i>)	ミズナラ	○	○	○
5 ニレ(<i>Ulmus</i>)	ハルニレ	○		○
6 エノキ(<i>Celtis</i>)	エゾエノキ	○		○
7 クワ(<i>Morus</i>)	ヤマグワ		○	○
8 イヌエンジュ(<i>Maackia</i>)	イヌエンジュ	○		○
9 キハダ(<i>Phellodendron</i>)	キハダ	○		○
10 ニガキ(<i>Picrasma</i>)	ニガキ			○
11 ハリギリ(<i>Kalopanax</i>)	ハリギリ*	○	○	
12 トネリコ(<i>Fraxinus</i>)	ヤチグモ	○	○	○
13 ハコヤナギ(<i>Populus</i>)	ドロノキ	○	○	○
14 ヤナギ(<i>Salix</i>)	エゾノカワヤナギ	○	○	○
15 クルミ(<i>Juglans</i>)	オニグルミ*	○		○
16 アサダ(<i>Ostrya</i>)	アサダ			○
17 カバノキ(<i>Betula</i>)	シラカンバ	○		○
18 ハンノキ(<i>Alnus</i>)	ハンノキ	○	○	○
19 カツラ(<i>Cercidiphyllum</i>)	カツラ	○		○
20 モクレン(<i>Magnolia</i>)	ホオノキ	○		○
21 アジサイ(<i>Hydrangea</i>)	ノリウツギ	○		○
22 サクラ(<i>Prunus</i>)	エゾヤマザクラ*			○
23 ニシキギ(<i>Euonymus</i>)	マユミ			○
24 カエデ(<i>Acer</i>)	イタヤカエデ	○	○	○
25 シナノキ(<i>Tilia</i>)	シナノキ	○		
26 ミズキ(<i>Cornus</i>)	ミズキ	○		○
27 ハシドイ(<i>Syringa</i>)	ハシドイ	○		
28 ニワトコ(<i>Sambucus</i>)	ニワトコ		○	○
29 ツル性植物(<i>Vitis</i> 等)	ヤマブドウ等		○	○

*種名が同定されたものには*印

最後に本遺跡の木材の樹種鑑定や保存処理にあたって多くのご協力とご教授をいただいた北海道大学農学部の石田茂雄名誉教授をはじめ林産学科、木材理学講座の諸先生方、また、開拓記念館の三野紀夫氏、山田悟郎氏に深甚なる謝意を表します。(平川泰彦)

《参考文献》

- ▶増澤文武 「出土木材の性質と保存上の問題点」『材料』 28, 582-590 1979
- ▶松田隆嗣 「出土木材の自然乾燥にともなう内部形態変化」『保存科学研究室紀要』 №3, 71-85 1974
- ▶松田隆嗣 「出土木材のPEG含浸処理に関する実験(Ⅲ)」『保存科学研究室紀要』 №4, 23-31 1975
- ▶大井次三郎 『日本植物誌』 至文堂 1978
- ▶Ohtani, J. & Ishida, S. Study on the pit of wood cells using scanning electron microscopy Report 5, Vestured pits in Japanese dicotyledonous woods. *Res. Bull. College Exp. For. Hokkaido Univ.*, 33-2, 433-464, 1976
- ▶Ohtani, J. & Ishida, S. An observation on the perforation plates in Japanese dicotyledonous woods using scanning electron microscopy. *ibid.* 35-1, 65-98, 1978 a
- ▶Ohtani, J. & Ishida, S. An observation on the spiral thickenings in the vessel members in Japanese dicotyledonous woods using scanning electron microscopy. *ibid.* 35-2, 433-464 1978 b

- ▶岡本一・増澤文武 「出土木材, その性質と保存処理」『木材工業』 39-6, 7-13 1984
- ▶佐藤健 「ポリエチレングリコール(PEG)と木材」『木材工業』 38-5 7-13 1983
- ▶島地謙・伊東隆夫 『図説木材組織』 地球社 1982
- ▶清水雅男 「自然環境の復元」『北大構内の遺跡2』 吉崎・岡田編 16-17 北海道大学
1983
- ▶W.Wilcox. Anatomical changes in wood cell walls attacked by fungi and bacteria. *Bot.
Rev.* 36: 1-28 1970

VI-11

〔刻字土器「夫」の意義〕

佐伯有清*

①

北海道大学構内のサクシュコトニ川遺跡から出土した多数の遺物のなかに、2粒のコメと、「夫」という文字が刻まれている土師器片が発見されたのは、1982年12月のことであった(「千年前の米つぶ出土」〈昭和57年12月3日付『北海道新聞』,「千年前にも道内で米食」〈同日付『朝日新聞』〉参照)。

その後、土師器片に刻まれていた「夫」という「漢字らしきもの」が、なんという文字なのか、判読してほしいと、北大埋蔵文化財調査室から依頼を受けた筆者は、ただちに、「夫」の字は、蝦夷の「夷」の異体字であろうと思われることを回答した。この判読については、まもなく新聞で報道されたが(「本道最古の漢字資料」〈昭和58年2月24日付『北海道新聞』〉参照)、それとは別に筆者は、「学内の遺跡から出土した文字のある西暦9世紀の土器片」と説明が付された同土器片の鮮明な写真を表紙に掲載した『北大時報』(昭和58年2月号, No.347)に解説の短文を寄せた。

そのさい、「夫」の文字が、「夷」の異体字であろうとみなした論拠として、「夷」の字を、「夫」と書いた例のあることを指摘した。「夷」の字は、中国の隋唐時代の人である李靖(571~649)の書蹟などにみられる。だが、問題となるのは、土器片の「夫」の字には、3画目の「一」に、「夷」の字のように湾曲部分がないことがあげられるであろう。

しかし、『偏類碑別字』などの異体字書に掲げられている「夷」の異体字を調べてみると、たとえば、唐の等慈寺碑銘に「夷」の字が、「夷」と書かれているのとならんで、隋の首山舍利塔銘には、「夷」と記されていることは、注目してよいであろう。というのは、「夷」の字の「一」の部分の画が、「一」のように、真っすぐに一直線で書かれる場合のあったことが知られるからである。

事実、日本古代においても、「夷」の字の例ではないが、「佛」の字を、「併」と墨書している資料があるのは、「夫」を「夷」の字とみなしてよい傍証としてあげることができるであろう。ちなみに、「併」と書かれている墨書土器は、山形県東置賜郡川西町の道伝遺跡から出土したものである。同遺跡からは、寛平8年(896)の年紀を記す木簡が出土しており、「佛」の字を「併」と記す墨書土器も、9世紀のものと考えてよい(『木簡研究』第2号, 47~49ページ参照)。

②

サクシュコトニ川遺跡から「夫」と刻字された土師器片が発見された当時、北大埋蔵文化財調査室では、同字体で記された遺物が、他の遺跡から出土していないかどうか、東北地方出土の墨書土器などについて克明な調査がなされた。しかし、他に類似した例が発見されず、本遺跡出土の刻字土器片は、孤立した資料として、その後の同類の資料の出現が望まれていたのである。

ところが、最近になって二つの同類の文字資料が知られるにいたった。

その(1)は、平城宮跡のS D2700と呼称されている推定第2次内裏東外郭回廊の東22メートルの位置において検出された玉石積の大規模な南北溝の遺跡から出土した墨書土器である。その土器片には、次頁の写真にみられるように、あきらかに「夫」の字が記されている。この土器片は、須恵器の坏であって、1964年度の第21次調査のさいに出土したもので

* 成城大学文芸学部教授

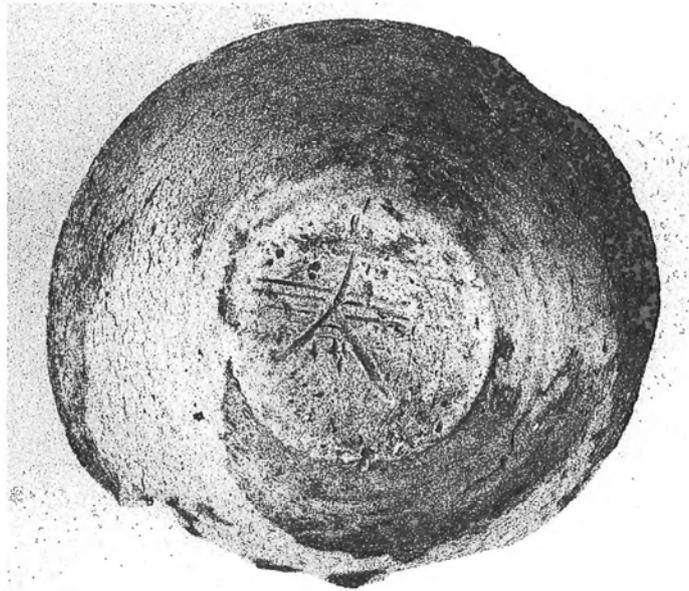
ある。この「夷」の文字は、不明文字として報告書では判読されていないが(奈良国立文化財研究所編『平城宮出土墨書土器集成』I, 17ページ参照), サクシュコトニ川遺跡出土の刻字土器片の「夷」と、まったく同字体であって、「夷」の字と判読すべきであろう。

PL. Ⅱ-32 平城の「夷」



その(2)は、秋田城跡の南約12キロメートルの位置にある湯ノ沢F遺跡から出土した刻字土器である。この土器は、3号土壇墓から検出した2点のうちの一つであって、須恵器の杯の底部に「夷」と刻字されている。同遺跡の報告書には、「1の底部にはへら描きがあるが判読できなかった」(247ページ)とあるが、最近刊行された富樫泰時氏の著書には、「三

PL. Ⅱ-33 秋田市湯の沢F遺跡3号土壇墓出土土器の「夷」



号土壇墓から検出された杯の底部には線刻の文字があり、『夷』と判読される北海道大学構内の学生寮宿舎建設地区でも同様な線刻文字のある土器が検出されており、興味のもたれるところである」(富樫泰時『日本の古代遺跡』24 秋田, 147ページ)と述べられており、また同土器の図の説明には「湯ノ沢F遺跡の須恵器の線刻『夷』の文字」(148ページ)とある。

③

東北地方の秋田城跡に比較的近い湯ノ沢F遺跡から「蝦夷」と同字義の「夷」の字が刻まれた土器が検出されたのは、それほど異様なことではない。しかし、北海道大学構内のサクシュコトニ川遺跡や、平城宮跡のS D 2700遺跡から「夷」の字が記された土器が出土したことは、どういうわけなのであろうか。歴史的に、その背景を探ってみる必要があろう。

まず平城宮跡出土のものから考察を加えることにする。S D2700遺跡は、その埋土が6層に分れていたという。その最下層である第Ⅵ層からは、天平元年(729)、同2年(730)の年紀をもつ木簡が出土し、最上層である第Ⅰ層からは、延暦元年(782)、同2年(783)の年紀を記す木簡が検出されている。これによって、この遺跡の年代が知られるが、出土した木簡のなかには、「宮内」「宮内省」と書かれているものが3点、「木工寮」「典膳」「豎子所」と記されたものが各1点あり、また「宮内省」「大炊」と墨書された土器も検出されており、宮内関係の名辭の比較的多いことが注意されている(奈良国立文化財研究所編『平城宮木簡』二、解説15～16ページ参照)。

なかでも、とくに注目されるのは、「宮内天長節」と墨書された土器が、第Ⅱ層より出土していることである。「天長節」のことが文献にみえる最初は、『続日本紀』宝亀6年(775)10月壬寅(11日)条であって、その記事には、

勅。十月十三日。是朕生日。毎至比辰。感慶兼集。宜令諸寺僧尼。每年是日。轉經行道。海内諸国。并宜断屠。内外百官賜酺宴一日。仍名此日。为天長節。庶使廻斯功德。虔奉先慈。以此慶情。普被天下。

とある。同書には、この初見記事につづいて、同年10月癸酉(13日)条に、

是日天長。大酺。群臣。献翫好酒食。宴畢賜禄有差。

とみえ、さらに宝亀10年(779)10月己酉(13日)条に、

是日当天長節。仍宴群臣。賜禄有差。又詔贈外祖父從五位上紀朝臣諸人從一位。

とみえる。これらの記事によって、「天長節」が、宝亀6年(775)から始まり、以後毎年、この節が宮中で催されたことが知られ、「宮内天長節」とある墨書土器が出土した第Ⅱ層は、延暦元年(782)、同2年(783)の年紀をもつ木簡が出土した第Ⅰ層に接する埋土層であるので、まさに第Ⅱ層は、宝亀年間に廃棄された遺物の包含層と断じてよい。

遺憾ながら「夫」と記された須恵器の坏がどの埋土層より検出されたのか報告書には記載がないが、おそらく宝亀年間という年次を考慮のうちに入れてもよいであろう。なぜならば、宝亀年間に、宮内における「蝦夷」の動向が、しばしば記録にみられるからである。

- (1)天皇御大極殿受朝。文武百官。渤海蕃客。陸奥出羽蝦夷。各依儀拜賀。(『続日本紀』宝亀3年正月壬午朔<1日>条)
- (2)陸奥出羽蝦夷帰郷。賜爵及物有差。(宝亀3年正月丁酉<16日>条)
- (3)御大極殿受朝。文武百官。及陸奥出羽夷俘。各依儀拜賀。(宝亀4年正月丁丑朔<1日>条)
- (4)陸奥出羽蝦夷俘囚帰郷。叙位賜禄有差。(宝亀4年正月庚辰<14日>条)
- (5)宴五位已上於楊梅宮。饗出羽蝦夷俘囚於朝堂。叙位賜禄有差。(宝亀5年正月丙辰<16日>条)
- (6)詔停蝦夷俘囚入朝。(宝亀5年正月庚申<20日>条)
- (7)仰陸奥出羽。追蝦夷廿人。為擬唐客拜朝儀衛也。(宝亀9年12月戊戌<26日>条)

これらの記事は、いずれも正月拜賀の儀に、「蝦夷」も参列したことにかかわるものである。『続日本紀』におけるその初見は、

- (8)天皇御大極殿受朝。隼人蝦夷等亦在列。左將軍正五位上大伴宿禰旅人。……等於皇城門外朱雀路。東西分頭。陳列騎兵。引隼人蝦夷等而進。(『続日本紀』和銅3年正月壬子朔<1日>条)
- (9)天皇御重閣門。賜宴文武百官并隼人蝦夷。奏諸方樂。從五位已上賜衣一襲。隼人蝦夷等。亦授位賜禄各有差。(和銅3年正月丁卯<16日>条)

であるが、また同書には、

- (10)天皇御=大極殿=受_レ朝。……陸奥出羽蝦夷。并南嶋奄美。夜久。度感。信覚。球美等
来朝。各貢_二方物_一。其儀朱雀門左右陣_二列鼓吹騎兵_一。……(靈龜元年正月甲申朔<1日>
条)
- (11)蝦夷及南嶋七十七人。授_レ位有_レ差。(靈龜元年正月戊戌<15日>条)
- (12)御=大極殿=受_レ朝。文武百官及陸奥蝦夷。各依_レ儀拜賀。(神護景雲3年正月辛未<2日>
条)
- (13)御=法王宮_一。宴=於五位已上_一。道鏡与_二五位已上摺衣人一_一領。蝦夷緋袍人一_一領。
(神護景雲3年正月丙子<7日>条)
- (14)御=東院=賜_二宴於侍臣_一。饗_二文武百官_一。主典已上。陸奥蝦夷於朝堂_一。賜_二蝦夷爵及
物_一各有_レ差。(神護景雲3年正月丙戌<17日>条)

などとみえる。

上に掲げた記事(5)・(9)・(14)などによって、正月拝賀の儀に参列した「蝦夷」が朝堂など
において賜宴されていることが知られ、また記事(2)・(4)・(5)・(9)・(14)などから、「蝦夷」
が位を授けられ、禄物を賜わったことがわかる。さらに記事(2)・(4)によって、「蝦夷」が
拝賀の儀が終ると「帰郷」したことが知られるので、「蝦夷」は拝賀の儀に参列するた
めに、わざわざ陸奥・出羽の地から呼び出されたのであった。それは、記事(7)に、「蝦夷廿
人を追(めさ)しむ」とあることから確かめられる。

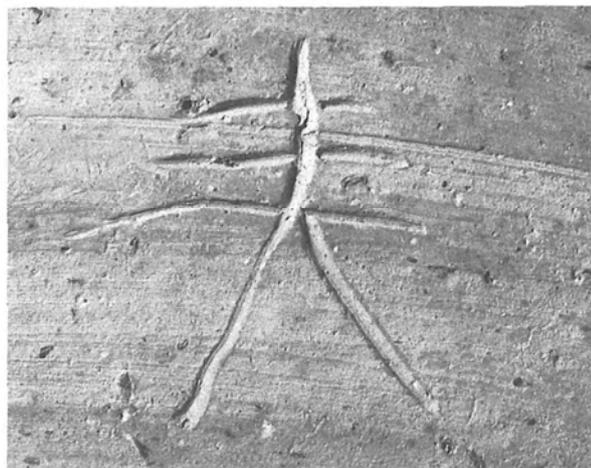
上掲の記事が、年代的に飛び離れているのは、「蝦夷」の拝賀のことが記載されなかつ
たというのではなく、「蝦夷」の地の情勢によって、「蝦夷」の拝賀をとりやめたことを
反映しているとみなすべきであろう。(6)に「蝦夷」と「俘囚」の入朝を停めたとあるのは、
その年、すなわち宝龜5年(774)の陸奥国における不穏な状況によるものであって、それ
は『続日本紀』宝龜5年7月丁巳(20日)条、同月庚申(23日)条、同月壬戌(25日)条、同年
8月己巳(2日)条、同月辛卯(24日)条以下の記事についてみればあきらかである。

いずれにしても、神護景雲3年(769)より宝龜9年(778)にかけて、「蝦夷」が、しば
しば正月拝賀の儀のために「入朝」し、饗宴を受けているのは、平城宮跡S D2700遺跡か
ら出土した墨書土器の一つに「夫」と記されていることと無関係でないと考えられる。お
そらく、「夫」銘のある須恵器の杯は、そうした「蝦夷」を饗応するために用いたものと
みなして差し支えないであろう。

④

それでは、北海道大学構内のサクシュコトニ川遺跡から出土した「夫」と刻字されてい
る土師器については、どのように考えたらよいのであろうか。

PL. Ⅱ-34 サクシュコトニ川遺跡出土土器



岡田淳子氏によると、その土器は、食物を盛る坏で、轆轤を使用して製作されており、内部が黒く塗られた典型的な本州の土師器であって9世紀に東北地方北部で焼かれたものと考えられるという(「本道最古の漢字資料」前掲参照)。

また岡田氏は、その土器は、9世紀の半ばごろのものとも指摘している(岡田淳子他「古代北方文化の形成」『創造の世界』第49号、1984年2月刊、106ページ参照)。

この岡田氏の指摘によって、問題の土師器は、9世紀ごろに作られ、東北地方北部から北海道のサクシュコトニ川地域に持ち込まれたものであって、そうした背景には、当時、北海道の石狩地方と東北地方北部とのあいだに交流があったことが、当然考えられてくる。

そこで思いいたるのは、「渡嶋蝦夷」についてのことである。「渡嶋蝦夷」に関して、
(A)陸奥国言。渡嶋狄二百余人来。著部下気仙郡。非。当国所。管。令。之。帰去。狄等云。
時是寒節。海路難。越。願候。来春。欲。帰。本郷。者。許。之。留。住。之。間。宜。給。衣。糧。
(『日本後紀』弘仁元年10月甲午〈27日〉条)

(B)出羽国言。渡嶋荒狄反叛。水軍八十艘。殺。略。秋田。飽海。兩郡。百姓。廿一人。勅。牧。宰。討。平。之。
(『三代実録』貞観17年11月16日乙未条)

とあるのによれば、「渡嶋蝦夷」は、海路によって陸奥国気仙郡に来著していること(A)、水軍をもって出羽国秋田・飽海両郡を襲撃していること(B)が知られ、ここにみえる「渡嶋」は、海を越えて行く地方で、関口明氏が指摘しているように、「津軽の北方、すなわち北海道を想定することが最も妥当」である(関口明「北海道式古墳と渡嶋蝦夷」『古代文化』第37巻第7号〉18ページ)。

このように、北海道の「蝦夷」とみなすことができる「渡嶋蝦夷」は、(A)の記事で知られるように、陸奥国の所管外にあり、それが出羽国の管轄下にあったことは、次の『続日本紀』宝亀11年5月甲戌(11日)条の記事によって察することができる。

勅。出羽国。曰。渡嶋蝦狄早効。丹心。来朝。貢獻。為。日。稍。久。方。今。婦。俘。作。逆。侵。擾。辺。民。宜。將。軍。国。司。賜。饗。之。日。存。意。慰。諭。焉。

また、そのことは、延暦21年6月24日付の「太政官符」に、

右被。右大臣。宜。稱。渡嶋狄等。来朝。之。日。所。貢。方。物。例。以。雜。皮。而。王。臣。諸。家。競。買。好。皮。所。殘。惡。物。以。擬。進。官。仍。先。下。符。禁。制。已。久。而。出。羽。国。司。寬。縱。曾。不。遵。奉。為。吏。之。道。豈。合。如。此。自。今。以。後。嚴。加。禁。斷。如。違。比。制。必。處。重。科。事。緣。勅。語。不。得。重。犯。

とあることからたしかめられる。

これらの記事によれば、「渡嶋蝦夷」は、出羽の国衙に「来朝貢獻」し、その「貢納物」には、雑皮があり、また「来朝」のさいには、「賜饗」のことがあったことがわかる。ここにいう「賜饗」とは、『養老令』職員令大国条に、「其陸奥出羽越後等国兼知。饗給。征討。斥候」とある「饗給」のことであって、『令義解』の同条に「謂。饗。食。并。給。禄。也」とあるように、「蝦夷」に対して食を饗し、禄を給することを「饗給」といったのである(関口明、前掲論文20ページ参照)。関口氏が述べているように、出羽の国司は、「来朝貢獻」した「渡嶋蝦夷」に対しても、職員令大国条の「饗給」の規定にもとづいて、饗宴を催し、禄物を給したのであった。そして、おそらく「夫」と刻字されているサクシュコトニ川遺跡出土の土師器は、そうした饗宴の場で用いられたものが、「渡嶋蝦夷」の手によって、「本郷」、すなわち北海道に持ち帰られたのであろう(関口明、前掲論文23ページ参照)。

「渡嶋蝦夷」のことについては、さらに『三代実録』元慶3年(879)正月11日辛丑条に、
又渡嶋夷首百三人。率。種類。三千人。詣。秋田城。与。津軽。俘。囚。不。連。賊。者。百。余。人。同。共。歸。慕。聖。化。若。不。勞。賜。恐。生。怨。恨。由。是。遣。從。五。位。下。行。權。介。藤。原。朝。臣。統。行。從。五。位。下。行。權。掾。文。室。真。人。有。房。及。令。望。滋。実。貞。額。等。勞。饗。

とみえる。この記事で注目されるのは、「渡嶋夷首」103人が、その「種類三千人」を率

いて秋田城に詣ったことであり、また出羽国の権介藤原朝臣統行、同権掾の文室真人有房、同権掾清原真人令望、左馬権大允藤原朝臣滋実、また出羽国の権大目茨田連貞額らの国司などを遣わして「渡嶋蝦夷」を「勞饗」していることである。ここにいう「勞饗」とは、もちろん「賜饗」や「饗給」と同じ内容のものであり、もし彼ら多数の「渡嶋蝦夷」が、「本郷」に帰ったならば、彼らとともに、多量の出羽国内の物品が、北海道に持ちこまれたことになるであろう。9世紀における「渡嶋蝦夷」は、出羽国や、その管轄下の秋田城と密接な関係があるから、「夫」と刻字された土師器の出所は、おそらく、そうした地域に求めてよいであろう。その意味で、秋田城跡の南方に位置する湯ノ沢F遺跡から出土した刻字土器の存在が注目されるのである。

VI-12 [出土スラグの顕微鏡観察について]

野口徹・小笠原正明・石井邦宣*

1981年6月にサクシュコトニ川遺跡の発掘現場で出土し、鉄器またはスラグと推定された物質（個体番号4）について、顕微鏡による予備的な調査を行った。

この物質はPL.Ⅱ-35（切断後）に示すように縦8cm、最大幅約5cm、厚さ1.5—2cm程度の大きさの固体である。表面は赤褐色で凹凸があり、いたるところに気泡の凝固したあとが見られる。

マイクロトームを用いて図のように切断したところ、黒色の光沢をもつ面が得られた。しかし金属の存在を示す独特の光沢は認められなかった。断面のところどころに、気泡によるものと思われる大小さまざまな穴が見られた。

この断面の50倍および200倍の光学顕微鏡写真を、PL.Ⅱ-36およびPL.Ⅱ-37に示した。PL.Ⅱ-36に見られる黒い大きな影は、空孔によるものである。PL.Ⅱ-37の白い部分はマグネタイトの存在を示している。また残りの黒い部分はスラグによるものである。この部分をさらに拡大して見ると、未溶解のスラグが一部に認められた。

顕微鏡による観察からは、つぎのようなことが推定される。

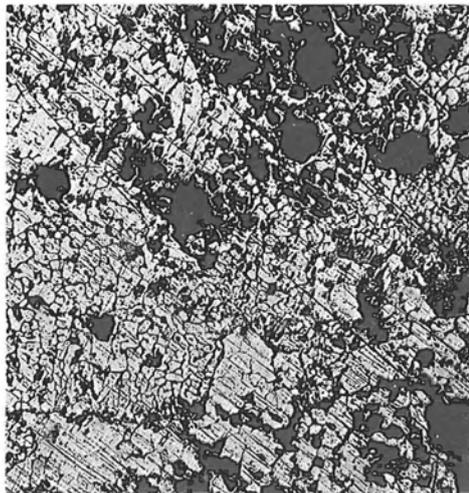
- ① この物質は、鉄の精錬の際に生じたスラグであって、鉄器ではない。
- ② 溶けかけたスラグが認められることから、この物質が生成した時の温度は1200度あるいはそれ以下と推定される。
- ③ マグネタイトは、空気中ではこのような低い温度では生成しないことから、一応還元的な雰囲気中で処理したときに生じたものと思われる。
- ④ しかし、マグネタイトよりもさらに酸素原子数の少ないウスタイトや金属鉄は認められないので、還元的な雰囲気は完全とはいえ、密閉性の悪い、比較的簡単な炉の中で生成したものであることが推定される。

さらに信頼できる結論を得るためには、今後、化学分析およびエックス線マイクロアナライザーなどによるスラグの組成の分析が必要であろう。

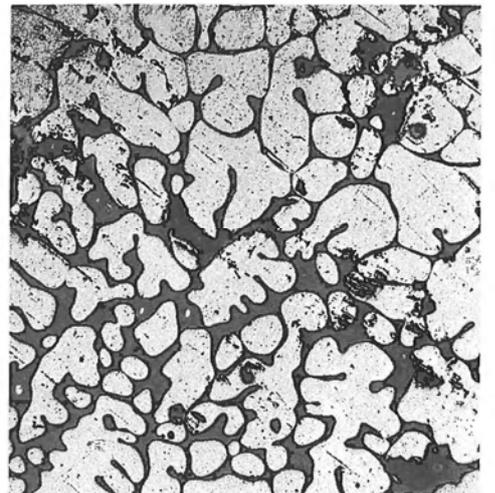
PL. Ⅱ-35 スラグの外観



PL. Ⅱ-36 スラグの顕微鏡写真(×50)



PL. Ⅱ-37 スラグの顕微鏡写真(×200)



* 北海道大学工学部

VI-13 [花粉化石について]

山田 悟郎 *

① 試料および処理方法

ここで取扱った土壌試料は北海道大学構内のサクシュコトニ川遺跡の発掘調査に際して、住居の覆土・土壌の覆土・廃棄された炭化物の集積遺構・焼土から採取された14点である。

2号住居では覆土と床面から各1点、4号土壌の墳底から1点、廃棄された炭化物の集積遺構からは炭化物マウンド・炭化物4、16、19、40、52、58と呼称される7箇所から各1点が、焼土11・43・44・71の4箇所から各1点の試料がそれぞれ採取されている。試料はいずれも炭化物を多量に含む、腐植に富んだ砂質シルトである。

試料の処理にあたっては、土壌試料500gをビーカーにとり、下記のように化学・物理処理を行なった、

アルカリ処理(24時間)―水洗(3週間)―沈澱法により砂礫等を除く―混酸処理(3分間)―水洗―アルカリ処理(5分間)―水洗―比重分離(比重2.0, 1000r.p.m.で1時間遠心分離)―水洗―アセトリシス処理(3分間)―水洗―時計皿処理―HF処理―水洗の順に処理し、プレパラートを1試料につき各3点を作成した。

検鏡は通常400倍で行ない、必要に応じて1,000倍で行なった。同定にあたっては、樹木花粉を200個以上数えるまでに順次出現した花粉・胞子を無作為に同定して計数するように努めた。しかし樹木花粉が200個以上産出した試料は無かった。

従って、表示にあたっては各試料から産出した花粉・胞子数を一覧表にして示した。

② 分析結果

試料が花粉・胞子が腐食作用を受けやすい、通気性の高い砂質堆積物である為か、土壌の花粉含有数は少なかった。また、焼土中には熱によって変形した花粉・胞子が多く含まれていた。

14点の試料から21属1科の樹木花粉、2属23科の草本花粉、3科の胞子、形態分類胞子2種類が産出した。その内訳及び想定される主な母植物は下記の通りである。

樹木: *Picea*(トウヒ属; エゾマツ・アカエゾマツ), *Abies*(モミ属; トドマツ), *Pinus*(マツ属; ハイマツ), *Salix-Populus*(ヤナギーハコヤナギ属; エゾノカワヤナギ・オノエヤナギ他), *Alnus*(ハンノキ属; ハンノキ・ケヤマハンノキ他), *Betula*(カバノキ属; シラカンバ・ウダイカンバ・ダケカンバ), *Fagus*(ブナ属; ブナ), *Juglans*(クルミ属; オニグルミ), *Carpinus*(クマシデ属; サワシバ), *Corylus*(ハシバミ属; ハシバミ・ツノハシバミ), *Quercus*(コナラ亜属; コナラ・ミズナラ・カシワ), *Ulmus*(ニレ属; ハルニレ・オヒョウニレ), *Fraxinus*(トネリコ属; ヤチダモ・アオダモ), *Magnolia*(モクレン属; ホウノキ・コブシ), *Tilia*(シナノキ属; シナノキ・オオバボダイジュ), *Acer*(カエデ属; イタヤカエデ・ハウチワカエデ他), *Rubus*(キイチゴ属; クマイチゴ・エビガライチゴ他), *Phellodendron*(キハダ属; キハダ), *Araliaceae*(ウコギ科; ハリギリ・タラノキ他), *Rhus*(ウルシ属; ヌルデ・ヤマウルシ他), *Sambucus*(ニワトコ属; エゾニワトコ), *Hydr-*

* 北海道開拓記念館

Tab. Ⅱ-19 産出した花粉・孢子化石数

	2号竖穴住居		4号土壌	炭化物マウンド	炭化物					焼土				
	覆土	床面			4	16	19	40	58	11	43	44	52	71
<i>Picea</i>	1	2	2	1	1	4	1	4	1	5	2	1	3	—
<i>Abies</i>	3	5	5	13	2	8	5	8	2	11	6	5	5	1
<i>Pinus</i>	—	1	1	5	—	1	1	2	—	3	2	1	2	—
<i>Salix-Populus</i>	5	4	5	3	1	8	5	5	3	5	5	8	4	1
<i>Juglans</i>	11	15	11	5	2	11	7	12	5	9	11	7	8	3
<i>Alnus</i>	33	31	27	22	5	39	29	31	15	37	35	33	29	5
<i>Betula</i>	19	13	16	8	1	18	13	18	3	15	19	15	14	3
<i>Carpinus</i>	3	1	2	3	1	3	1	1	1	1	3	1	—	1
<i>Corylus</i>	2	1	2	2	—	2	1	1	—	1	1	—	—	—
<i>Fagus</i>	1	1	3	1	—	3	1	1	—	1	1	—	2	—
<i>Quercus</i>	39	41	36	36	3	36	37	39	19	45	43	41	38	11
<i>Ulmus</i>	18	20	21	18	1	23	19	23	13	24	21	19	19	9
<i>Magnolia</i>	2	1	1	2	—	3	1	1	1	2	1	1	2	—
<i>Hydrangea</i>	—	—	1	1	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—
<i>Rubus</i>	1	—	1	—	—	1	1	1	—	3	1	—	2	—
<i>Rhus</i>	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—
<i>Acer</i>	3	4	2	1	1	5	2	5	1	2	4	5	3	—
<i>Tilia</i>	3	5	4	4	2	3	3	6	3	5	4	3	3	1
Araliaceae	1	1	1	—	1	—	1	1	1	—	2	1	1	—
<i>Fraxinus</i>	1	3	3	1	1	6	3	3	1	3	3	1	4	—
<i>Phellodendron</i>	3	3	2	—	—	3	1	3	1	4	3	1	—	—
<i>Sambucus</i>	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	1	—
Moraceae	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	1	—	—
Urticaceae	—	3	—	—	—	1	—	—	—	3	2	—	5	—
Polygonaceae	22	35	29	3	1	26	15	23	16	24	26	24	14	21
Chenopodiaceae	1	5	3	—	—	5	3	1	1	1	1	—	1	1
Caryophyllaceae	1	4	2	—	2	3	2	1	—	2	2	—	1	—
Ranunculaceae	15	21	27	14	2	21	18	18	13	28	21	19	17	13
Cruciferae	1	6	1	3	—	1	—	—	1	3	—	1	2	—
Saxifragaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
Rosaceae	5	1	3	1	—	3	3	6	1	9	3	3	5	3
Leguminosae	1	1	2	—	—	2	1	—	—	1	—	—	1	—
Balsaminaceae	1	—	2	—	—	—	—	—	—	1	1	—	3	—
Haloragaceae	—	—	2	—	—	—	1	1	—	1	—	—	—	—
Umbelliferae	7	15	7	2	1	8	5	8	3	9	7	9	6	7
Labiatae	2	5	—	1	—	—	—	—	—	2	—	—	2	—
Vglerianaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—
Campanulaceae	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1	—
Garduoideae	13	25	8	4	1	11	5	11	12	5	21	20	6	9
Cichorioideae	3	6	1	—	—	3	1	3	1	1	3	1	1	1
<i>Artemisia</i>	41	59	39	9	8	45	36	43	25	31	45	44	37	25
Typhaceae	1	21	11	—	—	9	7	9	1	5	3	5	13	2
Gramineae	56	95	81	30	35	81	75	91	35	85	95	86	76	53
Gramineae(45μ>)	—	3	5	3	—	5	2	8	—	8	6	2	5	1
Cyperaceae	11	15	13	2	1	21	17	20	2	15	13	17	18	11
<i>Lysichiton</i>	—	9	3	—	—	3	3	4	—	2	1	3	5	1
Commelinaceae	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1	—
Liliaceae	1	—	1	—	—	1	1	1	—	1	2	—	1	—
Equisetaceae	2	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
Osmundaceae	6	8	2	1	1	5	1	1	1	3	5	3	2	2
Lycopodiaceae	3	1	2	2	—	2	1	3	1	2	2	2	1	1
Monolate type spore	25	46	21	13	8	28	18	31	15	27	23	25	18	11
Trilite type spore	2	3	—	—	—	3	—	—	—	2	2	—	1	—
合計(個)	369	539	412	216	82	466	348	451	198	449	452	409	386	197
Undetermined(個)	8	3	9	3	9	11	7	5	8	13	8	10	9	7

angea(アジサイ属; ノリウツギ他)

草本; Moraceae(クワ科; カナムグラ・アサ), Chloranthaceae(センリョウ科; ヒトリシズカ他), Urticaceae(イラクサ科; イラクサ), Polygonaceae(タデ科; オオイタドリ・ミゾソバ・ハルタデ他), Chenopodiaceae(アカザ科; アカザ・シロザ), Caryophyllaceae(ナデシコ科; ハコベ・ミミナグサ他), Ranunculaceae(キンボウゲ科; カラマツソウ・アキカラマツ他), Cruciferae(アブラナ科; タネツケバナ・スカシタゴボウ他), Saxifragaceae(ユキノシタ科; ネコノメソウ他), Rosaceae(バラ科; オオダイコンソウ・エゾノシモツケソウ・ナガボノシロワレモコウ他), Leguminosae(マメ科; クサフジ・ハマエンドウ他), Balasaminaceae(ツリフネソウ科; キツリフネ・ツリフネソウ), Labiatae(シソ科; カワミドリ・イヌゴマ他), Onagraceae(アカバナ科; ヤナギラン), Araliaceae(ウコギ科; ウド), Umbelliferae(セリ科; ヤブジラミ・エゾニユウ・オオパセンキュウ他), Haloragaceae(アリノトウグサ科; アリノトウグサ), *Artemisia*(ヨモギ属; オオヨモギ他), Carduoideae(キク亜科; アキタブキ・ハンゴンソウ・ヨブスマソウ・チシマアザミ他), Cichorioideae(タンポポ亜科; ハチジョウナ・コウゾリナ他), Typhaceae(ガマ科; ガマ), Gramineae(イネ科; ススキ・ヨシ・イワノガリヤス・エノコログサ・栽培種のイネ科植物他), Cyperaceae(カヤツリグサ科; エゾアブラガヤ・オクノカンズゲ他), *Lysichiton*(ミズバショウ属; ミズバショウ・ザゼンソウ), Commelinaceae(ツユクサ科; ツユクサ), Liliaceae(ユリ科; バイケイソウ・オオウバユリ他)

孢子; Equisetaceae(トクサ科; トクサ・スギナ), Lycopodiaceae(ヒカゲノカズラ科; ヒカゲノカズラ他), Osmundaceae(ゼンマイ科; ゼンマイ・ヤマドリゼンマイ他)

形態分類孢子; Monolate type spore(単条孔型孢子; シダ類), Trilite type spore(三条孔型孢子; ワラビ他)

14点の試料で確認された花粉・孢子は、ほぼ同様な出現傾向を示している。

樹木花粉では針葉樹の *Abies*, *Picea* と落葉広葉樹の *Juglans*, *Salix-Populus*, *Juglans*, *Alnus*, *Betula*, *Quercus*, *Ulmus*, *Acer*, *Tilia*, *Fraxinus*, 草本花粉・孢子では Polygonaceae, Ranunculaceae, Rosaceae, Umbelliferae, Carduoideae, *Artemisia*, Typhaceae, Gramineae, Cyperaceae, *Lysichiton*, Osmundaceae, Monolate type spore を主とした花粉化石群集が各試料で確認されている。

樹木花粉では *Alnus*, *Quercus*, *Betula*, *Ulmus* が優勢で、次いで *Juglans*, *Abies*, *Picea*, *Salix-Populus*, *Acer*, *Tilia*, *Fraxinus*, *Phellodendron* が多く産出している。肥沃な沖積地を好む *Ulmus*, *Tilia* や河畔に多い *Alnus*, *Juglans*, *Salix-Populus* が多く産出している。また、日当りのよい場所を好む *Rubus*, Araliaceae, *Sambucus* 等も産出するほか、現在その自生分布北限を黒松内低地帯とする、冷温帯落葉広葉樹の *Fagus* も僅かではあるが各試料で確認されている。針葉樹の *Picea*, *Abies*, *Pinus* は現地性の樹木ではないと考えられる。

草本花粉・孢子では Polygonaceae, Ranunculaceae, *Artemisia*, Gramineae, Monolate type spore が優勢で、次いで Chenopodiaceae, Caryophyllaceae, Rosaceae, Umbelliferae, Carduoideae, Typhaceae, *Lysichiton*, Cyperaceae, Osmundaceae が多く産出する。低湿地や幾分湿った場所を好む Urticaceae, Balasaminaceae, Typhaceae, Haloragaceae, Cyperaceae, *Lysichiton* や、日当りのよい草地を好む Polygonaceae, Ranunculaceae, Rosaceae, Umbelliferae, *Artemisia*, Gramineae 等の草本が多いのが注目される。

畑地雑草として耕作地に多く生育する Chenopodiaceae, Caryophyllaceae, Cruciferae, Commelinaceae が比較的多く産出しているほか、花粉の赤道直径が45 μ 以上の栽培種と考えられる Gramineae も各試料で確認されている。

わずかに産出している Moraceae の母植物について、栽培種のアサの可能性も考えられる。

③ 古環境について

a) 古植生

サクシュコトニ川沿いの微高地に位置した擦文時代のサクシュコトニ川遺跡の周囲には、ハンノキ、ヤチダモ、ヤナギ類、オニグルミ、シラカンバ、ハルニレ、ミズナラ、イタヤカエデ、シナノキ、キハダ等を主とした落葉広葉樹が分布していたと考えられる。

このような樹木構成からなる林は、河川沿いの肥沃な沖積地に発達したハルニレ、シナノキ、イタヤカエデを主とした落葉広葉樹林が、擦文時代の人々による伐採等の活動によって破壊され、一部にミズナラ、シラカンバ、オニグルミ等が進出して二次林が形成されたことを示すものと考えられる。

さらに、キイチゴ属、タラノキ、エゾニワトコ等の灌木の存在は、樹木が伐採され日当りの良い空間が存在したことを示している。

多く産出している陽地性のオオイタドリ、カラムツソウ、アキカラムツ、エゾニューウ、オオヨモギ、アキタブキ、チシマアザミ、バラ科植物、ススキは、遺跡周囲の林は伐採され陽地性草本群落が生育可能な、空間が広がっていたことを裏づけるものである。

また、河畔にはハンノキ、ヤチダモ、ヤナギ類からなる低湿地林が分布し、ガマ、ミズバショウ、エゾアブラガヤ、ヨシ、トクサ等が繁り、河畔沿いの幾分湿った場所にはツリフネソウ、キツリフネ、アリノトウグサ、ゼンマイ、シダ類が繁っていたことが予想される。

針葉樹のトウヒ属、モミ属、マツ属と冷温帯落葉広葉樹のブナについては、花粉が風によって運ばれたもので、遺跡周辺に生育していたとは考えがたい。

現在、遺跡周辺の川辺にはハンノキ、ヤチダモ、ハルニレ、イタヤカエデが優占する林が生育している。

b) 栽培植物について

サクシュコトニ川遺跡の発掘に伴って、炭化物廃棄遺構の土壌や焼土が多量に採取され、大規模にフローテーションが行なわれている。これまでに発表された概報等のなかで、多量のサケの骨のほかにはコメ、オオムギ、コムギ、緑豆、キビ、アワ等の栽培植物遺存体の産出が報告されている(吉崎・岡田編 1984)。

吉崎・岡田(1984)によると、オオムギの出土は多量で栽培植物種子がセットになっていることから、かなりの規模で農耕が行なわれていたと推定されている。

産出した花粉の中には赤道直径が45 μ 以上の栽培種と考えられるイネ科花粉が含まれており、イネ科の雑穀が栽培されていたことを示している。

イネ科のどの栽培植物に該当するかは不明であるが、フローテーションで得られたコメ、オオムギ、コムギ、キビ、アワのいずれかの花粉であろう。

ただし、コメについては現地で栽培されたと考えより、本州から移入したと考えるべきであろう。

さらに、母植物として樹木のクワ、草本のアサ、カナグラムが想定されるクワ科の花粉がわずかであるが産出している。アサの種子は福井県鳥浜貝塚の縄文時代前期の遺物包含層から産出し、かなり古い時代に日本に渡来し栽培されていたことがあきらかとなっており(笠原 1984)、本道では続縄文時代の江別太遺跡から産出している(矢野 1981)。ここで確認されたクワ科花粉の母植物がアサであるか否かは、炭化種子の産出によって裏づけられるであろう。

アカザ、ミミナグサ、ハコベ、タネツケバナ、スカシタゴボウといった畑地雑草の花粉も比較的多く産出しており、遺跡近くに耕作地が存在しフローテーションで得られた植物

が栽培されていたのは確かであろう。道内では12個所の擦文時代遺跡から栽培植物遺存体や花粉化石が産出し、擦文時代に農耕活動が行なわれていたことは否定できない事実となっている。しかし、サクシュコトニ川遺跡のように、多量に栽培植物が産出するとともに多くの作物がセットとなって出土した例はなく、一見すると特異な遺跡に見える。このように多量の土壌のフローテーションを行なった発掘調査はかつてなく、擦文時代の遺跡の土壌の中に多くの情報が含まれていたことを示したもので、特異な遺跡とは言えないであろう。

④ おわりに

サクシュコトニ川遺跡の発掘に際して、採取された14点の土壌試料の花粉分析を行なった結果、下記の事が明らかとなった。

- 1) 樹木花粉21属 1科, 草本花粉 2属23科, 孢子 3科, 形態分類孢子 2種類が確認された。
- 2) 遺跡の周辺にはハンノキ, ヤチダモ, ミズナラ, ハルニレ, イタヤカエデ, シナノキ, シラカンバ, オニグルミ, ヤナギ類を主とした落葉広葉樹林が分布していた。
- 3) 林は二次林の様相を示すもので, 樹木が伐採された生活空間には陽地性の草本群落が繁っていた。
- 4) 赤道直径45 μ 以上の栽培種と考えられるイネ科花粉が産出するとともに, 畑地雑草のアカザ科, ナデシコ科, アブラナ科花粉も多く産出していることから, イネ科に属する雑穀が栽培されていたことがあきらかとなった。
- 5) わずかではあるが母植物としてアサが想定されるクワ科花粉が産出している。

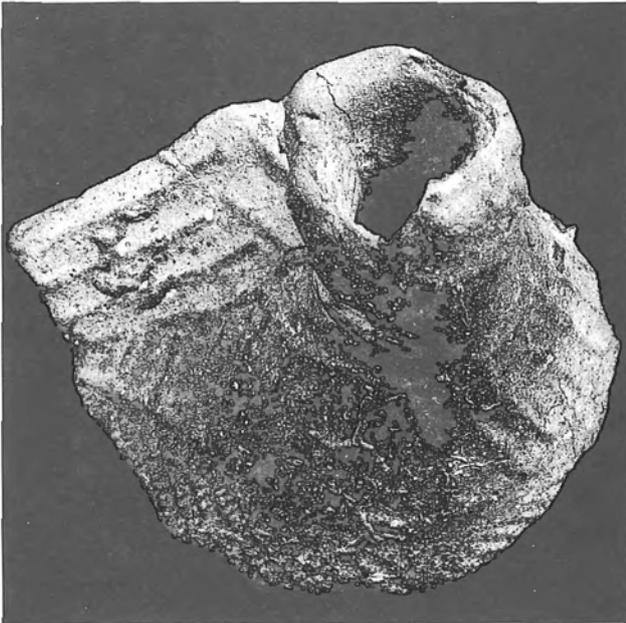
〈参考文献〉

- ▶ 笠原安夫 (1984) 「縄文時代 (前・後期) 遺跡から出土したゴボウ, アサの種実について」『昭和59年度文化財科学会大会研究発表要旨』
- ▶ 矢野牧夫 (1981) 「石狩低地帯の先史遺跡から出土した植物遺体」『北海道開拓記念館研究年報』第9号
- ▶ 吉崎昌一・岡田淳子編 (1984) 『北大構内の遺跡 3—昭和57年度』
- ▶ 吉崎昌一・岡田淳子 (1984) 「考古学におけるエゾとエゾ地」『創造の世界』№49

Ⅵ-14 [第3文化層の土器]

第Ⅵ層の砂層中から、統縄文期中葉（後北C 2式）の土器3個体分が出土した。そのうち図示した2個体は注口部分を残す破片である。PL.Ⅱ-38上は07-07〔12〕グリッドから、PL.Ⅱ-38下は06-10〔32〕グリッドから出土した。そこは埋没河川・セロンベツ川の左岸域にあたる。
(横山英介)

PL. Ⅱ-38 第三文化層出土の注口土器



まとめにかえて

〈発掘と整理〉

北海道大学が新しい寮の建設を計画したのは、もう10年以上も前になる。昭和55年にその計画が具体化した時にまず問題となったのは、その敷地をどこにするかということであった。本学の施設部と埋蔵文化財プロジェクト・チームは幾多の協議を重ねながら、敷地の選定を模索した。できる限り埋蔵文化財の包蔵地にかからないよう配慮するためである。可能性のある地域はいくつかあったが、我々の手持ち資料と札幌市教育委員会の収集資料ならびに明治時代中期に調査された遺跡分布図から、文化財に関する情報のもっとも空白の地帯として、当時準硬式野球場だった現在地が選定された。記録によるかぎり、この場所は地下水位が高く、耕作も行なわれたことがなかったと伝えられている。ところが、全面的な発掘を実施した結果、擦文時代の集落が検出されたのである。ここに贈るのは、その発掘報告である。

発掘調査は、北海道大学埋蔵文化財プロジェクト・チームの岡田宏明・岡田淳子・菊池俊彦・林謙作・吉崎昌一と北海道大学埋蔵文化財調査室の横山英介・松岡達郎・平川泰彦・椿坂恭代ほか多数のメンバーがあたり、その作業を円滑に実施するため、北海道大学本部事務局が部・課の枠を越えた明確な支援態勢をととのえた。整理研究も同様である。

関連する諸分野についても多数の人々の御援助をいただいた。金属製品とスラグについては北海道大学工学部工業物理学講座助教授小笠原正明氏、機械材料学講座助教授野口徹氏、金属工学第二講座助教授石井邦宣氏らが、植物種子の同定には以前から共同作業を続けている、カナダ・トロント大学助教授のG・W・クロフォード氏が参加した。植物種子と出土木材の電子顕微鏡写真の撮影には、北海道大学農学部木材理学科の全面的な支援を受け、名誉教授石田茂雄氏、教授深沢和三氏の指導で可能になったものである。出土した魚歯骨は、東北大学考古学研究室の須藤隆助教授指導のもとに、高橋理氏があたった。問題の刻字土器の歴史的検討には元北海道大学教授で現在成城大学教授の佐伯有清氏から玉稿をたまわった。また、花粉分析は北海道開拓記念館の山田悟郎氏に依頼した。

遺跡の調査活動の第一段階は、こうした人々の協力と支援によって到達されたものである。

残された問題

〈土器の接合関係と遺構〉

擦文時代の遺跡をほぼ全面発掘できることになった時、大学構内という立地条件を生かして、いくつかの作業仮説の検討あるいは実験を含む調査を計画した。その一つは発掘区5,904㎡全域から出土する土器の接合関係を調べたことである。この方法は、先土器時代の発掘調査ではしばしば実施され、遺物スポットの相互関係の判断材料に使用されている。これを比較的遺物出土量の少ない擦文時代に適用し、そこから遺構や遺物の相互関係を判断する手がかりにしたいと最初に提案したのは横山である。その結果については、23～94頁を参照されたい。この分析から横山は遺構の相互関連に迫り、集落内部の変遷に触れている。だが、この手法が普遍的に無理なく使用できるためには、かなり量的にも多い接合

資料が必要となる。それなくしては、二次的な廃棄個所からの混入という危険性を無視できない場合がある。今後の資料増加を待ち、より精度の高い手順の開発を進めたい。

〈遺物の廃棄パターン〉

遺物の分布図と個体別出土表をみるかぎり、土器の廃棄散乱の状態におおまかに2種類あるように思われる。第一は特定個体を構成する破片が比較的まとまって出土する場合、第二は散乱の度合がはげしく、なかには50mも離れていた土器片が接合するといったケースも少なくない。この種の土器個体は、整理作業がある程度進行して後に復元、特定が可能になる場合が多い。このような廃棄散乱の差は、集落の存続期間中に使用されていた土器の時間的な新旧と関連するのであろうか。それとも遺物の種類によって廃棄の様式が異なるのだろうか。まだ検討の余地があり確定にいたっていない。今後、遺物廃棄パターンの資料として研究分析を実施したいと考えている。

遺物廃棄パターンに関連して、もうひとつ注意を喚起しておきたいことがある。それは各大型住居からの土器廃棄についてある傾向が認められそうなことだ。例を2号住居にとろう。29頁の記載にもあるとおり、この住居内の土器と接合関係を示す土器片は、2号住居の煙道に隣接する「焼土43」、住居の北東方向の「炭化物52」および「炭化物マウンド」に集中して発見された。横山も『2号竪穴住居の人々はおぼろげに住居の周りや、炭化物マウンドを中心とする地域を廃棄の場として活用し、住居から大きくかけ離れた地域へはほとんど廃棄しなかった……』(116頁)と述べている。この基本的な廃棄のパターンは、他の2棟の大型住居についても同様に認められる。つまり、3、5号住居においても煙道に隣接して焼土や遺物の廃棄があるが、これらの住居に由来する土器は、主として両竪穴住居のほぼ中間に位置する地域、X08~09、Y05~10にかけて廃棄されていた。しかも横山の観察では3号住居が廃絶した直後に5号住居が建設されているから(92~94頁)、この廃棄の場に関するかぎりその場所は竪穴住居の移設とは関係なく、継続して利用されていた可能性が高い。

こうした廃棄の場が、ある程度の安定性をもって存在し得た背景は、どのように理解されるべきだろうか。それを説明するひとつの手がかりを、あまり検出例の多くない土玉の出土状況に求めたい。

この遺跡から総数で17個の土玉が検出されている。そのうち15個は2号住居と関連する炭化物マウンドから発掘され、1個はこのマウンドの周囲から、残る1個が炭化物52から見出された。

擦文時代の装飾品の検出例は、一般にあまり多くない。千歳末広遺跡から土製まが玉と木製玉(千歳市教育委員会 1981, p.36)、ウサクマイN遺跡(石附 1977 p.17)と、恵庭市柏木川から土玉(高橋 1971, p.6)、留萌管内小平遺跡からガラス玉(福士 1985, p.17~18)などが報告されているくらいである。このような状況のもとで、サクシュコトニ川遺跡第二文化層に属する炭化物マウンドから10個をこす土玉が出土したことは、この場所が墳墓でないこともあって注目する必要があるであろう。発掘精度からみても、この遺跡の他の地域や竪穴住居中の土玉を見逃しているという可能性は一応排除できる。だとすれば、これらの土玉の出土は、特定の場をたいする意図的な廃棄として説明できるのではないだろうか。もしこの推理が的を得ているならば、これこそアイヌ民族例にみられるような「送り場」(宇田川 1985: pp.32~78)の初期形態の例として、検討されるべきであろう。

《栽培植物の出現について》

サクシュコトニ川遺跡の住民が農耕を行っていたことは、G・クロフォード氏と山田悟郎氏の報文に詳しい。擦文時代の農耕については評価がまちまちであるが、大方の見解としては、きわめて小規模の家庭菜園程度のものであろうというのが一般的であった（たとえば加藤ほか 1983; p.21.21, 菊池 1983, p.2）。しかし、本報告のなかで述べられている資料からすれば、これまでの考えかたに変換を余儀なくさせる。

かつて筆者は、擦文時代の堅穴住居の形態、特にそれまで北海道に存在しなかった煙道付きのカマドの出現を説明する仮説として、この時点でおきた食生活の大幅な変化—穀物食の出現をあげたことがある。また、同時にそうした農耕文化が、北海道においては中世以降に衰退した可能性についてもふれた(吉崎ほか 1972, pp.50~52)。

現在までに語られている擦文時代生業論の致命的な欠陥は、具体的な資料の検出を図らないで遺跡の立地から想像をたくましくしすぎた点にある。こうした弱点を補強する資料として、サクシュコトニ川遺跡の資料のもつ意味は大きい。

この遺跡ではオオムギ、コムギ、アワなどを中心とする雑穀栽培が、かなり大規模に実施されていたことは、検出された種子の組成からもまちがいない。しかし、その具体的な農耕がどのようなものであったかについては、まだ資料が不足している。農耕具そのものの出土もなかった。だが、北海道内で発掘されている他の擦文時代の遺跡からは、鉄製農具の鍬・銚先・鎌などの出土が知られている(岡田・山田 1982, p.27~28)。とくに、前出の柏木川遺跡で発見された墳墓には、鍬先と鎌がセットになって副葬されていたことを想起したい。しかし、これらの鉄製農具は北海道の背梁山脈以西から発見されているので、岡田らも指摘しているように(前出)、この分布にみられる差が、北海道内における農耕伝統の違いをあらわしている可能性のあることも否定できない。その意味では、サクシュコトニ川遺跡は、西部北海道伝統の代表例として扱う必要があるのかもしれない。

最近の本州各地の発掘では、畑そのものの遺構がしばしば確認されているが、ここでは確認できなかった。小河川によって囲まれていたサクシュコトニ川遺跡の居住空間は、それほど大きくないので、主たる畑は集落から若干離れていた可能性はある。今後、プラント・オパールなどの資料を収集して、その位置を検討する機会をもちたいと思う。なぜなら、施肥をおこなわないで雑穀栽培を実施した場合、その畑が使用に耐えうるのは、ただだか10年未満、状況によっては5年未満が限界であるからだ。第Ⅱ章で解説しているように、サクシュコトニ川・コトニ川水系には多数の遺跡が分布しているのだが、それらのうち、サクシュコトニ川遺跡と時間的に平行する集落が存在するとすれば、各々の耕作地を含めた集落領域の広さを念頭において、分析しなくてはならないからだ。同時に彼等の重要な蛋白源を供給していた魚止め(テシ)の設置地点と集落領域との関連についての分析も重要項目である。

《集落の廃絶と移動》

サクシュコトニ川遺跡においては、第2文化層の上部を無遺物の砂質粘土層がおおい、その上に第1文化層が存在していた。つまり第2文化層の集落の放棄と埋没については、2つの見方を提示することができる。それは、第2文化層の集落がなんらかの理由で放棄された後にこの地域が一定期間水没した場合と、水没が直接の原因で放棄された場合とである。扇状地末端の微高地という立地条件からすれば、この地域が冠水することは珍しくなかった。それは、この地が準硬式野球場として利用されるまで毎年の融雪期には水没するケースが多く、耕作地として不適格であったことでも分る。また、はげしい冠水は時として蛇行する水路の変更をもたらし、サケ・マスの産卵床をも破壊した。これは当時の集落の生活に大きくかかわる問題であった。農耕地の荒廃も含めてこうしたいくつかの原因

が複合して、集落の遷移が引き起こされた可能性は十分にある。この集落の遷移パターンが、北海道でも有数に密度の高いコトニ川水系の遺跡分布様相と無関係であるとはいえないであろう。

結語にかえて

《生活形態のイメージ》

サクシュコトニ川遺跡の古代人は、オオムギ、コムギ、アワなどの耕地を所有し、さらに集落のはずれの小河川の魚止めで、豊富な蛋白源を確保していた。集落の規模は4軒でいどで構成されると推定できる。集落内では、低火度の鍛冶もおこなわれていた。また、集落の立地が中小河川の上流域にみられるにせよ、ここが季節的な漁場キャンプとか狩猟キャンプであったという証拠は全くない。周辺に農耕地をもつ通常の集落であろう。彼等は、サケの産卵床近くに共同でテシを設置し、ウグイ・サクラマス・シロザケなどを捕獲していた。他の集団との間の主たる物流には、丸木舟による水上輸送が用いられていたであろう。この点、サクシュコトニ川遺跡の立地が、河川の状況からみて、その遡上限界に近い所に位置しているのは示唆的である。河川のこうした利用形態から考えれば、本支流を含む各地点の住民が、なんらかの共通した規制のもとに生活していたことが予想されよう。もし、このような生活形態がサクシュコトニ川・コトニ川水系域住民のみにみられる特殊なケースでないとすれば、従来いわれている擦文時代の集落論や生業論は、再考の余地がありそうである。

《擦文文化の概念について》

遺物の記載部分をみてもわかるように、サクシュコトニ川遺跡出土の土器については、「土師器・土師質土器」という用語で説明されている。にもかかわらず「擦文時代あるいは擦文文化」という従来からの時代区分概念を検討せずに踏襲したことを断わっておきたい。北海道のこの時代のものは、本州の土師器を伴う一般的な住居と同種の構造の住居を持ち、米以外の雑穀栽培がなされていたことも確認されている。たしかに、当時の政治組織からすれば、ここは化外の地であろう。しかし、物質文化の上からみれば、東日本の大部分の地域と「擦文文化」の間に、それ程の異質性を強調する理由が果たして存在するだろうか。本州東北部の文化の周辺として扱ってはいけないのであろうか。調査関係者の間でも、この問題に関しては意見が一致していないのである（たとえば、吉崎昌一・岡田淳子：1984, pp.80~105）。今後、広い視野からの検討が必要なのであろう。

（吉崎昌一）

《引用文献》

- ▶石附喜三男編著 1977 『ウサクマイ遺跡—N地点発掘報告書』 千歳市教育委員会
 - ▶宇田川洋 1985 「アイヌ文化期の送り場遺跡」『考古学雑誌』 70巻4号 32~78 日本考古学会
 - ▶岡田淳子・山田悟郎 1982 「北海道における農耕の起源に関する予察」梅原達治編 『北海道における農耕の起源(予報)』 pp.26~30
 - ▶加藤晋平ほか 1983 「擦文期の生業をめぐって」『考古学ジャーナル』 №213 pp.21~27
 - ▶菊池徹夫 1983 「擦文文化研究の現状と課題」『考古学ジャーナル』 №213 pp.2~3
 - ▶高橋正勝 1971 『柏木川』 恵庭町教育委員会
 - ▶千歳市教育委員会 1981 『末広遺跡における考古学的調査(上)』 千歳市教育委員会
 - ▶福土廣志 1985 『高砂遺跡第Ⅱ地点発掘調査報告』 小平町教育委員会 285p.
 - ▶吉崎昌一ほか 1972 『シンボジュウム・アイヌ』 北海道大学図書刊行会
 - ▶吉崎昌一・岡田淳子 1984 「考古学におけるエゾとエゾ地」『創造の世界』 49号 pp.80~105
- 小学館

[本文編]

1

サクシュコトニ川遺跡

北海道大学構内で発掘された西暦9世紀代の原初的農耕集落

昭和61年3月20日発行

発行所——北海道大学

札幌市北区北8条西5丁目

編集——北海道大学埋蔵文化財調査室

デザイン——桜井雅章

印刷所——(株)北海道機関紙印刷所

札幌市北区北6条西7丁目

付表



Tab. Ⅰ-20 第Ⅰ文化層出土土師器・須恵器一覧表

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壺	53	13183	66	06-10	[30]	Ⅲ	遺構外	口縁部	PL.Ⅱ-8-2
	13452	1	07-10	[01]	Ⅲ	遺構外	口縁部	PL.Ⅱ-10	
	13869	1	06-10	[31]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13206	1	05-10	[21]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13132	1	07-10	[00]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13161	1	07-10	[11]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13185	6	06-10	[30]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13190	1	06-10	[31]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13191	1	06-10	[31]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13857	2	06-10	[20]	カクラン	遺構外	口縁部		
	13453	1	07-10	[01]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13867	2	06-10	[31]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13197	1	06-10	[32]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13472	1	07-10	[12]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13118	1	06-11	[21]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13477	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13875	1	06-10	[00]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	14332	1	06-10	[31]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13137	1	07-10	[01]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13176	1	07-10	[33]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13454	1	07-10	[01]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	13868	6	06-10	[31]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13185	4	06-10	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13205	1	05-09	[31]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13202	2	06-09	[01]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13179	5	06-10	[23]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13182	4	06-10	[20]	Ⅲ	遺構外	胴部3, 底部1		
	13136	2	07-10	[01]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13135	2	07-10	[01]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13180	2	06-10	[23]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13856	1	06-10	[12]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13855	1	06-10	[12]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13177	7	06-10	[02]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13134	1	07-10	[01]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13160	1	07-10	[11]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13186	4	06-10	[31]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13873	1	06-10	[33]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13879	1	06-11	[30]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	13379	1	07-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	13882	1	06-11	[30]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	13111	1	06-11	[20]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13120	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13458	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13184	9	06-10	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13149	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13147	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13649	1	08-08	[31]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	13171	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13124	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13125	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13187	1	06-10	[31]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	13122	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	14417	1	06-10	[20]	カクラン	遺構外	胴部		
13865	1	06-10	[21]	Ⅲ	遺構外	胴部			
14708	1	06-10	[32]	カクラン	遺構外	胴部			
13188	1	06-10	[31]	Ⅲ	遺構外	胴部			
13166	1	07-10	[12]	Ⅲ	遺構外	胴部			
13133	1	07-10	[00]	Ⅲ	遺構外	胴部			
13139	1	07-10	[01]	Ⅲ	遺構外	胴部			
13864	1	06-10	[22]	Ⅲ	遺構外	胴部			
13334	1	09-09	[10]	Ⅲ	遺構外	胴部			
13204	1	06-09	[23]	Ⅲ	遺構外	胴部			
13142	1	07-10	[02]	Ⅲ	遺構外	胴部			
13150	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部			
172片									
壺	54	3678	3	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	PL.Ⅱ-11
	3647	2	09-08	[21]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3649	1	09-08	[21]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3667	13	09-08	[10]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3668	2	09-08	[10]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3619	1	10-07	[02]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
54 壺 (つづき)	3683	1	09-08	[22]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3806	2	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3638	5	10-08	[00]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3958	2	10-08	[03]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3625	2	10-08	[01]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3674	2	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3664	6	09-08	[10]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3653	1	09-08	[20]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3665	2	09-08	[10]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3666	4	09-08	[10]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3630	2	09-08	[30]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3634	1	09-08	[31]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3631	2	09-08	[31]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3632	3	09-08	[31]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3642	2	09-08	[21]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3676	2	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	3669	3	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3807	2	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3673	5	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3637	1	09-08	[22]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3629	1	09-08	[30]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3815	1	09-08	[02]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3618	1	10-07	[02]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3805	1	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3671	7	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3657	7	09-08	[20]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3624	3	10-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3661	4	09-08	[10]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3809	3	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3677	1	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3641	1	09-08	[22]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3670	1	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3810	1	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3650	1	09-08	[20]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3680	1	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3654	1	09-08	[20]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3662	3	09-08	[10]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3684	1	09-08	[21]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3811	1	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3914	1	09-08	[30]	V	遺構外	胴部	
	3919	1	09-07	[33]	V	遺構外	胴部	
	3813	3	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3812	2	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	368	12	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3636	1	09-08	[32]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3682	1	09-08	[12]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3679	2	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3675	3	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部2, 底部1	
	3672	1	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3674	1	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3644	1	09-08	[21]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3648	1	09-08	[21]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3640	2	09-08	[22]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	3643	1	09-08	[21]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
3804	3	09-08	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
3660	1	09-08	[10]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
3663	2	09-08	[10]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
3170	1	09-07	[22]	V	遺構外	胴部		
3645	1	09-08	[21]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
3651	1	09-08	[20]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
3655	1	09-08	[20]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
3614	1	09-07	[03]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
3683	1	09-08	[12]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
3623	1	10-08	[00]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
3620	1	10-07	[03]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
3621	3	10-07	[03]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
3635	3	09-08	[31]	Ⅲ上	遺構外	底部		
3656	1	09-08	[20]	Ⅲ上	遺構外	底部		
166片(口縁部8片, 胴部3片, 底部1片番号わからず)								
55	13461	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	口縁部	PL.[2]-9-4
	13158	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	口縁部	PL.[2]-13

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
55 (つづき)	13884	1	08-11	[20]	焼土	焼土22	胴部	
	13462	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13483	7	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13480	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13129	1	06-11	[31]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13144	1	07-10	[02]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13123	2	06-11	[30]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13172	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13782	2	07-10	[02]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13176	1	07-10	[33]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13142	2	07-10	[02]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13148	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13873	2	06-10	[33]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13872	1	06-10	[33]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13149	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13167	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13141	1	07-10	[02]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13465	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13686	1	07-10	[03]	カクラン	遺構外	口縁部	
	13116	2	06-11	[20]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13107	1	06-11	[11]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13174	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13110	3	06-11	[20]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	13876	1	06-11	[20]	Ⅲ上	遺構外	口縁部	
	13119	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13130	1	06-11	[31]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13117	1	06-11	[21]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13127	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13112	2	06-11	[20]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13128	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13126	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13129	1	06-11	[31]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13120	2	06-11	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13878	2	06-11	[30]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	13877	1	06-11	[20]	Ⅲ上	遺構外	胴部	
	13200	3	06-10	[33]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13199	1	06-10	[33]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13109	1	06-11	[20]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13115	1	06-11	[20]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13201	1	06-10	[33]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13178	1	06-10	[23]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13880	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13131	1	06-11	[31]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	16075	2	06-11	[30]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	13154	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13153	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13181	1	06-10	[23]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13114	2	06-11	[20]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13484	3	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13463	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部	
	13489	1	07-10	[22]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	13490	1	07-10	[22]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	13494	1	07-10	[31]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	13487	1	07-10	[22]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	13486	1	07-10	[22]	Ⅳ	遺構外	胴部	
13476	3	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13133	2	07-10	[00]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13455	1	07-10	[02]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13468	1	07-10	[12]	Ⅲ	遺構外	胴部		
14708	1	06-10	[32]	カクラン	遺構外	胴部		
13163	1	07-10	[12]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13140	1	07-10	[02]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13099	1	07-11	[01]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13169	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13124	1	06-11	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13162	2	07-10	[12]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13152	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13143	1	07-10	[02]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13157	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13159	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
13173	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	胴部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
変 (つづき)	55	13146	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13165	1	07-10	[12]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13196	1	06-10	[32]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13189	1	06-10	[31]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13198	2	06-10	[32]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		14708	8	06-10	[32]	カクラン	遺構外	胴部		
		14882	2	05-11	[33]	Ⅵ	遺構外	胴部		
		13460	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13464	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13467	1	07-10	[12]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13478	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13479	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13481	1	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13457	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13474	2	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13496	1	07-10	[33]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13491	1	07-10	[23]	Ⅳ	遺構外	胴部		
		13488	1	07-10	[22]	Ⅳ	遺構外	胴部		
		13689	2	07-10	[13]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13862	1	06-10	[23]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
		13864	1	06-10	[22]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13883	1	06-11	[30]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
		13108	1	06-11	[22]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13155	1	07-11	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13096	2	07-11	[00]	Ⅲ	遺構外	底部1, 胴部1		
		13156	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13197	1	06-10	[32]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		13466	1	07-10	[03]	Ⅲ	遺構外	底部		
	139片(胴部1片番号わからず)									
	変	56	16366	10	09-18	[11]	Ⅲ	遺構外	口縁部	PL.②-8-1
			16365	46	09-18	[11]	カクラン	遺構外	口縁部	PL.②-12
		16364	13	09-18	[11]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		16367	18	09-18	[11]	カクラン	遺構外	口縁部		
		16412	40	09-18	[不明]	カクラン	遺構外	胴部		
		16363	11	09-18	[11]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		5710	4	09-18	[不明]	表土	遺構外	胴部		
142片										
変	101	3109	1	09-07	[11]	Ⅲ	遺構外	胴部	PL.②-9-1	
		3103	1	09-07	[00]	Ⅲ	遺構外	胴部	PL.②-14	
		3101	1	09-07	[00]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		3105	1	09-07	[00]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		3110	1	09-07	[11]	Ⅳ	遺構外	胴部		
		3082	1	09-06	[02]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		3094	1	08-07	[31]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		3080	2	09-06	[02]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		3735	1	09-07	[01]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		3081	1	09-06	[02]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		3084	1	09-06	[13]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		3086	1	09-06	[22]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		12915	1	07-06	[31]	Ⅲ	遺構外	底部		
		3096	1	08-07	[31]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		3085	2	09-06	[13]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		3615	1	09-07	[13]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
		3613	1	09-07	[03]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
		3104	1	09-07	[00]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		3097	1	08-07	[31]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		3098	1	08-07	[31]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		3612	1	09-07	[03]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
		3095	1	08-07	[31]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		3082	1	09-06	[02]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		3094	1	08-07	[31]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		3110	1	09-07	[11]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	27片									
	変	107	12624	20	30-16	[23]	Ⅳ	焼土72	胴部10, 底部10	
20片										
変	157	12642	2	31-17	[10]	Ⅲ	遺構外	胴部	PL.②-9-3	
		12644	22	31-17	[10]	Ⅲ	遺構外	口縁部10, 胴部10, 底部2		
		12645	4	31-17	[10]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		12649	1	31-17	[10]	Ⅲ	遺構外	胴部		
29片										

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壺	172	5630	1	28-16	[22]	Ⅲ	焼土71	口縁部	
		6118	1	28-16	[22]	Ⅲ	焼土71	口縁部	
		5593	1	28-16	[23]	Ⅲ	焼土71	口縁部	
		5596	1	28-16	[12]	Ⅲ	焼土71	口縁部	
		6907	1	27-14	[12]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
		6636	1	22-13	[23]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		6637	1	22-13	[23]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		12810	1	24-13	[23]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		6638	1	22-13	[33]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		9片							
壺	173	12601	2	30-16	[22]	Ⅳ	焼土72	口縁部	PL.[2]-9-2
		12604	2	30-16	[22]	Ⅳ	焼土72	口縁部	
		4片							
壺	174	6863	1	30-16	[33]	焼土上	焼土72	口縁部	
		6862	1	30-16	[33]	焼土上	焼土72	胴部	
		6320	1	29-14	[31]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		12827	1	29-15	[30]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		12767	1	27-14	[10]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		6909	1	27-13	[31]	Ⅴ	遺構外	口縁部	
		12846	1	30-15	[22]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		12607	1	30-16	[33]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		8片							
壺	183	619	4	11-05	[11]	覆土⑤層	5号竪穴住居	口縁部	
		3106	1	09-07	[01]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
		15721	1	05-05	[13]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		6片							
壺	184	5497	1	26-17	[不明]	表土	遺構外	口縁部	
		5498	2	26-17	[不明]	表土	遺構外	口縁部	
		5509	1	26-16	[22]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
		5536	1	26-16	[33]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
		5片							
須恵器(壺)	17	12632	10	30-17	[00]	Ⅲ	遺構外	胴部	
		10片							

Tab. ①-21 第2文化層出土土師器杯一覧表

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
杯	1	9508	1	18-15	[30]	x ²	炭化物52	体部	PL.②-266-1
		11548	1	21-17	[22]	IV	遺構外	口縁部	
		11985	1	20-16	[03]	IV	遺構外	口縁部	
		11978	8	20-17	[11]	IV	遺構外	体部7, 底部1	
		11975	1	20-17	[01]	IV	遺構外	体部	
		11538	1	21-17	[12]	IV	遺構外	体部	
		11533	1	21-17	[12]	IV	遺構外	体部	
		11903	1	21-17	[11]	IV	遺構外	体部	
(完形品)		15片							
杯	2	2190	9	09-05	[12]	炭	1号土庫周辺の焼土・炭化物	口縁部6, 体部2, 底部1	PL.②-157-3
			9片						PL.②-131
杯	3	1757	4	18-16	[03]	IV	遺構外	口縁部1, 体部2, 底部1	PL.②-210
			4片						PL.②-268-1
杯	4	10829	4	17-17	[11]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部3, 体部1	PL.②-32-1
		1801	2	17-17	[11]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部	PL.②-44
		1800	1	17-17	[11]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部	
		10510	2	17-16	[22]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部	
		1812	1	17-17	[22]	覆土④層	2号竪穴住居	体部	
		1834	2	17-17	[20]	覆土④層	2号竪穴住居	体部1, 底部1	
			12片						
杯	5	555	16	17-17	[11]	床直	2号竪穴住居	体部15, 底部1	PL.②-32-2
		9559	5	20-15	[12]	x ¹	炭化物52	口縁部	PL.②-45
			21片						
杯	6	10796	2	17-11	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.②-202-1
		10688	1	18-11	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.②-211
		10677	1	18-11	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	体部~底部	
(完形品)		4片							
杯	7	1163	1	18-20	[21]	IV	遺構外	口縁部	PL.②-46
		1735	6	17-16	[11]	IV	遺構外	口縁部5, 体部~底部1	PL.②-268-2
		7片							
杯	8	960	4	10-05	[31]	床直	5号竪穴住居	口縁部3, 体部~底部1	PL.②-127-2
			4片						PL.②-132
杯	9	1743	1	17-16	[23]	床直	2号竪穴住居	口縁部	PL.②-32-3
		9503	2	18-15	[30]	x ¹	炭化物52	口縁部	PL.②-270
		7427	6	19-15	[22]	x ¹	炭化物52	口縁部2, 体部2, 底部2	
		5752	1	19-15	[22]	III	炭化物52	口縁部	
		5761	2	19-15	[22]	III	炭化物52	口縁部	
		5746	1	19-15	[22]	III	炭化物52	口縁部	
		5740	1	19-15	[22]	III	炭化物52	口縁部	
			14片						
(完形品)		14片							
杯	10	1902	2	17-16	[32]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部	PL.②-202-2
		3542	2	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.②-212
		10337	1	17-12	[20]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		10486	1	17-11	[23]	マウンド下面	炭化物マウンド	口縁部	
		9355	1	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		10267	1	17-11	[23]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		10319	1	17-12	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		3520	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		7565	1	17-12	[31]	IV	炭化物マウンド	口縁部	
		3463	1	17-11	[33]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		9286	1	17-12	[10]	マウンド上面	炭化物マウンド	底部	
		9366	1	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	底部	
		2321	1	17-10	[21]	b ¹	炭化物マウンド	体部	
		10293	1	17-12	[20]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	
		9369	1	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	
	8757	1	17-12	[01]	マウンド上面	炭化物マウンド	体部		
(完形品)		18片							
杯	11	2732	10	07-13	[22]	V	焼土24	口縁部3, 体部4, 底部3	PL.②-261-1
		14800	1	08-13	[30]	V	焼土24	口縁部	PL.②-271
		11774	1	18-15	[00]	V	炭化物52周辺	体部	
		12片							
杯	12	1563	1	10-05	[00]	煙道	5号竪穴住居		PL.②-127-1
(完形品)		1個体						PL.②-133	
杯	13	1183	4	09-12	[02]	覆土⑤層	3号竪穴住居	口縁部1, 体部2, 底部1	PL.②-100-1
			4片						PL.②-101
杯	14	14550	1	06-08	[01]	VI	遺構外		PL.②-268-3
(完形品)		1個体							
杯	15	3869	3	10-08	[10]	IV	遺構外	口縁部2, 体部1	PL.②-268-4
		3848	4	10-08	[00]	IV	遺構外	口縁部3, 底部1	
		3886	1	10-08	[10]	V	遺構外	底部	
(完形品)		8片							

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
環	16	11710	1	15-17	[31]	土壌内	3号土壌	口縁部	PL.[2]-194-1
		11648	2	15-17	[32]	焼土	焼土41	口縁部	PL.[2]-213
		3329	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		3395	1	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	底部	
		3336	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	
		6片							
環	17	10755	1	17-11	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	巻頭図版5-上
		10442	2	17-11	[20]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部1, 体部1	PL.[2]-32
		10567	1	17-11	[31]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	PL.[2]-202-6
		13255	1	07-08	[31]	IV	焼土18	体部	PL.[2]-214
		13265	1	07-08	[31]	IV	焼土18	体部	
		14157	1	08-04	[33]	IV	焼土・炭化物28	体部	
		3866	1	10-08	[21]	IV	炭化物30	体部	
		14220	1	08-05	[10]	IV	遺構外	口縁部	
9片									
環	18	12063	8	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	口縁部6, 体部~底部2	PL.[2]-32-4 PL.[2]-47
8片									
環	19	2204	5	09-05	[22]	焼土	1号土壌周辺の焼土・炭化物	口縁部1, 体部4	PL.[2]-157-1
		2205	9	09-05	[22]	焼土	1号土壌周辺の焼土・炭化物	口縁部1, 体部5, 底部3	PL.[2]-134
14片									
環	20	73	1	19-15	[33]	(不明)	炭化物52	口縁部	PL.[2]-266-2
		71	2	19-16	[30]	(不明)	炭化物52周辺	口縁部1, 体部1	
		9080	2	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	口縁部1, 体部1	
		9083	1	19-16	[20]	x ¹	炭化物52	底部	
		7928	1	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	底部	
7片									
環	21	9801	1	17-13	[00]	IV	炭化物マウンド周辺	口縁部	PL.[2]-202-3
		8893	1	17-17	[11]	炭	焼土43	口縁部	PL.[2]-215
		9760	1	15-17	[21]	IV	焼土43	口縁部	
		8219	1	15-17	[21]	III	焼土43	体部	
4片									
環	22	13647	2	08-08	[31]	IV	焼土27	体部	PL.[2]-202-4
		10021	1	17-11	[22]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	PL.[2]-216
		7026	3	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	口縁部2, 体部1	
		7111	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	口縁部	
		6991	11	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	口縁部3, 体部6, 底部2	
18片									
環	23	7421	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	口縁部	PL.[2]-266-3
		9097	1	19-15	[32]	x ¹	炭化物52	口縁部	
		11311	1	19-15	[32]	x ¹	炭化物52	口縁部	
		8183	1	19-15	[11]	III	炭化物52	口縁部	
		7894	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	口縁部	
		7700	1	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	口縁部	
		7688	10	19-15	[13]	x ¹	炭化物52	口縁部6, 体部3, 底部1	
		7907	1	19-15	[13]	x ¹	炭化物52	底部	
17片									
環	24	8041	3	16-18	[21]	IV	焼土44	体部	PL.[2]-202-5
		7981	1	19-15	[10]	x ¹	炭化物52	口縁部	PL.[2]-217
		7149	2	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	口縁部	
		10679	1	18-11	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		7030	1	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	体部	
		8772	1	17-12	[11]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	
		186	1	17-12	[10]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
		7340	1	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	口縁部	
		7331	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	口縁部	
		7351	1	17-12	[11]	IV	炭化物マウンド	底部	
		7329	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	底部	
		7394	1	17-12	[21]	IV	炭化物マウンド	体部	
		15片							
環	25	8906	1	17-18	[00]	覆土④層	2号竪穴住居	底部	PL.[2]-266-4
		11649	2	15-17	[31]	焼土	焼土43	口縁部	PL.[2]-273
		11195	1	15-17	[31]	IV	焼土43	口縁部	
		9711	1	16-17	[01]	焼土上面	焼土43	口縁部	
		9067	2	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	口縁部	
		5814	1	19-16	[30]	III	炭化物52周辺	口縁部	
		5808	1	19-16	[30]	III	炭化物52周辺	体部	
		10826	1	15-14	[22]	IV	遺構外	口縁部	
		5301	1	20-17	[22]	表採	遺構外	底部	
11片									
環	26	15946	1	08-09	[02]	x ²	4号土壌	口縁部	PL.[2]-194-3
		16049	1	08-09	[02]	x ²	4号土壌	口縁部	PL.[2]-167

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
坏 (つづき)	26	15422	2	08-09	[02]	炭化物層	4号土壌	体部1, 底部1	
			4片						
坏	27	7175	7	26-16	[32]	炭化物層	炭化物・焼土70	口縁部2, 体部5	
		7200	3	27-16	[03]	炭化物層	炭化物・焼土70	体部2, 底部1	
		7194	1	27-16	[03]	炭化物層	炭化物・焼土70	体部	
			11片						
坏	28	11957	1	18-15	[10]	IV	炭化物52周辺	口縁部	
		3338	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		9257	2	17-11	[13]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部1, 体部1	
		9308	1	17-11	[03]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		9205	1	17-11	[03]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	
		9307	1	17-11	[03]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		9310	1	17-11	[03]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		7130	1	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	口縁部	
		10285	1	17-12	[20]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	
		10310	1	17-12	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		9639	2	17-12	[11]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		2461	1	17-10	[33]	マウンド内	炭化物マウンド	底部	
		9265	1	17-11	[13]	マウンド上面	炭化物マウンド	体部	
				15片					
坏	29	1177	1	10-05	[20]	カマド	5号竪穴住居	口縁部	
		1196	1	10-05	[20]	カマド	5号竪穴住居	底部	
		1195	1	10-05	[20]	カマド	5号竪穴住居	体部	
			3片						
坏	30	3491	8	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部5, 体部2, 底部1	
		8701	5	17-11	[22]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部1, 体部4	
		9304	1	17-11	[02]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	
		3340	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	
		10253	1	17-11	[22]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	
			16片						
坏	31	15687	1	08-09	[03]	x*	4号土壌	口縁部	
		1865	1	18-10	[11]	カクラン	炭化物マウンド	口縁部	
		1860	1	18-10	[12]	カクラン	炭化物マウンド	底部	
		2752	1	18-10	[01]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	
		4463	1	16-22	[31]	IV	炭化物42	体部	
		9574	6	20-15	[31]	x ^d	炭化物52	口縁部3, 体部3	
		8148	1	19-14	[33]	IV	炭化物52周辺	体部	
		1717	1	15-08	[23]	IV	遺構外	体部	
				13片					
坏	32	1185	3	09-11	[33]	覆土⑤層	3号竪穴住居	口縁部1, 体部1, 底部1	
			3片						
坏	33	1356	7	11-06	[20]	床直	5号竪穴住居	口縁部2, 体部4, 底部1	
		1353	1	11-06	[20]	床直	5号竪穴住居	口縁部	
		1453	1	11-06	[20]	床	5号竪穴住居	体部	
		3890	1	08-08	[30]	IV	焼土27周辺	体部	
		3294	1	09-06	[20]	V	1号土壌焼土周辺	体部	
			11片						
坏	34	572	7	18-16	[23]	(不明)	炭化物52	口縁部2, 体部5	
		1760	1	18-16	[13]	炭	炭化物52	体部	
		11080	1	19-15	[22]	x ^d	炭化物52	底部	
		7669	1	19-15	[22]	x ^d	炭化物52	底部	
		1759	2	18-16	[13]	炭	炭化物52	体部	
		9052	1	19-15	[12]	x ^d	炭化物52	体部	
		7993	1	19-15	[22]	x ^d	炭化物52	体部	
		1756	1	18-16	[03]	炭	炭化物52	体部	
		1758	1	18-16	[13]	炭	炭化物52	体部	
				16片					
	坏	35	4386	1	16-22	[01]	IV	炭化物42	口縁部
			4384	1	16-22	[01]	IV	炭化物42	口縁部
		4383	1	16-22	[01]	IV	炭化物42	口縁部	
		4387	1	16-22	[01]	IV	炭化物42	体部	
		4382	1	16-22	[01]	IV	炭化物42	底部	
		16519	1	16-12	[不明]	(不明)	炭化物マウンド周辺	口縁部	
		4195	1	17-22	[00]	IV	遺構外	体部	
		42	1	13-22	[不明]	カクラン	遺構外	体部	
			8片						
坏	36	3496	2	17-11	[02]	IV	炭化物マウンド	口縁部1, 体部1	
		7434	1	19-15	[22]	x ^d	炭化物52	口縁部	
		9520	1	20-15	[02]	x ^d	炭化物52	口縁部	
		7451	1	19-15	[32]	x ^d	炭化物52	口縁部	
		9099	10	19-15	[32]	x ^d	炭化物52	口縁部3, 体部3, 底部4	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
坏 (つづき)	36	7621	2	19-15	[11]	x ¹	炭化物52	口縁部1, 体部1	
		7977	1	19-15	[10]	x ²	炭化物52	底部	
		11083	1	19-15	[22]	x ¹	炭化物52	体部	
		7668	1	19-15	[22]	x ¹	炭化物52	体部	
		20片							
坏	37	2972	1	18-10	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	底部	PL.[2]-203-5
		2973	1	18-10	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.[2]-223
		2974	4	18-10	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部2, 体部2	
		2829	1	18-10	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		7片							
坏	38	14905	1	07-08	[13]	焼土	炭化物19	口縁部	PL.[2]-261-3
		15107	1	07-08	[13]	焼土下面	炭化物19	口縁部	PL.[2]-274
		15120	1	07-09	[10]	焼土下面	炭化物19	体部	
		16323	1	10-17	[00]	V	遺構外	口縁部	
		4484	1	08-14	[12]	IV	遺構外	口縁部	
		2717	1	08-12	[10]	V	遺構外	底部	
		15063	1	06-07	[30]	IV	遺構外	体部	
		4099	1	11-16	[10]	V	遺構外	体部	
		8片							
	坏	39	538	4	17-17	[20]	覆土④層	2号整穴住居	体部
		7500	1	14-15	[01]	IV	遺構外	口縁部	
		7781	1	13-15	[32]	IV	遺構外	口縁部	
		628	2	13-15	[11]	IV	遺構外	口縁部	
		7762	2	13-15	[01]	IV	遺構外	口縁部1, 体部1	
		1369	1	11-18	[21]	V	遺構外	底部	
		7540	1	13-15	[32]	IV	遺構外	体部	
		8256	1	13-17	[21]	IV	遺構外	体部	
		627	1	13-15	[11]	IV	遺構外	体部	
		14片							
坏		40	8967	1	12-14	[33]	IV	焼土35	底部
		7530	1	13-15	[22]	IV	焼土37周辺	体部	
		7527	1	13-15	[22]	IV	焼土37周辺	体部	
		7534	1	13-15	[23]	IV	焼土37周辺	体部	
		5876	1	13-15	[33]	III	焼土37周辺	体部	
		7497	1	14-15	[00]	IV	遺構外	口縁部	
		7499	1	14-15	[01]	IV	遺構外	体部	
		7704	1	15-15	[00]	IV	遺構外	底部	
		8268	2	13-16	[13]	IV	遺構外	口縁部	
		10片							
坏	41	9349	2	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部1, 体部1	PL.[2]-203-6
		9438	1	17-12	[10]	マウンド内	炭化物マウンド	底部	PL.[2]-224
		7610	1	19-15	[30]	x ¹	炭化物52	口縁部	
		11402	2	21-15	[13]	IV	焼土62	体部	
		6片							
坏	42	10246	3	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.[2]-203-7
		8802	1	16-11	[32]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	PL.[2]-225
		7814	1	18-11	[02]	IV	炭化物マウンド周辺	口縁部	
		10760	1	17-11	[32]	マウンド下面	炭化物マウンド	口縁部	
		10030	1	17-11	[22]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	
		10067	1	17-12	[21]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	
		8692	1	17-11	[22]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	
		10024	1	17-11	[22]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	
		9889	1	17-12	[11]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		10431	1	17-12	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		3519	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	底部	
		10430	2	17-12	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	
		3452	1	17-11	[32]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	
		3263	1	17-11	[23]	IV	炭化物マウンド	体部	
		9254	1	17-11	[12]	マウンド上面	炭化物マウンド	体部	
		3366	1	17-11	[13]	マウンド上面	炭化物マウンド	体部	
		10323	1	17-12	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	
	10246	1	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	体部		
	10430	1	17-12	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	体部		
	22片								
坏	43	1758	1	18-16	[13]	床	2号整穴住居	口縁部	PL.[2]-32-5
		492	1	16-17	[03]	b'上	焼土43	口縁部	PL.[2]-226
		12251	1	16-18	[00]	IV	焼土43	口縁部	
		12256	1	16-18	[11]	IV	焼土43	体部	
		8027	1	16-18	[11]	IV	焼土43	底部	
		8039	1	16-18	[21]	IV	焼土43	底部	
		12528	1	16-18	[10]	IV	焼土43	体部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
環 (つづき)	43	12521	1	16-18	[00]	焼土	焼土43	体部
		441	1	16-17	[02]	b'上	焼土43	体部
		12190	1	16-18	[21]	IV	焼土44	口縁部
		12253	2	16-18	[10]	IV	焼土44周辺	口縁部
		10062	1	17-12	[21]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部
		7800	1	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	口縁部
14片								
環	44	6181	1	26-15	[32]	焼土	焼土68	口縁部
		6182	1	26-15	[32]	焼土	焼土68	体部
		6171	1	26-15	[23]	焼土	焼土68	体部
		6138	1	26-14	[33]	IV	焼土68周辺	底部
		6709	1	26-15	[11]	IV	焼土68周辺	底部
5片								
環	45	9816	1	17-13	[03]	IV	遺構外	口縁部
		10179	1	17-13	[03]	IV	遺構外	口縁部
		9807	2	17-13	[02]	IV	遺構外	体部
		9808	1	17-13	[02]	IV	遺構外	体部
		9838	1	17-13	[13]	IV	遺構外	体部
		9969	1	16-13	[33]	IV	遺構外	底部
		11454	1	20-16	[10]	IV	炭化物52周辺	底部
8片								
環	46	14923	1	07-08	[03]	焼土	炭化物19	口縁部
		8394	1	20-14	[30]	IV	焼土61	底部
		8396	1	20-14	[30]	IV	焼土61	底部
		12967	1	07-07	[22]	IV	遺構外	体部
4片								
環	47	14356	1	08-07	[32]	土壌内	6号土壌	体部
		14360	1	08-07	[31]	土壌内	6号土壌	体部
		13953	1	08-07	[30]	IV	6号土壌周辺	体部
		3733	1	09-07	[00]	IV	6号土壌周辺	口縁部
		3732	1	09-07	[00]	IV	6号土壌周辺	口縁部
		5194	1	09-06	[01]	V	6号土壌周辺	口縁部
		3741	1	09-07	[02]	IV	6号土壌周辺	口縁部
		5097	2	08-06	[22]	IV	6号土壌周辺	底部
9片								
環	48	1496	1	10-05	[13]	床直	5号竪穴住居	体部
		1410	1	10-05	[13]	床直	5号竪穴住居	体部
		12862	1	08-07	[21]	土壌内	5号土壌	体部
		12771	1	08-07	[33]	IV	5号土壌周辺	底部
		12914	1	08-07	[33]	IV	5号土壌周辺	体部
		1348	1	10-06	[21]	IV	遺構外	体部
		1349	1	10-06	[31]	IV	遺構外	体部
		16242	1	04-06	[30]	V	遺構外	体部
8片								
環	49	10509	2	17-16	[23]	床直	2号竪穴住居	口縁部1, 体部1
		8181	2	19-15	[01]	Ⅲ	炭化物52	口縁部
		8002	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	口縁部
		12571	1	20-15	[23]	IV	炭化物52	口縁部
		7633	1	19-15	[02]	x'	炭化物52	体部
		9520	1	20-15	[02]	x'	炭化物52	体部
		697	1	11-08	[02]	b'上	炭化物30周辺	底部
		9976	1	16-13	[22]	IV	遺構外	底部
	10片							
環	50	9084	19	19-16	[20]	x'	炭化物52	口縁部6, 体部11, 底部2
19片								
環	51	11180	1	16-17	[31]	煙道	2号竪穴住居	底部
		10290	6	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部2, 体部4
		464	1	16-17	[12]	b'上	焼土43	底部
		12592	1	16-17	[23]	IV	焼土43	底部
		12546	1	16-17	[23]	IV	焼土43	底部
10片								
環	52	8301	1	16-16	[22]	IV	焼土43周辺	体部
		413	1	16-16	[21]	b'上	焼土43周辺	体部
		411	1	16-16	[21]	b'上	焼土43周辺	体部
		8290	1	16-16	[12]	IV	焼土43周辺	体部
		11814	1	15-17	[12]	IV	焼土43周辺	体部
		8082	3	14-17	[32]	IV	遺構外	口縁部
		4228	1	11-11	[31]	IV	遺構外	底部
		7496	1	14-15	[00]	IV	遺構外	体部
		4171	1	13-18	[22]	IV	遺構外	体部
		4126	1	14-19	[30]	IV	遺構外	体部
	12片							

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
環	53	3514	1	17-12	[00]	Ⅳ	炭化物マウンド	口縁部	PL.[2]-204-2
		3509	2	17-12	[00]	Ⅳ	炭化物マウンド	口縁部1, 体部1	PL.[2]-228
		8372	2	17-12	[00]	Ⅳ	炭化物マウンド	口縁部	
		8371	2	17-12	[00]	Ⅳ	炭化物マウンド	口縁部1, 体部1	
		8369	2	17-12	[00]	Ⅳ	炭化物マウンド	底部	
		3510	3	17-12	[00]	Ⅳ	炭化物マウンド	体部	
		8379	1	16-12	[30]	Ⅳ	炭化物マウンド周辺	体部	
		8366	2	16-12	[30]	Ⅳ	炭化物マウンド周辺	体部	
		8396	2	20-14	[30]	Ⅳ	遺構外	底部	
	17片								
環	54	272	1	16-16	[33]	(不明)	焼土43	口縁部	PL.[2]-204-3
		9708	1	16-16	[不明]	焼土上面	焼土43	口縁部	PL.[2]-229
		264	1	16-16	[33]	(不明)	焼土43	底部	
		294	4	16-17	[20]	(不明)	焼土43	体部	
		8741	1	17-11	[32]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	
		10031	1	17-11	[22]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	
		10489	1	17-12	[20]	マウンド内	炭化物マウンド	底部	
		2898	1	17-10	[32]	b ¹	炭化物マウンド	体部	
		2413	1	17-10	[22]	b ¹	炭化物マウンド	体部	
		1864	1	18-10	[12]	カクラン	炭化物マウンド	体部	
		8516	1	13-17	[03]	Ⅳ	遺構外	底部	
	14片								
環	55	8179	1	19-15	[11]	Ⅲ	炭化物52	底部	PL.[2]-204-4
		3542	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.[2]-230
		10303	1	17-12	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		10061	2	17-12	[21]	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	
		184	2	17-12	[10]	(不明)	炭化物マウンド	体部	
		9660	1	17-12	[10]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		8648	2	17-11	[13]	マウンド上面	炭化物マウンド	体部	
		7341	1	17-12	[10]	Ⅳ	炭化物マウンド	底部	
		9293	1	17-12	[10]	マウンド上面	炭化物マウンド	体部	
		8758	1	17-12	[01]	マウンド上面	炭化物マウンド	体部	
		10099	1	18-14	[11]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		4781	1	12-08	[01]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	15片								
環	56	539	2	17-17	[20]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-266-6
		537	2	17-17	[20]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部	
		7591	1	20-16	[10]	Ⅲ	炭化物52周辺	体部	
		226	2	15-16	[31]	(不明)	遺構外	口縁部	
		7713	1	15-15	[13]	Ⅳ	遺構外	底部	
		10813	1	15-14	[11]	Ⅳ	遺構外	体部	
		7725	1	15-15	[23]	Ⅳ	遺構外	体部	
		224	1	15-16	[30]	Ⅳ	遺構外	体部	
	11片								
環	57	105	2	21-14	[23]	(不明)	遺構外	口縁部	PL.[2]-229
		106	7	21-14	[23]	(不明)	遺構外	口縁部	PL.[2]-268-7
		8119	2	21-14	[22]	Ⅲ	遺構外	体部	
		8132	2	21-14	[30]	Ⅳ	遺構外	体部1, 底部1	
		8400	2	21-14	[10]	Ⅳ	遺構外	底部	
15片									
環	58	10341	1	17-12	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.[2]-231
		10761	1	17-11	[32]	マウンド下面	炭化物マウンド	口縁部	
		3434	1	17-11	[23]	マウンド下面	炭化物マウンド	口縁部	
		3435	1	17-11	[23]	マウンド下面	炭化物マウンド	口縁部	
		3436	1	17-11	[23]	マウンド下面	炭化物マウンド	口縁部	
		10342	1	17-12	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	体部	
		10761	1	17-11	[32]	マウンド下面	炭化物マウンド	体部	
		9110	1	18-16	[23]	b ²	炭化物53	体部	
	8片								
環	59	10930	1	21-17	[12]	Ⅳ	遺構外	口縁部～体部	PL.[2]-268-8
		10931	1	21-17	[12]	Ⅳ	遺構外	口縁部～体部	
		10935	1	21-17	[13]	Ⅳ	遺構外	口縁部～体部	
		12410	1	19-18	[11]	Ⅳ	遺構外	口縁部～体部	
		12808	1	21-13	[32]	Ⅳ	遺構外	口縁部～体部	
5片									
環	60	12483	1	19-15	[11]	x ²	炭化物52	口縁部	PL.[2]-276
		8195	1	19-15	[22]	Ⅳ	炭化物52	体部	PL.[2]-266-7
		11973	1	19-15	[02]	x ²	炭化物52	体部	
		11877	1	18-15	[31]	Ⅳ	炭化物52	体部	
		12125	1	19-16	[30]	Ⅳ	炭化物52周辺	体部	
		211	1	20-16	[32]	(不明)	炭化物52周辺	底部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
坏	75	13071	1	09-11	[21]	IV	遺構外	口縁部～体部	PL.[2]-172
			1片						
坏	76	14994	1	05-07	[01]	IV	焼土7	口縁部～体部	PL.[2]-277
		15551	1	05-10	[32]	焼土	焼土11	口縁部～体部	
		3838	1	09-08	[31]	IV	遺構外	口縁部～体部	
		12882	1	09-06	[01]	IV	遺構外	口縁部～体部	
		12966	1	07-07	[22]	IV	遺構外	口縁部～体部	
		13712	1	09-10	[20]	IV	遺構外	口縁部～体部	
			6片						
坏	77	10085	1	18-14	[00]	IV	遺構外	体部	
		10400	1	18-14	[22]	IV	遺構外	底部	
			2片						
坏	78	16303	1	08-09	[13]	焼土	4号土壌	底部	PL.[2]-278
			1片						
坏	79	7235	1	19-15	[11]	x ¹	炭化物52	底部	
		7445	1	19-15	[32]	x ¹	炭化物52	体部	
		8864	1	19-15	[02]	x ¹	炭化物52	体部	
		8181	1	19-15	[01]	Ⅲ	炭化物52	体部	
		4035	1	10-09	[23]	V	遺構外	体部	
			5片						
坏	80	14392	1	06-08	[20]	V	遺構外	底部	
			1片						
坏	81	1361	1	11-06	[31]	床	5号竪穴住居	底部	PL.[2]-127-7
			1片						
坏	82	14022	1	08-09	[02]	V	4号土壌	底部	
		9818	1	17-13	[02]	IV	遺構外	体部	
			2片						
坏	83	13808	1	08-09	[30]	IV	遺構外	底部	
		5266	1	15-05	[32]	IV	遺構外	底部	
		10635	1	14-12	[12]	IV	遺構外	底部	
			3片						
坏	84	16206	2	08-10	[30]	V	炭化物・焼土20・21	底部	PL.[2]-279
			2片						
坏	85	1708	1	16-09	[22]	IV	遺構外	底部	
			1片						
坏	86	2994	1	07-12	[31]	VI	焼土24	底部	
			1片						
坏	87	7301	1	14-14	[03]	IV	遺構外	底部	
			1片						
坏	88	88	1	22-21	[31]	(不明)	遺構外	底部	
			1片						
坏	89	242	1	15-21	[30]	(不明)	炭化物42	底部	
			1片						
坏	90	15133	1	05-11	[30]	IV	焼土11	底部	PL.[2]-281
		16175	1	05-10	[33]	V	焼土11	底部	
			2片						
坏	91	13360	1	07-08	[12]	IV	遺構外	底部	
			1片						
坏	92	14542	1	05-08	[30]	V	遺構外	底部	
		14643	1	05-08	[20]	V	遺構外	底部	
			2片						
坏	93	15693	1	07-09	[32]	x ²	4号土壌	底部	PL.[2]-280
			1片						
坏	94	3115	1	09-07	[22]	IV	遺構外	底部	PL.[2]-282
		4067	1	09-09	[23]	V	遺構外	底部	
			2片						
坏	95	12980	1	08-07	[21]	土壌内	5号土壌	底部	
			1片						
坏	96	5348	1	30-16	[20]	Ⅲ	遺構外	底部	
			1片						
坏	97	15761	1	04-09	[21]	IV	遺構外	底部	
			1片						
坏	98	13092	2	08-11	[30]	IV	炭化物・焼土22	底部	PL.[2]-284
		13549	1	10-10	[03]	IV	遺構外	底部	
			3片						
坏	99	15476	2	06-09	[10]	焼土	炭化物14	底部	PL.[2]-283
			2片						
坏	100	12943	1	08-07	[11]	土壌内	5号土壌	底部	
		14705	1	06-10	[32]	炭化物層	炭化物16	底部	
			2片						
坏	101	3796	1	09-08	[00]	IV	遺構外	底部	
			1片						

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
坏	102	6035	1	20-16	[01]	Ⅲ	遺構外	底部
			1片					
坏	103	1350	1	10-06	[31]	Ⅳ	遺構外	底部
			1片					PL.[2]-127-6
坏	104	15086	1	04-08	[11]	Ⅳ	炭化物4	底部
		14862	1	06-10	[21]	カクラン	炭化物16	底部
			2片					PL.[2]-285
坏	105	1501	1	10-05	[11]	Ⅳ	遺構外	底部
			1片					
坏	106	12232	2	17-17	[11]	カマド	2号竪穴住居	口縁部
		9562	1	20-15	[13]	x ¹	炭化物52	口縁部
			3片					PL.[2]-236
坏	107	15683	1	07-09	[32]	x ²	4号土壌	口縁部
		15670	1	08-09	[03]	x ⁴	4号土壌	口縁部
		16057	1	08-09	[03]	x ⁴	4号土壌	口縁部
		13904	1	09-10	[03]	焼土	焼土22	口縁部
			4片					PL.[2]-102
坏	108	614	1	10-05	[13]	覆土⑤層	5号竪穴住居	口縁部
			1片					PL.[2]-186
坏	109	612	4	10-06	[21]	Ⅳ	遺構外	口縁部
		1348	1	10-06	[21]	Ⅳ	遺構外	口縁部
		13103	1	07-11	[13]	Ⅳ	遺構外	口縁部
			6片					
坏	110	2964	1	17-10	[10]	b ¹	炭化物マウンド	口縁部
			1片					PL.[2]-187 PL.[2]-237
坏	111	15138	2	05-11	[30]	Ⅳ	焼土11	口縁部
		14684	1	06-11	[20]	V	遺構外	口縁部
			3片					PL.[2]-103
坏	112	1187	2	11-04	[10]	Ⅳ	遺構外	口縁部～体部
			2片 (口縁部～体部1片番号わからず)					PL.[2]-136
坏	113	199	1	20-15	[31]	x ¹	炭化物52	口縁部
		9575	1	20-15	[21]	x ¹	炭化物52	口縁部
		9570	1	20-15	[31]	x ¹	炭化物52	体部
		8103	2	20-14	[13]	Ⅲ	炭化物52周辺	口縁部
		10537	1	21-15	[00]	Ⅳ	炭化物52周辺	口縁部
		11384	1	20-15	[31]	Ⅳ	炭化物52周辺	口縁部
		5697	1	20-15	[31]	Ⅳ	炭化物52周辺	体部
		10538	1	21-15	[00]	Ⅳ	炭化物52周辺	体部
		11385	1	20-15	[32]	Ⅳ	炭化物52周辺	底部
			10片					
(完形品)		10片						
その他(すり鉢形)	1623	1623	4	08-13	[20]	煙道内	3号竪穴住居	
		2687	1	08-12	[22]	V	3号竪穴住居	
			5片					PL.[2]-99-1

Tab. Ⅱ-22 第2文化層出土須恵器一覽表

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
須恵器(坏)	1	15868	1	04-08	[20]	Ⅵ	炭化物4	口縁部	PL.Ⅱ-262-1	
		15366	5	05-07	[10]	V上	遺構外	口縁部3, 体部1, 底部1		
		15749	1	06-07	[不明]	(不明)	遺構外	口縁部		
(完形品)							7片			
須恵器(坏) 「赤焼」	2	3334	1	17-11	[12]	上面	炭化物マウンド	口縁部	PL.Ⅱ-204-5	
		6765	1	19-11	[00]	Ⅳ	炭化物・焼土50	体部	PL.Ⅱ-238	
		6652	2	19-12	[13]	Ⅳ	遺構外	口縁部1, 体部1		
		10213	1	19-13	[10]	Ⅳ	遺構外	体部		
		10211	1	19-13	[00]	Ⅳ	遺構外	体部		
		7576	1	18-13	[31]	Ⅳ	遺構外	底部		
(完形品)							7片			
須恵器(坏)	3	15456	1	06-09	[20]	焼土	焼土15	口縁部		
		15589	1	07-08	[不明]	(カクラン)	焼土18	体部		
		13018	1	07-08	[03]	Ⅳ	焼土18	底部		
		16532	1	09-03	[不明]	焼土	焼土25	体部		
		16526	1	08-07	[不明]	焼土	6号土壌周辺	体部		
		14939	1	07-09	[00]	焼土	炭化物19	口縁部		
		13618	1	07-09	[00]	Ⅳ	炭化物19	体部		
		15109	1	07-08	[03]	焼土下面	炭化物19	底部		
		13617	1	07-09	[00]	Ⅳ	炭化物19	底部		
		14112	1	06-08	[32]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
		15289	1	05-09	[21]	Ⅳ	遺構外	底部		
								11片		
	須恵器(坏) 「赤焼」	4	14411	1	06-10	[10]	V	炭化物16	口縁部	PL.Ⅱ-262-2
		15567	2	05-10	[21]	V	遺構外	口縁部1, 底部1	PL.Ⅱ-138	
		15175	1	05-10	[22]	V	遺構外	口縁部		
		15566	1	05-10	[21]	V	遺構外	体部		
							5片			
須恵器(坏) 「赤焼」	5	1161	1	20-18	[12]	Ⅳ	焼土・炭化物59	口縁部	PL.Ⅱ-262-3	
		4186	1	20-18	[13]	Ⅳ	焼土・炭化物59	口縁部		
		6065	1	21-17	[02]	Ⅳ	遺構外	底部		
		10989	1	22-18	[00]	Ⅳ	遺構外	底部		
							4片			
須恵器(坏)	6	783	2	21-15	[11]	Ⅳ	焼土62	口縁部	PL.Ⅱ-262-4	
		6060	2	21-16	[02]	Ⅲ	遺構外	口縁部	PL.Ⅱ-104	
		3139	1	10-07	[01]	V	遺構外	口縁部		
		5489	4	17-07	[31]	V	遺構外	口縁部3, 体部1		
		11459	5	20-16	[20]	Ⅳ	遺構外	口縁部4, 体部1		
		6055	1	21-16	[00]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		11463	2	20-16	[22]	Ⅳ	遺構外	口縁部1, 体部1		
		9592	1	20-16	[21]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		7483	2	21-16	[01]	Ⅳ	遺構外	体部		
		11246	1	21-16	[00]	Ⅳ	遺構外	体部		
		11992	1	20-16	[30]	Ⅳ	遺構外	体部		
		11456	1	20-16	[11]	Ⅳ	遺構外	底部		
		206	1	20-16	[30]	Ⅳ	遺構外	底部		
		9593	1	20-16	[21]	Ⅲ	遺構外	底部		
							25片			
須恵器(坏)	7	12659	1	16-17	[13]	Ⅳ	焼土43	口縁部	PL.Ⅱ-204-6	
		9328	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.Ⅱ-287	
		10675	1	18-11	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
		10417	2	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
		10751	1	17-11	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
		10693	1	17-11	[22]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
		10791	1	17-11	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
		10676	1	18-11	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	体部		
		10416	1	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	体部		
		10958	1	18-10	[03]	マウンド内	炭化物マウンド	体部		
		2976	1	18-10	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	体部		
		10415	1	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	底部		
		10462	1	17-11	[22]	マウンド下面	炭化物マウンド	底部		
	10461	1	17-11	[22]	マウンド下面	炭化物マウンド	底部			
							15片			
須恵器(瓶)	8	1780	1	18-17	[12]	覆土④層	2号竪穴住居	底部	PL.Ⅱ-267-5	
		1921	3	17-10	[33]	b ¹	炭化物マウンド	胴部	PL.Ⅱ-239	
		1861	1	18-10	[13]	カクラン	炭化物マウンド	胴部		
		5874	1	18-10	[不明]	表土	炭化物マウンド	胴部		
		6690	1	19-11	[23]	Ⅳ	炭化物・焼土50	胴部		
		9578	1	20-15	[20]	x ¹	炭化物52	胴部		
		9583	1	20-15	[11]	x ¹	炭化物52	胴部		
		9569	1	20-15	[22]	x ¹	炭化物52	底部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
須恵器(瓶) (つづき)	8 197	1	20-15	[31]	x ¹	炭化物52	胴部		
	8101	1	20-13	[13]	IV	炭化物57	底部		
		11398	1	21-15	[10]	IV	焼土62	胴部	
		5664	1	22-15	[00]	III	焼土64	胴部	
		5983	1	22-15	[03]	IV	焼土64	底部	
		5672	1	22-16	[30]	III	焼土64	底部	
		5980	1	22-15	[22]	IV	焼土64	底部	
		12807	1	23-16	[02]	IV	焼土65	底部	
		5950	1	23-16	[01]	III	焼土65	底部	
		6000	1	22-14	[01]	IV	遺構外	胴部	
		6490	1	11-10	[32]	IV	遺構外	胴部	
		6229	1	20-11	[00]	IV	遺構外	胴部	
		4084	1	20-10	[20]	V	遺構外	胴部	
		6230	1	20-11	[01]	IV	遺構外	胴部	
		6233	1	20-11	[21]	IV	遺構外	胴部	
		6491	4	11-10	[13]	IV	遺構外	胴部	
		4721	1	14-05	[不明]	表土	遺構外	胴部	
		6700	1	21-13	[13]	IV	遺構外	底部	
	31片								
	須恵器(坏) 「赤焼」	9 7212	2	27-16	[03]	マウンド	炭化物・焼土70	口縁部	PL.[2]-262-5
7217		3	27-16	[03]	マウンド	炭化物・焼土70	口縁部1, 底部2	PL.[2]-268-9	
6280		1	27-16	[03]	III	炭化物・焼土70	口縁部		
12005		3	27-16	[03]	III	炭化物・焼土70	口縁部1, 体部2		
7268		2	27-16	[03]	マウンド	炭化物・焼土70	口縁部1, 体部1		
7209		1	27-16	[03]	マウンド	炭化物・焼土70	体部		
7219		2	27-16	[03]	マウンド	炭化物・焼土70	体部		
7213		1	27-16	[03]	マウンド	炭化物・焼土70	底部		
6271		1	27-16	[03]	III	炭化物・焼土70	底部		
16片									
須恵器(坏)	10 14460	1	08-07	[32]	b ¹	6号土壌	口縁部	PL.[2]-194-6	
	16069	1	05-10	[33]	V	焼土11	体部	PL.[2]-193	
	13070	1	09-11	[20]	IV	遺構外	口縁部		
	13512	1	09-11	[21]	IV	遺構外	体部		
	10093	1	18-14	[10]	IV	遺構外	底部		
5片									
須恵器(坏)	11 1346	2	10-06	[30]	床	5号竪穴住居	口縁部～体部	PL.[2]-130-2	
	2121	1	09-05	[31]	IV	遺構外	口縁部～体部	PL.[2]-139	
3片									
須恵器(坏)	12 4682	1	11-12	[11]	IV	遺構外	口縁部～体部		
	4685	1	11-12	[21]	V	遺構外	口縁部～体部		
	3293	1	09-06	[20]	V	遺構外	口縁部～体部		
	4229	1	11-11	[22]	IV	遺構外	口縁部～体部		
	4207	1	11-10	[03]	IV	遺構外	体部		
5片									
須恵器(瓶)	13 10086	1	18-14	[00]	IV	遺構外	口縁部		
1片									
須恵器(瓶)	14 9722	1	13-12	[00]	IV	遺構外	口縁部		
1片									
須恵器(瓶)	15 1421	1	10-05	[33]	床直	5号竪穴住居	口縁部		
	1461	1	11-05	[03]	床	5号竪穴住居	口縁部		
2片									
須恵器(瓶)	16 1911	1	18-17	[22]	床直	2号竪穴住居	口縁部		
	10965	1	17-10	[33]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
2片									

Tab. 1-23 第2文化層出土土師器壺一覧表

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壺	1 14572	1	11-06	[11]	床	5号竪穴住居	底部	巻頭図版4上	
	2664	14	09-04	[33]	土壌内	1号土壌	口縁部	PL.2-158	
	2467	45	09-04	[33]	土壌内	1号土壌	胴部	PL.2-140	
(完形品)	60片								
壺	2 2918	57	09-04	[33]	土壌内	1号土壌	口縁部21, 胴部35, 底部1	巻頭図版4上	
	(完形品)	57片							
壺	3 14044	5	08-08	[31]	V	焼土27	口縁部2, 胴部3,	PL.2-261-8	
	13648	2	08-08	[31]	IV	焼土27	口縁部1, 胴部1	PL.2-142	
	14045	3	08-08	[31]	V	焼土27	胴部2, 底部1		
	15550	1	08-07	[33]	VI	遺構外	口縁部		
(完形品)	11片								
壺	4 10850	9	17-18	[11]	床	2号竪穴住居	胴部8, 底部1	PL.2-33-1	
	9614	1	17-12	[11]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.2-48	
	9355	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	3542	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	9692	1	17-12	[00]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
	9226	1	17-12	[00]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
	16646	1	17-11	[30]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部		
	4201	1	10-11	[33]	IV	遺構外	口縁部		
	11124	1	16-13	[33]	IV	遺構外	口縁部		
	11125	1	16-13	[33]	IV	遺構外	口縁部		
	(完形品)	18片							
壺	5 12134	1	21-17	[22]	IV	遺構外			
(完形品)	1個体								
壺	6 1511	12	09-12	[03]	覆土⑤層	3号竪穴住居	口縁部3, 胴部8, 底部1	PL.2-100-4	
	(完形品)	12片							
壺	7 807	25	19-14	[11]	カマド	1号竪穴住居	口縁部5, 胴部15, 底部5	PL.2-201-1	
	(完形品)	25片							
壺	8 1500	15	10-05	[11]	床	5号竪穴住居	口縁部6, 胴部8, 底部1	PL.2-127-9	
	(完形品)	15片							
壺	9 737	14	19-14	[11]	カマド	1号竪穴住居	口縁部13, 胴部~底部1	PL.2-20-2	
	(完形品)	14片							
壺	10 582	1	19-14	[30]	覆土⑤層	1号竪穴住居	胴部	PL.2-207-1	
	9870	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	PL.2-23	
	9871	2	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	3542	19	17-12	[00]	マウンド	炭化物マウンド	胴部17, 底部2		
	9356	1	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9344	1	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9691	1	17-12	[00]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9676	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	10474	2	17-11	[23]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9421	2	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	54	1	16-16	[32]	(不明)	焼土43周辺	口縁部		
	8157	1	20-14	[11]	IV	炭化物58	胴部		
	64	1	19-16	[31]	(不明)	炭化物52周辺	口縁部		
	8134	1	19-14	[30]	IV	遺構外	胴部		
	10983	2	19-14	[10]	IV	遺構外	胴部		
	108	5	20-14	[13]	(不明)	遺構外	口縁部		
	112	1	20-14	[02]	(不明)	遺構外	口縁部		
	6595	1	22-17	[01]	IV	遺構外	口縁部		
	(完形品)	44片							
	壺	11 7991	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	口縁部	PL.2-205-2
16581		1	19-15	[不明]	x'	炭化物52	口縁部	PL.2-49	
11859		1	18-15	[11]	IV	炭化物52周辺	口縁部		
11962		1	18-15	[11]	IV	炭化物52周辺	口縁部		
11521		10	18-15	[31]	IV	炭化物52周辺	口縁部1, 胴部8, 底部1		
12464		1	19-16	[30]	IV	炭化物52周辺	口縁部		
8177		1	19-15	[01]	III	炭化物52周辺	胴部		
7119		1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
16737		1	17-12	[11]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部		
(完形品)	18片								
壺	12 309	1	16-17	[11]	(不明)	焼土43	口縁部	PL.2-207-2	
	275	1	16-17	[10]	(不明)	焼土43	口縁部	PL.2-50	
	359	1	16-17	[22]	(不明)	焼土43	胴部		
	467	1	16-17	[22]	炭	焼土43	胴部		
	300	1	16-17	[20]	(不明)	焼土43	胴部		
	8339	3	16-17	[11]	焼土	焼土43	胴部		
	8340	1	16-17	[11]	焼土	焼土43	胴部		
	8341	1	16-17	[11]	焼土	焼土43	胴部		
	307	2	16-17	[11]	(不明)	焼土43	胴部1, 底部1		
	317	1	16-17	[21]	(不明)	焼土43	胴部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	12	289	1	16-17	[20]	(不明)	焼土43	胴部	
		461	1	16-17	[12]	炭	焼土43	胴部	
		12542	1	16-17	[23]	IV	焼土43	胴部	
		8333	2	16-17	[21]	焼土	焼土43	胴部	
		286	2	16-17	[20]	(不明)	焼土43	胴部1, 底部1	
		2824	1	17-10	[33]	V	炭化物マウンド	口縁部	
		7631	1	19-15	[02]	x'	炭化物52	口縁部	
		11295	1	17-16	[22]	IV	遺構外	底部	
		6045	1	20-16	[02]	III	遺構外	口縁部	
		24片							
壙	13	5896	1	18-14	[31]	IV	遺構外	口縁部	PL.[2]-269-1
		8429	6	18-14	[22]	IV	遺構外	口縁部1, 胴部5	
		10100	19	18-14	[11]	IV	遺構外	口縁部1, 胴部18	
		10352	1	18-14	[22]	IV	遺構外	底部	
		10367	1	18-14	[31]	IV	遺構外	胴部	
	28片								
壙	14	15441	2	08-09	[12]	IV	4号土壌	口縁部	PL.[2]-119-2
		4845	1	11-11	[21]	焼土	焼土32	口縁部	PL.[2]-173
		4848	1	11-11	[21]	焼土	焼土32	胴部	
		4847	1	11-11	[21]	焼土	焼土32	底部	
		4652	1	12-08	[02]	IV	遺構外	口縁部	
		1631	1	12-08	[02]	b'	遺構外	口縁部	
		709	1	12-08	[03]	b'	遺構外	口縁部	
		4638	1	12-08	[02]	IV	遺構外	口縁部	
		4787	2	12-08	[02]	IV	遺構外	口縁部	
		1474	1	12-08	[12]	b'	遺構外	胴部	
		4635	1	12-08	[02]	IV	遺構外	胴部	
		4636	1	12-08	[02]	IV	遺構外	胴部	
		1475	1	12-08	[12]	b'	遺構外	底部	
		4633	1	12-08	[01]	IV	遺構外	底部	
		4631	1	11-08	[32]	IV	遺構外	底部	
		4626	1	11-08	[21]	IV	遺構外	胴部	
		4679	1	11-10	[32]	IV	遺構外	口縁部	
	4217	1	11-10	[32]	IV	遺構外	胴部		
	20片								
壙	15	10511	1	17-17	[20]	床	2号竪穴住居	底部	PL.[2]-40-1
		174	2	17-11	[13]	IV	炭化物マウンド	胴部	PL.[2]-51
		3191	1	17-11	[12]	IV	炭化物マウンド	胴部	
		3337	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
		178	1	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
		8578	1	13-13	[30]	IV	焼土34周辺	口縁部	
		9136	1	13-11	[33]	V	焼土34周辺	口縁部	
		6795	1	19-13	[03]	IV	焼土51	胴部	
		4948	1	12-12	[33]	V	遺構外	口縁部	
		8583	1	13-13	[31]	IV	遺構外	口縁部	
		4949	1	12-12	[33]	V	遺構外	口縁部	
		4946	1	12-12	[32]	V	遺構外	口縁部	
		4947	1	12-12	[33]	V	遺構外	口縁部	
		4908	1	12-13	[21]	V	遺構外	口縁部	
		4951	1	12-12	[33]	V	遺構外	口縁部	
		10717	1	14-12	[22]	IV	遺構外	口縁部	
		8947	4	14-13	[02]	IV	遺構外	口縁部1, 胴部3	
		8269	1	13-13	[32]	IV	遺構外	口縁部	
		9764	1	14-13	[12]	IV	遺構外	口縁部	
		11613	2	13-13	[32]	IV	遺構外	口縁部	
		11615	1	14-13	[02]	IV	遺構外	胴部	
		8582	1	13-13	[31]	IV	遺構外	胴部	
		8952	1	13-12	[03]	IV	遺構外	胴部	
		8950	2	13-12	[02]	IV	遺構外	胴部	
		10625	1	14-12	[03]	IV	遺構外	胴部	
		31片							
	壙	16	1323	1	11-05	[03]	床	5号竪穴住居	口縁部
		1320	1	10-05	[33]	床	5号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-144
		1445	5	10-05	[32]	床	5号竪穴住居	口縁部	
		1030	1	10-05	[31]	床	5号竪穴住居	口縁部	
		684	3	11-04	[03]	床直	5号竪穴住居	口縁部	
		1542	1	10-05	[10]	煙道	5号竪穴住居	胴部	
		1573	1	10-05	[13]	煙道	5号竪穴住居	胴部	
		1547	1	10-05	[10]	床	5号竪穴住居	胴部	
		1092	1	10-05	[30]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		1541	1	10-05	[10]	床	5号竪穴住居	胴部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	大グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	16	1086	1	10-05	[20]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		1543	2	10-05	[10]	煙道	5号竪穴住居	胴部	
		1554	6	10-05	[13]	床直	5号竪穴住居	胴部1, 底部5	
25片									
壙	17	1197	2	10-05	[30]	床	5号竪穴住居	口縁部	
		1192	1	10-05	[20]	床	5号竪穴住居	口縁部	
		1193	1	10-05	[20]	床	5号竪穴住居	口縁部	
		1021	2	10-05	[21]	床	5号竪穴住居	口縁部	
		989	1	10-05	[21]	床	5号竪穴住居	口縁部	
		935	1	10-04	[33]	床直	5号竪穴住居	口縁部	
		1089	4	10-05	[20]	床直	5号竪穴住居	口縁部	
		942	1	10-05	[30]	床直	5号竪穴住居	口縁部	
		958	1	10-05	[31]	床直	5号竪穴住居	口縁部	
		931	4	10-04	[32]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		937	2	10-04	[33]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		938	1	10-04	[23]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		934	1	10-04	[33]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		1196	1	10-05	[20]	床	5号竪穴住居	胴部	
		1198	2	10-05	[20]	床	5号竪穴住居	胴部	
		1194	1	10-05	[20]	床	5号竪穴住居	胴部	
		1091	1	10-05	[20]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		941	1	10-05	[30]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		833	1	10-05	[30]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		1199	1	10-05	[30]	床	5号竪穴住居	胴部	
		1215	2	11-05	[00]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		992	2	10-05	[21]	床	5号竪穴住居	胴部	
		1177	1	10-05	[20]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		815	1	10-04	[23]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		831	1	10-05	[30]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		932	1	10-04	[32]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		988	2	10-05	[20]	床	5号竪穴住居	胴部	
		957	1	10-05	[31]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		1204	7	10-04	[33]	床直	5号竪穴住居	胴部3, 底部4	
	954	1	10-05	[31]	床直	5号竪穴住居	口縁部		
	974	1	20-21	[01]	IV	遺構外	口縁部		
50片									
壙	18	3971	1	09-09	[22]	IV	遺構外	口縁部	
		3968	8	09-09	[21]	IV	遺構外	口縁部	
		3992	4	09-09	[33]	IV	遺構外	口縁部	
		3974	1	09-09	[32]	IV	遺構外	口縁部	
		4114	1	10-09	[03]	V	遺構外	口縁部	
		3978	4	09-09	[32]	IV	遺構外	口縁部	
		4013	2	10-09	[02]	IV	遺構外	口縁部	
		3976	4	09-09	[32]	IV	遺構外	口縁部	
		4111	1	09-09	[32]	V	遺構外	口縁部	
		3969	1	09-09	[31]	V	遺構外	口縁部	
		3970	1	09-09	[32]	V	遺構外	口縁部	
		4027	1	10-09	[03]	IV	遺構外	口縁部	
		4110	1	09-09	[32]	V	遺構外	口縁部	
		3977	1	09-09	[32]	V	遺構外	口縁部	
		3981	4	09-09	[33]	IV	遺構外	胴部	
		3983	1	09-09	[33]	IV	遺構外	胴部	
		3980	1	09-09	[33]	IV	遺構外	胴部	
		3991	1	09-09	[33]	V	遺構外	胴部	
		4015	1	10-09	[02]	V	遺構外	胴部	
		4014	1	10-09	[02]	V	遺構外	胴部	
		4005	1	10-09	[01]	V	遺構外	胴部	
		4025	1	10-09	[03]	V	遺構外	胴部	
		3986	2	09-09	[33]	IV	遺構外	底部	
		4068	1	09-09	[33]	V	遺構外	底部	
		4069	1	09-09	[33]	V	遺構外	底部	
		3984	2	09-09	[33]	IV	遺構外	底部	
	48片								
	(完形品)								
	壙	19	6621	1	22-16	[02]	IV	焼土64	口縁部
			6618	1	22-16	[11]	IV	焼土64	口縁部
			6812	1	22-16	[22]	IV	焼土64	口縁部
		11272	1	21-16	[22]	IV	遺構外	口縁部	
		11273	1	21-16	[22]	IV	遺構外	口縁部	
		7495	1	21-16	[33]	IV	遺構外	口縁部	
		5916	3	23-17	[13]	IV	遺構外	口縁部	
		5652	1	22-17	[32]	IV	遺構外	口縁部	

PL. [2]-262-6

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壘 (つづき)	19	5922	2	22-17	(21)	IV	遺構外	胴部	
	6661	1	22-13	(12)	V	遺構外	口縁部		
	5945	1	23-16	(13)	IV	遺構外	口縁部		
	5944	1	22-16	(13)	IV	遺構外	口縁部		
	5920	5	22-17	(21)	IV	遺構外	口縁部1, 胴部4		
	6591	2	22-16	(21)	IV	遺構外	口縁部		
	6627	1	22-16	(31)	IV	遺構外	胴部		
	6814	1	22-16	(22)	IV	遺構外	胴部		
	6597	9	23-16	(03)	IV	遺構外	底部		
	11274	2	21-16	(22)	IV	遺構外	胴部		
	5646	1	22-17	(21)	IV	遺構外	胴部		
	93	1	22-17	(32)	IV	遺構外	胴部		
	6592	1	22-16	(10)	IV	遺構外	胴部		
	6589	1	22-16	(23)	IV	遺構外	胴部		
	6811	1	22-16	(21)	IV	遺構外	胴部		
	5921	1	22-17	(21)	IV	遺構外	胴部		
	92	3	22-17	(32)	IV	遺構外	胴部		
	5647	1	22-17	(21)	IV	遺構外	胴部		
	5648	1	22-17	(31)	IV	遺構外	胴部		
	6581	1	22-16	(10)	IV	遺構外	胴部		
(完形品)	47片								
壘	20	9869	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	PL.②-207-3
	9418	4	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部2, 胴部2	PL.②-24	
	9651	3	17-11	(10)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
	2904	1	18-10	(02)	b'	炭化物マウンド	口縁部		
	9423	1	17-11	(13)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
	10279	5	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
	2643	1	18-10	(02)	b'	炭化物マウンド	胴部		
	2767	1	18-10	(02)	b'	炭化物マウンド	胴部		
	2067	1	18-10	(03)	b'	炭化物マウンド	胴部		
	9641	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9653	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	8697	3	17-11	(22)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9278	1	17-11	(13)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	2311	1	18-10	(02)	b'	炭化物マウンド	胴部		
	7375	1	17-12	(20)	IV	炭化物マウンド	胴部		
	2069	1	18-10	(03)	b'	炭化物マウンド	胴部		
	2756	1	18-10	(01)	b'	炭化物マウンド	胴部		
	3488	2	17-11	(13)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	2742	1	18-10	(00)	b'	炭化物マウンド	胴部		
	10668	2	17-11	(20)	マウンド	炭化物マウンド	底部		
	7935	1	19-15	(33)	x'	炭化物52	口縁部		
	9094	1	19-15	(33)	x'	炭化物52	口縁部		
	7933	1	19-15	(33)	x'	炭化物52	口縁部		
	7651	1	19-15	(12)	x'	炭化物52	口縁部		
	7442	1	19-15	(33)	x'	炭化物52	胴部		
	9070	1	19-15	(23)	x'	炭化物52	胴部		
	11377	1	20-15	(13)	x'	炭化物52	胴部		
	9093	1	19-15	(33)	x'	炭化物52	胴部		
	9088	3	19-16	(30)	x'	炭化物52	底部		
	9091	3	19-15	(33)	x'	炭化物52	胴部		
	5812	2	19-16	(30)	III	炭化物52	胴部		
6052	3	19-16	(03)	III	炭化物53	胴部			
11109	1	15-12	(03)	IV	遺構外	胴部			
(完形品)	53片								
壘	21	8927	1	19-18	(01)	覆土④層	2号竪穴住居	胴部	PL.②-39-1
	11827	1	16-17	(02)	土壌内	3号土壌	口縁部	PL.②-240	
	12552	1	16-17	(22)	IV	焼土43	口縁部		
	12589	1	16-17	(23)	IV	焼土43	胴部		
	12653	1	16-17	(22)	IV	焼土43	胴部		
	502	1	16-17	(13)	炭	焼土43	口縁部		
	12587	4	16-17	(22)	IV	焼土43	口縁部		
	12586	13	16-17	(22)	IV	焼土43	口縁部		
	12505	1	16-17	(12)	焼土	焼土43	胴部		
	12518	2	16-17	(22)	IV	焼土43	胴部		
	12651	4	16-17	(22)	IV	焼土43	胴部		
	485	1	16-17	(32)	b'上	焼土43	胴部		
	12547	9	16-17	(23)	IV	焼土43	胴部		
	12661	1	16-17	(13)	IV	焼土43	胴部		
	12596	3	16-17	(23)	IV	焼土43	胴部		
	12655	2	16-17	(12)	IV	焼土43	胴部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	21	12502	5	16-17	[12]	焼土	焼土43	胴部	
		12552	1	16-17	[22]	IV	焼土43	胴部	
		12662	1	16-17	[13]	IV	焼土43	胴部	
		12666	1	16-17	[13]	IV	焼土43	胴部	
		12585	1	16-17	[22]	IV	焼土43	胴部	
		12593	1	16-17	[23]	IV	焼土43	胴部	
		12514	1	16-17	[22]	焼土	焼土43	胴部	
		12300	1	16-17	[12]	焼土	焼土43	胴部	
		9714	1	16-17	[01]	焼土上面	焼土43	胴部	
		12584	1	16-17	[12]	IV	焼土43	胴部	
		12555	1	16-17	[12]	IV	焼土43	胴部	
		12682	2	16-17	[02]	IV	焼土43	底部	
		8038	2	16-18	[20]	IV	焼土43周辺	胴部	
		9030	3	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	口縁部	
		11323	1	19-15	[13]	x ²	炭化物52	口縁部	
		11891	1	19-15	[12]	x ²	炭化物52	口縁部	
		9047	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	口縁部	
		11892	1	19-15	[13]	x ²	炭化物52	口縁部	
		9021	1	19-15	[13]	x ¹	炭化物52	口縁部	
		3327	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		10780	1	17-11	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		10226	2	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		2983	1	18-09	[23]	b ¹	炭化物マウンド	口縁部	
		2477	1	17-10	[21]	b ¹	炭化物マウンド	胴部	
		2086	1	17-09	[23]	b ¹	炭化物マウンド	口縁部	
		2297	1	18-10	[00]	b ¹	炭化物マウンド	口縁部	
		8760	1	17-12	[10]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
		2397	1	17-10	[20]	b ¹	炭化物マウンド	胴部	
		8662	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		10068	1	17-12	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		2395	1	17-10	[20]	b ¹	炭化物マウンド	胴部	
		2651	1	18-10	[10]	b ¹	炭化物マウンド	胴部	
		3546	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
		1987	1	18-10	[00]	b ¹	炭化物マウンド	胴部	
		7382	1	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	胴部	
		8665	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		10286	1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		2460	1	17-10	[33]	b ¹	炭化物マウンド	胴部	
		10690	1	17-11	[31]	b ¹	炭化物マウンド	胴部	
		10300	1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		10238	1	17-11	[21]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		399	1	13-21	[00]	(不明)	遺構外	口縁部	
		9840	1	17-13	[21]	IV	遺構外	胴部	
	12553	1	17-13	[13]	IV	遺構外	胴部		
	12705	1	10-19	[21]	V	遺構外	胴部		
100片									
壙	22	714	2	12-09	[不明]	カクラン	4号竪穴住居	胴部	PL. [2]-119-1
		715	2	12-09	[02]	覆土③層	4号竪穴住居	口縁部	
		716	1	12-09	[02]	覆土③層	4号竪穴住居	底部	
		717	11	12-09	[02]	覆土③層	4号竪穴住居	胴部	
		718	5	12-09	[02]	覆土③層	4号竪穴住居	胴部	
		719	5	12-09	[02]	覆土③層	4号竪穴住居	底部	
		720	4	12-09	[02]	覆土③層	4号竪穴住居	胴部	
		721	3	12-09	[02]	覆土③層	4号竪穴住居	口縁部	
		981	51	12-09	[02]	覆土③層	4号竪穴住居	口縁部15, 胴部36	
	84片								
壙	23	12233	1	17-17	[11]	カマド	2号竪穴住居	胴部	PL. [2]-35-2 PL. [2]-52
		12557	1	15-17	[12]	IV	焼土41周辺	口縁部	
		279	1	16-17	[10]	(不明)	焼土43	胴部	
		436	1	16-17	[10]	炭	焼土43	胴部	
		9074	3	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	口縁部	
		12570	1	20-16	[10]	IV	炭化物52	口縁部	
		5773	6	19-15	[33]	III	炭化物52周辺	胴部4, 底部2	
		3367	1	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		2057	4	18-10	[00]	b ¹	炭化物マウンド	口縁部	
		2315	1	18-10	[03]	b ¹	炭化物マウンド	口縁部	
		10265	1	17-11	[23]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		3476	2	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		2484	1	17-10	[21]	b ¹	炭化物マウンド	口縁部	
		2269	1	17-10	[30]	b ¹	炭化物マウンド	口縁部	
		7812	1	18-11	[02]	IV	炭化物マウンド	胴部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
遺 (つづき)	23	3453	1	17-11	[32]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	3477	4	17-11	[10]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部			
	9380	1	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	3421	1	17-11	[23]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	6562	2	18-10	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9428	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	6567	1	18-10	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9873	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9872	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	1993	1	18-10	[10]	b ¹	炭化物マウンド	胴部			
	9867	1	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	7368	1	17-12	[12]	Ⅳ	炭化物マウンド	胴部			
	1995	1	18-10	[10]	b ¹	炭化物マウンド	胴部			
	10488	1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9251	1	17-11	[12]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	10482	1	17-11	[23]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10260	2	17-11	[23]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	2301	1	18-10	[01]	b ¹	炭化物マウンド	胴部			
	2803	1	17-10	[33]	b ¹	炭化物マウンド	胴部			
	2634	1	18-10	[01]	b ¹	炭化物マウンド	胴部			
	2909	1	18-10	[01]	b ¹	炭化物マウンド	胴部			
	9291	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	185	3	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9381	1	17-11	[03]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9315	1	17-11	[03]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10044	1	17-11	[23]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	3368	1	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部			
	2759	1	18-10	[02]	b ¹	炭化物マウンド	胴部			
	3465	1	17-12	[00]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	3448	1	17-11	[31]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部			
	3450	1	17-11	[32]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部			
	3438	1	17-11	[23]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部			
	9866	1	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	2289	1	17-10	[32]	b ¹	炭化物マウンド	胴部			
	2395	1	17-10	[20]	b ¹ 上	炭化物マウンド	胴部			
	6564	1	18-10	[21]	b ¹	炭化物マウンド	胴部			
	69片(口縁部2片, 胴部1片番号わからず)									
	遺	24	947	1	10-05	[20]	カマド	5号竪穴住居	口縁部	PL.②-130-3
		826	1	10-05	[20]	覆土⑤層	5号竪穴住居	口縁部	PL.②-147	
		983	1	10-05	[20]	カマド	5号竪穴住居	口縁部		
		1351	1	10-06	[20]	床直	5号竪穴住居	口縁部		
1029		1	10-05	[21]	床直	5号竪穴住居	胴部			
1210		1	10-05	[32]	床直	5号竪穴住居	胴部			
1500		2	10-05	[11]	床	5号竪穴住居	胴部			
1503		2	10-05	[10]	煙道	5号竪穴住居	胴部			
1026		1	10-05	[21]	床直	5号竪穴住居	胴部			
1212		1	10-05	[32]	床直	5号竪穴住居	胴部			
949		1	10-05	[20]	カマド	5号竪穴住居	胴部			
985		2	10-05	[20]	カマド	5号竪穴住居	胴部			
991		1	10-05	[21]	床	5号竪穴住居	胴部			
951		1	10-05	[20]	カマド	5号竪穴住居	胴部			
748		1	10-05	[30]	覆土⑤層	5号竪穴住居	胴部			
1178		1	10-05	[20]	カマド	5号竪穴住居	胴部			
945		1	10-05	[20]	床直	5号竪穴住居	口縁部			
953		1	10-05	[31]	床直	5号竪穴住居	口縁部			
742		1	11-04	[11]	覆土⑤層	5号竪穴住居	口縁部			
2218		1	10-05	[00]	覆土⑤層	5号竪穴住居	口縁部			
743		1	10-04	[23]	炭	1号土壇周辺の焼土・炭化物	胴部			
617		1	10-04	[23]	炭	1号土壇周辺の焼土・炭化物	胴部			
744		1	10-04	[23]	炭	1号土壇周辺の焼土・炭化物	胴部			
810		1	10-04	[22]	炭	1号土壇周辺の焼土・炭化物	胴部			
691		1	10-04	[23]	炭	1号土壇周辺の焼土・炭化物	胴部			
746		1	10-04	[23]	炭	1号土壇周辺の焼土・炭化物	胴部			
14046		1	09-07	[01]	炭	6号土壇	口縁部			
14352		1	08-07	[32]	土壇内	6号土壇	口縁部			
14353		1	08-07	[32]	土壇内	6号土壇	口縁部			
14107		2	08-07	[32]	炭	6号土壇	口縁部			
15513		1	08-07	[32]	土壇床面	6号土壇	胴部			
15096		1	09-07	[02]	土壇内	6号土壇	胴部			
15098	1	08-07	[32]	土壇床面	6号土壇	胴部				
13972	1	08-07	[31]	土壇内	6号土壇	口縁部				

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
壘 (つづき)	24	13959	1	08-07	[21]	IV	6号土壌周辺	口縁部		
	3873	1	09-07	[01]	V		6号土壌周辺	口縁部		
	3752	1	09-07	[03]	IV		6号土壌周辺	胴部		
	3753	2	09-07	[03]	IV		6号土壌周辺	胴部		
	3748	1	09-07	[03]	IV		6号土壌周辺	胴部		
	15514	1	09-07	[02]	焼土		6号土壌周辺	胴部		
	3169	1	09-07	[12]	V		6号土壌周辺	胴部		
	3170	1	09-07	[22]	V		6号土壌周辺	胴部		
	12872	1	08-07	[21]	IV		6号土壌周辺	胴部		
	12782	2	08-07	[22]	IV		6号土壌周辺	胴部		
	13958	1	08-07	[21]	IV		5号土壌周辺	口縁		
	13957	1	08-07	[21]	IV		5号土壌周辺	口縁		
	3212	1	17-11	[22]	IV		炭化物マウンド	胴部		
	1852	1	18-10	[01]	カクラン		炭化物マウンド	底部		
	1181	1	11-04	[20]	IV		遺構外	口縁部		
	1536	1	10-05	[01]	IV		遺構外	胴部		
	1179	1	11-04	[20]	IV		遺構外	胴部		
	1294	1	10-05	[11]	IV		遺構外	胴部		
	3127	1	09-06	[21]	V		遺構外	胴部		
	5191	1	09-06	[10]	IV		遺構外	胴部		
	16113	1	06-08	[01]	V		遺構外	胴部		
	61片(口縁部2片番号わからず)									
	壘	25	5339	3	13-09	[31]	IV	炭化物36	胴部	PL.2-263-1
		11	1	15-07	[23]	(不明)		炭化物39	胴部	
5271		1	15-07	[13]	(不明)		炭化物39	胴部		
1222		1	12-08	[31]	IV		遺構外	胴部		
1223		1	12-08	[31]	IV		遺構外	胴部		
1224		1	12-08	[31]	IV		遺構外	胴部		
1221		1	12-08	[31]	IV		遺構外	胴部		
1225		2	12-08	[31]	IV		遺構外	底部		
1226		1	12-08	[31]	IV		遺構外	胴部		
1636		1	12-08	[22]	IV		遺構外	胴部		
4570		3	14-08	[23]	IV		遺構外	口縁部		
4571		6	14-08	[23]	IV		遺構外	口縁部		
4572		1	14-08	[23]	IV		遺構外	口縁部		
4725		1	14-07	[30]	IV		遺構外	口縁部		
4564		1	14-07	[21]	IV		遺構外	口縁部		
1339		1	13-08	[01]	IV		遺構外	口縁部		
10		1	15-08	[31]	(不明)		遺構外	口縁部		
9		1	15-08	[21]	(不明)		遺構外	口縁部		
4576		1	14-08	[30]	IV		遺構外	口縁部		
4575		1	14-08	[30]	IV		遺構外	口縁部		
4577		1	14-08	[30]	IV		遺構外	口縁部		
4562		1	14-08	[20]	IV		遺構外	口縁部		
4561		2	14-08	[20]	IV		遺構外	口縁部		
1640		1	13-08	[13]	IV		遺構外	口縁部		
4579		1	14-09	[00]	IV		遺構外	口縁部		
4729		1	13-08	[31]	IV		遺構外	口縁部		
6		1	15-08	[01]	IV		遺構外	胴部		
4574		1	14-08	[30]	III		遺構外	胴部		
1234		1	13-08	[10]	カクラン		遺構外	胴部		
4		1	15-08	[00]	(不明)		遺構外	胴部		
5		2	15-08	[10]	(不明)		遺構外	胴部		
722		1	15-07	[03]	IV		遺構外	胴部		
12		1	16-08	[11]	(不明)		遺構外	胴部		
1232		1	13-08	[01]	IV		遺構外	胴部		
1338		1	13-08	[01]	IV		遺構外	胴部		
1639		2	13-08	[22]	IV		遺構外	胴部		
4568		1	14-08	[23]	IV		遺構外	胴部		
4569		1	14-08	[23]	IV		遺構外	口縁部		
4567		2	14-08	[23]	IV		遺構外	口縁部		
4595		1	14-09	[30]	IV		遺構外	口縁部		
1239		1	13-08	[11]	カクラン		遺構外	口縁部		
1484		1	13-08	[12]	IV		遺構外	口縁部		
1341		1	13-08	[01]	IV		遺構外	口縁部		
1405		1	13-08	[11]	カクラン		遺構外	口縁部		
4555		2	14-08	[00]	III		遺構外	口縁部		
4566		7	14-08	[22]	IV		遺構外	口縁部		
4556		1	14-08	[00]	III		遺構外	口縁部		
1342		1	13-08	[11]	IV		遺構外	口縁部		
5149		1	18-07	[10]	IV		遺構外	口縁部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
壙 (つづき)	25 5479	1	17-06	[33]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	5018	1	15-06	[13]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	5158	1	16-07	[00]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	5151	1	17-07	[30]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	5473	1	17-06	[32]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	5336	1	14-07	[03]	Ⅳ	遺構外	底部	
	76片(底部1片番号わからず)							
壙	26 83	1	19-15	[32]	(不明)	炭化物52	胴部	PL.Ⅱ-53
	4501	11	20-16	[33]	Ⅳ	炭化物52周辺	口縁部5, 胴部6	PL.Ⅱ-267-6
	11461	1	20-16	[21]	Ⅳ	炭化物52周辺	口縁部	
	12470	1	20-17	[30]	Ⅳ	炭化物52周辺	口縁部	
	5687	1	20-16	[33]	Ⅳ	炭化物52周辺	口縁部	
	6013	1	20-16	[13]	Ⅲ	炭化物52周辺	底部	
	9458	2	20-16	[22]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部	
	5688	1	20-16	[32]	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部	
	9591	1	20-16	[31]	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部	
	7604	1	20-16	[22]	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部	
	213	6	20-16	[33]	(不明)	炭化物52周辺	胴部	
	11475	2	20-16	[32]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部	
	11464	1	20-16	[22]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部	
	210	2	20-16	[32]	(不明)	炭化物52周辺	胴部	
	201	1	20-15	[32]	(不明)	炭化物52周辺	胴部	
	209	1	20-16	[32]	(不明)	炭化物52周辺	胴部	
	211	1	20-16	[32]	(不明)	炭化物52周辺	胴部	
	5686	1	20-16	[33]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部	
	12670	1	21-15	[33]	Ⅳ	炭化物52周辺	底部	
	11483	6	20-16	[33]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部3, 底部3	
	11476	1	20-16	[32]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部	
	6014	1	20-16	[23]	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部	
	11479	1	20-16	[33]	Ⅳ	炭化物52周辺	底部	
	46片(胴部5片番号わからず)							
壙	27 650	1	19-14	[20]	床直	1号竪穴住居	口縁部	PL.Ⅱ-3
	574	1	19-14	[21]	床直	1号竪穴住居	口縁部	PL.Ⅱ-20-3
	575	1	19-14	[21]	床直	1号竪穴住居	口縁部	PL.Ⅱ-54
	577	1	19-14	[31]	床直	1号竪穴住居	口縁部	
	578	1	19-14	[31]	床直	1号竪穴住居	胴部	
	579	1	19-14	[31]	床直	1号竪穴住居	胴部	
	581	2	19-14	[31]	床直	1号竪穴住居	胴部1, 底部1	
	678	1	19-14	[10]	床直	1号竪穴住居	胴部	
	735	1	19-14	[11]	カマド	1号竪穴住居カマド左袖	胴部	
	736	1	19-14	[12]	カマド	1号竪穴住居カマド右袖	口縁部	
	11828	1	16-17	[02]	土壌内	3号土壌	胴部	
	16561	1	18-13	(不明)	焼土	焼土48	胴部	
	7067	2	18-13	[30]	Ⅳ	焼土47・48周辺	口縁部	
	11645	1	18-12	[33]	Ⅳ	焼土47・48周辺	口縁部	
	12394	5	19-13	[10]	Ⅳ	焼土47・48周辺	口縁部2, 胴部3	
	10215	8	19-13	[10]	Ⅳ	焼土47・48周辺	口縁部7, 胴部1	
	6797	1	19-13	[10]	Ⅳ	焼土47・48周辺	口縁部	
	10209	3	18-13	[33]	Ⅳ	焼土47・48周辺	胴部	
	6726	1	19-12	[22]	Ⅳ	焼土47・48周辺	胴部	
	12044	1	19-12	[03]	Ⅳ	焼土47・48周辺	胴部	
	10216	1	19-13	[10]	Ⅳ	焼土47・48周辺	胴部	
	6725	1	19-12	[13]	Ⅳ	焼土47・48周辺	胴部	
	6844	1	18-13	[31]	Ⅳ	焼土47・48周辺	胴部	
	6841	1	18-13	[30]	Ⅳ	焼土47・48周辺	胴部	
	12393	1	19-13	[00]	Ⅳ	焼土47・48周辺	胴部	
	10159	2	18-13	[20]	Ⅳ	焼土47・48周辺	胴部	
	6650	1	19-12	[03]	Ⅳ	焼土47・48周辺	胴部	
	10160	1	18-14	[20]	Ⅳ	焼土51	胴部	
	10165	3	18-14	[21]	Ⅳ	遺構外	胴部	
10379	1	19-13	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部		
10214	3	19-13	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部		
(完形品) 51片								
壙	28 9913	1	17-16	[32]	床	2号竪穴住居	胴部	PL.Ⅱ-38-1
	6855	5	17-12	[01]	Ⅳ	炭化物マウンド	口縁部3, 胴部2	PL.Ⅱ-55
	3203	3	17-11	[32]	Ⅳ	炭化物マウンド	口縁部	
	7159	3	17-12	[21]	Ⅳ	炭化物マウンド	口縁部	
	171	5	17-11	[02]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
	183	10	17-12	[00]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
	3341	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
	8368	3	17-12	[00]	Ⅳ	炭化物マウンド	口縁部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	28	7328	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	口縁部	
	7004	3	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	口縁部1, 胴部2		
	7006	4	17-12	[11]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	7134	1	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	8375	1	16-12	[30]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	8381	1	16-12	[30]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	8382	1	16-12	[30]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	8377	1	16-12	[30]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7809	1	17-11	[32]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7120	2	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	3359	1	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	8686	2	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	7355	1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	7544	1	17-12	[21]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7022	2	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7020	2	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	6992	4	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	3501	2	17-11	[03]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7005	1	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7003	1	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	8450	2	16-12	[31]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7032	2	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	8142	1	16-12	[31]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7542	1	17-12	[21]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7017	2	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7339	1	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	10010	2	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	10023	1	17-11	[22]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	8700	2	17-11	[22]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	6854	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	6853	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	3472	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	7353	1	17-12	[11]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	8367	1	17-12	[30]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	9425	1	17-11	[13]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	7115	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7113	3	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	8354	3	16-12	[31]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7126	1	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7032	2	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	3384	2	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	底部		
	6993	2	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	176	2	17-11	[13]	(不明)	炭化物マウンド	底部		
180	1	17-11	[13]	(不明)	炭化物マウンド	底部			
3360	1	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	底部			
3344	1	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部			
103片(胴部3片番号わからず)									
壙	29	3429	1	17-11	[23]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.②-205-3 PL.②-56
	8666	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
	7039	1	17-12	[21]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	8351	2	16-11	[33]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	7348	1	17-12	[11]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	3432	1	17-11	[23]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	3424	1	17-11	[23]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	6858	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	3314	1	17-11	[11]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	3383	1	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	8781	1	17-12	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
	8484	1	16-12	[31]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	8449	1	16-12	[31]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	3413	1	17-11	[22]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	10437	1	17-11	[32]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
	3410	1	17-11	[22]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	3396	1	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	3425	1	17-11	[23]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	3426	1	17-11	[23]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	10457	1	17-11	[22]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
	7031	1	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	3312	1	17-11	[10]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	2040	1	17-09	[33]	b'	炭化物マウンド	口縁部		
	3318	1	17-11	[11]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	29	3460	1	17-11	[33]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
	8672	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
	8608	1	18-10	[03]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
	7034	1	17-12	[21]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	8763	1	17-12	[10]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
	3390	2	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	8664	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
	3418	2	17-11	[22]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	8715	1	17-11	[23]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
	10011	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
	10069	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
	10194	1	17-13	[21]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	7166	1	17-12	[30]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	3537	1	16-11	[33]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	7152	1	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	7042	1	17-12	[30]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	9628	1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
	7122	3	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
	3508	3	17-12	[00]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	6994	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	6855	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	8355	1	16-12	[31]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7135	1	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7545	12	17-12	[21]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7037	1	17-12	[21]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	1986	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	10014	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	7339	1	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	10020	1	17-11	[22]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	2988	2	18-09	[03]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	3180	3	18-11	[03]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	2483	1	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	2479	1	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	2403	1	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	2476	1	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	2977	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	2494	1	17-10	[31]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	3380	1	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	3381	2	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	7381	1	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	8496	1	16-11	[11]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	8782	1	17-12	[21]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	3376	1	17-11	[21]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	7029	1	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7801	1	17-12	[30]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	2032	1	18-10	[10]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	2395	2	17-10	[20]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	2402	1	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	底部		
	2487	1	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	3392	1	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	8588	1	16-17	[22]	Ⅲ	焼土43	口縁部		
	8585	1	16-17	[31]	Ⅲ	焼土43	口縁部		
	12599	1	16-17	[13]	IV	焼土43	胴部		
388	1	16-17	[30]	(不明)	焼土43	口縁部			
12668	1	16-17	[13]	IV	焼土43	胴部			
12665	1	16-17	[13]	IV	焼土43	胴部			
12290	1	16-17	[31]	煙道に落込	焼土43	胴部			
12499	1	16-17	[31]	煙道に落込	焼土43	胴部			
9079	3	19-15	[23]	x'	炭化物52	胴部			
12174	1	15-12	[22]	IV	遺構外	口縁部			
109片(口縁部3片番号わからず)									
壙	30	1802	3	17-17	[11]	床直	2号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-38-2
	10517	1	17-16	[23]	床	2号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-57	
	11013	1	17-18	[01]	床	2号竪穴住居	口縁部		
	7515	1	13-15	[10]	IV	焼土37	胴部		
	12298	1	16-17	[12]	焼土	焼土43	口縁部		
	9999	1	16-17	[12]	焼土	焼土43	胴部		
	5785	2	19-15	[23]	Ⅲ	炭化物52	口縁部		
	11369	1	20-15	[10]	x'	炭化物52	口縁部		
	5775	2	19-15	[33]	Ⅲ	炭化物52	口縁部		
	11079	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	口縁部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	30	9462	1	20-16	[23]	IV	炭化物52周辺	口縁部	
		11465	1	20-16	[23]	IV	炭化物52周辺	口縁部	
		7606	1	20-16	[22]	III	炭化物52周辺	口縁部	
		6640	1	18-10	[10]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		9882	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		2458	1	17-10	[33]	b'	炭化物マウンド	口縁部	
		9434	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		9279	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		10294	1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		2438	1	17-10	[31]	b'	炭化物マウンド	口縁部	
		9204	1	17-11	[02]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		10585	1	17-11	[32]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		9447	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		9212	1	17-11	[03]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
		9218	1	17-12	[00]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
		9667	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		9685	1	17-12	[00]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		10017	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		186	1	17-12	[10]	(不明)	炭化物マウンド	胴部	
		7105	1	17-12	[00]	IV	炭化物マウンド	胴部	
		3468	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
		3529	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
		187	2	17-12	[10]	(不明)	炭化物マウンド	胴部	
		3371	1	17-11	[20]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
		8657	1	17-11	[20]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		2444	3	17-10	[32]	b'	炭化物マウンド	胴部	
		2399	2	17-10	[20]	b'	炭化物マウンド	胴部	
		2436	1	17-10	[31]	b'	炭化物マウンド	胴部	
		10962	1	17-10	[33]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		2889	1	17-10	[33]	b'	炭化物マウンド	胴部	
		2911	1	18-10	[02]	b'	炭化物マウンド	胴部	
		2296	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	胴部	
		2763	1	18-10	[02]	b'	炭化物マウンド	胴部	
		9663	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		2055	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	胴部	
		2056	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	胴部	
		3443	1	17-11	[30]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
		9892	1	17-12	[12]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9893	1	17-12	[12]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9625	1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9624	1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9620	1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		7324	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部	
		9672	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9493	1	17-12	[12]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		189	2	17-12	[11]	IV	炭化物マウンド	胴部	
		3264	1	17-11	[23]	IV	炭化物マウンド	胴部	
		8642	2	17-11	[12]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		10060	1	17-11	[23]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		3253	1	17-11	[23]	IV	炭化物マウンド	胴部	
		3511	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
		3515	3	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
		3199	1	17-11	[23]	IV	炭化物マウンド	胴部	
		8731	1	17-11	[31]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		3513	1	17-12	[00]	マウンド上	炭化物マウンド	底部	
		9443	2	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	底部	
	3512	1	17-12	[00]	マウンド	炭化物マウンド	底部		
80片(胴部4片番号わからず)									
壙	31	11302	1	17-16	[33]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部	PL.②-41-1
		10837	1	17-17	[02]	床直	2号竪穴住居	口縁部	PL.②-58
		1888	1	17-16	[23]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		11844	1	17-16	[23]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		10119	1	17-17	[03]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		11826	1	15-17	[32]	土壌内	3号土壌	胴部	
		370	2	16-17	[32]	(不明)	焼土43	口縁部	
		11199	1	16-17	[22]	焼土	焼土43	胴部	
		9716	1	16-17	[22]	IV	焼土43	胴部	
		9087	2	19-16	[30]	x'	炭化物52	口縁部	
		9599	1	20-16	[21]	III	炭化物52周辺	胴部	
		9597	1	20-16	[21]	III	炭化物52周辺	胴部	
		11389	1	20-15	[33]	IV	炭化物52周辺	胴部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
壘 (つづき)	31	7605	1	20-16	[22]	Ⅲ	炭化物52周辺	底部		
	9590	1	20-16	[20]	Ⅲ	炭化物52周辺	底部			
	11458	1	20-16	[20]	Ⅳ	炭化物52周辺	底部			
	2084	1	18-09	[03]	b'	炭化物マウンド	口縁部			
	2491	1	17-10	[22]	b'	炭化物マウンド	口縁部			
	2907	1	18-10	[01]	b'	炭化物マウンド	口縁部			
	6605	1	18-10	[21]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部			
	10441	1	17-11	[20]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部			
	2490	1	17-10	[22]	b'	炭化物マウンド	口縁部			
	2990	1	18-09	[03]	b'	炭化物マウンド	口縁部			
	1919	1	17-10	[31]	カクラン	炭化物マウンド	口縁部			
	2828	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	口縁部			
	2975	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	口縁部			
	10960	1	17-11	[30]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9238	1	17-11	[10]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	1927	1	17-10	[13]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	6606	2	18-10	[21]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	2250	1	17-10	[13]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	10967	1	17-10	[23]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9237	1	17-11	[10]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	9240	1	17-11	[10]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	2300	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	9248	1	17-11	[12]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	8629	1	17-11	[10]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	8625	1	17-11	[03]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	2895	1	17-10	[31]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	2744	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	2650	1	18-10	[10]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	2631	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	2747	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	10463	1	17-11	[22]	マウンド下	炭化物マウンド	胴部			
	10459	1	17-11	[22]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10963	1	17-10	[33]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	2745	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	1867	1	18-10	[12]	カクラン	炭化物マウンド	胴部			
	1866	1	18-10	[01]	カクラン	炭化物マウンド	胴部			
	6607	1	18-10	[21]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9430	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	底部			
	5888	1	14-14	[22]	Ⅲ	遺構外	口縁部			
	7748	1	14-15	[20]	Ⅳ	遺構外	口縁部			
	7507	1	14-15	[20]	Ⅳ	遺構外	口縁部			
	1155	6	13-14	[31]	Ⅳ	遺構外	口縁部4, 胴部2			
	5883	2	14-14	[02]	Ⅲ	遺構外	口縁部			
	5882	1	14-14	[02]	Ⅲ	遺構外	口縁部			
	160	1	13-14	[31]	(不明)	遺構外	胴部			
	67片(胴部2片番号わからず)									
	壘	32	554	1	17-17	[11]	床	2号竪穴住居	口縁部	PL. [2]-35-1
		555	6	17-17	[11]	床	2号竪穴住居	口縁部1, 胴部5	PL. [2]-59	
		396	1	17-17	[22]	(不明)	2号竪穴住居	胴部		
		12516	1	16-17	[22]	焼土	焼土43	口縁部		
		475	5	16-17	[22]	b'上	焼土43	胴部		
		471	1	16-17	[22]	b'上	焼土43	胴部		
		476	1	16-17	[22]	b'上	焼土43	胴部		
		12549	1	16-17	[23]	Ⅳ	焼土43	胴部		
		8347	1	16-17	[12]	焼土	焼土43	胴部		
		474	1	16-17	[22]	b'上	焼土43	胴部		
		375	1	16-17	[32]	(不明)	焼土43	胴部		
		363	1	16-17	[22]	(不明)	焼土43	胴部		
		365	1	16-17	[32]	(不明)	焼土43	胴部		
		8480	1	16-17	[22]	(不明)	焼土43	胴部		
		12514	1	16-17	[22]	焼土	焼土43	胴部		
		511	1	16-17	[23]	b'上	焼土43	胴部		
		374	1	16-17	[32]	(不明)	焼土43	胴部		
		8586	2	16-17	[32]	Ⅲ	焼土43	胴部		
		12519	2	16-17	[32]	焼土	焼土43	胴部		
		8481	1	16-17	[22]	焼土	焼土43	胴部		
		8476	1	16-17	[22]	焼土	焼土43	胴部		
373		1	16-17	[32]	(不明)	焼土43	胴部			
367		1	16-17	[32]	(不明)	焼土43	胴部			
515		1	16-17	[23]	b'上	焼土43	胴部			
477		1	16-17	[22]	b'上	焼土43	胴部			

個体番号	破片番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
瘻 (つづき)	32	7099	1	20-15	(02)	焼土上面	炭化物52	胴部		
	9002	1	19-15	(13)	x ¹	炭化物52	胴部			
	11047	8	19-15	(12)	x ¹	炭化物52	胴部			
	11046	5	19-15	(12)	x ¹	炭化物52	胴部			
	9045	1	19-15	(12)	x ¹	炭化物52	胴部			
	7243	1	19-15	(22)	x ¹	炭化物52	胴部			
	9042	1	19-15	(12)	x ¹	炭化物52	胴部			
	9038	1	19-15	(12)	x ¹	炭化物52	胴部			
	9017	7	19-15	(13)	x ¹	炭化物52	胴部			
	9041	4	19-15	(12)	x ¹	炭化物52	胴部			
	9019	4	19-15	(13)	x ¹	炭化物52	胴部			
	9018	4	19-15	(13)	x ¹	炭化物52	胴部			
	9023	3	19-15	(13)	x ¹	炭化物52	胴部			
	11050	2	19-15	(12)	x ¹	炭化物52	胴部			
	11321	1	19-15	(12)	x ²	炭化物52	胴部			
	2820	1	17-10	(32)	b ¹	炭化物マウンド	胴部			
	10937	1	21-17	(22)	IV	遺構外	胴部			
	4732	1	13-08	(33)	IV	遺構外	胴部			
	4581	1	14-09	(02)	IV	遺構外	胴部			
	4529	1	13-09	(01)	IV	遺構外	胴部			
85片(底部1片番号ナシ)										
瘻	33	565	2	17-17	(23)	覆土④層	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-37-2	
	549	1	17-17	(21)	覆土④層	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-60		
	397	1	17-17	(22)	(不明)	2号竪穴住居	胴部			
	545	1	17-17	(31)	(不明)	2号竪穴住居	胴部			
	396	1	17-17	(12)	(不明)	2号竪穴住居	底部			
	559	1	17-17	(22)	覆土④層	2号竪穴住居	底部			
	9482	22	16-17	(30)	焼土	焼土43	口縁部11, 胴部10, 底部1			
	123	2	16-17	(30)	(不明)	焼土43	口縁部1, 胴部1			
	124	4	16-17	(30)	(不明)	焼土43	口縁部2, 胴部2			
	385	2	16-17	(30)	(不明)	焼土43	胴部			
	9481	1	16-17	(20)	焼土	焼土43	胴部			
	125	15	16-17	(30)	(不明)	焼土43	胴部			
	273	1	16-16	(33)	(不明)	焼土43	胴部			
	8322	1	16-17	(31)	焼土	焼土43	胴部			
	384	2	16-17	(30)	(不明)	焼土43	胴部			
	8307	1	16-17	(20)	焼土	焼土43	胴部			
	378	1	16-17	(31)	(不明)	焼土43周辺	胴部			
	1687	1	17-16	(03)	カクラン	焼土43周辺	胴部			
	8594	1	16-15	(23)	Ⅲ	焼土43周辺	胴部			
	57	1	16-18	(30)	(不明)	焼土43周辺	胴部			
	113	1	16-17	(20)	(不明)	焼土43周辺	胴部			
	296	2	16-17	(20)	(不明)	焼土43周辺	胴部			
	11146	1	15-17	(31)	IV	焼土43周辺	胴部			
	390	1	16-17	(30)	(不明)	焼土43周辺	胴部			
	350	1	16-17	(22)	(不明)	焼土43周辺	胴部			
	68片									
	瘻	34	1900	1	17-16	(32)	床直	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-37-1
		11012	1	16-18	(31)	床直	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-61	
		11836	1	17-16	(32)	床直	2号竪穴住居	胴部		
		524	1	17-16	(32)	床直	2号竪穴住居	胴部		
		1841	1	18-17	(20)	床直	2号竪穴住居	胴部		
		10873	1	19-17	(01)	床直	2号竪穴住居	胴部		
1692		1	17-17	(01)	IV	2号竪穴住居	胴部			
120		3	16-17	(23)	(不明)	焼土43	胴部			
11563		1	16-17	(02)	焼土	焼土43	胴部			
8212		8	15-17	(22)	Ⅲ	焼土43	胴部			
11665		3	16-17	(02)	焼土	焼土43	胴部			
11564		2	16-17	(02)	焼土	焼土43	胴部			
11682		1	16-17	(02)	焼土	焼土43	胴部			
12540		2	16-17	(23)	IV	焼土43	胴部			
12536		1	16-17	(13)	IV	焼土43	胴部			
1060		1	13-14	(01)	IV	焼土34周辺	胴部			
6719		1	19-12	(11)	IV	焼土47周辺	胴部			
7412		1	19-15	(12)	x ¹	炭化物52	口縁部			
5735		1	19-15	(12)	Ⅲ	炭化物52	口縁部			
5745		1	19-15	(22)	Ⅲ	炭化物52	口縁部			
5790		1	19-15	(23)	Ⅲ	炭化物52	口縁部			
11070		3	19-15	(21)	x ¹	炭化物52	口縁部			
7248		1	19-15	(22)	x ¹	炭化物52	口縁部			
11060		1	19-15	(12)	x ¹	炭化物52	口縁部			

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号			
壙 (つづき)	34	7425	2	19-15	[22]	x ¹	炭化物52	口縁部			
		7458	3	19-15	[31]	x ¹	炭化物52	胴部			
		7456	1	19-15	[32]	x ¹	炭化物52	胴部			
		7683	1	19-15	[13]	x ¹	炭化物52	胴部			
		7417	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	胴部			
		11890	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	胴部			
		7239	1	19-15	[22]	x ¹	炭化物52	胴部			
		85	1	19-15	[22]	(不明)	炭化物52	胴部			
		5749	1	19-15	[22]	Ⅲ	炭化物52	胴部			
		7460	1	19-15	[21]	x ¹	炭化物52	胴部			
		5755	1	19-15	[22]	Ⅲ	炭化物52	胴部			
		5754	1	19-15	[22]	Ⅲ	炭化物52	胴部			
		7238	1	19-15	[22]	x ¹	炭化物52	胴部			
		7640	1	19-15	[21]	x ¹	炭化物52	胴部			
		11049	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	胴部			
		9015	1	19-15	[13]	x ¹	炭化物52	胴部			
		7692	2	19-15	[13]	x ¹	炭化物52	胴部			
		7815	1	18-11	[02]	Ⅳ	炭化物マウンド	胴部			
		1689	1	17-16	[03]	カクラン	遺構外	胴部			
		1716	1	14-09	[32]	Ⅳ	遺構外	口縁部			
		11963	1	17-15	[30]	Ⅳ	遺構外	口縁部			
		5667	1	22-14	[13]	Ⅲ	遺構外	胴部			
		61	3	17-15	[32]	(不明)	遺構外	胴部			
		11301	1	17-16	[32]	Ⅳ	遺構外	胴部			
		12524	1	16-18	[12]	Ⅳ	遺構外	胴部			
		11785	1	18-15	[01]	Ⅳ	遺構外	胴部			
	71片(胴部4片番号わからず)										
	壙	35	1793	7	18-18	[00]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-62	
			1798	1	18-18	[01]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
			8537	1	17-18	[12]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		542	2	17-17	[30]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部			
		118	8	16-17	[21]	(不明)	焼土43	胴部			
		117	4	16-17	[21]	(不明)	焼土43	胴部			
		115	1	16-17	[20]	(不明)	焼土43	胴部			
		127	1	16-17	[30]	(不明)	焼土43	胴部			
		139	1	16-17	[32]	カクラン	焼土43	胴部			
		1693	1	16-17	[31]	Ⅳ	焼土43	胴部			
		8321	1	16-17	[31]	焼土	焼土43	胴部			
		8309	1	16-17	[20]	焼土	焼土43	胴部			
		283	1	16-17	[20]	(不明)	焼土43	胴部			
		8332	1	15-17	[20]	Ⅲ	焼土43	胴部			
		1690	2	17-17	[00]	Ⅳ	遺構外	胴部			
		1629	1	12-08	[00]	Ⅳ	遺構外	胴部			
		8294	1	16-16	[23]	Ⅳ	遺構外	胴部			
		8225	2	15-17	[10]	Ⅲ	遺構外	胴部			
37片(底部1片番号なし・胴部2片番号わからず)											
壙		36	630	1	13-16	[10]	Ⅳ	焼土35-37	口縁部		PL.[2]-201下 PL.[2]-209-1 PL.[2]-63
			12657	2	16-17	[13]	Ⅳ	焼土43	口縁部		
			7443	1	19-15	[33]	x ¹	炭化物52	口縁部		
			7902	1	19-15	[03]	x ¹	炭化物52	口縁部		
		11737	1	19-15	[03]	Ⅳ	炭化物52	口縁部			
		9037	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	口縁部			
		9095	4	19-15	[33]	x ¹	炭化物52	胴部			
		9092	1	19-15	[33]	x ¹	炭化物52	胴部			
		7934	3	19-15	[33]	x ¹	炭化物52	胴部			
		9078	2	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	胴部			
		7632	1	19-15	[02]	x ¹	炭化物52	胴部			
		5778	2	19-15	[33]	Ⅲ	炭化物52	胴部			
		10248	1	17-11	[21]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部			
		9424	1	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部			
		10258	1	17-11	[23]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部			
		10041	1	17-11	[23]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部			
		9273	1	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部			
		10042	2	17-11	[23]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部			
		3198	1	17-11	[23]	Ⅳ	炭化物マウンド	口縁部			
		3220	1	17-11	[23]	Ⅳ	炭化物マウンド	口縁部			
		10257	1	17-11	[23]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部			
		10290	6	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
		9859	2	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
		10016	1	17-11	[21]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
変 (つづき)	36	9420	1	17-11	[13]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	10244	2	17-11	[21]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10056	1	17-11	[23]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10029	1	17-11	[22]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	2772	1	18-10	[02]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	2757	1	18-10	[01]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	9863	9	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9655	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9354	1	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9379	2	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9864	1	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9427	1	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10331	1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9865	3	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9371	1	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10040	1	17-11	[23]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	10277	2	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10330	1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10267	1	17-11	[23]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10043	1	17-11	[23]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	9333	2	17-11	[12]	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9652	2	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	底部			
	9462	14	20-16	[23]	IV	遺構外	口縁部			
	6012	1	20-16	[13]	III	遺構外	口縁部			
	91片(口縁部4片, 胴部2片番号わからず)									
	変	37	12157	13	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	口縁部4, 胴部9	PL.[2]-34-1
		1778	1	18-17	[20]	床直	2号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-64	
		12248	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部		
		12249	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部		
		12060	2	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部		
1829		1	17-16	[23]	床直	2号竪穴住居	胴部			
11001		1	17-16	[33]	床直	2号竪穴住居	胴部			
11002		1	17-16	[33]	床直	2号竪穴住居	胴部			
10505		1	17-16	[23]	床直	2号竪穴住居	胴部			
1740		1	17-16	[33]	床直	2号竪穴住居	胴部			
1891		1	17-16	[23]	床直	2号竪穴住居	胴部			
9916		1	17-16	[33]	床直	2号竪穴住居	胴部			
12085		1	17-17	[11]	カマド	2号竪穴住居	胴部			
12070		1	18-16	[23]	床	2号竪穴住居	胴部			
12071		1	18-16	[23]	床	2号竪穴住居	胴部			
16584		1	17-17	[不明]	カマド	2号竪穴住居	胴部			
8892		1	18-16	[13]	床直	2号竪穴住居	口縁部			
16590		1	17-16	[不明]	床直	2号竪穴住居	胴部			
510		1	16-17	[23]	b'上	焼土43	胴部			
5852		1	15-17	[31]	III	焼土43	胴部			
514		1	16-17	[23]	b'上	焼土43	胴部			
11152		1	15-17	[21]	IV	焼土43	胴部			
11194		1	15-17	[31]	IV	焼土43	胴部			
11683		1	16-17	[02]	焼土	焼土43	胴部			
5760		2	19-15	[22]	III	炭化物52	口縁部			
7461		1	19-15	[21]	x'	炭化物52	口縁部			
7454		2	19-15	[32]	x'	炭化物52	口縁部			
5759		1	19-15	[22]	III	炭化物52	口縁部			
7450		1	19-15	[32]	x'	炭化物52	口縁部			
9083		1	19-16	[20]	x'	炭化物52	胴部			
9090		1	19-15	[33]	x'	炭化物52	胴部			
5719		1	19-15	[21]	III	炭化物52	胴部			
6018		1	20-16	[00]	III	炭化物52	胴部			
7584		1	20-16	[10]	III	炭化物52	胴部			
16560		1	26-17	[不明]	炭化物層	炭化物・焼土70	胴部			
9811		1	17-13	[02]	IV	遺構外	口縁部			
10357		1	18-14	[22]	IV	遺構外	口縁部			
5822		1	19-16	[10]	III	遺構外	口縁部			
11959		1	18-15	[20]	IV	遺構外	口縁部			
8977		1	15-14	[20]	IV	遺構外	口縁部			
11488		1	18-15	[10]	IV	遺構外	口縁部			
7707		1	15-15	[03]	IV	遺構外	口縁部			
11865		1	18-15	[20]	IV	遺構外	口縁部			
5827		1	18-15	[12]	III	遺構外	口縁部			
7728		1	15-15	[23]	IV	遺構外	口縁部			
9385		1	17-13	[13]	IV	遺構外	口縁部			

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壘 (つづき)	37	10193	1	17-13	[13]	IV	遺構外	口縁部	
		10723	1	14-12	[22]	IV	遺構外	口縁部	
63片(口縁部1片, 胴部11片番号わからず)									
壘	38	12065	2	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-36-1
		11837	1	17-16	[32]	床	2号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-65
		12231	1	17-17	[11]	カマド	2号竪穴住居	口縁部	
		10836	6	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	口縁部2, 胴部4	
		12158	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	口縁部	
		1755	1	18-16	[02]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		1749	1	17-17	[30]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		1830	1	17-17	[20]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		1748	1	17-17	[20]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		12084	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部	
		16529	1	17-17	[不明]	カマド	2号竪穴住居	胴部	
		12246	2	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部	
		1912	1	18-17	[13]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		11020	1	18-17	[33]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		1754	1	18-16	[02]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		12067	1	18-17	[33]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		11841	1	18-16	[03]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		12277	1	15-16	[20]	IV	焼土41周辺	胴部	
		334	1	16-17	[02]	(不明)	焼土43	胴部	
		282	1	16-17	[20]	(不明)	焼土43	胴部	
		329	1	16-17	[02]	(不明)	焼土43	胴部	
		8282	1	16-16	[00]	IV	焼土43	胴部	
		9704	1	16-17	[21]	焼土上	焼土43	胴部	
		10504	1	16-16	[33]	焼土	焼土43	胴部	
		11033	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	口縁部	
		7460	1	19-15	[21]	x ¹	炭化物52	胴部	
		7241	1	19-15	[22]	x ¹	炭化物52	胴部	
		5740	1	19-15	[22]	III	炭化物52	胴部	
		82	1	19-15	[32]	(不明)	炭化物52	胴部	
		72	1	19-15	[23]	(不明)	炭化物52	胴部	
		7612	1	19-15	[01]	x ¹	炭化物52	胴部	
		7613	1	19-15	[01]	x ¹	炭化物52	胴部	
		5715	1	19-15	[20]	III	炭化物52	胴部	
		9039	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	胴部	
		83	2	19-15	[32]	(不明)	炭化物52	胴部	
		8851	1	19-15	[00]	x ¹	炭化物52	胴部	
		9027	1	19-15	[13]	x ¹	炭化物52	胴部	
		5762	3	19-15	[22]	III	炭化物52	胴部	
		5792	1	19-15	[23]	III	炭化物52	胴部	
		5742	1	19-15	[22]	III	炭化物52	胴部	
		5748	1	19-15	[22]	III	炭化物52	胴部	
		3449	1	17-11	[32]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		3454	1	17-11	[32]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
		10876	1	19-17	[03]	b ²	遺構外	胴部	
		7608	1	19-17	[不明]	カクラン	遺構外	胴部	
		8061	1	13-14	[22]	III	遺構外	胴部	
		6025	1	20-16	[10]	III	遺構外	口縁部	
7596	1	20-16	[11]	III	遺構外	口縁部			
6017	1	20-16	[00]	III	遺構外	口縁部			
59片(胴部3片番号わからず)									
壘	39	605	2	11-06	[20]	床	5号竪穴住居	胴部	PL.[2]-128-1
		13547	1	10-10	[03]	IV	遺構外	口縁部	PL.[2]-148
		13548	4	10-10	[03]	IV	遺構外	口縁部1, 胴部3	
		13540	4	10-10	[02]	IV	遺構外	口縁部	
		13542	6	10-10	[02]	IV	遺構外	口縁部1, 胴部5	
		4056	1	10-10	[01]	IV	遺構外	口縁部	
		4057	1	10-10	[20]	V	遺構外	口縁部	
		13554	1	10-10	[12]	IV	遺構外	胴部	
		4019	1	10-09	[12]	V	遺構外	胴部	
		4061	1	11-10	[00]	V	遺構外	胴部	
		13535	1	10-10	[02]	IV	遺構外	胴部	
		13537	4	10-10	[02]	IV	遺構外	胴部	
		13538	2	10-10	[02]	IV	遺構外	胴部	
		4076	1	10-10	[21]	V	遺構外	胴部	
		14724	2	10-10	[02]	IV	遺構外	胴部	
		13543	5	10-10	[02]	IV	遺構外	胴部	
		13545	1	10-10	[02]	IV	遺構外	胴部	
		13544	3	10-10	[02]	IV	遺構外	胴部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	39	13551	1	10-10	[12]	IV	遺構外	胴部	
		4037	1	10-09	[33]	IV	遺構外	胴部	
		4039	1	10-10	[00]	IV	遺構外	胴部	
		4049	1	10-10	[11]	IV	遺構外	胴部	
		4051	1	10-10	[11]	III	遺構外	胴部	
		1655	1	15-09	[30]	IV	遺構外	胴部	
		13	1	15-09	[30]	(不明)	遺構外	胴部	
		4053	1	10-10	[11]	IV	遺構外	胴部	
		4074	1	10-10	[01]	IV	遺構外	胴部	
		4048	1	10-10	[11]	IV	遺構外	胴部	
		4078	1	10-10	[30]	IV	遺構外	胴部	
		13536	1	10-10	[02]	IV	遺構外	胴部	
		705	1	11-09	[01]	IV	遺構外	胴部	
		4032	1	10-09	[13]	IV	遺構外	胴部	
		13539	3	10-10	[02]	IV	遺構外	胴部	
		13552	1	10-10	[12]	IV	遺構外	胴部	
		13533	1	10-10	[02]	IV	遺構外	胴部	
		13546	1	10-10	[03]	IV	遺構外	胴部	
		3997	1	09-10	[30]	IV	遺構外	胴部	
		4023	1	10-09	[22]	V	遺構外	底部	
		13335	1	09-09	[10]	IV	遺構外	底部	
	64片(胴部2片番号わからず)								
	壙	40	811	1	10-04	[22]	覆土⑤層	5号竪穴住居	胴部
		939	1	10-04	[23]	床直	5号竪穴住居	胴部	PL.②-149
		1564	1	10-05	[10]	煙道	5号竪穴住居	底部	
		1574	1	10-05	[10]	煙道	5号竪穴住居	胴部	
		2474	3	09-04	[32]	土壌内	1号土壌	口縁部1, 胴部2	
		2468	3	10-04	[03]	土壌内	1号土壌	口縁部2, 胴部1	
		2471	2	09-04	[32]	土壌内	1号土壌	胴部	
		2656	1	09-04	[32]	土壌内	1号土壌	胴部	
		2659	1	09-04	[32]	土壌内	1号土壌	胴部	
		2664	1	09-04	[33]	土壌内	1号土壌	胴部	
		2660	1	09-04	[32]	土壌内	1号土壌	胴部	
		2666	3	09-04	[33]	土壌内	1号土壌	胴部	
		2470	1	09-04	[32]	土壌内	1号土壌	胴部	
		2472	1	09-04	[32]	土壌内	1号土壌	胴部	
		2661	1	09-04	[32]	土壌内	1号土壌	胴部	
		2469	1	09-04	[32]	土壌内	1号土壌	胴部	
		16711	1	09-04	[不明]	土壌内	1号土壌	胴部	
		2915	1	09-04	[不明]	土壌内	1号土壌	胴部	
		2158	1	09-04	[32]	IV	1号土壌周辺	胴部	
		2157	2	09-04	[32]	IV	1号土壌周辺	胴部	
		2228	2	09-04	[31]	炭	1号土壌の焼土・炭化物	胴部	
		2832	1	09-04	[32]	焼土	1号土壌の焼土・炭化物	胴部	
		2833	1	09-04	[32]	焼土	1号土壌の焼土・炭化物	胴部	
		2831	1	09-04	[32]	焼土	1号土壌の焼土・炭化物	胴部	
		2835	2	09-04	[32]	焼土	1号土壌の焼土・炭化物	胴部	
		808	1	10-04	[13]	炭	1号土壌周辺の焼土・炭化物	胴部	
		2166	1	09-05	[30]	炭	1号土壌周辺の焼土・炭化物	胴部	
		2168	1	09-05	[30]	炭	1号土壌周辺の焼土・炭化物	胴部	
		2107	1	09-05	[30]	IV	1号土壌周辺の焼土・炭化物	胴部	
		2165	2	09-05	[30]	炭	1号土壌周辺の焼土・炭化物	胴部	
		2106	1	09-05	[20]	IV	1号土壌周辺の焼土・炭化物	胴部	
		2105	1	09-05	[20]	IV	1号土壌周辺の焼土・炭化物	胴部	
		2229	1	09-04	[32]	炭	1号土壌周辺の焼土・炭化物	胴部	
		2352	1	09-05	[02]	炭	1号土壌周辺の焼土・炭化物	胴部	
		4708	1	11-13	[10]	V	遺構外	胴部	
		4715	2	11-13	[10]	V	遺構外	胴部	
		5286	2	11-12	[13]	V	遺構外	胴部	
		4699	1	11-13	[10]	IV	遺構外	胴部	
		4651	1	12-08	[01]	V	遺構外	底部	
52片(胴部3片番号わからず)									
壙	41	546	4	17-17	[21]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部2, 胴部2	PL.②-33-2
		1807	7	17-17	[21]	床	2号竪穴住居	口縁部1, 胴部6	PL.②-66
		1808	4	17-17	[21]	床	2号竪穴住居	口縁部3, 胴部1	
		1813	10	17-17	[22]	床	2号竪穴住居	口縁部3, 胴部7	
		547	2	17-17	[21]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部	
		1806	4	17-17	[21]	床	2号竪穴住居	胴部	
		1886	1	17-17	[21]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部	
		1810	8	17-17	[31]	床	2号竪穴住居	胴部	
		1826	1	17-17	[32]	床	2号竪穴住居	胴部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
壙 (つづき)	41	1809	5	17-17	[31]	床	2号竪穴住居	胴部		
		1821	1	17-17	[23]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		551	3	17-17	[11]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		394	1	17-17	[12]	(不明)	2号竪穴住居	底部		
		405	2	16-16	[01]	b'上	焼土43周辺	胴部		
		407	2	16-16	[01]	b'上	焼土43周辺	胴部		
		409	1	16-16	[01]	b'上	焼土43周辺	胴部		
		11506	1	18-15	[30]	Ⅳ	炭化物52	胴部		
		5831	1	16-15	[11]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		9943	1	16-15	[03]	Ⅳ	遺構外	底部		
	59片(胴部1片番号わからず)									
	壙	42	1818	1	17-17	[33]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-34-2
			11008	6	17-17	[33]	床	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-67
		8598	1	17-18	[30]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		11003	1	17-16	[33]	床	2号竪穴住居	胴部		
		9926	1	18-17	[03]	床	2号竪穴住居	胴部		
		10855	1	18-18	[20]	床	2号竪穴住居	胴部		
		1817	1	17-17	[33]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		562	1	17-17	[32]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		1882	2	17-17	[22]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		9701	2	17-18	[00]	床	2号竪穴住居	底部		
		1820	1	17-17	[22]	床	2号竪穴住居	胴部		
		10847	5	17-18	[00]	床	2号竪穴住居	胴部		
		11011	1	17-17	[13]	床	2号竪穴住居	胴部		
		1815	6	17-17	[32]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		9925	1	17-17	[32]	床	2号竪穴住居	胴部		
		1816	1	17-17	[33]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		563	3	17-17	[32]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		1785	1	18-17	[23]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		15750	1	06-07	[03]	V	焼土13	胴部		
		10983	1	19-14	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部		
38片										
壙	43	417	1	16-16	[12]	(不明)	焼土43	胴部	PL.[2]-206-2	
		1191	1	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部	PL.[2]-241	
		11306	1	19-15	[22]	x ¹	炭化物52	胴部		
		5775	6	19-15	[33]	Ⅲ	炭化物52	胴部		
		9537	1	20-15	[03]	x ¹	炭化物52	胴部		
		7476	1	20-15	[03]	焼土上	炭化物52	胴部		
		12564	1	20-15	[03]	Ⅳ	炭化物52	胴部		
		9069	1	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	胴部		
		7916	1	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	胴部		
		221	1	18-15	[31]	(不明)	炭化物52周辺	胴部		
		11786	1	18-15	[01]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部		
		11787	1	18-15	[01]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部		
		11789	1	18-15	[01]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部		
		9622	1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		9623	1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		10489	1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		8609	1	18-10	[03]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
		3486	1	18-10	[03]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
		9616	1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		7810	1	18-11	[00]	Ⅳ	炭化物マウンド	胴部		
		3483	1	18-11	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
		8624	1	17-11	[03]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
		10282	1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		8753	1	17-12	[00]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
		9825	1	17-13	[11]	Ⅳ	炭化物マウンド	胴部		
		10308	1	17-12	[21]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		10340	3	17-12	[30]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		10429	1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		10289	2	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		7132	1	17-12	[10]	Ⅳ	炭化物マウンド	胴部		
		7396	1	17-12	[21]	Ⅳ	炭化物マウンド	胴部		
		2338	1	17-10	[33]	b ¹	炭化物マウンド	胴部		
		5081	1	13-08	[30]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	12383	8	18-16	[31]	Ⅳ	遺構外	胴部			
	10362	1	18-14	[23]	Ⅳ	遺構外	底部			
	8170	1	20-13	[30]	Ⅳ	遺構外	底部			
51片(胴部6片番号わからず)										
壙	44	954	2	10-05	[31]	床直	5号竪穴住居	胴部	PL.[2]-129-2	
		831	1	10-05	[30]	カマド	5号竪穴住居	胴部	PL.[2]-146	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
甕 (つづき)	44	1020	1	10-05	[21]	カマド	5号竪穴住居	胴部	
		987	1	10-05	[20]	カマド	5号竪穴住居	胴部	
		1191	1	10-05	[20]	煙道	5号竪穴住居	胴部	
		1194	1	10-05	[20]	カマド	5号竪穴住居	胴部	
		1023	1	10-05	[21]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		993	1	10-05	[21]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		1027	1	10-05	[21]	床直	5号竪穴住居	胴部	
		944	1	10-05	[20]	カマド	5号竪穴住居	胴部	
		1019	1	10-05	[21]	床直	5号竪穴住居	底部	
							12片		
甕	45	12083	1	17-17	[22]	カマド	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-36-2
		12285	1	17-17	[01]	煙道	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-68
		11014	1	17-18	[01]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		11847	1	17-18	[01]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		1955	1	17-10	[21]	b ¹	炭化物マウンド	胴部	
		1956	1	17-10	[21]	b ¹	炭化物マウンド	胴部	
		7254	1	19-15	[33]	x ¹	炭化物52	胴部	
		11783	1	18-15	[01]	IV	炭化物52	胴部	
		7645	2	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	胴部	
		8894	2	18-15	[31]	x ²	炭化物52	胴部	
		7677	1	19-15	[32]	x ¹	炭化物52	胴部	
		8025	1	16-18	[11]	IV	遺構外	胴部	
							14片(底部1片番号ナシ)		
	甕	46	14368	1	06-08	[01]	V	遺構外	胴部
		14667	1	05-08	[32]	V	遺構外	胴部	
		10387	1	19-13	[30]	IV	遺構外	胴部	
		6507	1	20-09	[02]	IV	遺構外	胴部	
		3133	1	09-06	[33]	IV	遺構外	胴部	
		10385	1	19-13	[30]	IV	遺構外	胴部	
		10384	1	19-13	[30]	IV	遺構外	底部	
		10386	1	19-13	[30]	IV	遺構外	底部	
						8片(胴部1片番号わからず)			
甕	47	4586	1	14-09	[11]	IV	遺構外	口縁部	
		5333	3	14-06	[11]	IV	遺構外	口縁部1, 胴部2	
		6793	1	19-13	[01]	IV	遺構外	口縁部	
		6798	4	19-13	[10]	IV	遺構外	口縁部1, 胴部3	
		8929	1	14-11	[12]	IV	遺構外	口縁部	
		8935	4	14-11	[22]	IV	遺構外	口縁部1, 胴部3	
		7833	1	15-10	[23]	IV	遺構外	口縁部	
		8933	4	14-11	[22]	IV	遺構外	胴部	
		8931	12	14-11	[12]	IV	遺構外	胴部	
		8932	3	14-11	[12]	IV	遺構外	胴部	
		9778	1	14-11	[12]	IV	遺構外	胴部	
		5895	2	13-11	[32]	IV	遺構外	胴部	
		8936	1	14-11	[21]	IV	遺構外	胴部	
		8937	2	14-11	[21]	IV	遺構外	胴部	
		9776	1	14-11	[22]	IV	遺構外	胴部	
							41片		
甕	48	1722	4	18-16	[20]	IV	炭化物52	口縁部1, 胴部3	PL.[2]-208-2
		11750	1	20-15	[03]	IV	炭化物52	口縁部	PL.[2]-242
		9102	1	18-16	[30]	IV	炭化物52周辺	胴部	
		12454	1	19-16	[30]	IV	炭化物52周辺	胴部	
		12453	2	19-16	[30]	IV	炭化物52周辺	胴部	
		12456	1	19-16	[20]	IV	炭化物52周辺	胴部	
		12455	6	19-16	[20]	IV	炭化物52周辺	口縁部3, 胴部3	
		9103	1	18-16	[31]	IV	炭化物53	胴部	
		16627	1	17-11	[21]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		186	1	17-12	[10]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
		7343	1	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	口縁部	
		3330	2	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部1, 胴部1	
		3408	1	17-11	[22]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		3407	3	17-11	[22]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
						26片			
甕	49	1906	2	18-17	[20]	床	2号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-42-1
		1775	2	18-17	[20]	床	2号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-69
		1773	2	18-17	[20]	床	2号竪穴住居	口縁部	
		1838	2	18-17	[10]	床	2号竪穴住居	口縁部	
		1777	1	18-17	[20]	床	2号竪穴住居	胴部	
		1772	1	18-17	[10]	床	2号竪穴住居	胴部	
		1840	1	18-17	[20]	床	2号竪穴住居	胴部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	49	1804	1	17-17	[21]	床	2号竪穴住居	胴部	
		1946	1	17-10	[31]	b'	炭化物 マウンド	口縁部	
		1949	1	17-10	[31]	b'	炭化物 マウンド	口縁部	
		1944	1	17-10	[31]	b'	炭化物 マウンド	口縁部	
		1947	2	17-10	[31]	b'	炭化物 マウンド	口縁部	
		2273	1	17-10	[31]	b'	炭化物 マウンド	口縁部	
		2335	1	17-10	[31]	b'	炭化物 マウンド	口縁部	
		1948	1	17-10	[31]	b'	炭化物 マウンド	胴部	
		1945	2	17-10	[31]	b'	炭化物 マウンド	胴部	
		1980	1	17-10	[30]	b'	炭化物 マウンド	口縁部	
		9054	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	口縁部	
		9050	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	口縁部	
		7634	1	19-15	[02]	x'	炭化物52	口縁部	
		7913	1	19-15	[23]	x'	炭化物52	口縁部	
		7975	1	19-15	[10]	x'	炭化物52	口縁部	
		7230	2	19-15	[不明]	カクラン	炭化物52	口縁部	
		7471	1	20-15	[03]	焼土上	炭化物52	胴部	
		7249	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	胴部	
		5721	1	19-15	[21]	Ⅲ	炭化物52	胴部	
		16531	1	19-15	[不明]	(不明)	炭化物52	胴部	
		9049	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	胴部	
		7905	1	19-15	[13]	x'	炭化物52	胴部	
		7891	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	胴部	
		11076	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	胴部	
		9051	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	胴部	
		9034	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	胴部	
		11045	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	胴部	
		7438	1	19-15	[23]	x'	炭化物52	胴部	
		7651	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	胴部	
		7657	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	胴部	
		11051	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	胴部	
		8853	1	19-15	[01]	x'	炭化物52	胴部	
		7234	1	19-15	[11]	x'	炭化物52	胴部	
		7897	1	19-15	[32]	x'	炭化物52	胴部	
		9040	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	胴部	
		11077	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	胴部	
		11036	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	胴部	
		7664	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	胴部	
		7660	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	胴部	
		7652	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	胴部	
		7638	1	19-15	[02]	x'	炭化物52	口縁部	
		7658	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	口縁部	
		7980	1	19-15	[10]	x'	炭化物52	口縁部	
		7091	1	20-15	[20]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部	
		11102	1	15-12	[30]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	59片(胴部2片番号わからず)								
	壙	50	6419	1	21-09	[不明]	カクラン	遺構外	口縁部
		6338	1	21-09	[03]	カクラン	遺構外	口縁部	
		5427	1	20-10	[32]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		6494	1	20-09	[33]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		6342	3	21-09	[03]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		5413	1	20-10	[20]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		6240	1	21-10	[00]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		729	1	20-10	[31]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		5433	1	20-10	[32]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		5434	3	20-10	[13]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		5405	1	20-10	[10]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		5404	5	20-10	[10]	Ⅳ	遺構外	口縁部2, 胴部3	
		5403	1	20-10	[10]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		5402	1	20-10	[10]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		6346	1	21-09	[00]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		5407	1	20-10	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		5437	1	21-10	[00]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		5438	1	21-10	[00]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		6239	1	21-10	[00]	Ⅲ	遺構外	胴部	
		5423	2	20-10	[31]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		5419	1	20-10	[21]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		6339	2	21-09	[03]	Ⅳ	遺構外	胴部	
32片(胴部2片番号わからず)									
壙	51	13917	4	08-08	[20]	Ⅳ	焼土27	口縁部	PL.②-264-2
		13303	1	08-08	[11]	Ⅳ	焼土27	口縁部	PL.②-174

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
壺 (つづき)	51	13847	6	08-08	[20]	焼土	焼土27	口縁部1, 胴部5		
		13640	1	08-08	[21]	IV	焼土27	口縁部		
		13915	6	08-08	[20]	IV	焼土27	口縁部4, 胴部2		
		13914	1	08-08	[10]	IV	焼土27	胴部		
		13846	1	08-08	[20]	焼土	焼土27	口縁部		
		13029	1	07-08	[13]	IV	遺構外	胴部		
								21片		
壺	52	11144	1	17-17	[12]	床	2号竪穴住居	口縁部	PL. [2]-39-2 PL. [2]-70	
		1884	1	17-17	[22]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部		
		1885	1	17-17	[21]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部		
		1881	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	口縁部		
		1811	1	17-17	[12]	床	2号竪穴住居	口縁部		
		1749	1	17-17	[30]	床	2号竪穴住居	口縁部		
		16528	1	19-17	[不明]	床	2号竪穴住居	口縁部		
		16584	2	17-17	[不明]	カマド	2号竪穴住居	口縁部		
		1831	1	17-17	[20]	床	2号竪穴住居	口縁部		
		12156	1	17-17	[02]	カマド	2号竪穴住居	口縁部		
		12080	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部		
		9132	1	16-18	[31]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		43	2	15-17	[11]	(不明)	焼土41	胴部		
		8035	3	16-18	[01]	IV	焼土43	胴部		
		8029	1	16-18	[11]	IV	焼土43	胴部		
		11683	2	16-17	[02]	焼土	焼土43	胴部		
		11682	2	16-17	[02]	焼土	焼土43	胴部		
		11673	1	15-17	[32]	焼土	焼土43	胴部		
		11681	1	16-17	[02]	焼土	焼土43	底部		
		8048	1	16-19	[22]	IV	焼土44	胴部		
		12206	1	16-18	[12]	IV	焼土44	胴部		
		7440	1	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	口縁部		
		5775	1	19-15	[33]	III	炭化物52	口縁部		
		12117	1	19-15	[23]	IV	炭化物52	口縁部		
		7919	2	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	口縁部		
		9072	1	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	口縁部		
		7986	1	19-15	[22]	x ¹	炭化物52	口縁部		
		16518	1	19-15	[不明]	x ¹	炭化物52	口縁部		
		7931	1	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	口縁部		
		9540	1	20-15	[03]	x ¹	炭化物52	口縁部		
		9077	2	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	口縁部		
		7497	1	20-15	[13]	焼土上面	炭化物52	胴部		
		11367	1	20-15	[03]	x ¹	炭化物52	胴部		
		7932	4	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	胴部		
		74	1	19-15	[33]	(不明)	炭化物52	胴部		
		5774	2	19-15	[33]	III	炭化物52	胴部		
		7444	1	19-15	[33]	x ¹	炭化物52	胴部		
		75	2	19-15	[33]	(不明)	炭化物52	胴部		
		9553	1	20-15	[12]	x ¹	炭化物52	胴部		
		12143	1	19-15	[23]	IV	炭化物52	胴部		
		9528	1	20-15	[02]	x ¹	炭化物52	胴部		
		16718	1	19-15	[不明]	(不明)	炭化物52	胴部		
		12142	1	19-16	[20]	IV	炭化物52周辺	口縁部		
		12463	2	20-16	[00]	IV	炭化物52周辺	口縁部		
		11450	2	20-16	[10]	IV	炭化物52周辺	胴部		
		12563	1	20-15	[03]	IV	炭化物52周辺	胴部		
		1956	3	17-10	[21]	b ¹	炭化物マウンド	口縁部		
		2807	1	17-10	[31]	b ¹	炭化物マウンド	口縁部		
		8364	1	17-11	[02]	IV	炭化物マウンド	口縁部		
		1962	1	17-10	[11]	b ¹	炭化物マウンド	口縁部		
		2031	1	18-10	[13]	b ¹	炭化物マウンド	胴部		
		8776	1	17-12	[12]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
		1955	2	17-10	[21]	b ¹	炭化物マウンド	胴部		
		4452	1	15-18	[31]	IV	遺構外	胴部		
		12205	2	16-18	[11]	IV	遺構外	胴部		
		6051	1	20-16	[12]	III	遺構外	胴部		
		6050	1	20-16	[12]	III	遺構外	胴部		
		8021	1	16-18	[11]	IV	遺構外	胴部		
		6723	1	19-12	[12]	IV	遺構外	胴部		
		4500	1	08-13	[23]	(不明)	遺構外	胴部		
								79片(胴部4片番号わからず)		
	壺	57	44	2	15-16	[02]	(不明)	焼土41	口縁部	PL. [2]-244
			10801	1	15-16	[03]	IV	焼土41	胴部	
			46	1	15-16	[02]	(不明)	焼土41周辺	胴部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	57	10803	1	15-16	[03]	IV	焼土41周辺	胴部	
		272	5	16-16	[33]	(不明)	焼土43	口縁部	
		8453	1	16-17	[12]	焼土	焼土43	胴部	
		231	1	15-17	[31]	(不明)	焼土43	胴部	
		10208	1	18-13	[31]	V	焼土48	胴部	
		6741	1	19-11	[03]	IV	炭化物・焼土50	胴部	
		9544	1	20-15	[02]	x'	炭化物52	胴部	
		12420	1	20-16	[21]	IV	炭化物52周辺	胴部	
		11452	1	20-16	[10]	IV	炭化物52周辺	胴部	
		11987	1	20-16	[13]	IV	炭化物52周辺	胴部	
		11469	1	20-16	[23]	IV	炭化物52周辺	胴部	
		11477	8	20-16	[33]	IV	炭化物52周辺	胴部	
		9457	1	20-16	[22]	IV	炭化物52周辺	胴部	
		787	2	20-16	[11]	IV	炭化物52周辺	胴部	
		11447	8	20-16	[01]	IV	炭化物52周辺	胴部3, 底部5片	
		2642	1	18-10	[02]	b'	炭化物マウンド	口縁部	
		16577	1	17-11	[31]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		2266	1	17-10	[22]	b'	炭化物マウンド	胴部	
		10929	1	21-17	[12]	IV	遺構外	胴部	
		4333	1	17-20	[13]	IV	遺構外	胴部	
		7760	1	14-15	[23]	IV	遺構外	胴部	
		248	5	14-16	[32]	IV	遺構外	胴部	
		7746	1	14-15	[11]	IV	遺構外	胴部	
		10210	1	19-13	[00]	IV	遺構外	胴部	
		7736	1	15-15	[32]	IV	遺構外	胴部	
		7361	1	14-15	[30]	IV	遺構外	胴部	
		8526	1	14-17	[33]	IV	遺構外	胴部	
		1041	1	13-13	[02]	IV	遺構外	胴部	
		7716	1	15-15	[13]	IV	遺構外	胴部	
		7787	2	14-16	[32]	IV	遺構外	胴部	
		12404	3	20-17	[01]	IV	遺構外	胴部	
		11259	1	21-16	[20]	IV	遺構外	胴部	
		246	1	14-16	[33]	(不明)	遺構外	胴部	
		10399	1	18-14	[22]	IV	遺構外	胴部	
		64片(胴部2片番号わからず)							
壙	58	6707	1	22-14	[21]	IV	遺構外	口縁部	
		11215	3	21-17	[12]	IV	遺構外	口縁部	
		12414	1	20-17	[11]	IV	遺構外	口縁部	
		11216	1	21-17	[12]	IV	遺構外	胴部	
		10896	1	21-17	[22]	IV	遺構外	胴部	
		11214	1	21-17	[12]	IV	遺構外	胴部	
		11549	1	21-17	[22]	IV	遺構外	胴部	
		11537	1	21-17	[12]	IV	遺構外	胴部	
		6002	3	20-17	[23]	IV	遺構外	胴部	
		6005	2	20-17	[32]	III	遺構外	胴部	
		10924	1	21-17	[12]	IV	遺構外	胴部	
		9470	1	20-17	[21]	IV	遺構外	胴部	
		6069	1	21-17	[02]	IV	遺構外	胴部	
		11984	1	20-17	[21]	IV	遺構外	胴部	
		10940	1	21-17	[22]	IV	遺構外	胴部	
		6067	11	21-17	[02]	IV	遺構外	胴部	
		11234	1	21-17	[22]	IV	遺構外	胴部	
		11235	1	21-17	[22]	IV	遺構外	胴部	
		10897	1	21-17	[22]	IV	遺構外	胴部	
		1159	1	20-18	[10]	IV	遺構外	底部	
	11227	3	21-17	[13]	IV	遺構外	底部		
		38片(胴部6片番号わからず)							
壙	59	1896	1	17-16	[32]	床	2号竪穴住居	胴部	PL.②-71
		1875	1	17-17	[33]	床	2号竪穴住居	胴部	
		12466	1	20-16	[13]	IV	炭化物52	口縁部	
		9533	1	20-15	[03]	x'	炭化物52	胴部	
		186	1	17-12	[10]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
		2071	1	18-10	[03]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
		8383	1	18-11	[23]	IV	炭化物マウンド	口縁部	
		6669	1	18-11	[22]	IV	炭化物マウンド	口縁部	
		3343	1	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		10907	1	17-11	[22]	マウンド下	炭化物マウンド	口縁部	
		10773	1	17-11	[22]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		9693	1	17-12	[00]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		6608	1	18-10	[11]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		10465	1	17-11	[22]	マウンド下	炭化物マウンド	口縁部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号	
壘 (つづき)	59	16737	1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		8762	1	17-12	[10]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
		180	1	17-11	[13]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
		177	1	17-11	[13]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
		10464	1	17-11	[22]	マウンド下	炭化物マウンド	胴部	
		8746	1	17-11	[33]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		10553	1	17-11	[30]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9876	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9315	1	17-11	[03]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		3532	1	17-12	[00]	IV	炭化物マウンド	胴部	
		60	8	17-16	[31]	(不明)	遺構外	口縁部4, 胴部4	
		4434	1	14-18	[01]	IV	遺構外	口縁部	
		4156	1	14-18	[13]	IV	遺構外	口縁部	
		7794	1	15-13	[30]	IV	遺構外	胴部	
		7494	1	21-16	[21]	IV	遺構外	胴部	
	36片(口縁部1片, 胴部1片番号わからず)								
壘	60	543	1	17-17	[不明]	カクラン	2号竪穴住居	胴部	
		1082	2	12-14	[31]	IV	焼土35	胴部	
		1071	1	12-14	[30]	IV	焼土35	胴部	
		8962	1	12-14	[31]	IV	焼土35	胴部	
		5291	2	12-14	[31]	IV	焼土35	胴部	
		1079	10	12-14	[31]	IV	焼土35	口縁部	
		1070	1	12-14	[30]	IV	焼土35	口縁部	
		8963	1	12-14	[31]	IV	焼土35	口縁部	
		5293	1	12-14	[31]	IV	焼土35	胴部	
		5290	3	12-14	[31]	IV	焼土35	胴部	
		8961	2	12-14	[31]	IV	焼土35	胴部	
		1077	1	12-14	[31]	IV	焼土35	胴部	
		1073	1	12-14	[30]	IV	焼土35	胴部	
		1072	1	12-14	[30]	IV	焼土35	胴部	
		1075	2	12-14	[30]	IV	焼土35	胴部	
		9739	1	12-14	[30]	IV	焼土35	胴部	
		1152	1	12-14	[30]	IV	焼土35	胴部	
		1153	1	12-14	[31]	IV	焼土35	胴部	
		1151	1	12-14	[30]	IV	焼土35	胴部	
		1080	2	12-14	[31]	IV	焼土35	胴部	
		5167	2	15-07	[32]	IV	炭化物39	胴部	
		8051	1	13-14	[21]	III	遺構外	口縁部	
		1043	1	13-13	[03]	IV	遺構外	口縁部	
		1060	1	13-14	[01]	IV	遺構外	口縁部	
		7312	1	15-13	[10]	IV	遺構外	胴部	
		1045	1	13-13	[03]	IV	遺構外	胴部	
		8574	5	13-14	[23]	III	遺構外	胴部	
		7511	1	14-15	[30]	IV	遺構外	胴部	
		7305	1	14-14	[21]	IV	遺構外	胴部	
		1063	1	13-14	[01]	IV	遺構外	胴部	
		8273	1	13-13	[20]	IV	遺構外	胴部	
		1061	2	13-14	[01]	IV	遺構外	胴部	
		1064	1	13-14	[01]	IV	遺構外	胴部	
	7307	1	14-14	[30]	IV	遺構外	胴部		
	827	2	13-13	[22]	IV	遺構外	胴部		
	11611	1	13-13	[30]	IV	遺構外	胴部		
	8964	2	13-14	[01]	IV	遺構外	胴部		
	5890	1	13-14	[00]	表土	遺構外	胴部		
62片(胴部4片番号わからず)									
壘	61	372	1	16-17	[32]	(不明)	焼土43	胴部	PL. [2]-289
		480	1	16-17	[22]	b'上	焼土43	胴部	
		12514	2	16-17	[22]	焼土	焼土43	胴部	
		478	1	16-17	[22]	b'上	焼土43	胴部	
		475	1	16-17	[22]	b'上	焼土43	胴部	
		7637	1	19-15	[02]	x'	炭化物52	胴部	
		5737	1	19-15	[22]	III	炭化物52	胴部	
		9002	4	19-15	[13]	x'	炭化物52	胴部	
		9022	2	19-15	[13]	x'	炭化物52	胴部	
		7473	1	20-15	[03]	焼土上	炭化物52	胴部	
		8007	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	胴部	
		8006	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	胴部	
		7698	2	19-15	[23]	x'	炭化物52	胴部	
		5781	2	19-15	[33]	III	炭化物52	胴部	
		76	1	19-15	[33]	(不明)	炭化物52	胴部	
		7314	2	14-13	[11]	IV	遺構外	胴部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
瘻 (つづき)	61 7283	1	14-13	[21]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	8981	1	16-14	[00]	Ⅲ	遺構外	胴部	
		26片						
瘻	62 5707	1	19-17	[12]	Ⅲ	2号竪穴住居	胴部	PL.Ⅱ-42-4
	10111	1	17-17	[03]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部	PL.Ⅱ-73
	8868	1	17-18	[02]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部	
	10879	4	19-18	[00]	床	2号竪穴住居	胴部	
	8925	1	19-18	[00]	床	2号竪穴住居	胴部	
	1880	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部	
	1879	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部	
	10841	1	17-17	[03]	床	2号竪穴住居	胴部	
	10840	1	17-17	[03]	床	2号竪穴住居	胴部	
	11010	3	17-17	[03]	床	2号竪穴住居	胴部	
	10842	1	17-17	[03]	床	2号竪穴住居	胴部	
	10838	10	17-17	[02]	床	2号竪穴住居	胴部5, 底部5	
	3062	1	08-13	[03]	Ⅳ	焼土24周辺	胴部	
	347	4	16-17	[12]	(不明)	焼土43	口縁部2, 胴部2	
	335	1	16-17	[12]	(不明)	焼土43	口縁部	
	328	1	16-17	[02]	(不明)	焼土43	口縁部	
	12537	1	16-17	[13]	Ⅳ	焼土43	胴部	
	342	1	16-17	[12]	(不明)	焼土43	胴部	
	360	2	16-17	[22]	(不明)	焼土43	胴部	
	9931	2	16-16	[23]	焼土	焼土43	胴部	
	16598	1	16-17	[不明]	焼土	焼土43	胴部	
	120	1	16-17	[23]	(不明)	焼土43	胴部	
	8470	1	16-17	[23]	焼土	焼土43	胴部	
	9164	1	19-15	[32]	x ¹	炭化物52	口縁部	
	5803	1	19-15	[13]	(不明)	炭化物52	口縁部	
	79	1	19-15	[32]	(不明)	炭化物52	口縁部	
	5797	1	19-15	[23]	Ⅲ	炭化物52	口縁部	
	5757	3	19-15	[22]	Ⅲ	炭化物52	口縁部	
	7430	2	19-15	[22]	x ¹	炭化物52	胴部	
	7649	1	19-15	[31]	x ¹	炭化物52	胴部	
	11073	1	19-15	[21]	x ¹	炭化物52	胴部	
	7628	1	19-15	[02]	x ¹	炭化物52	胴部	
	5727	4	19-15	[11]	Ⅲ	炭化物52	胴部	
	5724	1	19-15	[11]	Ⅲ	炭化物52	胴部	
	8178	1	19-15	[11]	Ⅲ	炭化物52	胴部	
	9556	1	20-15	[12]	x ¹	炭化物52	胴部	
	7976	1	19-15	[10]	x ²	炭化物52	胴部	
	7687	1	19-15	[13]	x ¹	炭化物52	胴部	
	7689	1	19-15	[13]	x ¹	炭化物52	胴部	
	7690	1	19-15	[13]	x ¹	炭化物52	胴部	
	6030	1	20-16	[10]	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部	
	11513	2	18-15	[31]	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部	
	217	7	18-15	[30]	(不明)	炭化物52周辺	胴部	
	5739	1	19-15	[22]	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部	
	11496	1	18-15	[21]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部	
	16454	1	10-18	[11]	V	遺構外	口縁部	
	16455	1	10-18	[11]	V	遺構外	口縁部	
	16457	2	10-18	[11]	V	遺構外	口縁部1, 胴部1	
	8254	1	13-17	[21]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	4262	1	11-17	[23]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	10749	2	13-16	[33]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	16500	1	10-19	[31]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
1375	2	11-19	[01]	V	遺構外	口縁部		
642	1	12-21	[32]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
4432	1	13-18	[03]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
8514	1	13-17	[12]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
4272	1	12-17	[02]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
16355	1	10-18	[21]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
805	1	11-16	[不明]	カクラン	遺構外	口縁部		
8258	3	13-17	[21]	Ⅳ	遺構外	胴部		
1367	5	11-18	[13]	V	遺構外	胴部		
1374	5	11-19	[10]	V	遺構外	胴部		
1377	1	11-19	[02]	V	遺構外	胴部		
1380	1	11-19	[12]	V	遺構外	胴部		
11780	1	18-15	[00]	Ⅳ	遺構外	胴部		
11294	1	17-16	[22]	Ⅳ	遺構外	胴部		
1375	1	11-19	[01]	V	遺構外	胴部		
8252	1	13-17	[23]	Ⅳ	遺構外	胴部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
遺 (つづき)	62	9983	1	16-12	[23]	IV	遺構外	胴部		
	8590	1	19-17	[不明]	カクラン	遺構外	胴部			
	16356	2	10-18	[11]	IV	遺構外	胴部			
	16432	1	10-18	[11]	V	遺構外	胴部			
	16445	1	10-18	[11]	V	遺構外	胴部			
	11574	1	15-16	[00]	IV	遺構外	胴部			
	8507	1	14-17	[22]	IV	遺構外	胴部			
	16383	1	10-18	[12]	IV	遺構外	胴部			
	9952	3	16-14	[30]	IV	遺構外	胴部			
	9830	2	17-13	[12]	IV	遺構外	胴部			
	9963	1	16-13	[23]	IV	遺構外	胴部			
	9814	2	17-13	[03]	IV	遺構外	胴部			
	16486	1	09-18	[31]	IV	遺構外	胴部			
	16372	1	10-18	[23]	IV	遺構外	胴部			
	16430	3	10-18	[02]	V	遺構外	胴部			
	16427	2	10-18	[01]	IV	遺構外	胴部			
	16391	1	10-18	[02]	IV	遺構外	胴部			
	16426	2	10-18	[01]	IV	遺構外	胴部			
	16361	3	10-18	[33]	IV	遺構外	胴部			
	16402	4	10-18	[10]	V	遺構外	胴部			
	16488	1	09-18	[32]	IV	遺構外	胴部			
	16467	1	10-18	[02]	V	遺構外	胴部			
	16434	1	10-18	[10]	V	遺構外	胴部			
	16444	1	10-18	[10]	V	遺構外	胴部			
	16379	1	10-18	[12]	IV	遺構外	胴部			
	16389	1	10-18	[02]	IV	遺構外	胴部			
	16350	1	10-17	[31]	IV	遺構外	胴部			
	4252	2	11-17	[11]	IV	遺構外	胴部			
	16498	1	10-19	[31]	IV	遺構外	胴部			
	16461	2	10-18	[01]	V	遺構外	胴部			
	16400	1	10-18	[10]	IV	遺構外	胴部			
	16429	1	10-18	[02]	V	遺構外	胴部			
	161片(胴部1片番号わからず)									
	遺	63	12501	1	16-17	[12]	焼土	焼土43	口縁部	PL.[2]-72
✓		10579	5	17-11	[31]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
✓		16577	1	17-11	[31]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
✓		8650	3	17-11	[13]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
✓		1955	8	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	口縁部		
✓		9075	1	19-15	[23]	x'	炭化物52	胴部		
✓		7926	3	19-15	[23]	x'	炭化物52	口縁部		
✓		7439	3	19-15	[23]	x'	炭化物52	口縁部		
✓		7097	2	20-15	[02]	焼土上面	炭化物52	胴部		
✓		7098	2	20-15	[02]	焼土上面	炭化物52	口縁部		
✓		7096	1	20-15	[02]	焼土上面	炭化物52	胴部		
✓		7100	3	20-15	[02]	焼土上面	炭化物52	胴部		
33片										
遺		64	6453	1	15-16	[02]	III	焼土41周辺	口縁部	
	8087	4	15-16	[02]	IV	焼土41周辺	口縁部			
	5840	2	15-16	[11]	III	焼土41周辺	口縁部			
	5846	1	15-16	[02]	III	焼土41周辺	口縁部			
	6454	2	15-16	[02]	III	焼土41周辺	胴部			
	5848	4	15-16	[02]	III	焼土41周辺	胴部			
	47	2	15-16	[02]	(不明)	焼土41周辺	胴部			
	5846	2	15-16	[02]	III	焼土41周辺	胴部			
	5847	2	15-16	[02]	III	焼土41周辺	口縁部			
	5842	2	15-16	[01]	III	焼土41周辺	胴部			
	8087	1	15-16	[02]	IV	焼土41周辺	胴部			
	44	4	15-16	[02]	(不明)	焼土41周辺	胴部			
	48	1	15-16	[02]	(不明)	焼土41周辺	胴部			
	49	1	15-16	[02]	(不明)	焼土41周辺	胴部			
	50	1	15-16	[02]	(不明)	焼土41周辺	胴部			
	5839	1	15-16	[11]	III	焼土41周辺	胴部			
	10148	1	15-16	[00]	III	焼土41周辺	胴部			
	8308	1	16-17	[20]	焼土	焼土43	口縁部			
	285	1	16-17	[20]	(不明)	焼土43	口縁部			
	269	27	16-16	[33]	(不明)	焼土43	胴部			
	268	1	16-16	[33]	(不明)	焼土43	胴部			
	12099	1	16-16	[33]	IV	焼土43	胴部			
	433	1	16-16	[33]	b'上	焼土43	胴部			
	12263	2	16-16	[33]	IV	焼土43	底部			
	8303	1	16-16	[30]	IV	焼土43周辺	口縁部			

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
壺 (つづき)	64	261	5	16-16	[32]	(不明)	焼土43周辺	口縁部		
		8867	1	16-16	[不明]	カクラン	焼土43周辺	胴部		
		12097	2	16-16	[33]	Ⅳ	焼土43周辺	胴部		
		14998	1	07-08	[03]	焼土	炭化物19	胴部		
		14938	1	07-09	[00]	焼土	炭化物19	胴部		
		9361	2	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		186	3	17-12	[10]	(不明)	炭化物マウンド	胴部		
		9322	1	17-11	[03]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		2314	1	18-10	[03]	b'	炭化物マウンド	胴部		
		112	1	20-14	[02]	(不明)	遺構外	胴部		
		16484	1	09-18	[31]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
		5886	1	14-14	[12]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		5887	2	14-14	[12]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		10147	2	14-16	[32]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		10145	1	14-16	[00]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
		249	1	14-16	[30]	(不明)	遺構外	口縁部		
		7761	1	14-15	[30]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
		7781	1	13-15	[32]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
		5870	2	14-16	[32]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		11979	1	20-17	[11]	Ⅳ	遺構外	胴部		
		9792	1	14-16	[12]	Ⅳ	遺構外	胴部		
		9905	1	14-16	[21]	Ⅳ	遺構外	胴部		
		6062	1	21-16	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	101片(胴部1片番号わからず)									
	壺	65	12234	1	17-17	[11]	カマド	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-39-3
			8471	2	16-17	[23]	焼土	焼土43	胴部	PL.[2]-74
			371	2	16-17	[32]	(不明)	焼土43	胴部	
			277	1	16-17	[10]	(不明)	焼土43	胴部	
			9530	3	20-15	[03]	x'	炭化物52	底部	
			7231	4	18-15	[03]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部	
		12457	1	19-16	[20]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部		
		1764	4	18-16	[23]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部		
		2821	1	17-10	[32]	b'	炭化物マウンド	胴部		
		2823	1	17-10	[33]	b'	炭化物マウンド	胴部		
		2825	1	17-10	[33]	b'	炭化物マウンド	胴部		
		2826	1	17-10	[33]	b'	炭化物マウンド	胴部		
		10957	1	18-10	[03]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		2653	2	18-10	[11]	b'	炭化物マウンド	胴部		
		9433	2	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		6604	1	18-10	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		9211	1	17-11	[03]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
		186	1	17-12	[10]	(不明)	炭化物マウンド	胴部		
		2013	2	18-10	[12]	b'	炭化物マウンド	胴部		
		10794	1	17-11	[30]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		10700	1	17-11	[30]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		10670	2	17-11	[31]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		10678	1	18-11	[00]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
		1874	1	18-10	[12]	カクラン	炭化物マウンド	底部		
	2014	1	18-10	[12]	カクラン	炭化物マウンド	胴部			
39片(胴部2片,底部1片番号わからず)										
壺	66	12130	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-36-3	
		11145	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-125	
		12063	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-75	
		12079	2	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部		
		12061	2	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部		
		2161	1	10-04	[13]	カマド	5号竪穴住居	口縁部		
		9552	4	20-15	[12]	x'	炭化物52	胴部		
		9550	5	20-15	[12]	x'	炭化物52	胴部		
		5784	1	19-15	[33]	Ⅲ	炭化物52	胴部		
		12143	1	19-15	[23]	Ⅳ	炭化物52	口縁部		
19片(胴部6片番号わからず)										
壺	67	16508	2	19-17	[不明]	床	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-41-2	
		16691	1	19-17	[不明]	床	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-76	
		12160	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部		
		12131	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部		
		714	5	12-09	[不明]	カクラン	焼土33周辺	胴部		
		8338	1	16-17	[11]	焼土	焼土43	胴部		
		502	3	16-17	[13]	b'	焼土43	胴部		
		8466	1	16-17	[13]	焼土	焼土43	胴部		
		8465	3	16-17	[13]	焼土	焼土43	胴部		
	8464	3	16-17	[13]	焼土	焼土43	胴部			

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
瘡 (つづき)	67	10519	1	16-17	[13]	IV	焼土43	胴部	
	12508	2	16-17	[12]	焼土	焼土43	胴部		
	12533	2	16-17	[13]	IV	焼土43	胴部		
	12667	1	16-17	[13]	IV	焼土43	胴部		
	12590	1	16-17	[23]	IV	焼土43	胴部		
	11042	1	19-15	[12]	x'	炭化物52	胴部		
	11305	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	胴部		
	8001	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	胴部		
	11034	4	19-15	[12]	x'	炭化物52	胴部		
	8888	1	19-15	[02]	x'	炭化物52	胴部		
	9545	2	20-15	[12]	x'	炭化物52	胴部		
	9529	1	20-15	[02]	x'	炭化物52	胴部		
	11763	1	20-15	[12]	IV	炭化物52周辺	胴部		
	11764	1	20-15	[13]	IV	炭化物52周辺	胴部		
	12663	1	20-15	[03]	IV	炭化物52周辺	胴部		
	7118	2	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	6856	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	6994	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7320	1	17-12	[01]	IV	炭化物マウンド	胴部		
	47片(胴部2片番号わからず)								
瘡	68	8554	1	19-17	[11]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部	PL.②-32-7
	550	1	17-17	[21]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部	PL.②-77	
	12086	1	17-17	[01]	煙道	2号竪穴住居	胴部		
	146	1	17-17	[12]	(不明)	2号竪穴住居	胴部		
	534	1	17-17	[01]	床	2号竪穴住居	胴部		
	552	1	17-17	[11]	床	2号竪穴住居	胴部		
	667	1	09-13	[10]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部		
	9934	1	16-17	[30]	焼土	焼土43	口縁部		
	443	1	16-17	[02]	b'上	焼土43	口縁部		
	8334	1	16-17	[21]	焼土	焼土43	口縁部		
	297	1	16-17	[20]	(不明)	焼土43	口縁部		
	380	1	16-17	[31]	(不明)	焼土43	口縁部		
	429	1	16-16	[33]	b'上	焼土43	口縁部		
	129	2	16-17	[31]	(不明)	焼土43	口縁部		
	260	1	16-16	[32]	(不明)	焼土43	胴部		
	280	1	16-17	[10]	(不明)	焼土43	胴部		
	417	1	16-16	[12]	b'上	焼土43	胴部		
	10115	1	16-17	[31]	IV	焼土43	胴部		
	8320	1	16-17	[31]	焼土	焼土43	胴部		
	451	1	16-17	[12]	b'上	焼土43	胴部		
	453	1	16-17	[12]	b'上	焼土43	胴部		
	272	1	16-16	[33]	(不明)	焼土43	胴部		
	8325	1	16-17	[31]	焼土	焼土43	胴部		
	8326	1	16-17	[31]	焼土	焼土43	胴部		
	11190	1	16-17	[31]	焼土	焼土43	胴部		
	9486	1	16-17	[21]	焼土	焼土43	胴部		
	16602	1	16-17	[不明]	焼土	焼土43	胴部		
	128	1	16-17	[30]	(不明)	焼土43	胴部		
	122	1	16-17	[30]	(不明)	焼土43	胴部		
	9706	1	16-16	[23]	焼土	焼土43	胴部		
	10828	1	16-17	[31]	焼土	焼土43	胴部		
	1692	1	17-17	[01]	IV	焼土43周辺	胴部		
	1694	1	17-16	[13]	IV	焼土43周辺	胴部		
	379	1	16-17	[31]	(不明)	焼土43周辺	胴部		
	8285	1	16-16	[01]	IV	焼土43周辺	胴部		
	131	1	16-17	[31]	(不明)	焼土43周辺	胴部		
	553	1	17-17	[11]	(不明)	焼土43周辺	胴部		
	408	1	16-16	[01]	b'上	焼土43周辺	胴部		
	266	1	16-16	[33]	(不明)	焼土43周辺	胴部		
	11198	1	16-17	[02]	IV	焼土43周辺	胴部		
	1734	6	17-16	[03]	カクラン	焼土43周辺	胴部		
	11290	1	17-16	[13]	IV	焼土43周辺	胴部		
	10683	1	18-11	[00]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	4030	1	10-09	[13]	V	炭化物30周辺	口縁部		
	9533	4	20-15	[03]	x'	炭化物52	口縁部		
	11775	1	18-15	[00]	IV	遺構外	胴部		
	7789	1	14-17	[30]	IV	遺構外	胴部		
	10153	1	18-14	[12]	IV	遺構外	胴部		
	45	1	15-16	[02]	(不明)	遺構外	胴部		
	12275	1	16-15	[03]	III	遺構外	胴部		
	59片(口縁部2片, 胴部5片番号わからず)								

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
変	69	566	4	17-17	[23]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部	PL.図-43-1	
	1770	1	18-17	[10]	床	2号竪穴住居	口縁部	PL.図-78		
	12072	1	18-16	[23]	床	2号竪穴住居	口縁部			
	1799	1	17-17	[11]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部			
	564	1	17-17	[33]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部			
	8539	1	17-18	[10]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部			
	8546	10	17-18	[21]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部4, 底部6			
	541	1	17-17	[30]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部			
	8889	2	17-18	[02]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部			
	7246	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	口縁部			
	8144	1	16-12	[31]	IV	炭化物マウンド	胴部			
	230	2	15-17	[30]	(不明)	焼土41	胴部			
	11155	4	15-17	[32]	焼土	焼土41	胴部			
	228	1	15-16	[33]	(不明)	焼土41	胴部			
	8234	1	15-17	[30]	III	焼土41周辺	胴部			
	12211	1	15-17	[21]	IV	焼土41周辺	胴部			
	458	2	16-17	[12]	b'上	焼土43	口縁部			
	9489	2	16-17	[21]	焼土	焼土43	口縁部1, 胴部1			
	9487	1	16-17	[21]	焼土	焼土43	口縁部			
	377	1	16-17	[31]	(不明)	焼土43	口縁部			
	133	7	16-17	[31]	(不明)	焼土43	口縁部			
	303	2	16-17	[01]	(不明)	焼土43	胴部			
	9709	1	16-16	[13]	焼土上	焼土43	胴部			
	323	1	16-17	[21]	(不明)	焼土43	胴部			
	281	1	16-17	[20]	(不明)	焼土43	胴部			
	272	1	16-16	[33]	(不明)	焼土43	口縁部			
	361	1	16-17	[22]	(不明)	焼土43	口縁部			
	8456	1	16-17	[11]	焼土	焼土43	口縁部			
	331	1	16-17	[02]	(不明)	焼土43	口縁部			
	337	2	16-17	[12]	(不明)	焼土43	胴部			
	457	1	16-17	[12]	b'上	焼土43	胴部			
	345	1	16-17	[12]	(不明)	焼土43	胴部			
	120	1	16-17	[23]	(不明)	焼土43	胴部			
	517	3	16-17	[23]	b'上	焼土43	胴部			
	8457	1	16-17	[11]	焼土	焼土43	胴部			
	295	1	16-17	[20]	(不明)	焼土43	胴部			
	9490	2	16-17	[21]	焼土	焼土43	胴部			
	336	1	16-17	[12]	(不明)	焼土43	胴部			
	9703	1	16-17	[21]	焼土	焼土43	胴部			
	11200	1	16-17	[02]	焼土	焼土43	胴部			
	10735	1	16-17	[31]	焼土	焼土43	胴部			
	8018	3	16-18	[10]	IV	遺構外	口縁部			
	9455	1	20-16	[22]	IV	遺構外	口縁部			
	8482	2	16-18	[20]	IV	遺構外	胴部			
	77片(胴部1片番号わからず)									
	変	70	571	2	18-16	[02]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部	PL.図-34-3
		533	1	17-17	[01]	床	2号竪穴住居	胴部	PL.図-79	
		9053	1	17-18	[00]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		570	3	18-16	[02]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
		10112	1	17-17	[03]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部		
1892		1	17-16	[23]	床	2号竪穴住居	胴部			
536		1	17-17	[20]	覆土④層	2号竪穴住居	胴部			
11186		1	15-17	[32]	焼土	焼土41	胴部			
341		2	16-17	[12]	(不明)	焼土43	口縁部			
9713		1	16-17	[01]	焼土上	焼土43	胴部			
327		1	16-17	[02]	(不明)	焼土43	胴部			
343		1	16-17	[12]	(不明)	焼土43	胴部			
11552		1	16-17	[02]	焼土	焼土43	胴部			
9929		1	16-17	[12]	焼土	焼土43	胴部			
463		1	16-17	[12]	b'上	焼土43	胴部			
449		1	16-17	[12]	b'上	焼土43	胴部			
444		1	16-17	[02]	b'上	焼土43	胴部			
505		1	16-17	[13]	b'上	焼土43	胴部			
508		1	16-17	[13]	b'上	焼土43	胴部			
340		1	16-17	[12]	(不明)	焼土43	胴部			
516		1	16-17	[23]	b'上	焼土43	胴部			
295		1	16-17	[20]	(不明)	焼土43	胴部			
342		4	16-17	[12]	(不明)	焼土43	胴部			
339		2	16-17	[12]	(不明)	焼土43	胴部			
497		1	16-17	[13]	b'上	焼土43	胴部			
11196		1	16-17	[02]	IV	焼土43	胴部			

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
70 窠 (つづき)	12537	1	16-17	[13]	IV	焼土43	胴部		
	8235	1	19-15	[00]	(不明)	炭化物52	胴部		
	7232	1	19-15	[00]	x ¹	炭化物52	胴部		
	5798	1	19-15	[23]	III	炭化物52	胴部		
	9403	2	17-14	[33]	IV	遺構外	口縁部		
	12261	1	17-14	[33]	IV	遺構外	胴部		
	10395	1	17-14	[33]	IV	遺構外	胴部		
	5645	1	24-14	[32]	IV	遺構外	胴部		
	12179	1	16-13	[23]	IV	遺構外	胴部		
	11798	1	18-15	[10]	IV	遺構外	胴部		
	157	1	17-14	[33]	(不明)	遺構外	胴部		
	9383	1	17-13	[01]	IV	遺構外	胴部		
	11108	1	15-12	[02]	IV	遺構外	胴部		
	6648	1	19-12	[02]	IV	遺構外	胴部		
	7723	1	15-15	[22]	IV	遺構外	胴部		
	9405	1	17-14	[33]	IV	遺構外	胴部		
	9404	1	17-14	[33]	IV	遺構外	胴部		
	9414	1	18-14	[12]	IV	遺構外	胴部		
	7729	1	15-15	[23]	IV	遺構外	胴部		
	8037	1	16-18	[20]	IV	遺構外	胴部		
	9721	1	16-18	[20]	IV	遺構外	胴部		
	12252	1	16-18	[10]	IV	遺構外	胴部		
	57片(底部1片番号ナシ)								
	71 窠	1602	2	10-13	[01]	床	3号竪穴住居	口縁部1, 胴部1	PL. [2]-99-6
		1302	1	10-05	[12]	床	5号竪穴住居	胴部	PL. [2]-105
		15667	2	08-09	[03]	x ⁷	4号土壌	口縁部1, 胴部1	
16299		1	08-09	[13]	x ⁷	4号土壌	口縁部		
15642		1	08-09	[03]	x ⁴	4号土壌	口縁部		
15674		1	08-09	[13]	x ⁷	4号土壌	胴部		
16057		1	08-09	[03]	x ⁴	4号土壌	胴部		
15669		1	08-09	[03]	x ⁷	4号土壌	胴部		
15428		1	08-09	[03]	炭化物層	4号土壌	胴部		
15663		1	08-09	[03]	x ⁷	4号土壌	胴部		
16036		1	08-09	[02]	x ⁷	4号土壌	胴部		
16053		1	08-09	[02]	x ⁷	4号土壌	胴部		
15423		1	08-09	[02]	炭化物層	4号土壌	胴部		
15429		1	08-09	[02]	炭化物層	4号土壌	口縁部		
13891		4	08-11	[30]	焼土	焼土・炭化物22	口縁部		
13897		5	09-11	[00]	焼土	焼土・炭化物22	口縁部		
13890		3	08-11	[30]	焼土	焼土・炭化物22	口縁部		
14291		1	09-11	[00]	V	焼土・炭化物22	胴部		
13895		3	09-11	[00]	焼土	焼土・炭化物22	胴部		
14290		3	09-11	[00]	V	焼土・炭化物22	胴部		
13894		5	09-11	[00]	焼土	焼土・炭化物22	胴部		
13896		5	09-11	[00]	焼土	焼土・炭化物22	胴部		
13886		1	08-11	[33]	焼土	焼土・炭化物22	胴部		
13089		3	08-11	[30]	IV	焼土・炭化物22	胴部		
14246		1	08-11	[30]	V	焼土・炭化物22	胴部		
13888		1	08-11	[30]	焼土	焼土・炭化物22	胴部		
13094		1	08-11	[30]	IV	焼土・炭化物22	胴部		
13893		8	09-11	[00]	焼土	焼土・炭化物22	口縁部1, 胴部7		
13091		2	08-11	[30]	IV	焼土・炭化物22周辺	口縁部1, 胴部1		
13743		8	08-11	[20]	IV	焼土・炭化物22周辺	口縁部1, 胴部7		
13088		10	08-11	[30]	IV	焼土・炭化物22周辺	口縁部9, 胴部1		
14793		1	08-10	[13]	V	焼土・炭化物22周辺	口縁部		
13733		1	08-10	[33]	IV	焼土・炭化物22周辺	口縁部		
13745		1	08-11	[20]	IV	焼土・炭化物22周辺	胴部		
14245		1	08-11	[30]	V	焼土・炭化物22周辺	胴部		
13710		1	09-10	[13]	IV	焼土・炭化物22周辺	口縁部		
13526		2	09-10	[13]	IV	焼土・炭化物22周辺	口縁部		
14297		1	09-11	[30]	V	焼土・炭化物22周辺	胴部		
4849		1	11-11	[21]	焼土	焼土32	胴部		
13871		7	06-10	[33]	III	炭化物16周辺	口縁部		
2985		1	18-09	[03]	b ¹	炭化物マウンド	胴部		
12035		1	19-16	[12]	IV	炭化物52周辺	胴部		
4694		1	11-12	[12]	IV	遺構外	胴部		
8574		1	13-14	[23]	III	遺構外	口縁部		
16199		1	04-08	[30]	V	遺構外	胴部		
15087		1	04-08	[31]	IV	遺構外	胴部		
7310		1	14-14	[33]	IV	遺構外	胴部		
1067		1	13-14	[03]	IV	遺構外	胴部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
壙 (つづき)	71 9141	1	13-13	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	16151	1	06-05	[02]	Ⅴ	遺構外	胴部	
	106片(胴部1片番号わからず)							
壙	72 9058	2	19-15	[22]	x ²	炭化物52	胴部	PL.[2]-80
	9059	2	19-15	[22]	x ²	炭化物52	胴部	
	8249	2	19-15	[20]	Ⅳ	炭化物52	胴部	
	12040	1	19-16	[32]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部	
	8127	1	21-14	[33]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	11432	1	21-16	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	11435	1	21-16	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	11422	1	21-16	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	11412	3	21-16	[00]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	4320	1	17-20	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	4331	2	17-20	[13]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	4428	1	16-20	[32]	Ⅳ	遺構外	底部	
	4415	1	16-20	[21]	Ⅳ	遺構外	底部	
	4188	1	17-21	[10]	Ⅳ	遺構外	底部	
	4317	1	17-20	[01]	Ⅳ	遺構外	底部	
	21片(胴部1片番号わからず)							
壙	73 15445	1	08-09	[12]	炭化物層	4号土壌	胴部	PL.[2]-176
	15442	1	08-09	[02]	炭化物層	4号土壌	胴部	
	15438	1	08-09	[12]	炭化物層	4号土壌	胴部	
	3551	1	08-12	[20]	Ⅳ	焼土24	胴部	
	2947	1	08-12	[11]	Ⅵ	焼土24	胴部	
	13688	1	07-12	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	13054	1	10-11	[01]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	13055	1	10-11	[01]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	13056	1	10-11	[01]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	13057	1	10-11	[01]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	4884	1	12-11	[00]	Ⅴ	遺構外	胴部	
	1705	1	16-09	[01]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	15453	1	06-09	[30]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	6503	1	19-09	[03]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	5452	1	16-06	[21]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	15片(胴部1片番号わからず)							
壙	74 1451	1	11-06	[00]	床	5号竪穴住居	底部	PL.[2]-129-3 PL.[2]-150
	1428	1	10-06	[30]	覆土⑤層	5号竪穴住居	胴部	
	685	1	11-04	[13]	床直	5号竪穴住居	胴部	
	2173	1	09-05	[11]	b'	焼土・炭化物28	胴部	
	3043	1	10-04	[03]	焼土	焼土・炭化物28	胴部	
	1497	2	10-06	[01]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	1498	2	10-06	[01]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	14001	1	08-09	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	10片							
壙	75 12157	2	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	口縁部1, 胴部1	PL.[2]-81
	12155	1	17-17	[02]	カマド	2号竪穴住居	胴部	
	11324	1	19-15	[13]	x ²	炭化物52	口縁部	
	8852	1	19-15	[00]	x ¹	炭化物52	口縁部	
	7901	1	19-15	[22]	x ¹	炭化物52	口縁部	
	7641	1	19-15	[21]	x ¹	炭化物52	口縁部	
	5863	1	19-15	[22]	Ⅲ	炭化物52	口縁部	
	7246	1	19-15	[22]	x ¹	炭化物52	口縁部	
	8882	1	18-15	[31]	x ¹	炭化物52	口縁部	
	11069	1	19-15	[21]	x ¹	炭化物52	口縁部	
	9525	1	20-15	[02]	x ¹	炭化物52	口縁部	
	9527	1	20-15	[02]	x ¹	炭化物52	口縁部	
	9168	1	19-15	[21]	x ¹	炭化物52	胴部	
	9513	1	18-15	[21]	x ¹	炭化物52	胴部	
	11500	1	18-15	[23]	Ⅳ	炭化物52周辺	口縁部	
	11871	1	18-15	[21]	Ⅳ	炭化物52周辺	口縁部	
	11862	1	18-15	[20]	Ⅳ	炭化物52周辺	口縁部	
	12452	1	19-16	[30]	Ⅳ	炭化物52周辺	口縁部	
	9658	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	2009	1	18-10	[11]	b'	炭化物マウンド	口縁部	
	2010	1	18-10	[11]	b'	炭化物マウンド	口縁部	
	2011	2	18-10	[12]	b'	炭化物マウンド	口縁部	
	2012	1	18-10	[12]	b'	炭化物マウンド	口縁部	
	16577	1	17-11	[31]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	2309	1	18-10	[02]	b'	炭化物マウンド	口縁部	
	2300	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	口縁部	
	2035	2	18-09	[13]	b'	炭化物マウンド	口縁部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
変 (つづき)	75	2065	4	18-10	[12]	b'	炭化物マウンド	口縁部		
	7104	1	17-12	[00]	IV	炭化物マウンド	口縁部			
	6999	1	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	口縁部			
	8754	1	17-12	[00]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部			
	7561	1	17-12	[23]	IV	炭化物マウンド	口縁部			
	7360	1	17-12	[11]	IV	炭化物マウンド	口縁部			
	2649	1	18-10	[03]	b'	炭化物マウンド	口縁部			
	11641	1	18-11	[23]	IV	炭化物マウンド	口縁部			
	2062	1	18-10	[01]	b'	炭化物マウンド	口縁部			
	7057	1	18-12	[30]	IV	炭化物マウンド	口縁部			
	8765	1	17-12	[11]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部			
	11640	1	18-12	[20]	IV	炭化物マウンド	口縁部			
	1854	1	18-10	[11]	カクラン	炭化物マウンド	口縁部			
	16737	1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部			
	1955	1	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	3503	1	17-11	[03]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部			
	8626	1	17-11	[03]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	8769	1	17-12	[11]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	1955	4	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	口縁部			
	2064	4	18-10	[11]	b'	炭化物マウンド	胴部			
	8262	1	13-17	[10]	IV	遺構外	口縁部			
	10351	1	18-14	[22]	IV	遺構外	口縁部			
	8564	1	13-17	[10]	IV	遺構外	口縁部			
	62片(口縁部1片, 胴部1片番号わからず)									
	変	76	16185	1	08-09	[02]	x'	4号土壌	胴部	PL. [2]-194-8
		15698	1	08-09	[03]	x'	4号土壌	胴部	PL. [2]-177	
		15697	1	08-09	[03]	x'	4号土壌	胴部		
		15699	1	08-09	[03]	x'	4号土壌	胴部		
		14742	1	06-06	[12]	IV	焼土12	口縁部		
		15380	1	06-06	[21]	焼土	焼土12	口縁部		
14768		1	06-06	[30]	IV	焼土12	口縁部			
15534		1	07-06	[10]	VI	焼土12	胴部			
13435		2	07-06	[03]	IV	焼土12	胴部			
15381		2	06-06	[20]	焼土	焼土12	胴部			
13213		1	07-08	[20]	IV	焼土18	口縁部			
12988		1	07-08	[00]	IV	焼土18	口縁部			
15591		2	07-08	[10]	V	焼土18	口縁部1, 胴部1			
13049		1	07-08	[10]	IV	焼土18	胴部			
15540		1	07-08	[00]	IV	焼土18	胴部			
16159		12	07-08	[00]	V	焼土18	胴部10, 底部2			
15598		3	08-08	[13]	IV	焼土27	口縁部			
16213		1	08-08	[13]	IV	焼土27	胴部			
13323		1	08-08	[13]	IV	焼土27	胴部			
15458		1	06-09	[31]	焼土	炭化物14	胴部			
15393		1	07-09	[10]	V	炭化物19	口縁部			
15398		1	07-09	[20]	V	炭化物19	口縁部			
16095		1	04-06	[32]	V	遺構外	胴部			
16243		1	04-06	[20]	V	遺構外	胴部			
14820		1	06-09	[23]	V	遺構外	胴部			
16094		1	04-09	[32]	V	遺構外	胴部			
16101		1	06-05	[03]	VI	遺構外	胴部			
15010		1	06-05	[21]	V	遺構外	胴部			
15006		1	06-05	[31]	V	遺構外	胴部			
15002		1	06-05	[20]	V	遺構外	胴部			
5181		1	14-06	[12]	IV	遺構外	胴部			
15718		1	05-06	[12]	V	遺構外	胴部			
15592		2	06-08	[30]	VI	遺構外	胴部			
15004		1	06-05	[20]	V	遺構外	胴部			
15023		1	06-05	[12]	V	遺構外	胴部			
15454		2	06-08	[30]	V	遺構外	胴部			
15008		2	06-05	[21]	V	遺構外	胴部			
15451		2	06-08	[30]	IV	遺構外	胴部1, 底部1			
15452		1	06-08	[30]	IV	遺構外	胴部			
14118		1	06-08	[30]	IV	遺構外	胴部			
14395	1	06-08	[30]	IV	遺構外	胴部				
16105	1	06-05	[03]	IV	遺構外	胴部				
15063	1	06-07	[30]	IV	遺構外	胴部				
15020	1	06-05	[11]	V	遺構外	胴部				
15453	1	06-08	[30]	IV	遺構外	胴部				
14396	2	06-08	[30]	V	遺構外	底部				
67片(胴部4片番号わからず)										

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
77	13602	1	08-07	[11]	土城内	5号土城	胴部	PL.[2]-264-1	
	13321	1	08-08	[13]	IV	焼土27	胴部		
	13323	3	08-08	[13]	IV	焼土27	胴部	PL.[2]-290	
	13931	1	08-08	[31]	IV	焼土27	口縁部		
	13941	3	08-08	[33]	IV	焼土27周辺	底部		
	13329	1	08-08	[21]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13324	1	08-08	[23]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13645	1	08-08	[23]	IV	焼土27周辺	胴部		
	14146	1	08-06	[10]	IV	焼土29	胴部		
	5226	2	08-05	[32]	IV	焼土・炭化物28	胴部		
	610	1	10-06	[11]	IV	遺構外	口縁部		
	14103	8	08-09	[30]	V	遺構外	口縁部4, 胴部4		
	13811	1	08-09	[30]	IV	遺構外	口縁部		
	16208	12	08-09	[30]	IV	遺構外	口縁部2, 胴部10		
	3754	2	08-07	[33]	IV	遺構外	口縁部		
	3133	1	09-06	[33]	IV	遺構外	口縁部		
	13810	1	08-09	[30]	IV	遺構外	胴部		
	13611	2	08-09	[20]	IV	遺構外	胴部		
	3123	1	10-07	[02]	IV	遺構外	胴部		
	16209	1	09-09	[00]	IV	遺構外	胴部		
	15903	1	09-09	[00]	IV	遺構外	胴部		
	15905	1	09-09	[00]	IV	遺構外	胴部		
	14009	1	08-09	[31]	IV	遺構外	胴部		
	13652	1	09-09	[00]	IV	遺構外	胴部		
	13616	1	08-09	[30]	IV	遺構外	胴部		
	13608	1	08-09	[20]	IV	遺構外	胴部		
	14010	1	08-09	[31]	IV	遺構外	胴部		
	14098	2	08-09	[20]	IV	遺構外	胴部		
	13610	2	08-09	[20]	IV	遺構外	胴部		
	13614	1	08-09	[30]	IV	遺構外	胴部		
	13393	1	08-07	[13]	IV	遺構外	胴部		
	13816	1	08-09	[31]	IV	遺構外	底部		
	3745	1	09-07	[02]	IV	遺構外	胴部		
	5241	2	08-07	[10]	IV	遺構外	胴部		
	16210	6	09-08	[03]	IV	遺構外	胴部		
	13948	1	09-08	[03]	IV	遺構外	胴部		
	13650	1	09-08	[03]	IV	遺構外	胴部		
	70片(胴部3片番号わからず)								
	78	1607	1	09-12	[03]	煙道	3号竪穴住居	胴部	PL.[2]-99-5
		1612	1	09-13	[00]	カマド	3号竪穴住居	胴部	PL.[2]-106
1613		1	09-13	[00]	カマド	3号竪穴住居	胴部		
1625		4	09-13	[00]	カマド	3号竪穴住居	胴部		
1627		1	09-12	[03]	カマド	3号竪穴住居	胴部		
8片									
79	13845	1	08-08	[20]	焼土	焼土27	胴部	PL.[2]-188	
	13841	1	08-08	[20]	IV	焼土27周辺	口縁部	PL.[2]-269-2	
	13837	3	08-08	[20]	IV	焼土27周辺	口縁部1, 胴部2		
	13830	4	08-08	[20]	IV	焼土27周辺	口縁部1, 胴部3		
	13831	6	08-08	[20]	IV	焼土27周辺	口縁部5, 胴部1		
	13926	1	08-08	[30]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13288	1	08-08	[01]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13928	1	08-08	[30]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13839	2	08-08	[20]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13927	1	08-08	[30]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13804	3	08-09	[00]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13838	2	08-08	[20]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13281	1	08-08	[02]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13974	1	08-07	[23]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13840	1	08-08	[20]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13300	1	08-08	[11]	IV	焼土27周辺	胴部		
	13909	1	08-08	[10]	IV	焼土27周辺	胴部		
	4457	2	16-22	[21]	IV	遺構外	胴部		
	33片								
	80	1549	8	10-05	[00]	覆土⑤層	5号竪穴住居	胴部	PL.[2]-157-6
2218		1	10-05	[00]	覆土⑤層	5号竪穴住居	胴部		
2231		1	10-04	[02]	b'	1号土城周辺の焼土・炭化物	胴部		
2181		2	09-05	[11]	b'	1号土城周辺の焼土・炭化物	胴部		
2182		1	09-05	[11]	b'	1号土城周辺の焼土・炭化物	胴部		
2183		1	09-05	[21]	b'	1号土城周辺の焼土・炭化物	胴部		
2203		1	09-05	[22]	b'	1号土城周辺の焼土・炭化物	胴部		
2104		1	09-05	[20]	IV	1号土城周辺の焼土・炭化物	胴部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
瘻 (ツブき)	80 2161	2	10-04	[13]	IV	1号土壌周辺の焼土・炭化物	胴部	
	3090	2	08-07	[30]	炭	5号土壌周辺	胴部	
	1535	1	10-05	[01]	IV	遺構外	胴部	
	3048	1	10-05	[03]	V	遺構外	胴部	
	22片							
瘻	81 ✓ 1140	1	10-12	[00]	覆土⑤層	3号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-100-3
	✓ 665	1	09-13	[10]	覆土⑤層	3号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-107
	✓ 1138	1	09-12	[23]	覆土⑤層	3号竪穴住居	口縁部	
	✓ 1137	1	09-12	[22]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部	
	✓ 666	1	09-13	[10]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部	
	✓ 1139	1	09-12	[23]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部	
	✓ 664	1	09-13	[10]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部	
	✓ 668	1	09-13	[11]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部	
	✓ 588	14	08-13	[30]	覆土⑤層	3号竪穴住居	口縁部5, 胴部9	
	✓ 1528	1	08-13	[30]	覆土⑤層	3号竪穴住居	口縁部	
	✓ 600	1	08-14	[20]	IV	遺構外	胴部	
	24片							
瘻	82 1525	1	08-13	[30]	覆土⑤層	3号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-100-5
	15137	1	05-11	[30]	IV	遺構外	口縁部	PL.[2]-108
	2片							
瘻	83 29	1	08-13	[21]	(不明)	焼土24	胴部	PL.[2]-109
	591	1	08-13	[21]	(不明)	焼土24	胴部	
	2868	1	08-13	[21]	V	焼土24	胴部	
	2927	1	08-13	[21]	VI	焼土24	胴部	
	2938	2	08-13	[21]	VI	焼土24	胴部	
	6片							
瘻	84 12697	3	31-16	[33]	IV	遺構外	口縁部	PL.[2]-263-3
	3片							
瘻	85 ✓ 12152	1	16-17	[31]	煙道	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-40-4
	12497	1	16-17	[31]	煙道	2号竪穴住居	胴部	PL.[2]-82
	12284	1	17-17	[01]	煙道	2号竪穴住居	胴部	
	12293	2	16-17	[31]	煙道	2号竪穴住居	胴部	
	✓ 12496	1	16-17	[31]	煙道	2号竪穴住居	胴部	
	1803	1	17-17	[21]	床	2号竪穴住居	胴部	
	1833	1	17-17	[20]	床	2号竪穴住居	胴部	
	✓ 8531	1	17-18	[00]	床	2号竪穴住居	胴部	
	✓ 12297	5	16-17	[31]	煙道	2号竪穴住居	胴部	
	✓ 12295	1	16-17	[31]	煙道	2号竪穴住居	胴部	
	✓ 8529	1	17-18	[00]	床直	2号竪穴住居	胴部	
	✓ 12240	4	17-17	[22]	カマド	2号竪穴住居	胴部	
	✓ 1819	1	17-17	[22]	床直	2号竪穴住居	胴部	
	✓ 11143	1	17-17	[22]	床直	2号竪穴住居	胴部	
	✓ 12238	2	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部	
	✓ 12286	1	17-17	[01]	煙道	2号竪穴住居	胴部	
	✓ 12500	1	16-17	[31]	煙道	2号竪穴住居	胴部	
	1828	1	17-16	[33]	床	2号竪穴住居	胴部	
	✓ 12516	1	16-17	[22]	焼土	焼土43	口縁部	
	✓ 488	1	16-17	[32]	b'上	焼土43	口縁部	
	450	1	16-17	[12]	b'上	焼土43	口縁部	
	✓ 472	1	16-17	[22]	b'上	焼土43	胴部	
	498	1	16-17	[13]	b'上	焼土43	胴部	
	485	4	16-17	[32]	b'上	焼土43	胴部	
	482	1	16-17	[02]	b'上	焼土43	胴部	
	483	1	16-17	[32]	b'上	焼土43	胴部	
	✓ 11693	1	16-17	[12]	焼土	焼土43	胴部	
	12280	1	16-16	[33]	IV	焼土43周辺	胴部	
	9942	1	16-17	[31]	IV	焼土43周辺	胴部	
	12548	1	16-17	[23]	IV	焼土43周辺	胴部	
	✓ 9717	2	16-17	[23]	IV	焼土43周辺	口縁部1, 胴部1	
	368	1	16-17	[22]	(不明)	焼土43周辺	胴部	
✓ 12547	1	16-17	[23]	IV	焼土43周辺	胴部		
✓ 12283	1	16-16	[不明]	(不明)	焼土43周辺	口縁部		
12282	1	16-16	[33]	IV	焼土43周辺	口縁部		
6770	1	19-11	[20]	IV	焼土49	胴部		
✓ 12490	1	21-15	[21]	IV	焼土62	胴部		
✓ 7973	1	19-15	[00]	x ²	炭化物52	口縁部		
7623	1	19-15	[11]	x ¹	炭化物52	口縁部		
✓ 11344	1	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	口縁部		
✓ 9025	1	19-15	[13]	x ¹	炭化物52	口縁部		
✓ 8997	1	19-15	[13]	x ¹	炭化物52	口縁部		
7251	1	19-15	[33]	x ¹	炭化物52	胴部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	85 9069	1	19-15	[23]	x'	炭化物52	口縁部		
	12118	2	19-15	[23]	Ⅳ	炭化物52	胴部		
	√ 7921	1	19-15	[23]	x'	炭化物52	胴部		
	√ 7627	1	19-15	[11]	x'	炭化物52	胴部		
	√ 5766	2	19-15	[32]	Ⅲ	炭化物52	胴部		
	√ 7925	1	19-15	[23]	x'	炭化物52	胴部		
	√ 9076	1	19-15	[23]	x'	炭化物52	胴部		
	√ 7586	1	20-16	[10]	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部		
	√ 11449	2	20-16	[10]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部		
	√ 12566	1	20-16	[00]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部		
	6040	1	20-16	[11]	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部		
	√ 5690	5	20-16	[10]	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部		
	√ 6019	4	20-16	[10]	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部		
	√ 6020	2	20-16	[10]	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部		
	√ 8788	1	17-12	[30]		マウンド上面 炭化物マウンド	口縁部		
	√ 172	1	17-11	[03]		マウンド 炭化物マウンド	口縁部		
	√ 7028	1	17-12	[20]	Ⅳ	炭化物マウンド	口縁部		
	3303	4	17-11	[03]		マウンド内 炭化物マウンド	胴部		
	7804	1	17-11	[13]	Ⅳ	炭化物マウンド	胴部		
	√ 9680	3	17-12	[10]		マウンド 炭化物マウンド	胴部		
	√ 8708	1	17-11	[23]		マウンド上 炭化物マウンド	胴部		
	√ 3341	2	17-11	[12]		マウンド内 炭化物マウンド	胴部		
	√ 2085	1	18-09	[03]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	√ 10239	1	17-11	[21]		マウンド 炭化物マウンド	胴部		
	√ 16627	1	17-11	[21]		マウンド 炭化物マウンド	胴部		
	√ 8688	2	17-11	[22]		マウンド上面 炭化物マウンド	胴部		
	√ 9960	2	16-13	[23]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
	√ 9389	2	17-13	[31]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
	√ 9384	1	17-13	[13]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
	√ 6655	2	19-12	[32]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
	√ 9386	1	17-13	[21]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
	√ 9967	1	16-13	[22]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
	√ 5867	42	17-19	[11]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	√ 10737	1	16-13	[00]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
	16433	3	10-18	[11]	Ⅴ	遺構外	胴部		
	√ 57	1	16-18	[30]	(不明)	遺構外	胴部		
	√ 12204	1	16-18	[11]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	√ 9413	1	17-14	[00]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
	√ 9946	1	16-14	[03]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
	158	1	16-13	[31]	(不明)	遺構外	口縁部		
	160片								
	壙	86 11437	1	21-16	[10]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		5938	1	22-16	[01]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
		10990	1	22-18	[00]	カクラン	遺構外	口縁部	
		11420	1	21-16	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		11409	1	21-16	[00]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		8921	4	20-13	[31]	Ⅴ	遺構外	胴部	
		11419	1	21-16	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		11427	1	21-16	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		11417	1	21-16	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		11414	1	21-16	[01]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		11442	1	21-16	[11]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		11426	1	21-16	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		9476	1	21-16	[01]	Ⅲ	遺構外	胴部	
		5695	1	20-15	[33]	Ⅳ	遺構外	底部	
		7881	5	21-16	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部2, 底部3	
		22片(口縁部1片, 胴部1片, 底部1片番号わからず)							
壙		87 1882	1	17-17	[22]	覆土④層	2号竪穴住居	底部	PL.[2]-42-3
		11809	1	15-17	[32]	土壌内	3号土壌	胴部	PL.[2]-83
		338	1	16-17	[12]	(不明)	焼土43	胴部	
	259	1	16-16	[32]	(不明)	焼土43	胴部		
	7625	1	19-15	[11]	x'	炭化物52	胴部		
	2002	2	18-10	[01]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	2422	1	17-10	[30]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	1867	2	18-10	[12]	カクラン	炭化物マウンド	胴部		
	1989	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	1999	1	18-10	[11]	b'	炭化物マウンド	胴部		
	1869	1	18-10	[01]	カクラン	炭化物マウンド	胴部		
	1872	1	18-10	[01]	カクラン	炭化物マウンド	胴部		
	1870	1	18-10	[01]	カクラン	炭化物マウンド	底部		
	1853	1	18-10	[01]	カクラン	炭化物マウンド	底部		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
瘞 (つづき)	87	2269	1	17-10	(30)	b'	炭化物マウンド	胴部	
		2813	1	17-10	(31)	b'	炭化物マウンド	胴部	
		8734	1	17-11	(31)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		2270	1	17-10	(30)	b'	炭化物マウンド	胴部	
		20片							
瘞	88	11881	1	18-15	(31)	IV	炭化物52	口縁部	PL.②-267-4
		9515	1	18-15	(32)	x'	炭化物52	口縁部	
		11513	1	18-15	(31)	IV	炭化物52	口縁部	
		9512	1	18-15	(31)	x'	炭化物52	胴部	
		8438	2	19-14	(13)	カクラン	炭化物52周辺	口縁部	
		11490	3	18-15	(10)	IV	炭化物52周辺	口縁部2, 胴部1	
		11795	1	18-15	(10)	IV	炭化物52周辺	胴部	
		11796	1	18-15	(10)	IV	炭化物52周辺	胴部	
		11片(胴部1片番号わからず)							
瘞	89	14150	1	06-08	(20)	V	焼土13	胴部	PL.②-175
		14393	1	06-08	(20)	V	焼土13	胴部	
		15389	1	07-08	(03)	焼土	焼土18	口縁部	
		15407	1	07-08	(12)	V	焼土18周辺	胴部	
		13035	2	07-08	(11)	IV	焼土18周辺	胴部	
		6片							
瘞	90	2755	1	18-10	(01)	b'	炭化物マウンド	口縁部	PL.②-205-1
		1123	3	21-22	(03)	IV	遺構外	胴部1, 底部2	PL.②-243
		4片							
瘞	91	11443	1	21-16	(20)	IV	遺構外	口縁部	
		12669	1	21-15	(23)	IV	遺構外	口縁部	
		12022	1	21-17	(12)	IV	遺構外	口縁部	
		11930	1	21-17	(21)	IV	遺構外	胴部	
		11931	1	21-17	(21)	IV	遺構外	胴部	
		11276	1	21-16	(30)	IV	遺構外	胴部	
		11277	1	21-16	(30)	IV	遺構外	胴部	
		7片							
瘞	92	1751	1	18-16	(02)	床直	2号竪穴住居	胴部	PL.②-43-3
		11555	1	18-16	(03)	床直	2号竪穴住居	胴部	PL.②-84
		1758	1	18-16	(13)	床直	2号竪穴住居	底部	
		7697	1	19-15	(23)	x'	炭化物52	胴部	
		5727	2	19-15	(11)	Ⅲ	炭化物52	胴部	
		7684	1	19-15	(13)	x'	炭化物52	胴部	
		8886	1	18-15	(31)	x'	炭化物52	胴部	
		7617	1	19-15	(01)	x'	炭化物52	胴部	
		5726	1	19-15	(11)	Ⅲ	炭化物52	胴部	
		222	1	18-15	(32)	(不明)	炭化物52	底部	
		5751	1	19-15	(22)	Ⅲ	炭化物52	胴部	
		16777	1	19-15	(不明)	(不明)	炭化物52	胴部	
		13片							
	瘞	93	393	1	17-17	(12)	カマド周辺	2号竪穴住居	胴部
		8214	1	15-17	(21)	Ⅲ	焼土41周辺	胴部	PL.②-86
		8224	1	15-17	(31)	Ⅲ	焼土41周辺	胴部	
		8229	1	15-17	(20)	Ⅲ	焼土41周辺	胴部	
		9754	1	15-17	(23)	IV	焼土41周辺	胴部	
		8469	1	16-17	(13)	焼土	焼土43	底部	
		8222	1	15-17	(31)	Ⅲ	焼土43周辺	胴部	
		11170	2	15-17	(23)	IV	焼土43周辺	胴部	
		8208	1	15-17	(22)	Ⅲ	焼土43周辺	胴部	
		8207	1	15-17	(22)	Ⅲ	焼土43周辺	胴部	
		5854	1	15-17	(21)	Ⅲ	焼土43周辺	胴部	
		5853	1	15-17	(21)	Ⅲ	焼土43周辺	胴部	
		11187	1	16-17	(02)	IV	焼土43周辺	胴部	
		11171	1	15-17	(23)	IV	焼土43周辺	胴部	
		11148	1	15-17	(31)	IV	焼土43周辺	胴部	
		11167	1	15-17	(13)	IV	焼土43周辺	胴部	
		803	1	15-17	(13)	IV	焼土43周辺	胴部	
		11166	1	15-17	(13)	IV	焼土43周辺	胴部	
		5857	2	15-17	(13)	IV	焼土43周辺	胴部	
		5837	1	15-16	(33)	Ⅲ	焼土43周辺	胴部	
		14521	1	04-08	(32)	VI	炭化物4	底部	
		11513	2	18-15	(31)	IV	炭化物52	胴部	
		11971	1	18-15	(31)	x'	炭化物52	胴部	
		8881	1	18-15	(31)	x'	炭化物52	胴部	
		8857	1	19-15	(01)	x'	炭化物52	胴部	
		7611	1	19-15	(01)	x'	炭化物52	胴部	
		8856	1	19-15	(01)	x'	炭化物52	胴部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	93 7429	1	19-15	[22]	x'	炭化物52	胴部		
	9098	1	19-15	[32]	x'	炭化物52	胴部		
	5767	1	19-15	[32]	Ⅲ	炭化物52	胴部		
	7452	2	19-15	[32]	x'	炭化物52	胴部		
	4449	1	15-18	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	5303	1	16-18	[不明]	表探	遺構外	胴部		
	4448	1	15-18	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	4447	1	15-18	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	4146	1	15-18	[31]	Ⅳ	遺構外	底部		
	8022	1	16-18	[11]	Ⅳ	遺構外	底部		
	4133	1	15-18	[00]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	42片(胴部4片番号わからず)								
	壙	94 9167	1	19-15	[21]	x'	炭化物52	胴部	
9169		4	19-15	[30]	x'	炭化物52	胴部3,底部1		
5片									
壙	95 381	1	16-17	[30]	(不明)	焼土43	胴部	PL.[2]-85	
	8315	1	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
	3816	6	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
	383	2	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
	8317	3	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
	9935	2	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
	9720	1	16-17	[31]	焼土	焼土43	胴部		
	9484	3	16-17	[31]	焼土	焼土43	胴部		
	9483	4	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
	8314	1	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
	24片(胴部3片番号わからず)								
壙	96 4178	2	21-18	[31]	Ⅳ	遺構外	口縁部	PL.[2]-245	
	4242	4	21-18	[20]	Ⅳ	遺構外	口縁部2,胴部2		
	878	1	21-19	[02]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
	862	7	21-19	[20]	Ⅳ	遺構外	口縁部4,胴部3		
	866	1	21-19	[21]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
	4245	1	22-18	[01]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	854	1	21-19	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	858	1	21-19	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	861	1	21-19	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	864	1	21-19	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	857	3	21-19	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	871	1	21-19	[00]	Ⅳ	遺構外	胴部		
	24片(胴部1片番号わからず)								
	壙	97 87	2	22-21	[31]	(不明)	遺構外	口縁部	
90		15	22-21	[31]	(不明)	遺構外	口縁部2,胴部13		
91		2	22-18	[31]	(不明)	遺構外	胴部		
912		7	22-21	[21]	Ⅳ	遺構外	口縁部4,胴部3		
913		10	22-21	[21]	Ⅳ	遺構外	口縁部8,胴部2		
916		3	22-21	[21]	Ⅳ	遺構外	胴部		
918		1	22-21	[22]	Ⅳ	遺構外	底部		
774		1	22-21	[13]	Ⅳ	遺構外	底部		
775		2	22-21	[13]	Ⅳ	遺構外	底部		
43片									
壙	98 15664	2	08-09	[03]	x*	4号土壌	口縁部	PL.[2]-194-7	
	15636	4	08-09	[03]	x*	4号土壌	口縁部2,胴部2	PL.[2]-178	
	13891	1	08-11	[30]	焼土	焼土・炭化物22	胴部		
	13902	1	09-11	[03]	焼土	焼土・炭化物22	胴部		
	13893	1	09-11	[00]	焼土	焼土・炭化物22	胴部		
	13069	4	09-11	[00]	Ⅳ	焼土・炭化物22	口縁部2,胴部2		
	14283	1	09-10	[03]	V	焼土・炭化物22周辺	口縁部		
14片(口縁部1片番号わからず)									
壙	99 9243	1	17-11	[11]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	PL.[2]-208-3	
	9312	1	17-11	[03]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	PL.[2]-246	
	2876	10	18-10	[02]	b'	炭化物マウンド	口縁部6,胴部4		
12片									
壙	100 3854	4	10-08	[01]	Ⅳ	遺構外	口縁部2,胴部2	PL.[2]-179	
	3857	5	10-08	[01]	Ⅳ	遺構外	口縁部		
	3860	5	10-08	[11]	Ⅳ	遺構外	口縁部3,胴部2		
14片									
壙	102 6444	1	18-10	[31]	Ⅳ	炭化物マウンド	胴部	PL.[2]-247	
	6610	4	18-10	[31]	Ⅳ	炭化物マウンド	胴部		
	8384	1	18-10	[33]	Ⅳ	炭化物マウンド	胴部		
	8266	3	18-11	[20]	Ⅳ	炭化物マウンド周辺	胴部		
	6539	6	19-10	[11]	Ⅳ	焼土49周辺	胴部		
	6540	3	19-10	[11]	Ⅳ	焼土49周辺	胴部2,底部1		

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	102	5413	1	20-10	[20]	IV	焼土49周辺	胴部	
		6449	2	19-10	[13]	IV	焼土49周辺	胴部1, 底部1	
		6456	1	19-10	[12]	IV	焼土49周辺	底部	
		6611	1	19-11	[12]	IV	炭化物・焼土50	胴部	
		6688	1	19-11	[20]	IV	炭化物・焼土50	胴部	
		6477	8	11-10	[21]	IV	遺構外	胴部	
		6485	1	11-10	[32]	IV	遺構外	胴部	
		6467	1	11-10	[20]	IV	遺構外	胴部	
		6463	1	11-10	[20]	IV	遺構外	胴部	
		6481	3	11-10	[21]	IV	遺構外	胴部	
		6479	1	11-10	[21]	IV	遺構外	胴部	
		6480	2	11-10	[21]	IV	遺構外	胴部	
		6488	1	11-10	[33]	IV	遺構外	胴部	
		6461	1	11-10	[30]	IV	遺構外	胴部	
		6471	1	11-10	[21]	IV	遺構外	胴部	
		6462	1	11-10	[20]	IV	遺構外	胴部	
		6487	1	11-10	[22]	IV	遺構外	胴部	
		6475	3	11-10	[21]	IV	遺構外	胴部	
		6486	1	11-10	[22]	IV	遺構外	胴部	
		6476	1	11-10	[21]	IV	遺構外	胴部	
		6489	2	11-10	[32]	IV	遺構外	胴部	
		6483	2	11-10	[21]	IV	遺構外	胴部	
		6465	1	11-10	[20]	IV	遺構外	胴部	
		6473	1	11-10	[21]	IV	遺構外	胴部	
		6478	4	11-10	[21]	IV	遺構外	胴部	
		6474	3	11-10	[21]	IV	遺構外	底部	
		12644	8	31-17	[10]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
		6436	1	18-09	[32]	IV	遺構外	胴部	
		6508	1	20-09	[02]	IV	遺構外	胴部	
		6553	1	20-10	[10]	IV	遺構外	胴部	
	6440	1	18-09	[33]	IV	遺構外	胴部		
	6441	1	18-09	[33]	IV	遺構外	胴部		
	6509	1	20-09	[01]	IV	遺構外	胴部		
	6558	1	18-09	[33]	IV	遺構外	胴部		
				79片					
壙	103	1446	1	10-05	[31]	床	5号竪穴住居	胴部	PL. [2]-130-4
		1302	3	10-05	[12]	床	5号竪穴住居	胴部2, 底部1	PL. [2]-151
		1301	1	10-05	[12]	床	5号竪穴住居	底部	
		1466	1	12-08	[20]	IV	遺構外	胴部	
					6片				
壙	104	2552	2	08-13	[11]	V	焼土24	胴部1, 底部1	PL. [2]-110
				2片					
壙	105	12296	2	16-17	[31]	煙道	2号竪穴住居	胴部	PL. [2]-87
		11708	1	15-17	[32]	土壌内	3号土壌	胴部	
		11197	1	16-17	[02]	焼土	焼土43	胴部	
		10502	1	16-16	[33]	焼土	焼土43	胴部	
		12662	2	16-17	[13]	IV	焼土43周辺	底部1, 胴部1	
		12096	1	16-16	[33]	IV	焼土43周辺	胴部	
		173	1	17-11	[12]	(不明)	炭化物マウンド	胴部	
		9203	1	17-11	[02]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		16550	1	17-12	[10]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		8625	1	17-11	[03]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		7798	1	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	胴部	
		9630	1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9270	1	17-11	[13]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
		9655	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9695	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		2421	1	17-10	[30]	b'	炭化物マウンド	底部	
		16504	1	07-09	[33]	(不明)	遺構外	胴部	
	15975	1	06-05	[33]	VI	遺構外	胴部		
				20片					
壙	106	5731	16	19-15	[01]	Ⅲ	炭化物52	胴部12, 底部4	
				16片					
壙	108	1623	3	08-13	[20]	煙道	3号竪穴住居	胴部2, 底部1	PL. [2]-99-3
		1624	4	09-13	[00]	煙道	3号竪穴住居	胴部	PL. [2]-111
				7片					
壙	109	7271	1	27-16	[12]	炭	炭化物・焼土70	底部	
		7269	2	27-16	[03]	炭	炭化物・焼土70	胴部1, 底部1	
				3片					
壙	110	5497	1	26-17	[不明]	表土	炭化物・焼土70	底部	
		5498	1	26-17	[不明]	表土	炭化物・焼土70	胴部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
壙 (つづき)	110	5510	2	26-16	[22]	Ⅲ	炭化物・焼土70	胴部	
				4片					
壙	111	13374	1	07-08	[02]	Ⅳ	炭化物19	胴部	
		14894	2	07-08	[02]	焼土	炭化物19	胴部1, 底部1	
		16471	1	10-17	[22]	V	遺構外	底部	
		16474	1	10-17	[32]	V	遺構外	胴部	
				5片(胴部1片番号わからず)					
壙	112	7918	1	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	胴部	
		8856	3	19-15	[01]	x ¹	炭化物52	胴部2, 底部1	
		9073	1	19-15	[23]	x ¹	炭化物52	胴部	
		898	1	18-20	[10]	Ⅳ	遺構外	底部	
		899	1	18-20	[10]	Ⅳ	遺構外	底部	
		1162	2	18-20	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部	
				9片					
壙	113	9220	1	17-12	[00]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	PL.[2]-249
		✓3523	4	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
		✓3530	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
		✓189	1	17-12	[11]	(不明)	炭化物マウンド	胴部	
		✓7347	3	17-12	[10]	Ⅳ	炭化物マウンド	胴部1, 底部2	
		✓9426	1	17-11	[13]	マウンド	炭化物マウンド	底部	
		✓3542	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	底部	
				12片					
壙	114	156	6	18-14	[32]	(不明)	遺構外	胴部3, 底部3	
		8431	1	18-14	[23]	Ⅳ	遺構外	底部	
		7片							
壙	115	7415	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	底部	PL.[2]-88
		11960	3	18-15	[20]	Ⅳ	炭化物52周辺	胴部1, 底部2	
		9816	1	17-13	[03]	Ⅳ	炭化物マウンド周辺	胴部	
		10170	1	17-13	[00]	Ⅳ	炭化物マウンド周辺	胴部	
		11575	3	15-16	[03]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		7281	1	15-13	[33]	Ⅳ	遺構外	底部	
		1237	1	12-07	[32]	Ⅳ	遺構外	底部	
				11片					
壙	116	1737	1	17-16	[33]	覆土④層	2号竪穴住居	底部	PL.[2]-40-5
		11194	1	15-17	[31]	Ⅳ	焼土43	胴部	PL.[2]-89
		11286	1	17-16	[12]	Ⅳ	焼土43周辺	胴部	
		11063	1	19-15	[21]	x ¹	炭化物52	胴部	
		9046	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	胴部	
		78	1	19-15	[32]	(不明)	炭化物52	胴部	
		218	1	18-15	[30]	(不明)	炭化物52周辺	胴部	
		11630	1	16-13	[30]	Ⅳ	遺構外	胴部	
		8片							
壙	117	14066	1	09-10	[10]	V	炭化物・焼土20・21	口縁部	
		14727	1	09-09	[03]	V	炭化物・焼土20・21	口縁部	
		14729	1	09-09	[13]	V	炭化物・焼土20・21	口縁部	
		14285	1	09-10	[10]	V	炭化物・焼土20・21	口縁部	
		14050	1	09-10	[00]	V	炭化物・焼土20・21	口縁部	
		14725	1	09-10	[20]	V	炭化物・焼土20・21周辺	口縁部	
		4022	1	10-09	[22]	V	炭化物・焼土20・21周辺	口縁部	
		4066	1	09-09	[23]	V	炭化物・焼土20・21周辺	口縁部	
		14069	1	09-09	[11]	V	炭化物・焼土20・21周辺	口縁部	
				9片					
壙	118	1889	1	17-16	[23]	床直	2号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-43-2
		16524	2	17-17	[不明]	カマド	2号竪穴住居	口縁部	PL.[2]-90
		16702	1	17-17	[不明]	カマド	2号竪穴住居	口縁部	
		12161	1	17-17	[不明]	カマド	2号竪穴住居	胴部	
		535	1	17-17	[10]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		12239	1	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	胴部	
		1802	1	17-17	[11]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		9193	1	17-18	[00]	床直	2号竪穴住居	胴部	
		9194	1	17-18	[00]	床直	2号竪穴住居	底部	
		16517	1	18-18	[不明]	床直	2号竪穴住居	口縁部	
		5858	1	15-17	[00]	Ⅲ	焼土41	胴部	
		8096	1	15-17	[00]	Ⅲ	焼土41	胴部	
		11812	1	15-17	[00]	(不明)	焼土41	胴部	
		11188	1	16-17	[02]	Ⅳ	焼土43	胴部	
		11150	1	15-17	[30]	Ⅳ	焼土43	胴部	
		12088	1	16-16	[21]	Ⅳ	焼土43周辺	口縁部	
		11569	2	15-16	[20]	Ⅳ	焼土43周辺	胴部	
		9750	1	15-17	[01]	Ⅳ	焼土43周辺	胴部	
		223	3	15-16	[30]	(不明)	焼土43周辺	胴部	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号	
壙 (つづき)	118	225	3	15-16	[31]	(不明)	焼土43周辺	胴部	
	226	1	15-16	[31]	(不明)	焼土43周辺	胴部		
	7572	1	18-12	[20]	IV	焼土47	胴部		
	7059	1	18-12	[20]	IV	焼土47	胴部		
	11643	1	18-12	[30]	IV	焼土47	胴部		
	7056	1	18-12	[30]	IV	焼土47	胴部		
	8389	1	20-12	[33]	IV	焼土60周辺	口縁部		
	10068	1	17-12	[21]		マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	1952	2	17-10	[31]	b ¹		炭化物マウンド	胴部	
	16731	1	17-10	[不明]	b ²		炭化物マウンド	胴部	
	2045	1	17-09	[13]	b ¹		炭化物マウンド周辺	口縁部	
	6769	1	19-11	[01]	IV		炭化物・焼土50	口縁部	
	6742	1	19-11	[11]	IV		炭化物・焼土50	口縁部	
	6778	1	19-11	[21]	IV		炭化物・焼土50	胴部	
	6776	1	19-11	[21]	IV		炭化物・焼土50	胴部	
	6739	1	19-11	[02]	IV		炭化物・焼土50	胴部	
	6743	2	19-11	[11]	IV		炭化物・焼土50	胴部	
	6744	1	19-11	[12]	IV		炭化物・焼土50	胴部	
	10953	1	19-15	[10]	x ¹		炭化物52	口縁部	
	5711	2	19-15	[10]	III		炭化物52	口縁部	
	8887	1	18-15	[30]	x ¹		炭化物52	口縁部	
	11966	1	18-15	[30]	x ²		炭化物52	口縁部	
	8898	2	18-15	[30]	x ¹		炭化物52	口縁部	
	12138	1	18-15	[30]	x ¹		炭化物52	口縁部	
	11880	1	18-15	[31]	IV		炭化物52	口縁部	
	8851	1	19-15	[00]	x ¹		炭化物52	口縁部	
	11507	2	18-15	[30]	IV		炭化物52	口縁部	
	8883	1	18-15	[30]	x ¹		炭化物52	口縁部	
	12440	1	18-15	[30]	x ²		炭化物52	口縁部	
	11875	1	18-15	[30]	IV		炭化物52	口縁部	
	8600	1	19-15	[00]	x ¹		炭化物52	口縁部	
	8899	1	18-15	[30]	x ¹		炭化物52	口縁部	
	11965	1	18-15	[30]	x ²		炭化物52	口縁部	
	9048	1	19-15	[12]	x ¹		炭化物52	口縁部	
	7410	1	19-15	[11]	x ¹		炭化物52	口縁部	
	7620	1	19-15	[11]	x ¹		炭化物52	口縁部	
	11970	1	18-15	[30]	x ²		炭化物52	口縁部	
	12562	1	20-15	[03]	III		炭化物52	口縁部	
	9536	1	20-15	[03]	x ¹		炭化物52	胴部	
	12137	1	18-15	[30]	x ¹		炭化物52	胴部	
	11876	1	18-15	[30]	IV		炭化物52	胴部	
	11968	2	18-15	[30]	x ²		炭化物52	胴部	
	9508	1	18-15	[30]	x ²		炭化物52	胴部	
	12140	1	18-15	[30]	x ¹		炭化物52	胴部	
	12135	1	18-15	[30]	x ¹		炭化物52	胴部	
	12139	1	18-15	[30]	x ¹		炭化物52	胴部	
	11506	1	18-15	[30]	IV		炭化物52	胴部	
	9507	1	18-15	[30]	x ¹		炭化物52	胴部	
	11446	1	20-16	[30]	IV		炭化物52周辺	口縁部	
	5691	1	20-16	[10]	III		炭化物52周辺	胴部	
	12568	1	20-16	[00]	IV		炭化物52周辺	口縁部	
	8184	1	19-14	[33]	IV		遺構外	口縁部	
	10370	1	18-14	[33]	IV		遺構外	口縁部	
	10373	1	18-14	[33]	IV		遺構外	胴部	
10353	1	18-14	[22]	IV		遺構外	胴部		
10355	1	18-14	[22]	IV		遺構外	口縁部		
10370	1	18-14	[33]	IV		遺構外	口縁部		
4080	1	10-10	[31]	V		遺構外	胴部		
4034	1	10-09	[23]	IV		遺構外	胴部		
11632	1	16-13	[33]	IV		遺構外	口縁部		
7753	1	14-15	[21]	IV		遺構外	口縁部		
8060	1	13-14	[22]	III		遺構外	口縁部		
5859	1	14-17	[30]	III		遺構外	胴部		
3923	1	09-07	[33]	III		遺構外	胴部		
9955	1	16-14	[20]	III		遺構外	胴部		
96片(口縁部3片番号わからず)									
壙	119	7472	1	20-15	[03]	焼土上	炭化物52	底部	PL[2]-250
		8786	1	17-12	[22]	マウンド上	炭化物マウンド	底部	
2片									
壙	120	3404	1	17-11	[22]	マウンド内	炭化物マウンド	底部	
		1片							

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
瘻	121	848	1	19-18	〔33〕	IV	遺構外	底部
瘻	122	13997	1	08-09	〔10〕	IV	4号土壇周辺	底部
		13999	1	08-09	〔20〕	IV	4号土壇周辺	底部
		2片						
瘻	123	5681	1	21-17	〔32〕	IV	遺構外	底部
瘻	124	7791	1	14-13	〔11〕	IV	遺構外	底部
瘻	125	9982	1	16-13	〔21〕	IV	遺構外	底部
瘻	126	886	2	20-19	〔23〕	IV	遺構外	底部
		4176	1	22-18	〔21〕	Ⅲ	遺構外	底部
		3片						
瘻	127	4193	1	17-21	〔30〕	IV	遺構外	底部
		4318	1	17-20	〔02〕	IV	遺構外	底部
		4346	1	17-20	〔32〕	IV	遺構外	底部
		4358	1	17-20	〔30〕	IV	遺構外	底部
		4片(底部1片番号わからず)						
瘻	128	12520	1	16-18	〔00〕	IV	焼土43	底部
瘻	129	822	1	11-04	〔03〕	床	5号竪穴住居	底部
瘻	130	10220	1	17-11	〔20〕	マウンド	炭化物マウンド	底部
瘻	131	9192	1	19-15	〔00〕	x ²	炭化物52	底部
		892	1	20-19	〔02〕	IV	遺構外	底部
		2片(底部1片番号わからず)						
瘻	132	9289	1	17-12	〔10〕	マウンド上	炭化物マウンド	底部
		10283	1	17-12	〔20〕	マウンド	炭化物マウンド	底部
		2片						
瘻	133	5969	8	22-15	〔01〕	IV	遺構外	底部
瘻	134	16	1	07-14	〔30〕	(不明)	遺構外	PL.〔2〕-112
		4486	1	07-14	〔31〕	IV	遺構外	
		2片						
瘻	135	15926	1	07-09	〔33〕	V	遺構外	底部
瘻	136	13273	1	08-08	〔03〕	IV	焼土27	胴部
		12961	1	07-06	〔03〕	IV	遺構外	胴部
		12996	1	07-08	〔01〕	IV	遺構外	胴部
		15059	1	06-07	〔31〕	IV	遺構外	胴部
		4片						
瘻	137	14916	1	07-08	〔13〕	焼土	炭化物19	胴部
		14917	1	07-09	〔10〕	焼土	炭化物19	胴部
		14038	1	07-09	〔01〕	IV	炭化物19周辺	底部
		14039	1	07-09	〔00〕	IV	炭化物19周辺	底部
		14380	1	06-08	〔33〕	IV	遺構外	底部
		14500	1	07-05	〔03〕	IV	遺構外	底部
瘻	138	1145	1	10-11	〔23〕	覆土⑤層	3号竪穴住居	底部
		1146	1	10-12	〔20〕	覆土⑤層	3号竪穴住居	底部
		2片						
瘻	139	15190	1	05-10	〔23〕	IV	遺構外	底部
		15191	1	05-10	〔23〕	IV	遺構外	底部
		2片						
瘻	140	5529	2	26-16	〔33〕	Ⅲ	遺構外	底部
瘻	141	1175	1	10-05	〔21〕	床直	5号竪穴住居	底部
		13390	1	08-08	〔31〕	IV	焼土27	底部
		2片						
瘻	142	4607	1	11-07	〔30〕	IV	遺構外	底部
		4609	1	11-07	〔30〕	IV	遺構外	底部
		2片						
瘻	143	3286	2	09-06	〔22〕	IV	遺構外	底部
瘻	144	640	1	12-21	〔10〕	IV	遺構外	底部
瘻	145	1555	6	27-16	〔03〕	Ⅲ	炭化物・焼土70	底部
瘻	146	126	3	16-17	〔30〕	(不明)	焼土43	底部

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号				
瘞	147	543	1	17-17	[不明]	カクラン	2号竪穴住居	底部				
		81	1	19-15	[32]	(不明)	炭化物52	底部				
		7419	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	底部				
		11057	1	19-15	[12]	x ¹	炭化物52	底部				
		221	4	18-15	[31]	(不明)	炭化物52周辺	底部				
		8片(底部2片番号わからず)										
瘞	148	6166	1	26-15	[23]	焼土	焼土68	底部				
		6097	1	29-15	[21]	Ⅲ	遺構外	底部				
		2片(底部1片番号わからず)										
瘞	149	617	1	10-04	[23]	炭	1号土壌周辺の焼土・炭化物	底部	PL.[2]-157-5			
		3033	1	10-04	[12]	炭化物層下	1号土壌周辺の焼土・炭化物	底部				
		3785	1	10-07	[13]	Ⅳ	遺構外	底部				
		14888	1	09-07	[02]	b ¹	遺構外	底部				
		15717	1	05-06	[12]	V	遺構外	底部				
		15996	2	05-06	[20]	V	遺構外	底部				
		7片(底部1片番号わからず)										
瘞	150	9122	1	18-18	[13]	覆土④層	2号竪穴住居	底部	PL.[2]-2-40-3			
		1片										
瘞	151	7185	1	27-16	[02]	炭	炭化物・焼土70	底部				
		7207	2	27-16	[03]	炭	炭化物・焼土70	底部				
		5497	1	26-17	[不明]	表土	炭化物・焼土70	底部				
		5498	2	26-17	[不明]	表土	炭化物・焼土70	底部				
		6片										
瘞	152	16163	1	08-09	[02]	x ⁷	4号土壌	底部	PL.[2]-264-4			
		15475	1	06-09	[10]	焼土	炭化物14	胴部				
		15477	1	06-09	[10]	焼土	炭化物14	胴部				
		15488	1	06-09	[11]	焼土	炭化物14	口縁部				
		13568	1	07-09	[10]	Ⅳ	炭化物19	口縁部				
		15384	1	07-09	[00]	カクラン	炭化物19	口縁部				
		14908	1	07-08	[13]	焼土	炭化物19	胴部				
		14914	1	07-08	[13]	焼土	炭化物19	胴部				
		13586	1	07-09	[00]	Ⅳ	炭化物19周辺	口縁部				
		13017	1	07-08	[03]	Ⅳ	炭化物19周辺	口縁部				
		13223	1	07-08	[21]	Ⅳ	炭化物19周辺	胴部				
		13023	1	07-08	[03]	Ⅳ	炭化物19周辺	胴部				
		2684	2	08-12	[22]	V	焼土24	胴部				
		15299	1	05-08	[02]	Ⅵ	遺構外	口縁部				
		15754	1	04-09	[11]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		15831	1	05-06	[31]	V	遺構外	胴部				
		14382	1	06-08	[33]	V	遺構外	口縁部				
		18片										
瘞	153	14569	1	06-10	[31]	焼土	炭化物16	底部	PL.[2]-263-4			
		14404	1	06-10	[00]	V	炭化物16周辺	底部				
		4632	1	12-08	[01]	Ⅳ	遺構外	口縁部				
		1633	2	12-08	[02]	Ⅳ	遺構外	口縁部				
		4629	1	11-08	[31]	Ⅳ	遺構外	口縁部				
		4639	1	12-08	[02]	Ⅳ	遺構外	口縁部				
		1632	1	12-08	[02]	Ⅳ	遺構外	口縁部				
		1018	1	12-08	[03]	Ⅳ	遺構外	口縁部				
		4784	1	12-08	[03]	Ⅳ	遺構外	口縁部				
		4639	1	12-08	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		4785	1	12-08	[03]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		4786	2	12-08	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		4623	1	11-08	[11]	V	遺構外	胴部				
		4624	1	11-08	[11]	V	遺構外	胴部				
		4625	1	11-08	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		925	2	12-08	[03]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		752	1	11-08	[33]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		765	1	12-09	[00]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		4638	1	12-08	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		4640	1	12-08	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		1468	1	12-08	[11]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		755	1	11-09	[30]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		834	1	12-08	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		836	1	12-08	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		926	1	12-08	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		4636	1	12-08	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		1634	1	12-08	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		762	1	11-10	[10]	Ⅳ	遺構外	胴部				
		31片(口縁部1片, 胴部1片, 底部1片番号わからず)										
		瘞	154	63	1	19-20	[31]	(不明)		遺構外	口縁部	PL.[2]-269-3

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号			
壙 (つづき)	154	907	1	20-20	[00]	IV	遺構外	口縁部			
		908	1	20-20	[02]	IV	遺構外	口縁部			
		918	45	22-21	[22]	IV	遺構外	口縁部8, 胴部37			
		921	5	22-21	[22]	IV	遺構外	口縁部			
		1128	11	22-21	[22]	IV	遺構外	胴部			
		914	14	22-21	[22]	IV	遺構外	胴部			
		915	18	22-21	[22]	IV	遺構外	胴部15, 底部3			
		917	22	22-21	[22]	IV	遺構外	胴部16, 底部6			
		118片(口縁部3片, 胴部9片, 底部1片番号わからず)									
壙	155	5662	19	22-16	[02]	III	焼土64	口縁部6, 胴部13	PL. [2]-263-2		
		5978	1	22-15	[12]	IV	焼土64	口縁部			
		5941	1	22-16	[21]	IV	焼土64	口縁部			
		5939	1	22-16	[11]	IV	焼土64	口縁部			
		5661	1	22-16	[02]	III	焼土64	胴部			
		778	1	22-16	[12]	IV	焼土64	胴部			
		777	1	22-16	[11]	IV	焼土64	胴部			
		5933	1	22-16	[00]	IV	焼土64	胴部			
		5931	1	22-16	[00]	IV	焼土64	胴部			
		5657	1	22-16	[01]	IV	焼土64	胴部			
		5660	1	22-16	[02]	III	焼土64	胴部			
		5653	4	22-16	[20]	IV	焼土64	胴部			
		5659	2	22-16	[01]	III	焼土64	底部			
		7494	2	21-16	[21]	IV	焼土64周辺	口縁部1, 胴部1			
		6058	2	21-16	[01]	III	焼土64周辺	胴部			
		5819	2	19-16	[01]	III	遺構外	口縁部			
		41片(口縁部2片, 胴部3片番号わからず)									
	壙	156	9123	1	18-19	[20]	床	2号竪穴住居		胴部	PL. [2]-40-2 PL. [2]-91
			12485	1	19-14	[03]	IV	炭化物52周辺		口縁部	
			12684	1	19-18	[31]	IV	焼土・炭化物59		胴部	
		4182	1	20-18	[01]	IV	焼土・炭化物59	胴部			
		4200	1	20-18	[02]	IV	焼土・炭化物59	底部			
		4187	1	19-18	[22]	IV	焼土・炭化物59周辺	口縁部			
		1160	2	20-18	[10]	IV	焼土・炭化物59周辺	口縁部			
		4315	1	17-20	[01]	IV	遺構外	口縁部			
		4345	1	17-20	[32]	IV	遺構外	口縁部			
		4350	1	17-20	[33]	IV	遺構外	口縁部			
		4356	1	17-20	[33]	IV	遺構外	胴部			
		10899	3	21-17	[23]	IV	遺構外	底部			
		10978	1	21-17	[13]	カクラン	遺構外	底部			
		11241	1	21-17	[不明]	カクラン	遺構外	底部			
		17片(胴部2片番号わからず)									
壙	158	3767	1	09-07	[23]	IV	遺構外	口縁部	PL. [2]-291		
		3920	8	09-07	[33]	V	遺構外	口縁部			
		3839	1	09-08	[31]	IV	遺構外	口縁部			
		3823	2	09-08	[30]	IV	遺構外	口縁部			
		3828	2	09-08	[30]	IV	遺構外	口縁部			
		3831	2	09-08	[30]	IV	遺構外	口縁部			
		3838	1	09-08	[31]	IV	遺構外	口縁部			
		3843	1	09-08	[21]	IV	遺構外	口縁部			
		3820	1	09-08	[30]	IV	遺構外	胴部			
		3821	1	09-08	[30]	IV	遺構外	胴部			
		3830	1	09-08	[30]	IV	遺構外	胴部			
		3837	1	09-08	[31]	IV	遺構外	胴部			
		3922	2	09-07	[33]	IV	遺構外	胴部			
		3767	1	09-07	[23]	IV	遺構外	胴部			
		3818	1	09-08	[20]	IV	遺構外	胴部			
		3919	1	09-07	[33]	V	遺構外	底部			
		3813	1	09-08	[11]	III上	遺構外	底部			
		3769	1	09-07	[23]	IV	遺構外	底部			
		3817	1	09-08	[20]	IV	遺構外	底部			
	30片										
壙	159	13570	1	07-09	[10]	IV	炭化物19	胴部	PL. [2]-40-6 PL. [2]-293		
		14031	1	07-09	[21]	IV	炭化物19	胴部			
		16018	1	08-09	[33]	炭化物層	炭化物・焼土20・21	胴部			
		16019	1	08-09	[33]	炭化物層	炭化物・焼土20・21	胴部			
		16010	1	08-09	[23]	炭化物層	炭化物・焼土20・21	底部			
		16013	1	08-09	[23]	炭化物層	炭化物・焼土20・21	底部			
		4202	1	10-11	[33]	IV	遺構外	胴部			
		14271	1	08-10	[30]	V	遺構外	底部			
	16205	1	08-10	[30]	V	遺構外	胴部				
	9片										

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号			
瘞	160	15129	1	05-11	[30]	IV	遺構外	底部			
		15149	1	05-10	[00]	IV	遺構外	底部			
		15285	1	05-09	[12]	IV	遺構外	底部			
3片											
瘞	161	6679	2	23-16	[01]	IV	焼土64	胴部	PL.[2]-248		
		12805	1	22-16	[31]	IV	焼土64	胴部			
		5606	1	25-16	[03]	IV	焼土67	底部			
4片											
瘞	162	6923	1	27-16	[03]	炭	炭化物・焼土70	胴部	PL.[2]-292		
		6926	1	27-16	[02]	炭	炭化物・焼土70	胴部			
		6940	2	27-16	[03]	炭	炭化物・焼土70	胴部			
		6943	1	27-16	[02]	炭	炭化物・焼土70	胴部			
		7174	1	26-16	[32]	炭	炭化物・焼土70	胴部			
		7205	2	27-16	[03]	炭	炭化物・焼土70	胴部			
		7218	1	27-16	[03]	炭	炭化物・焼土70	胴部			
		7222	1	27-16	[03]	炭	炭化物・焼土70	胴部			
		7262	1	27-16	[02]	炭	炭化物・焼土70	胴部			
		16510	1	27-16	[不明]	炭化物層	炭化物・焼土70	胴部			
		5557	1	27-16	[03]	Ⅲ	炭化物・焼土70周辺	胴部			
		5558	1	27-16	[03]	Ⅲ	炭化物・焼土70周辺	胴部			
		5569	1	27-16	[13]	Ⅲ	炭化物・焼土70周辺	胴部			
		5576	1	27-16	[13]	Ⅲ	炭化物・焼土70周辺	胴部			
		6245	1	27-16	[02]	Ⅲ	炭化物・焼土70周辺	胴部			
		6248	1	27-16	[02]	Ⅲ	炭化物・焼土70周辺	胴部			
		6265	1	27-16	[03]	Ⅲ	炭化物・焼土70周辺	胴部			
		6296	1	27-16	[13]	Ⅲ	炭化物・焼土70周辺	胴部			
		6331	1	27-16	[32]	IV	炭化物・焼土70周辺	胴部			
		21片									
		瘞	163	825	1	10-05	[20]	覆土⑤層		5号竪穴住居	口縁部
3998	2			09-10	[21]	IV	焼土・炭化物22	口縁部			
13724	3			09-10	[23]	IV	焼土・炭化物22	胴部			
13721	2			09-10	[23]	IV	焼土・炭化物22	胴部			
13722	1			09-10	[23]	IV	焼土・炭化物22	口縁部			
13661	1			09-09	[03]	IV	遺構外	口縁部			
13665	1			09-09	[03]	IV	遺構外	口縁部			
13078	1			09-11	[33]	IV	遺構外	口縁部			
5198	1			09-06	[02]	IV	遺構外	口縁部			
12883	1			09-06	[01]	IV	遺構外	口縁部			
13666	2			09-09	[03]	IV	遺構外	胴部			
16片											
瘞	164			626	2	13-15	[10]	IV	焼土37	胴部	
				1651	1	13-09	[20]	IV	遺構外	胴部	
		7744	1	14-15	[10]	IV	遺構外	口縁部			
		163	1	13-14	[32]	IV	遺構外	口縁部			
		7303	1	14-14	[20]	IV	遺構外	胴部			
6片											
瘞	165	√3069	1	08-12	[13]	煙道	3号竪穴住居	胴部	PL.[2]-114		
		668	2	09-13	[11]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部			
		1131	1	09-12	[11]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部			
		1531	1	08-12	[23]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部			
		674	1	09-13	[31]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部			
		√1518	1	08-12	[33]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部			
		√670	4	09-13	[12]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部			
		√1520	2	08-12	[23]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部			
		3356	1	07-13	[13]	IV	焼土24	胴部			
		√2536	1	07-13	[30]	V	焼土24	胴部			
		√2587	1	08-12	[21]	V	焼土24	胴部			
		√2962	1	08-12	[13]	V	焼土24	胴部			
		√2546	3	08-13	[10]	V	焼土24	胴部			
		√1521	2	08-12	[23]	IV	焼土24	胴部			
		√1604	4	08-13	[33]	(不明)	焼土24	胴部			
		√17	1	08-13	[01]	(不明)	焼土24	胴部			
		18	2	08-13	[01]	(不明)	焼土24	胴部			
		√2540	1	07-13	[31]	V	焼土24	胴部			
		2543	1	08-13	[10]	V	焼土24	胴部			
		√2578	1	08-12	[02]	V	焼土24	胴部			
		√2575	1	08-12	[13]	V	焼土24	胴部			
		√1524	1	08-12	[22]	IV	焼土24	胴部			
		√2582	1	08-12	[12]	V	焼土24	胴部			
		2576	1	08-12	[13]	V	焼土24	胴部			
		√24	3	08-13	[13]	(不明)	焼土24	胴部			

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
壘 (つづき)	165 2534	1	07-13	[20]	V	焼土24	胴部	
	✓2580	1	08-12	[12]	V	焼土24	胴部	
	✓9009	1	08-13	[00]	V	焼土24	胴部	
	✓2610		07-12	[12]	V	焼土24	胴部	
	43片							
壘	166 1609	4	08-13	[30]	煙道	3号竪穴住居	胴部	PL.[2]-99-4
	1526	1	08-13	[30]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部	PL.[2]-115
	1141	1	10-12	[02]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部	
	1142	1	10-12	[03]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部	
	1520	4	08-12	[23]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部3, 底部1	
	1515	1	08-12	[33]	覆土⑤層	3号竪穴住居	胴部	
	2544	1	08-13	[10]	V	焼土24	胴部	
	13片							
壘	167 16205	9	08-10	[30]	V	炭化物・焼土20・21	胴部6, 底部3	
	4513	1	08-16	[30]	IV	遺構外	胴部	
	10片							
壘	168 10414	1	19-13	[32]	IV	遺構外	底部	
	1片							
壘	169 5658	1	22-16	[01]	IV	遺構外	胴部	
	7486	2	21-16	[02]	IV	遺構外	胴部	
	7491	1	21-16	[30]	IV	遺構外	底部	
	11262	2	21-16	[20]	IV	遺構外	底部	
	11263	1	21-16	[20]	IV	遺構外	口縁部	
	11265	1	21-16	[20]	IV	遺構外	胴部	
	11267	1	21-16	[20]	IV	遺構外	胴部	
	11268	1	21-16	[20]	IV	遺構外	胴部	
	11269	1	21-16	[21]	IV	遺構外	胴部	
	11275	1	21-16	[30]	IV	遺構外	底部	
	11441	1	21-16	[11]	IV	遺構外	胴部	
	11533	1	21-17	[12]	IV	遺構外	胴部	
	12012	1	21-17	[11]	IV	遺構外	口縁部	
	12302	4	21-17	[31]	IV	遺構外	胴部	
	19片							
壘	170 1618	1	08-13	[30]	煙道	3号竪穴住居	底部	PL.[2]-116
	1624	1	08-13	[30]	煙道	3号竪穴住居	底部	
	2片							
壘	171 4299	8	15-22	[30]	IV	遺構外	底部	
	8片							
壘	176 1534	2	10-05	[00]	炭	1号土壌周辺の焼土・炭化物	口縁部	PL.[2]-128-2
	2160	3	10-04	[13]	IV	1号土壌周辺の焼土・炭化物	口縁部	
	2235	2	10-04	[13]	炭	1号土壌周辺の焼土・炭化物	口縁部	
	940	1	10-04	[23]	炭	1号土壌周辺の焼土・炭化物	口縁部	
	2370	2	09-05	[22]	炭	1号土壌の焼土・炭化物	口縁部	
	3040	1	10-04	[03]	炭化物層下	1号土壌周辺の焼土・炭化物	口縁部	
	1575	1	10-04	[03]	炭上	1号土壌周辺の焼土・炭化物	口縁部	
	14143	1	07-05	[31]	IV	遺構外	口縁部	
	1182	1	11-04	[10]	IV	遺構外	口縁部	
		14片						
壘	177 6133	1	27-15	[23]	焼土	焼土69	胴部	
	6309	1	28-16	[22]	IV	焼土71	胴部	
	5371	1	29-15	[20]	IV	遺構外	胴部	
	6089	1	29-15	[31]	III	遺構外	胴部	
	6106	1	29-15	[20]	IV	遺構外	胴部	
	6110	1	29-14	[00]	IV	遺構外	口縁部	
	6113	1	28-15	[31]	IV	遺構外	口縁部	
	6131	4	29-14	[不明]	カクラン	遺構外	胴部	
	6147	1	26-13	[33]	III	遺構外	口縁部	
	6318	1	29-14	[10]	IV	遺構外	口縁部	
	6319	1	29-14	[10]	IV	遺構外	口縁部	
	6321	1	29-14	[12]	IV	遺構外	口縁部	
	6322	1	30-14	[00]	IV	遺構外	口縁部	
	6323	1	30-14	[01]	IV	遺構外	胴部	
	6324	1	30-14	[02]	IV	遺構外	胴部	
	6325	1	30-14	[02]	IV	遺構外	胴部	
	6326	1	30-14	[11]	IV	遺構外	胴部	
	6329	1	30-14	[20]	IV	遺構外	口縁部	
	12690	2	28-14	[31]	IV	遺構外	口縁部	
		23片						
壘	178 13621	1	08-09	[32]	IV	遺構外	胴部	
	13762	1	09-09	[01]	IV	遺構外	胴部	
	13817	2	08-09	[31]	IV	遺構外	胴部1, 底部1	

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
壘 (つづき)	178 13495	1	07-10	[32]	Ⅳ	遺構外	底部	
	13819	2	08-09	[31]	Ⅳ	遺構外	底部	
7片								
壘	179√8553	1	19-17	[03]	覆土④層	2号竪穴住居	口縁部	PL.②-42-2
	✓15700	1	08-09	[13]	x ¹	4号土壌	口縁部	PL.②-251
	✓15218	1	08-09	[02]	焼土	4号土壌	口縁部	
	✓8623	1	17-11	[03]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
	✓2083	1	18-10	[13]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
	✓9258	2	17-11	[13]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
	✓13339	1	08-07	[13]	Ⅳ	5号土壌周辺	口縁部	
	✓13977	1	08-08	[30]	Ⅳ	焼土27周辺	口縁部	
	✓3891	1	09-08	[00]	V	焼土27周辺	口縁部	
	✓13922	1	08-08	[30]	Ⅳ	焼土27周辺	口縁部	
	✓13975	1	08-08	[30]	Ⅳ	焼土27周辺	口縁部	
	✓13921	1	08-08	[30]	Ⅳ	焼土27周辺	口縁部	
	✓13843	1	08-08	[30]	Ⅳ	焼土27周辺	口縁部	
	✓4233	1	12-11	[01]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	✓652	3	10-07	[10]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	✓10702	1	14-12	[31]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	19片							
壘	180 12899	1	08-07	[12]	土壌内	5号土壌	胴部	PL.②-180
	13899	16	09-10	[03]	焼土	焼土・炭化物22	口縁部	PL.②-294
	14284	1	09-10	[03]	V	焼土・炭化物22	胴部	
	13898	1	09-10	[03]	焼土	焼土・炭化物22	口縁部	
	13889	4	08-11	[30]	焼土	焼土・炭化物22	底部	
	13735	5	08-10	[33]	Ⅳ	焼土・炭化物22周辺	胴部	
	14472	1	06-10	[12]	炭化物層	炭化物16	胴部	
	16115	1	05-08	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	13998	1	08-09	[20]	Ⅳ	遺構外	胴部	
	13950	1	09-08	[02]	Ⅳ	遺構外	胴部	
32片								
壘	181 1087	1	10-05	[20]	床直	5号竪穴住居	底部	
	1090	2	10-05	[20]	床直	5号竪穴住居	底部	
3片								
壘	182 12893	1	08-07	[11]	土壌内	5号土壌	口縁部	PL.②-264-3
	12895	1	08-07	[11]	土壌内	5号土壌	口縁部	
	12851	1	08-07	[11]	Ⅳ	5号土壌周辺	口縁部	
	13836	5	08-08	[20]	Ⅳ	焼土27周辺	口縁部	
	2555	1	08-13	[11]	V	焼土24	口縁部	
	9片							
壘	185 6817	1	27-16	[22]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	12648	2	31-17	[11]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	12688	1	28-13	[23]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	12751	1	30-15	[20]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
5片								
壘	186 6880	1	31-16	[22]	Ⅲ	遺構外	口縁部	
	6983	1	27-16	[32]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	6985	1	27-16	[32]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
3片								
壘	187 1318	1	10-05	[32]	床直	5号竪穴住居	口縁部	
	1050	1	13-13	[13]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
2片								
壘	188 3148	2	09-07	[20]	V	遺構外	口縁部	
2片								
壘	189 5368	2	30-16	[01]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	12832	1	29-15	[20]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
3片								
壘	190 14501	2	04-08	[21]	Ⅵ	炭化物4	口縁部	
	14502	1	04-08	[21]	Ⅵ	炭化物4	口縁部	
	14450	1	04-08	[21]	Ⅵ	炭化物4	口縁部	
	15033	1	04-08	[31]	Ⅳの焼土上	炭化物4	口縁部	
	15328	1	06-09	[11]	V	炭化物14	口縁部	
	5043	2	11-06	[03]	Ⅳ	遺構外	口縁部	
	3168	1	09-07	[12]	V	遺構外	口縁部	
	15832	1	05-06	[21]	V	遺構外	口縁部	
10片								
壘	191 1087	4	10-05	[20]	床直	5号竪穴住居	口縁部	
4片								
壘	192 2550	1	08-13	[11]	V	焼土24	口縁部	
1片								

Tab. 11-24 第2文化層出土支脚一覧表

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
支脚	1	676	1	10-13	[02]	覆土⑤層	3号竪穴住居	PL.12-126・下
		1200	1	10-05	[20]	床	5号竪穴住居	PL.12-297-1
(完形品)		2片						PL.12-301
支脚	2	956	2	10-05	[31]	床	5号竪穴住居	PL.12-297-2
		1015	1	10-04	[22]	床	5号竪穴住居	PL.12-302
		1036	1	10-04	[32]	床	5号竪穴住居	
		1203	1	10-04	[33]	床直	5号竪穴住居	
		1550	1	10-05	[00]	煙道	5号竪穴住居	
		2663	1	09-04	[33]	(不明)	1号土壌焼土	
		2916	2	09-04	[不明]	埋土	1号土壌	
		2917	1	09-04	[不明]	埋土	1号土壌	
		14697	1	08-07	[不明]	b'	6号土壌	
		14363	1	05-08	[13]	V	遺構外	
(完形品)		12片						
支脚	3	10000	1	16-17	[31]	IV	焼土43	PL.12-254上
		132	1	16-17	[31]	(不明)	焼土43	PL.12-298-1
(完形品)		2片						PL.12-303
支脚	4	956	2	10-05	[31]	床直	5号竪穴住居	PL.12-298-2
		957	4	10-05	[31]	床直	5号竪穴住居	PL.12-304
		968	1	11-04	[03]	床直	5号竪穴住居	
		3023	1	09-04	[33]	焼土	1号土壌周辺の焼土・炭化物	
		3039	1	10-04	[03]	炭化物層下	1号土壌周辺の焼土・炭化物	
(完形品)		9片						
支脚	5	13085	1	08-11	[30]	IV	焼土22	PL.12-305
(完形品)		1片						
支脚	6	12274	3	17-17	[12]	カマド	2号竪穴住居	PL.12-27
		5790	1	19-15	[23]	Ⅲ	炭化物52	PL.12-28
		5801	1	19-15	[13]	Ⅲ	炭化物52	PL.12-30
		7422	4	19-15	[13]	x'	炭化物52	PL.12-298-3
		8998	1	19-15	[13]	x'	炭化物52	PL.12-306
		6030	3	20-16	[01]	Ⅲ	炭化物52周辺	
		6039	1	20-16	[11]	Ⅲ	炭化物52周辺	
		6041	1	20-16	[11]	Ⅲ	炭化物52周辺	
(完形品)		15片						
支脚	7	6184	1	26-15	[33]	焼土	焼土65	
		6177	3	26-15	[22]	焼土	焼土65	PL.12-307
(完形品)		4片						

Tab. 11-25 第2文化層出土土製玉一覧表

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
土製玉	1920	1	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド		PL.12-309-1
	2247	1	17-10	[22]	b'	炭化物マウンド		PL.12-309-2
	6760	1	19-11	[01]	IV	炭化物マウンド周辺		PL.12-309-3
	7386	1	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド		PL.12-309-4
	7388	1	17-12	[22]	IV	炭化物マウンド		PL.12-309-5
	8172	1	17-11	[03]	マウンド上面	炭化物マウンド		PL.12-309-6
	8173	1	17-12	[20]	マウンド上面	炭化物マウンド		PL.12-309-7
	8175	4	17-10	[33]	マウンド上面	炭化物マウンド		PL.12-309-8.9.10.11
	9208	1	17-11	[03]	マウンド上面	炭化物マウンド		PL.12-309-12
	16501	2	17-12	[21]	マウンド	炭化物マウンド		PL.12-309-13.14
	16630	2	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド		PL.12-309-15.17
	5601	1	19-15	[32]	Ⅲ	炭化物52		PL.12-309-16
	(完形品)		17個					

Tab. Ⅱ-26 第2文化層出土紡錘車一覧表

個体番号	遺物番号	破片数	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	部位	関連PL.番号		
紡錘車	1	725	1	09-13	[01]	覆土⑤層	3号竪穴住居	PL.Ⅱ-299-1		
			1個					PL.Ⅱ-308		
紡錘車 (完形品)	2	11650	1	15-17	[32]	焼土	3号土壌	PL.Ⅱ-299-2		
			1個					PL.Ⅱ-308		
紡錘車 (完形品)	3	11850	1	18-18	[31]	床面	2号竪穴住居	PL.Ⅱ-299-3		
			1個					PL.Ⅱ-308		
紡錘車 (完形品)	4	1032	1	10-05	[20]	床直	5号竪穴住居	PL.Ⅱ-299-4		
			1片					PL.Ⅱ-308		
紡錘車	5	1117	1	13-10	[32]	b'上	遺構外	PL.Ⅱ-299-5		
			1	13-10	[32]			b'上	遺構外	PL.Ⅱ-308
			2片							
紡錘車	6	7233	1	19-15	[00]	x'	炭化物52	PL.Ⅱ-300-6		
			1	19-15	[10]			x'	炭化物52	PL.Ⅱ-308
			2片							
紡錘車	7	3960	1	09-09	[30]	Ⅲ	遺構外	PL.Ⅱ-300-7		
			1	09-08	[23]			Ⅲ	遺構外	PL.Ⅱ-308
			2片							
紡錘車	8	9669	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	PL.Ⅱ-300-8		
			2	17-12	[00]			マウンド	炭化物マウンド	PL.Ⅱ-308
			1	17-12	[10]					
			4片							
紡錘車	9	6837	1	18-12	[31]	Ⅳ	炭化物マウンド	PL.Ⅱ-300-9		
			1	16-16	[22]			Ⅳ	焼土43	PL.Ⅱ-308
			2片							
紡錘車	10	7411	1	19-15	[11]	x'	炭化物52	PL.Ⅱ-300-10		
			1	19-15	[32]			x'	炭化物52	PL.Ⅱ-308
			2片							
紡錘車	11	1392	1	13-21	[13]	V	遺構外	PL.Ⅱ-300-11		
紡錘車	12	4121	1	10-09	[10]	V	遺構外	PL.Ⅱ-308		
			1片							
紡錘車	13	10230	1	17-11	[21]	マウンド	炭化物マウンド	PL.Ⅱ-308		
紡錘車	14	1103	1	12-05	[00]	覆土⑤層	5号竪穴住居	PL.Ⅱ-308		
			1片							

Tab. Ⅱ-27 第2文化層出土ファイゴ羽口・石製品一覧表

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号		
ファイゴ羽口	1	613	9	10-05	[12]	覆土⑤層	5号竪穴住居	PL.Ⅱ-310-1		
			9片					PL.Ⅱ-313		
ファイゴ羽口	2	1287	1	10-05	[03]	Ⅳ	遺構外	PL.Ⅱ-310-2		
			2	10-05	[03]			Ⅳ	遺構外	PL.Ⅱ-313
			1	10-05	[02]					
			4片							
石斧 (完形品)	1	400	1	16-17	[01]	b'上	焼土43	PL.Ⅱ-20-1		
			1個					PL.Ⅱ-310-11		
石斧 (完形品)	2	4237	1	19-18	[03]	Ⅳ	遺構外	PL.Ⅱ-20-2		
			1個					PL.Ⅱ-310-12		
たたき石 (完形品)	999	1	10-05	[20]	床直	5号竪穴住居		PL.Ⅱ-20-3		
								1個		
石製品	1	190	1	14-18	[30]	(不明)	遺構外			
			1片							

Tab. Ⅱ-28 第2文化層出土金属器・鉄滓一覧表

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	形状・備考	関連PL.番号
金属器	1	8527	1	17-11	[33]	マウンド	炭化物マウンド	環状 巻頭図版5中・右 PL.Ⅱ-200下 PL.Ⅱ-310-3
金属器	2	1180	1	11-04	[20]	Ⅳ	遺構外	環状 巻頭図版5中・左 PL.Ⅱ-310-4
金属器	3	2374	1	09-05	[22]	炭	遺構外	刀子(?) PL.Ⅱ-310-7
鉄滓	4	580	1	19-14	[21]	床	1号竪穴住居	鉄滓 PL.Ⅱ-310-9
鉄滓	5	2735	1	08-13	[10]	焼土	焼土24	鉄滓 PL.Ⅱ-310-8
鉄滓	6	2737	1	08-13	[10]	焼土	焼土24	鉄滓
鉄滓	7	2802	1	08-13	[00]	V	焼土24周辺	鉄滓
鉄滓	8	3006	1	08-12	[03]	V	焼土24周辺	鉄滓
鉄滓	9	3845	1	10-08	[00]	Ⅳ	遺構外	鉄滓
鉄滓	10	16030	1	07-09	[33]	(不明)	4号土壌	鉄滓
鉄滓	11	14462	1	08-07	[32]	(不明)	6号土壌	鉄滓
鉄滓	12	3321	1	17-11	[11]	マウンド内	炭化物マウンド	鉄滓
鉄滓	13	—	1	—	—	—	焼土24	鱗片状

Tab. Ⅰ-29 第3文化層出土土器一覧表

個体番号	遺物番号	破片数	大グリッド	小グリッド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号	
注口	1	14884	1	06-10	[32]	V	遺構外	口縁部	PL.Ⅰ-38上
	2	13587	1	07-07	[12]	Ⅳ	遺構外	口縁部	PL.Ⅰ-38下
2片									

Tab. Ⅱ-30 焼土・炭化物集積一覧

No.	位置(グリッド)	層	形状	大きさ	状態(厚さ)	備考
1	03-14	川砂	—	—	—	自然堆積
2	02-08~03-08	V	楕円	70cm強	炭化物, 焼土, 粘土の混合(8mm)	
3	04-07	IV	不整形	1 m	焼土, (70mm)	
4	04-07~04-08~05-07~05-08	IV	不整形	約4 m	炭化物, 焼土	
5	03-08~04-08	IV	不整形	1 m弱	焼土, (10~40mm)	
6	05-05~06-05	V	不整形	大80cm, 小30cm	炭化物, (1~3mm)	2個
7	05-07	IV	不整形	大1.2m, 小1 m	焼土, (5~20mm)	4個
8	04-07~05-07	IV	不整形	大2.5m, 小0.5m	焼土, (5~10mm)	3個
9	05-09	V	不整形	1.3m	焼土, (15mm)	
10	05-09	IV	不整形	1.5m	焼土, (30~50mm)	
11	05-10~06-11	V	不整形	大1.5m, 小0.5m	焼土, (5~10mm)	3個
12	06-06~07-06	V	不整形	大0.7m, 小0.3m	焼土	4個
13	06-07~06-08	V	不整形	2.7m	焼土, (5mm)	
14	06-09	V	不整形	2.1m	炭化物, (10~20mm)	
15	06-10	V	不整形	0.6m	焼土	
16	06-10~07-10	IV下~V	不整形	3.6×2.5(m)	炭化物, (10~50mm)	
17	07-05	V	不整形	1~1.3(m)	焼土	3個
18	07-08	V	不整形	大1.4m, 小0.8m	焼土, (60mm)	2個
19	06-10~07-08~07-09	IV下~V	不整形	3.6×2.5(m)	炭化物, (10~40mm)	
20	08-09~08-10	V	不整形	2m	炭化物, (5~6mm)	21と重複
21	08-09~08-10	V	不整形	2m	焼土	20と重複
22	08-10~08-11~09-10~09-11	IV中	不整形	2.4m弱	焼土・炭化物	
23	08-10	IV	不整形	大1.5m, 小0.4m	焼土, (2~3mm)	3号竪穴煙道前
24	07-12~07-13~08-12~08-13	IV	不整形	大7m, 小1m	焼土	
25	09-03	IV	不整形	1m弱	焼土, (2~4mm)	
26	09-10	IV	不整形	1.3m	炭化物・焼土	
27	08-08	IV	不整形	大2.6m, 小1m	焼土	
28	08-04~08-05~09-04~09-05	V	不整形	0.5m強	焼土・炭化物	
29	08-05~08-06	V	不整形	1m強	焼土, (10~20mm)	2個
30	10-08	IV	不整形	2m強	炭化物, (10~15mm)	
31	10-10	IV	不整形	1.1m	炭化物, (1~3mm)	
32	11-11	IV	不整形	大0.8m弱, 小0.4m強	焼土, (10~40mm)	
33	12-09~12-10~13-09~13-10	IV下	不整形	1.5m	焼土, (10~70mm)	
34	12-13~12-14	IV	楕円形	1.4×0.6(m)	焼土	
35	12-14~12-15	V	不整形	大0.6m, 小0.4m	焼土, (10mm)	2個
36	13-09	V	不整形	1m強	炭化物	
37	13-15	IV下	不整形	1.6m	焼土, (10mm)	
38	14-11	IV	不整形	0.8m	焼土	
39	15-07~16-07	IV	不整形	2.4m弱	炭化物, (30~40mm)	
40	15-12~16-12	IV	不整形	1.5m	炭化物	
41	15-16~15-17	IV	不整形	大1.5m, 小1m強	焼土	
42	15-21~15-22~16-21, 16-22	IV	不整形楕円形	大7m	炭化物	
43	2号竪穴煙道前	IV	不整形		焼土・炭化物	
44	16-18~16-19	IV	不整形	大3m強, 小0.8m	焼土	2個
45	16-11	IV	不明	不明	焼土	
46	16-13	IV	不明	不明	焼土	
47	18-11~18-12~18-13~19-11~19-12	IV	不整形	3m~1.5m	焼土	3個
48	18-13	IV	不整形	1.5m	焼土	
49	18-10~19-10~20-10~20-11	IV	不整形	7.5×1(m)	焼土	
50	19-11	IV	不整形	炭化物2.6m, 焼土0.6m	炭化物・焼土	2個
51	18-13~19-13	IV	不整形	大2.5m, 小0.6m	焼土	2個
52	18-15, 19-14, 19-15, 19-16, 20-14	IV	不整形	8m弱	炭化物	
53	18-16~19-16	V上	不整形楕円形	1.8×1.2(m)	炭化物	
54	19-07~20-07	IV	不整形	大3m弱	焼土	
55	20-07~20-08~21-08	IV	不整形	2m強	焼土, (30~50mm)	
56	20-12	IV	不明	不明	焼土	
57	20-13	IV	不明	不明	炭化物	
58	20-13~20-14~21-14	IV	不整形	大2.3m強	焼土	3個

No.	位置	層	形状	大きさ	状態	備考
59	19-18~20-18	Ⅳ	不整形	焼土・大0.9m,炭化物・大0.3m	焼土・炭化物	
60	21-12	Ⅳ	不整形	1.7m	焼土	
61	21-14	Ⅳ	不整形	2.8m	焼土	
62	21-15	Ⅳ	不整形	2.3m	焼土	
63	22-11	Ⅳ	不整形	1.8m	焼土	
64	22-15~22-16~23-16	Ⅳ	不整形	大2.5m,小0.8m	焼土	
65	23-16	Ⅳ	不整形	0.7m	焼土	
66	24-13	Ⅳ	不整形	0.4m	焼土,(8mm)	
67	25-16	Ⅳ	不整形	1.3m	焼土,(10~60mm)	
68	26-15~26-16	Ⅳ	不整形	大2.5m,小0.8m	焼土,(5~7mm)	
69	27-15	Ⅳ	不整形	0.7m強	焼土	
70	26-16~26-17~27-16~27-17	Ⅳ	不整形	約2m	炭化物・焼土	
71	28-16	Ⅳ	不整形	大1.5m,小0.5m	焼土,(20~40mm)	
72	30-16~31-16	Ⅳ	不整形	5m強	焼土	第1文化層
73	31-16	Ⅳ	不整形	1m強	炭化物,(5mm)	
74	16-08,17-09	Ⅳ	不整形	1.10~1.4(m)	焼土	3個
75	21-17	Ⅳ	不明	不明	炭化物	

注：「炭化物マウンド」はこの表に示していない。

Tab. Ⅱ-31 集石の計測

■2号竪穴住居跡

No.	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
11849	8.26	4.45	3.77	180
12051	7.92	4.67	2.70	150
12052	10.25	5.34	3.64	200
12053	9.16	5.10	2.93	220
12054	7.38	4.60	3.08	164
12055	7.73	4.32	3.32	148
12056	7.87	4.55	3.09	150
12057	8.22	4.01	3.47	154
12058	7.70	5.26	3.11	170
12059	8.03	3.20	2.37	107
11838	11.47	6.70	2.78	198
12069	9.16	4.04	3.03	135
12073	10.95	4.31	2.85	187
12078	—	—	—	256

■20-08~21-08グリッド

No.	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
6360	5.49	4.45	3.34	111
6361	6.37	3.08	2.84	86
6362	6.45	3.68	3.68	118
6363	5.99	4.17	3.09	69
6364	6.78	3.81	2.99	77
6365	—	—	—	68
6366	5.69	4.97	2.35	77
6367	7.89	4.28	3.61	132
6368	—	—	—	35
6369	—	—	—	47
6370	6.31	3.99	2.31	83
6371	5.96	4.12	3.37	83
6372	5.80	4.39	3.28	64
6373	7.10	3.95	2.85	110
6374	5.08	3.33	2.40	37
6375	6.21	2.52	3.20	65
6376	6.74	3.26	2.23	66
6377	5.47	2.81	2.16	45
6378	6.93	3.78	2.37	91
6379	5.75	2.75	3.26	57
6380	—	—	—	64
6381	5.76	4.22	2.43	55
6382	8.24	4.38	2.46	106
6383	5.79	4.67	3.22	92
6384	6.02	3.90	2.83	62
6385	5.67	3.49	2.37	44
6386	6.93	5.63	3.55	153
6387	—	—	—	52
6388	8.01	3.60	2.95	104
6389	6.86	3.31	3.26	90
6390	5.95	3.16	3.74	94
6391	6.03	3.50	2.84	89
6392	6.84	3.87	3.90	120
6393	5.45	3.90	3.94	85
6394	—	—	—	64
6395	5.76	2.83	3.07	61
6396	6.85	4.20	3.11	93
6397	5.80	3.91	3.49	92
6398	5.80	3.98	2.97	71
6399	7.37	4.42	4.07	108
6400	6.27	3.96	2.70	92
6401	6.44	3.40	3.12	106
6402	6.99	3.94	2.06	38
6403	6.57	2.98	2.75	70
6404	7.10	4.63	2.55	127

■3号土壇④層上面

No.	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
11652	9.65	3.89	2.98	155
11653	8.51	4.14	2.60	128
11654	10.11	3.63	2.58	123
11655	8.95	5.24	2.78	164
11656	11.46	4.32	2.49	162
11657	8.11	4.10	3.76	155
11658	7.99	3.61	3.79	158
11659	8.50	5.35	2.24	134
11660	10.37	3.59	2.87	157
11661	8.82	4.64	3.12	188
11662	10.21	3.82	3.49	192
11663	11.07	5.57	3.53	306
11664	8.84	5.01	2.75	167
11667	8.30	5.44	2.65	154
11668	9.11	4.11	2.81	137
11669	8.26	3.95	2.86	136
11670	9.07	5.52	3.00	209
11671	9.23	4.99	3.37	198
11672	8.38	4.54	3.28	173
11674	11.93	4.03	2.88	216
11675	8.38	4.66	2.33	120
11676	7.75	4.80	3.04	176
11677	8.85	4.62	3.45	187
11678	8.20	4.72	3.70	182
11679	9.43	5.00	3.39	212
11680	8.00	5.01	3.03	182
11684	9.40	4.47	1.88	105
11685	8.77	4.15	2.68	136
11686	8.94	5.03	3.67	172
11687	7.68	3.84	2.23	102
11688	8.67	4.37	2.56	134
11689	8.16	3.81	3.13	134
11690	8.01	3.66	3.31	137

■31-16グリッド

No.	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
12625	8.75	5.86	2.47	164
12626	8.24	6.43	2.38	152
12627	8.12	5.03	2.97	170
12628	8.72	4.99	3.12	120
12629	8.77	4.29	2.96	151
12630	8.23	4.80	3.24	177
12631	7.80	4.91	2.85	150

■13-10グリッド

No.	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
4804	6.98	4.91	2.31	124
4805	6.52	5.04	2.42	107
4806	7.12	5.51	2.47	99
4807	6.99	4.54	3.64	120
4808	9.18	5.48	2.51	226
4809	8.22	4.65	2.74	162
4810	7.00	4.33	3.16	131
4811	5.92	4.05	3.66	135
4812	6.29	4.63	1.46	53
4813	6.91	5.12	3.43	152
4814	6.47	4.46	3.51	150
4815	7.33	4.24	3.02	120
4816	7.00	4.47	3.00	130
4817	7.71	4.51	4.17	228
4818	8.25	4.61	2.78	146
4819	7.31	4.69	2.23	128
4820	10.71	6.09	2.55	252
4821	8.50	3.92	1.95	89
4822	6.52	4.37	2.40	91
4823	8.05	4.82	2.67	135
4824	5.66	4.40	3.14	108
4825	6.76	4.50	2.55	107
4826	7.80	4.61	2.72	129
4827	7.95	3.96	2.55	127
4828	7.56	4.43	2.52	111
4829	7.72	5.17	2.27	144
4830	7.96	4.14	3.08	133
4831	6.34	4.15	2.87	102
4832	6.60	4.06	3.15	129
4833	7.06	3.90	3.60	133
4834	8.10	4.32	3.04	128
4835	6.91	4.50	2.22	111
4836	7.00	3.99	3.09	116
4837	6.40	4.05	3.16	113
4838	8.02	5.12	3.40	182
4839	7.39	4.37	3.12	117
4840	6.79	3.93	3.25	114
4841	6.82	3.58	2.83	87
4842	6.90	4.49	2.93	117

■21-15グリッド

No.	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
10534	3.18	2.34	0.95	7
10539	7.22	4.01	2.50	102
10540	6.40	4.79	3.44	104
10541	6.49	3.47	2.06	49
10542	8.69	4.56	2.51	144
10543	7.91	5.26	3.31	168
10544	5.67	3.86	2.98	90
10545	5.61	4.28	3.60	107
10546	—	—	—	120
10547	5.02	2.81	1.98	30
10548	5.85	3.69	2.96	48
10549	7.15	4.37	2.12	101
10550	10.38	6.85	4.31	409
10601	5.28	5.00	3.16	116
10602	5.95	4.37	3.75	109
10603	5.02	3.63	1.87	50
10604	5.74	2.63	1.95	41
10605	7.00	4.37	2.41	104
10606	7.41	5.10	2.47	93
10607	7.44	3.56	2.89	100
10608	—	—	—	94
10609	4.83	2.70	2.72	53
10610	4.80	2.98	2.14	35
10611	8.26	5.41	2.62	152
10612	5.40	3.24	3.14	76
10613	4.98	2.88	2.50	48
10614	6.33	3.79	2.56	63
10615	—	—	—	107
10616	6.72	3.29	2.49	77
10617	5.90	3.38	3.01	80
10618	6.33	4.97	2.61	106
10619	7.19	3.94	2.14	80
10620	5.94	4.40	4.17	113

■20-15グリッド

No.	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
12305	6.20	4.17	3.73	82
12306	4.04	3.62	1.84	21
12307	—	—	—	43
12308	5.98	3.84	4.89	93
12309	6.66	2.69	2.26	41
12310	4.94	3.90	2.40	33
12311	5.90	5.16	4.40	120
12312	3.35	3.03	1.00	8
12313	4.38	3.13	2.19	19
12314	4.55	3.34	3.04	42
12315	3.68	2.46	1.81	17
12317	5.28	4.29	3.11	57
12318	6.35	3.20	2.53	48
12319	6.33	5.52	2.76	66
12320	4.61	4.00	3.22	51
12321	3.46	2.09	1.23	9
12322	6.53	4.38	3.00	73
12323	6.49	3.47	3.24	99
12324	4.46	2.92	1.70	22
12325	4.54	3.81	2.05	32
12326	6.46	4.01	3.64	86
12327	5.14	2.58	2.99	24
12328	2.97	2.57	1.02	8
12329	6.71	4.25	3.04	92
12330	—	—	—	9
12331	—	—	—	88
12332	6.33	4.77	2.96	86
12333	—	—	—	63
12334	5.31	4.09	1.64	45
12335	—	—	—	44
12336	6.09	3.32	2.74	68
12337	4.55	3.32	2.50	30
12338	5.39	3.10	2.02	29
12339	3.38	2.36	1.86	12
12340	5.98	2.36	1.65	20
12341	3.95	2.79	1.86	16
12342	4.45	3.91	1.47	24
12343	—	—	—	23
12344	3.98	2.87	0.72	12
12345	6.74	3.41	2.46	61
12346	2.89	2.26	2.05	9
12347	4.81	3.90	3.45	48
12348	6.48	4.21	1.79	50
12349	—	—	—	71
12350	5.05	3.70	1.35	18
12351	3.63	2.70	1.34	11
12352	—	—	—	6
12353	6.22	4.47	4.02	100
12354	5.78	3.19	2.95	58
12355	4.115	2.74	0.93	16
12356	3.24	2.44	1.70	10
12357	3.76	2.64	2.03	15
12358	6.67	3.99	2.61	58
12359	—	—	—	15
12360	4.37	1.95	0.67	5
12361	7.32	3.31	3.43	70
12362	—	—	—	60
12363	7.31	3.67	3.87	72
12364	7.40	4.83	2.58	74
12365	5.86	4.07	2.50	57
12366	7.52	3.38	2.73	61
12367	6.18	2.98	1.48	19
12368	6.94	4.10		

[本文編]

サクシュコトニ川遺跡

北海道大学構内で発掘された西暦9世紀代の原初的農耕集落

1986

1

北海道大学